

平成26年度

防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章	調査の概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査方法	1
1.3	調査期間	1
1.4	調査票の配布と回収について	1
1.5	集計結果	1
1.6	本報告書における結果数値等の取り扱いについて	1
第2章	調査結果の概要	3
2.1	地震・津波対策について	3
2.1.1	大震災発生後の防災意識の変化	3
2.1.2	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	4
2.1.3	地震被害想定調査結果の認知度	5
2.2	風水害対策について	6
2.2.1	特別警報の理解度	6
2.2.2	風水害による危険性の認知度	7
2.2.3	局地的な大雨等からの避難	8
2.2.4	台風時等の避難行動	9
2.3	防災全般について	10
2.3.1	家庭での防災対策の状況	10
2.3.2	家具類の固定状況	12
2.3.3	防災情報メール配信サービスの認知度	13
2.3.4	避難場所や避難所の認知度	14
2.3.5	避難場所や避難所までの経路についての認知度	15
2.3.6	地域・職場での防災活動への参加経験	16
2.3.7	地域の消防団に期待する活動内容	17
2.3.8	自主防災組織の有無と活動状況	18
2.3.9	学校の防災教育の家庭での認知度	19
2.4	住まいの耐震化について	20
2.4.1	耐震化に向けた補助制度の認知度	20
2.4.2	一部分のみの耐震補強工事	21
第3章	調査結果	22
3.1	地震・津波対策について	22
3.1.1	地域の地震や津波の危険性の認知度	22
3.1.2	大震災発生後の防災意識の変化	23
3.1.3	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	25
3.1.4	すぐに避難する理由	28
3.1.5	避難を遅らせる理由	29
3.1.6	避難しない理由	30
3.1.7	地震被害想定調査結果の認知度	31

3.1.8 浸水深 30cm 時間予想図の認知度	32
3.2 風水害対策について	33
3.2.1 防災情報の認知度	33
3.2.2 特別警報の理解度	36
3.2.3 風水害による危険性の認知度	37
3.2.4 風水害の危険性の情報入手先	38
3.2.5 局地的な大雨等からの避難	39
3.2.6 台風時等の避難行動	41
3.2.7 台風時等に避難しない理由	43
3.3 防災全般について	45
3.3.1 家庭での防災対策の状況	45
3.3.2 家具類の固定状況	51
3.3.3 家屋からの脱出	54
3.3.4 安全ではないのに家具を固定しない理由	55
3.3.5 防災マップやハザードマップの認知度	57
3.3.6 気象や災害の情報の入手先	58
3.3.7 防災情報メール配信サービスの認知度	63
3.3.8 避難場所や避難所の認知度	65
3.3.9 避難場所や避難所までの経路についての認知度	67
3.3.10 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無	68
3.3.11 地域・職場での防災活動への参加経験	70
3.3.12 地域の防災活動に参加した内容	74
3.3.13 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか	77
3.3.14 防災活動に参加しなかった理由	78
3.3.15 今後の地域の防災活動への参加	80
3.3.16 地域・職場で必要と思う防災活動	82
3.3.17 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること	83
3.3.18 地域の消防団に期待する活動内容	85
3.3.19 地域の消防団への参加	87
3.3.20 地域の消防団へ参加しない理由	89
3.3.21 自主防災組織の有無と活動状況	91
3.3.22 就学している児童生徒の有無	93
3.3.23 学校の防災教育の家庭での認知度	94
3.3.24 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの	97
3.3.25 防災に関する啓発活動等の認知度	100
3.3.26 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか	102
3.3.27 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか	103
3.3.28 防災対策における住民と行政の役割分担	107
3.4 住まいの耐震化について	108
3.4.1 住まいの状況	108

3.4.2	耐震化に向けた補助制度の認知度	109
3.4.3	耐震診断の受診の有無と診断結果	111
3.4.4	耐震診断を受けない理由	113
3.4.5	補強工事を行ったか	115
3.4.6	耐震補強工事の補助制度を利用したか	116
3.4.7	どのような補強工事を行ったか	117
3.4.8	耐震補強を行った時の工事費	118
3.4.9	耐震補強をしない理由	119
3.4.10	耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）	121
3.4.11	一部分のみの耐震補強工事	122
3.4.12	耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）	123
3.4.13	住まいの耐震化を進める取組	124
3.5	アンケート調査回答者の属性	125
3.5.1	性別	125
3.5.2	年齢	125
3.5.3	住所	126
3.5.4	家族人員	127
資	料	129
	○津波危険地域一覧	130
	○使用した調査票	133

第1章 調査の概要

1.1 調査目的

平成23年3月に発生し、未曾有の大災害となった「東日本大震災」を始めとする地震・津波災害や平成23年9月に発生した「紀伊半島大水害」、昨年夏に台風、前線に伴う局地的大雨などにより、全国各地でさまざまな災害をもたらした「平成26年8月豪雨」など、自然災害は、我々が生きていく上において逃れようのないものです。

三重県においては、防災対策を県政の最重要課題の一つに掲げ、今世紀前半の発生が懸念される南海トラフ沿いを震源域とする巨大地震や近年の地球温暖化などの気候変動により年々、大型化の様相を見せている台風、さらには、「これまでに経験のない」と前置きされるような局地的大雨や竜巻など、深刻化する様々な自然災害に対する“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、防災に関する県民の意識や行動の実態を把握して、今後の三重県の防災施策を適切に進めるにあたっての重要な基礎データを得るために実施するものです。

1.2 調査方法

郵送によるアンケート調査

調査対象は、各市町の選挙人名簿から等間隔無作為抽出法により、5,000人を抽出
なお、各市町の対象者数は市町別推計人口の比率を参考に割り当てています。

1.3 調査期間

平成26年10月6日から平成26年10月20日

1.4 調査票の配布と回収について

調査票の配布数と回収数は以下の通りです。

	配布数	回収数	有効回収率
一般地域	3,372	1,903	56.4%
津波危険地域	1,628	898	55.2%
合計（全県分）	5,000	2,801	58.0%

注 有効回答率は、回収した調査票の中から白紙回答を無効として算出しています。

1.5 集計結果

調査結果の集計は、全県分と一般地域分、津波危険地域分（伊勢市以北、鳥羽市以南）の4通りについて行っています。（一部の設問を除く）

なお、過去の調査における同じ設問または同趣旨の設問については、全県（一部設問では地域別）の経年変化を可能な範囲で掲示しています。

また、その他属性等による集計も行っています。

1.6 本報告書における結果数値等の取り扱いについて

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するもの全てを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全

体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。

- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント(%)値で表記しています。(% 値の母数は、その質問項目の該当標本数(有効回答数))
- (3) %値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。
したがって、合計が必ずしも 100%とならない場合(99.9%または 100.1%など)があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
また、第 2 章調査結果概要での約〇割は、1 割より小さい端数を四捨五入した値で表しています。
- (4) 図中の「n」は、単数回答(1つだけ選択する回答)では有効回答数、複数回答(該当するもの全てを選択する回答)では回答者数を表しています。
図中の「N」は、複数回答(該当するもの全てを選択する回答)の総回答数を表しています。
- (5) 全県と地域別等の表中では、地域別等の無回答者数は地域別等の集計から除外するため、地域別等の合計と全県の数字が合わない場合があります。
全県回答数と地域別等回答数の合計値との差が、地域別等の設問について、回答をいただけなかった方の数となります。

第2章 調査結果の概要

調査結果の詳細は、第3章のとおりですが、この章では特に注目した調査結果を抽出し、その主な概要と特徴を記載しています。

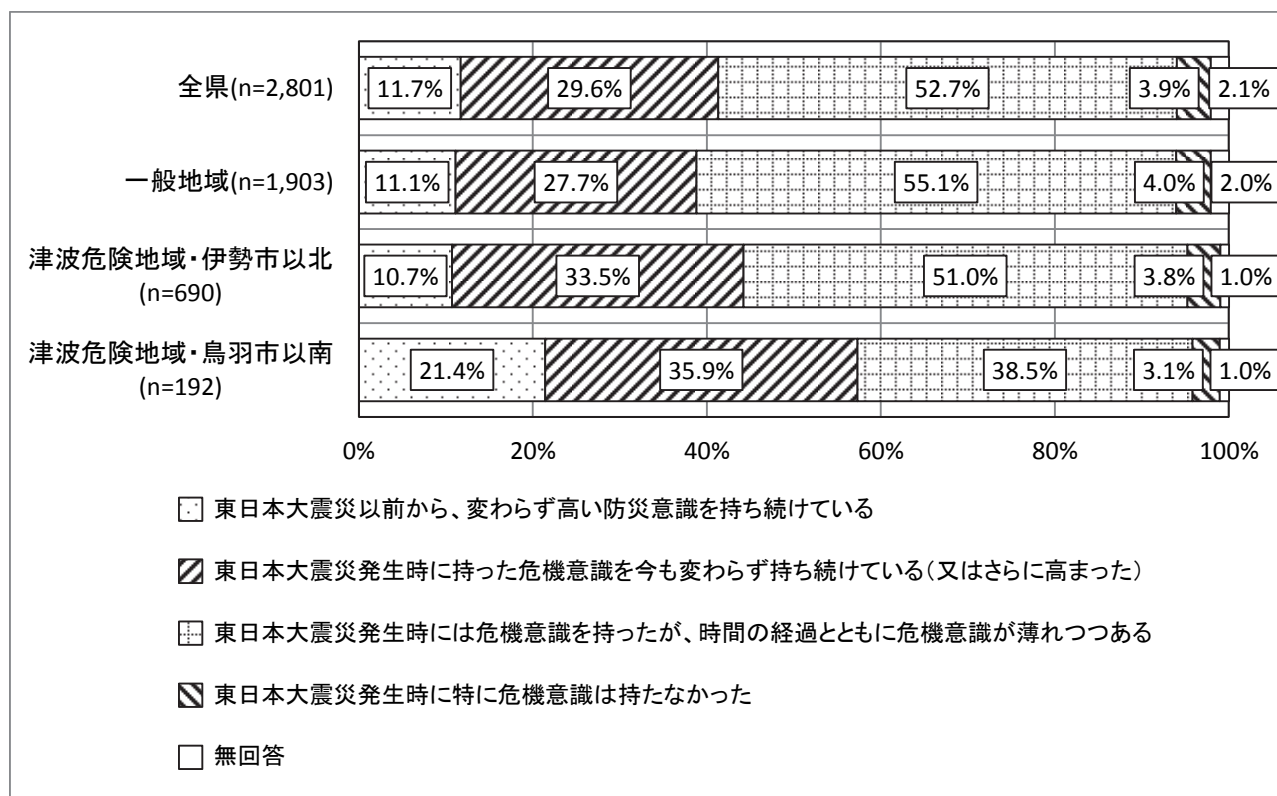
2.1 地震・津波対策について

2.1.1 大震災発生後の防災意識の変化

東日本大震災の発生から3年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○) ※問2

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(又はさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

図 2.1.1 大震災発生後の防災意識の変化 -全県及び地域別-



・「大震災発生後の防災意識の変化」については、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」が全ての地域で最も多くなっており、全県では52.7%となっています。昨年度より7.7ポイント上昇しています。

・東日本大震災発生後に芽生えた危機意識が、全ての地域において年々低下し、歯止めがかからない状況になりつつあります。防災対策の根幹となる「自助」、「共助」の取組を継続・推進させるためにも、これまで以上に重要な課題と認識し、ねばり強く危機意識を風化させない対策を講じ続ける必要があります。

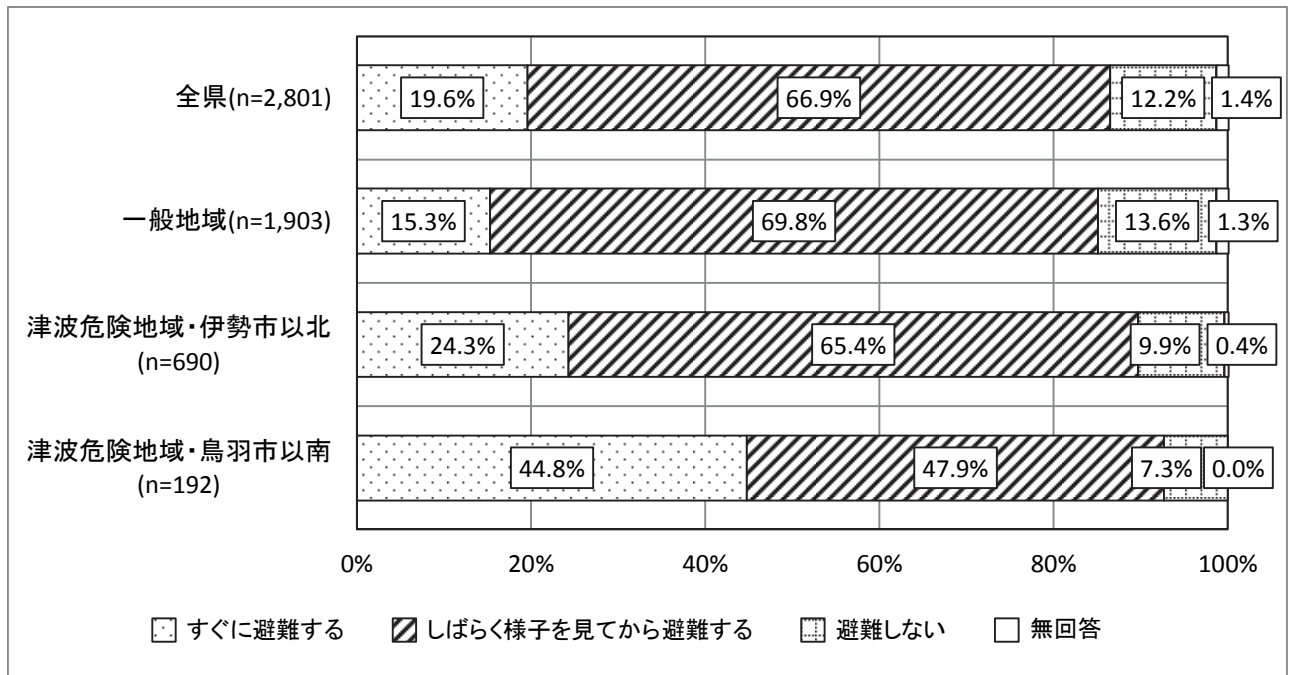
2.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。

(一つだけ○) ※問3

1. すぐに避難する →問3-1 へ
2. しばらく様子を見てから避難する →問3-2 へ
3. 避難しない →問3-3 へ

図 2.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-



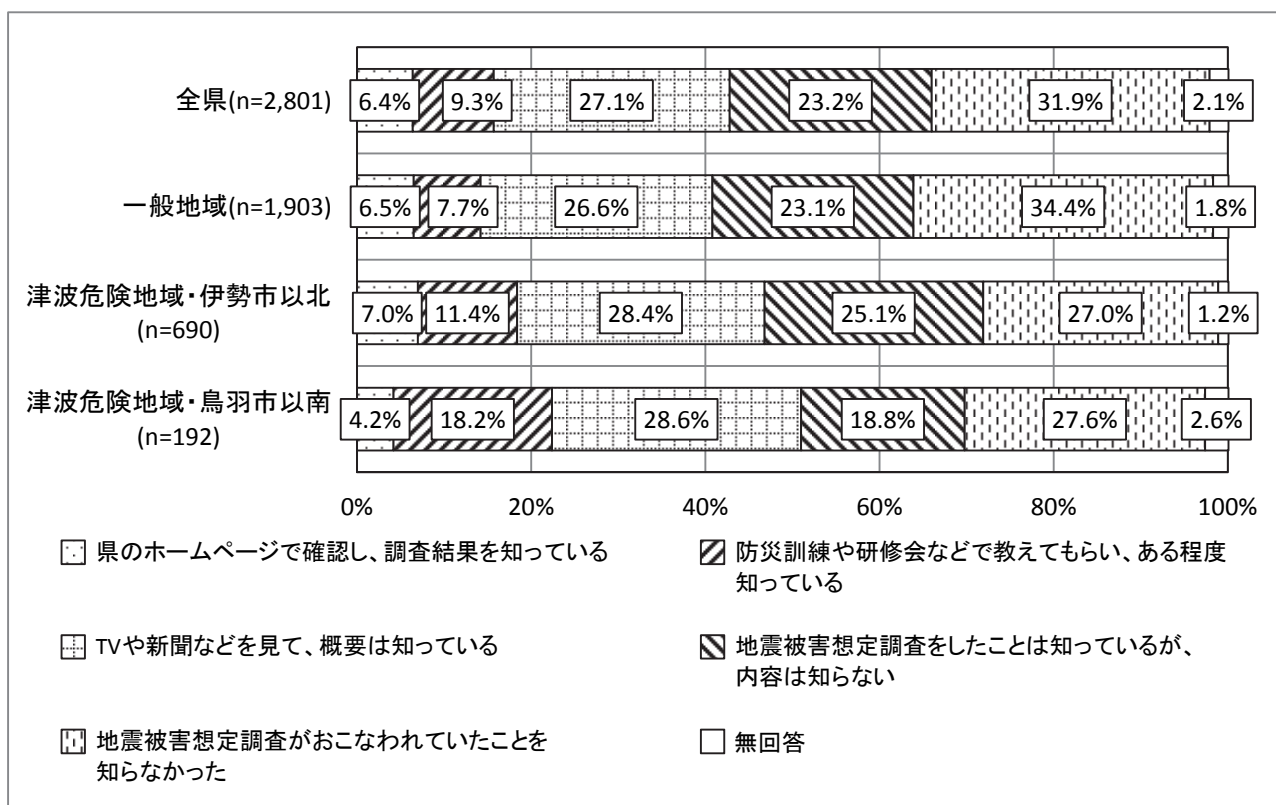
- 「夜間の大地震に遭遇した際の避難行動」について、全県では「しばらく様子を見てから避難する」が66.9%と最も多くなり、地域別にみても、一般地域が69.8%、津波危険地域（伊勢市以北）が65.4%、津波危険地域（鳥羽市以南）が47.9%となっています。
- 地震発生後、短時間での津波の到達が予想される県南部沿岸地域においても、「しばらく様子を見てから避難する」と約半数の方が答えています。まず「早く」、そして「遠く」「高く」へ逃げる事が津波から命を守るための唯一の手段です。これら地域の避難意識が低いことは大きな課題です。

2.1.3 地震被害想定調査結果の認知度

三重県では、平成26年3月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果を知っていますか。(一つだけ○) ※問4<新規>

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

図 2.1.3 地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



- 「地震被害想定調査結果の認知度」について、「県のホームページで確認し、調査結果を知っている」、「防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている」、「TVや新聞などを見て、概要は知っている」と答えられた方が42.8%いる一方、「地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった」人が31.9%に上りました。
- 現在、各市町において、この調査結果を踏まえたハザードマップの作成が行われていることから、これら市町と連携し、地震による揺れや地域の危険性を知っていただくための啓発に取り組む必要があります。

2.2 風水害対策について

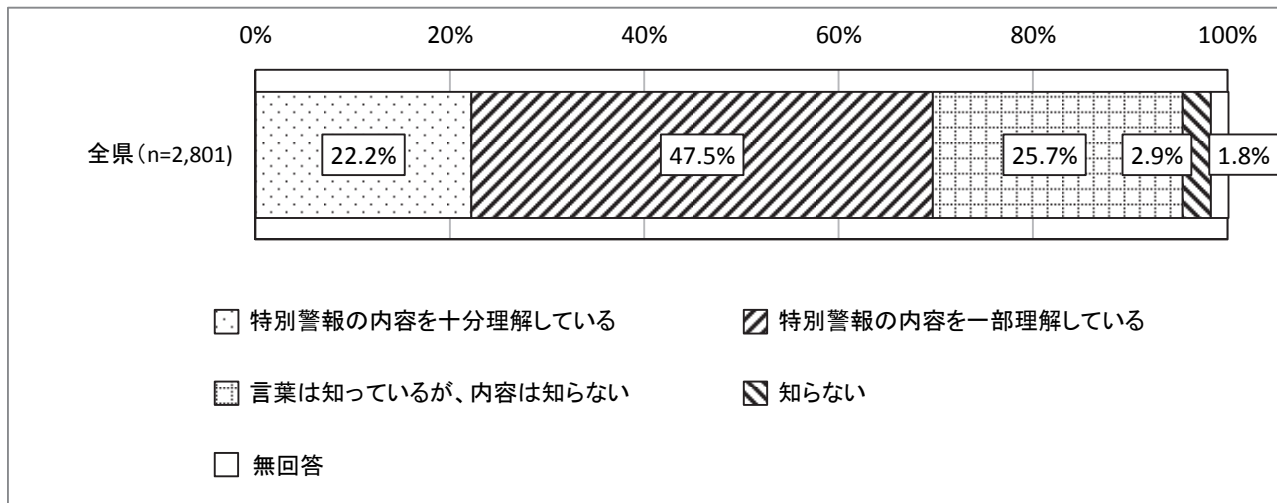
2.2.1 特別警報の理解度

気象庁はこれまでの大雨、地震、高潮、津波などの警報に加え、平成 25 年 8 月 30 日から、これらの警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けることになりました。

あなたは、この特別警報について、どの程度ご存知ですか。（一つだけ○）※問 6-1

1. 特別警報の内容を十分理解している
2. 特別警報の内容を一部理解している
3. 言葉は知っているが、内容は知らない
4. 知らない

図 2.2.1 特別警報の理解度 -全県-



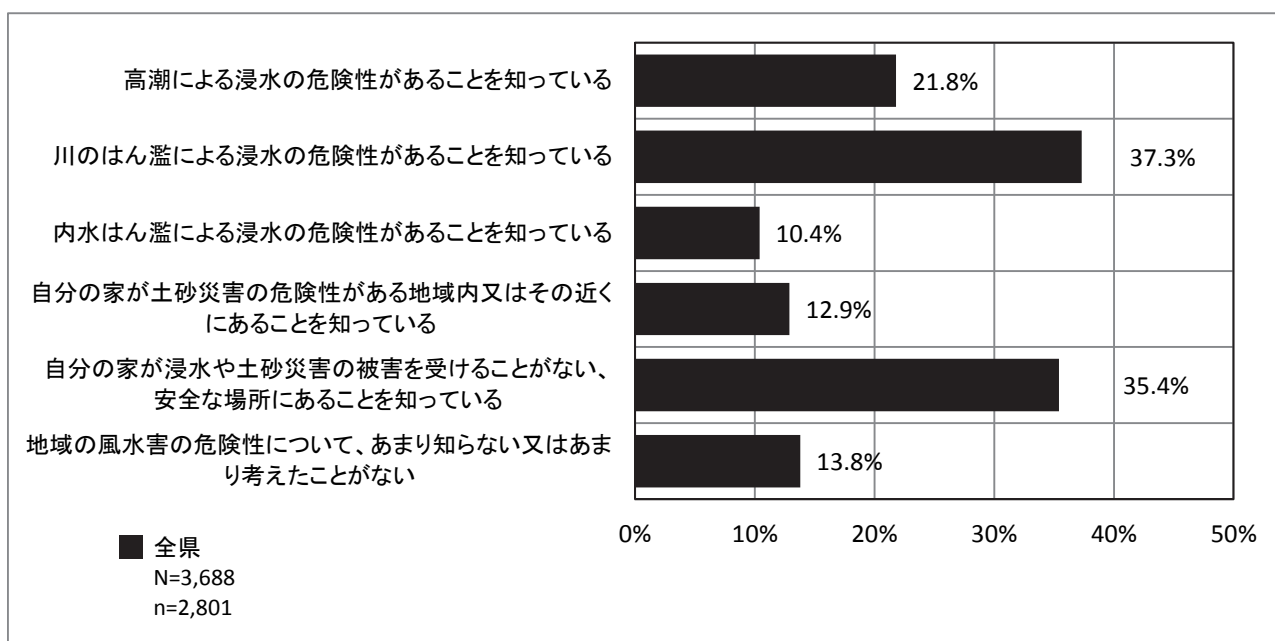
- 「特別警報の理解度」について、「特別警報の内容を十分理解している」人の割合は 22.2%、「特別警報の内容を一部理解している」人の割合は 47.5%と、約 7 割の方が内容を理解されていますが、28.6%の人が「言葉は知っているが、内容は知らない」、特別警報そのものを「知らない」と回答されています。
- 平成 26 年 8 月の台風第 11 号では、県内全域に大雨特別警報が発表され、気象庁は、これまでにない危険が迫っている自然災害から直ちに命を守る行動をとるように促しましたが、その後に実施した本調査においても、この結果にとどまりました。
- 特別警報の重要性を十分に理解するための啓発を行うとともに、県民自らの迅速な避難行動に結びつける具体的な対策を考える必要があります。

2.2.2 風水害による危険性の認知度

あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性についてどの程度知っていますか。（いくつでも○）※問 7

1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている →問 7-1 へ
2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている →問 7-1 へ
3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている →問 7-1 へ
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている →問 7-1 へ
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている →問 8 へ
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない →問 8 へ

図 2.2.2 風水害による危険性の認知度 -全県-（複数回答）



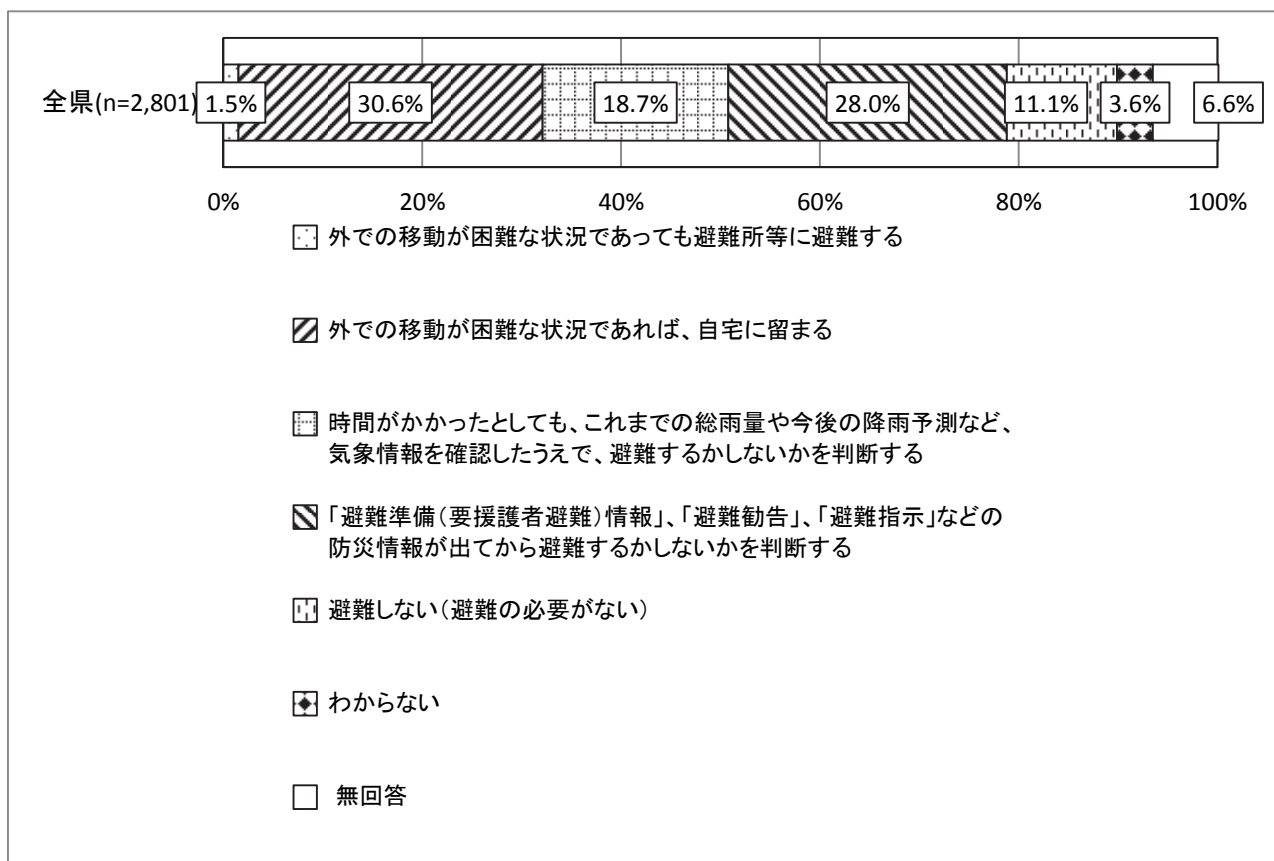
- 「風水害による危険性の認知度」について、「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」が 37.3%、「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている」が 35.4%などとなっています。
- 一方で、お住まいの地域の風水害による危険性について、13.8%の方が「地域の風水害の危険性についてあまり知らない又はあまり考えたことがない」と回答されています。
- 風水害対策において、地域の風水害のリスクを把握しておくことは、最も基本的な要件であり、全ての県民がお住まいの地域の危険性を理解し、正しい避難行動がとれるようにしていくため、市町と連携してさらなる周知を図っていく必要があります。

2.2.3 局地的な大雨等からの避難

近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降りだし、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どの段階で避難しますか。(一つだけ○) ※問8<新規>

1. 外での移動が困難な状況であっても避難所等に避難する
2. 外での移動が困難な状況であれば、自宅に留まる
3. 時間がかかったとしても、これまでの総雨量や今後の降雨予測など、気象情報を確認したうえで、避難するかしないかを判断する
4. 「避難準備(要援護者避難)情報」、「避難勧告」、「避難指示」などの防災情報が出てから避難するかしないかを判断する
5. 避難しない(避難の必要がない)
6. わからない

図 2.2.3 局地的な大雨等からの避難 -全県-



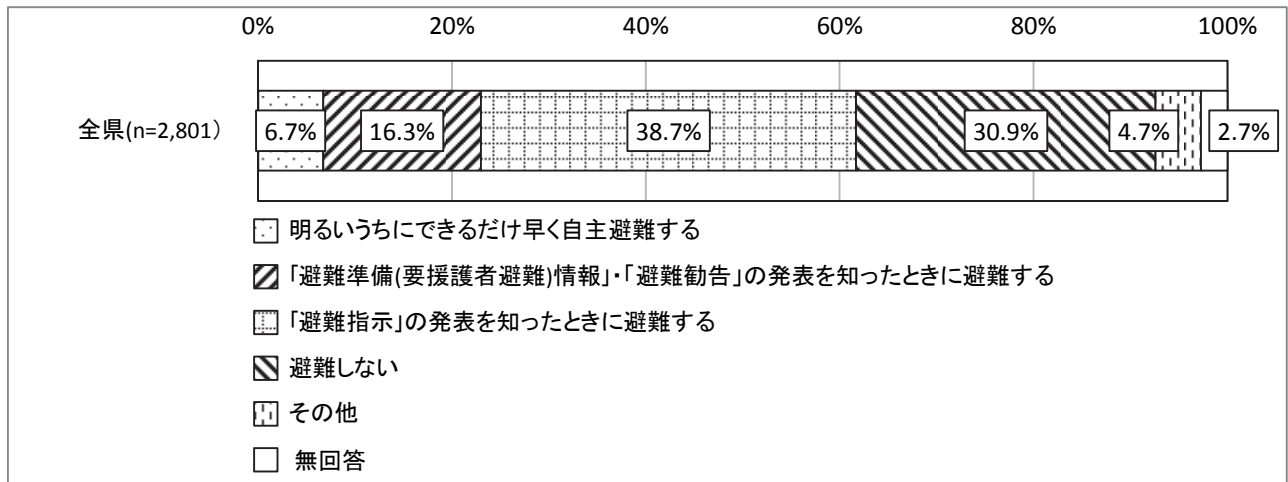
- 「局地的な大雨等からの避難」について、28.0%の方が「避難準備(要援護者避難)情報」、「避難勧告」、「避難指示」などの防災情報が出てから避難する又は避難しないを判断すると回答されています。
- 局地的大雨による風水害の危険性は多種多様であり、避難については、状況に応じた的確な判断が求められます。全ての県民がお住まいの地域の危険性を理解し、「屋内避難」を含めた正しい避難行動への理解を促していく必要があります。

2.2.4 台風時等の避難行動

あなたは、お住まいの地域に相当規模の台風の接近が気象情報等で予測されているとき、次のどの段階で避難しますか。(一つだけ○) ※問9

- | | |
|--|----------|
| 1. 明るいうちにできるだけ早く自主避難する | →問 10 へ |
| 2. 「避難準備(要援護者避難)情報」・「避難勧告」の発表を知ったときに避難する | →問 10 へ |
| 3. 「避難指示」の発表を知ったときに避難する | →問 10 へ |
| 4. 避難しない | →問 9-1 へ |
| 5. その他 具体的に | →問 10 へ |

図 2.2.4 台風時等の避難行動 -全県-



- 「台風時等の避難行動」について、「明るいうちにできるだけ早く避難する」人の割合は6.7%となっています。一方で、「避難しない」が30.9%と、台風の接近が予測されている状況においても約3人に1人が避難しないと答えています。
- 避難の要否は住んでいる場所によって異なりますが、夜間や危険が押し迫ってからの避難行動は、被害に遭う危険性も高くなることから、できるかぎり安全な段階で早く避難することが大切です。
- 気象予測技術の向上により、台風の進路や到達予測時間は年々、正確になってきています。気象情報や防災情報に注意を払い、安全な時間帯での予防措置や避難を心がけることが重要です。

2.3 防災全般について

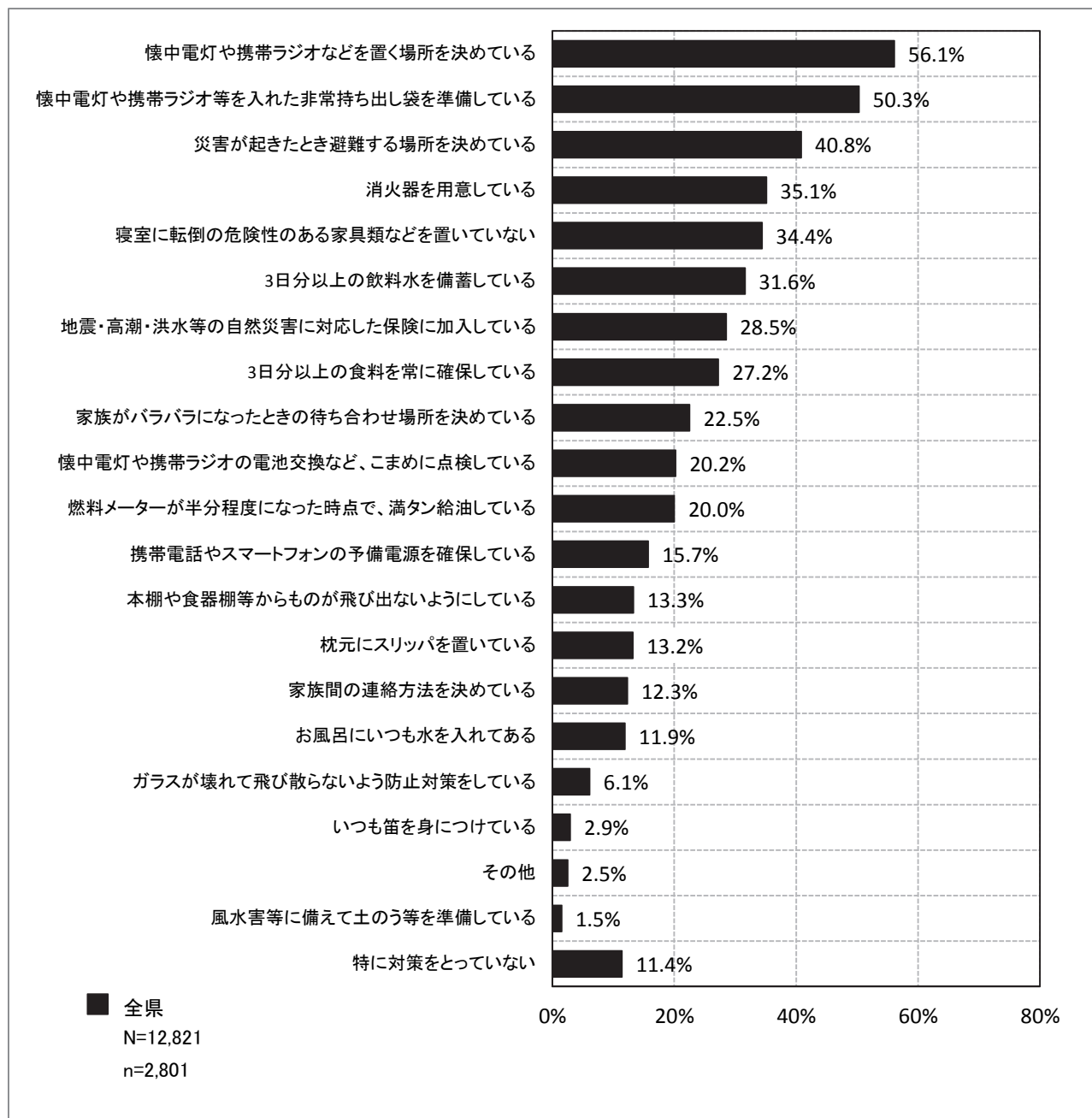
2.3.1 家庭での防災対策の状況

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○) ※問 10

1. 3日以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出さないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 2.3.1 家庭での防災対策の状況 -全県- (複数回答) (回答の多い順)



- ・「3日以上飲料水の備蓄」をしている家庭は 31.6%、「3日以上食料の備蓄」をしている家庭は 27.2%となっています。
- ・「特に対策をとっていない」と回答された方は 11.4%となりました。
- ・基本的な「自助」の防災活動であるご家庭での飲料水や食料などの備蓄が進んでいない状況です。災害発生直後は、国や県、市町から支援をすぐに受けることは難しくなります。日常的に非常食を食べて、食べたら買い足すという行為を繰り返し、常に新しい非常食の備蓄ができる「ローリングストック法」も活用するなど、各家庭が災害に備えるための対策を講じる必要があります。

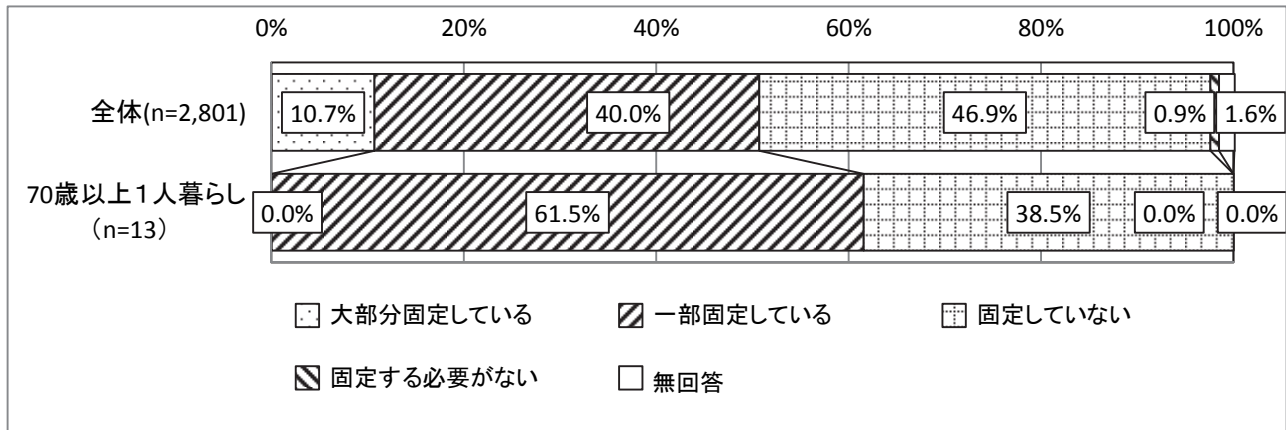
2.3.2 家具類の固定状況

ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ)
 ※問 11

1. 大部分固定している	} →問 11-1 へ
2. 一部固定している	
3. 固定していない	
4. 固定する必要がない	

→問 12 へ

図 2.3.2 家具類の固定状況 -全体-



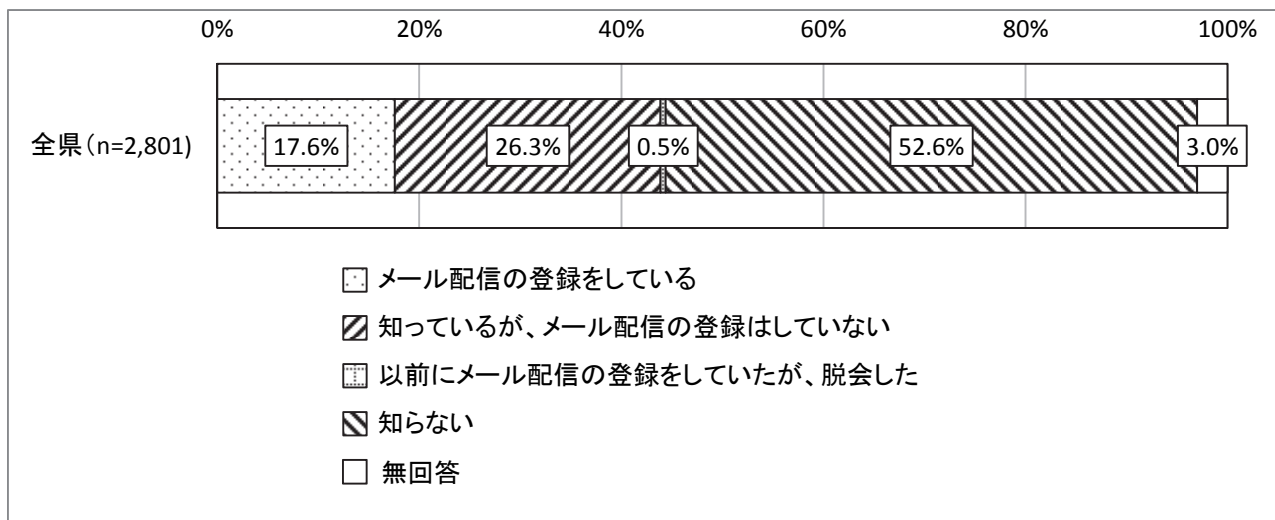
- 「家具類の固定状況」について、固定をしている方は、全体で 50.7%である一方、70 歳以上一人暮らしの家庭では 61.5%と高齢者宅の家具固定が進んでいます。
- 平成 26 年 11 月に発生した長野県北部の地震においても、家具類の転倒による負傷者が出ており家具類を固定しておくことの重要性が改めて確認されました。
 家具固定は自宅の防災対策に必須であり、さらなる啓発を図る必要があります。

2.3.3 防災情報メール配信サービスの認知度

県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。(一つだけ○) ※問 14

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

図 2.3.3 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県-



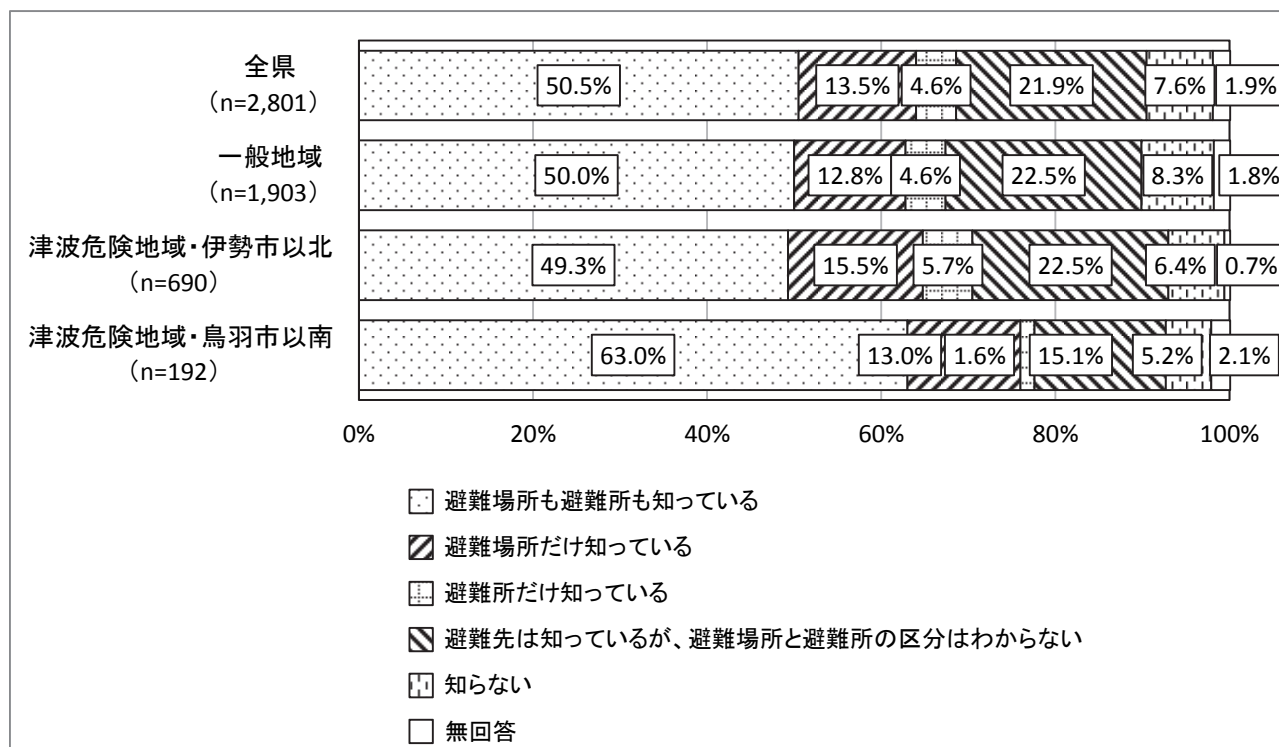
- 「防災情報メール配信サービスの認知度」について、「知らない」が52.6%で最も多く、「メール配信の登録をしている」と回答した方は全体の17.6%となっています。
- 災害情報の確実かつ迅速な収集はとても大切です。気象情報や地震情報などをインターネットとメールで配信する三重県の防災情報のポータルサイト「防災みえ.jp」の周知をさらに推進する必要があります。

2.3.4 避難場所や避難所の認知度

あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。
 (一つだけ〇) ※問 15

1. 避難場所も避難所も知っている	} 問 15-1 へ
2. 避難場所だけ知っている	
3. 避難所だけ知っている	
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない	} 問 16 へ
5. 知らない	

図 2.3.4 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



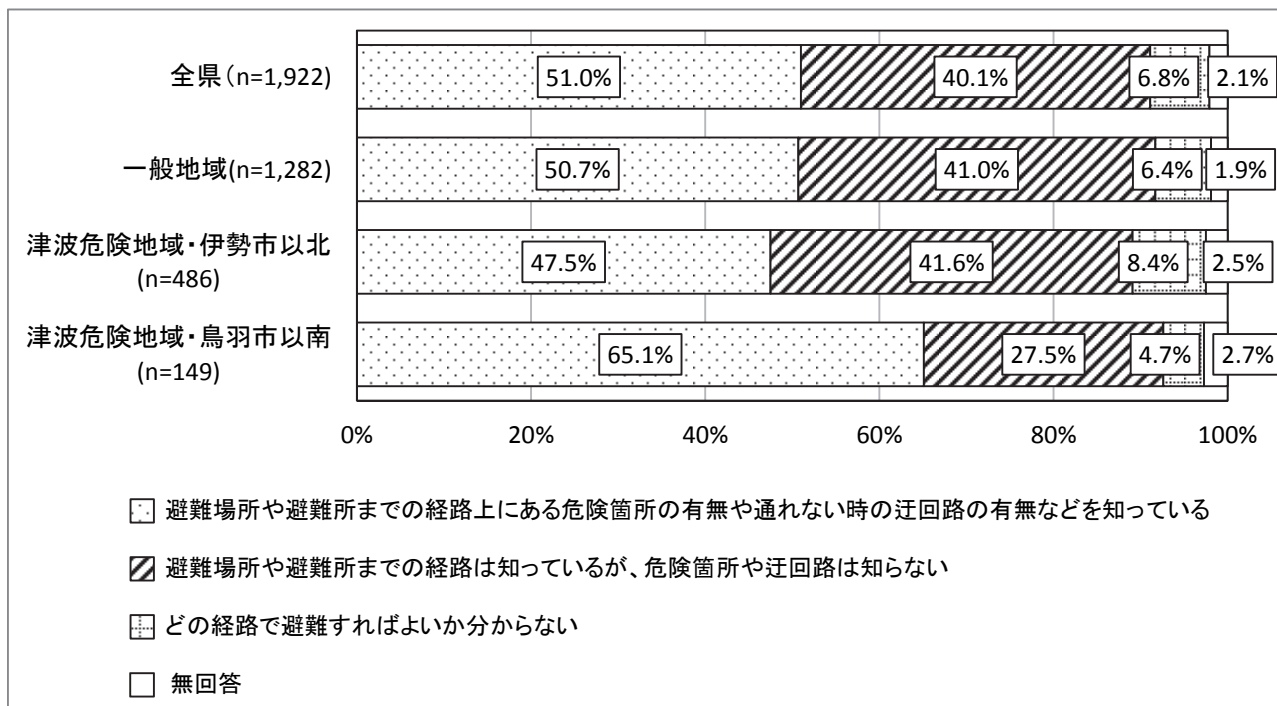
- 「避難場所や避難所の認知度」について、全県では 9 割近くの方が避難場所か避難所を知っていると答えています。
- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）の「避難場所も避難所も知っている」が 63.0%と高くなっています。
- 津波や土砂災害などから緊急かつ一時的に避難するための避難場所、災害時に一定期間の避難生活を送るための避難所の啓発を進め、各家庭における災害発生時の避難計画の作成を促進する必要があります。

2.3.5 避難場所や避難所までの経路についての認知度

「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度知っていますか。(一つだけ○) ※問 15-1

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

図 2.3.5 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



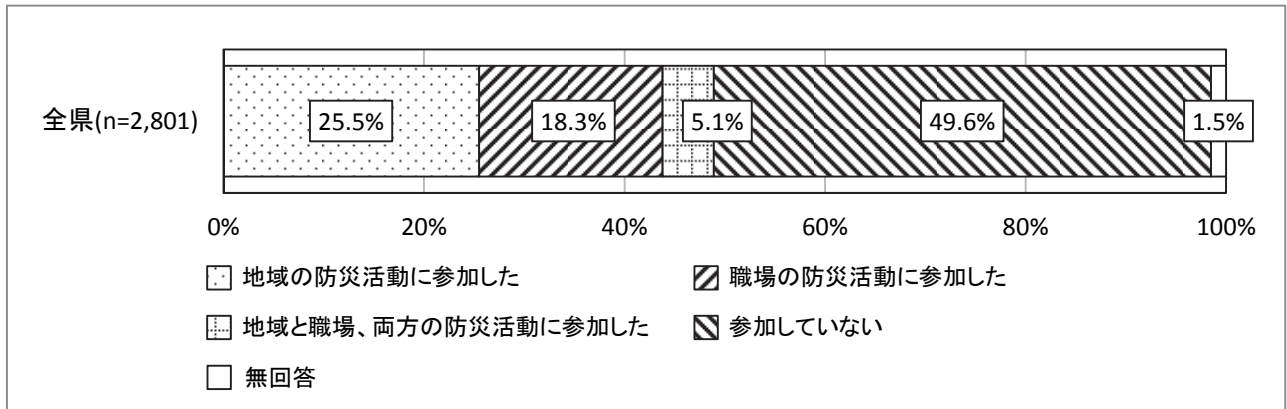
- 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や迂回路の有無などを知っている方は全県で約5割でした。
- 地域別では津波危険地域（鳥羽市以南）で65.1%と最も高い結果となりました。
- 実際の避難行動に役立つタウンウォッチングを取り入れた防災訓練で、安全な避難経路を知っておくなど、実際の避難行動に役立つ取組が各地域で進められることが重要です。

2.3.6 地域・職場での防災活動への参加経験

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問18の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ〇）※問17

1. 地域の防災活動に参加した	} 問18へ
2. 職場の防災活動に参加した	
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した	
4. 参加していない	→ 問19へ

図 2.3.6 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県-



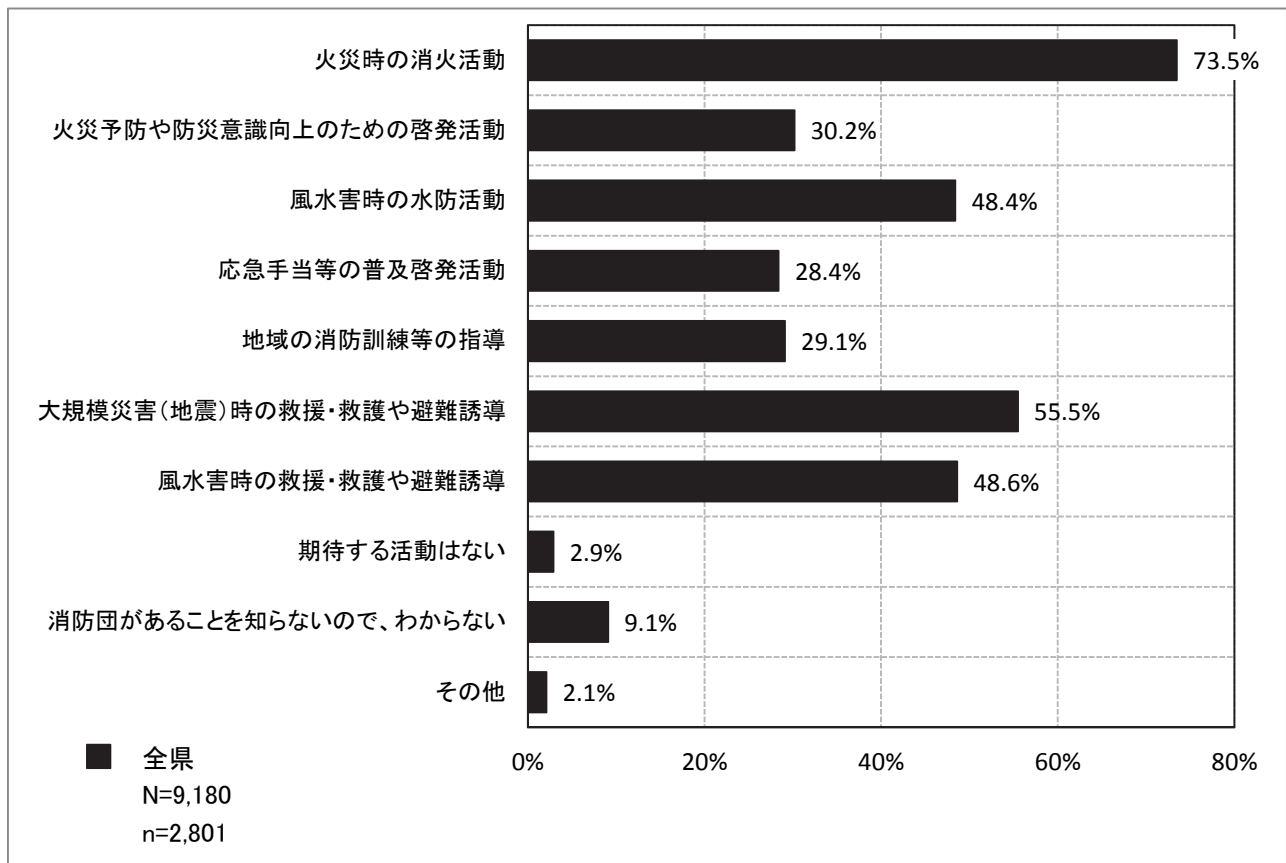
- 「地域・職場での防災活動への参加経験」について、いずれかの防災活動に「参加した」が48.9%、「参加していない」が49.6%となり、おおよそ半数づつとなりました。
- 約5割の方が地域や職場の防災活動に参加していないと答えていることは問題です。練習していないことは災害時にもできません。災害時に確実な防災活動が取れるよう、普段から様々な防災活動を体験し、これを繰り返し行うことが大切です。

2.3.7 地域の消防団に期待する活動内容

あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○) ※問 22<新規>

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害(地震)時の救援・救護や避難誘導
7. 風水害時の救援・救護や避難誘導
8. 期待する活動はない
9. 消防団があることを知らないので、わからない
10. その他 具体的に：

図 2.3.7 地域の消防団に期待する活動内容 -全県(複数回答)-



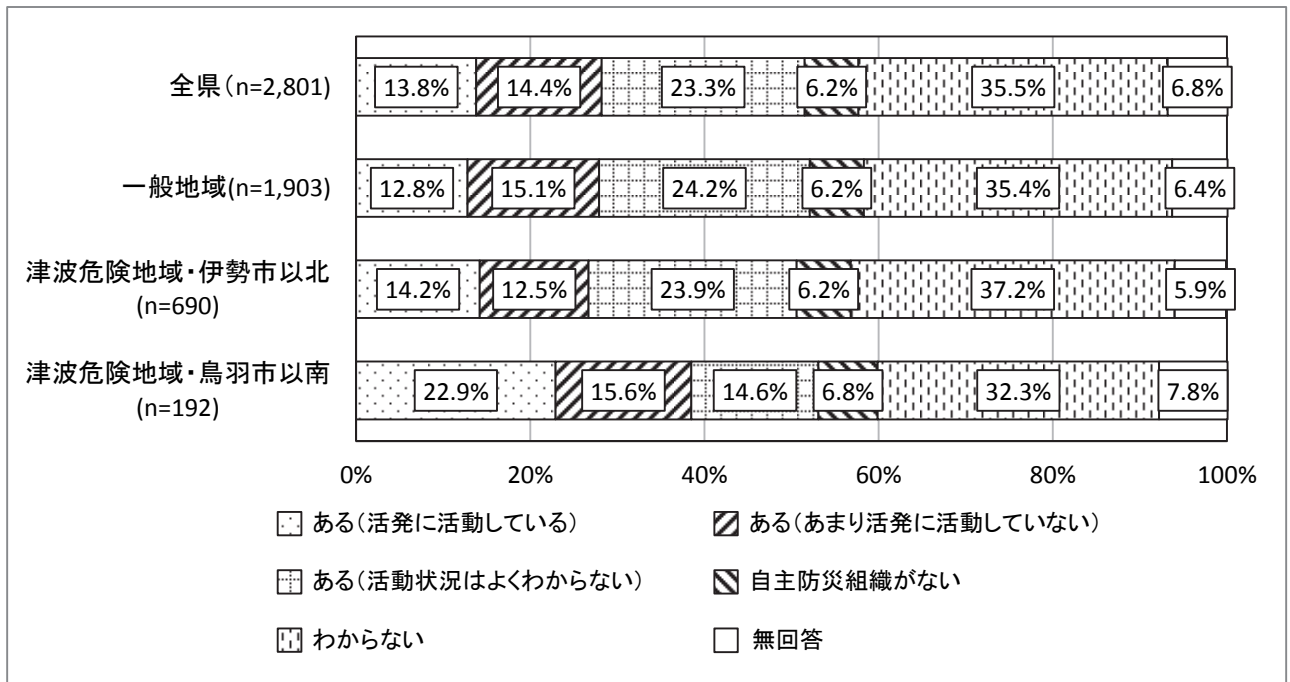
- 「地域の消防団に期待する活動内容」について、「火災時の消火活動」のほかにも、災害発生時の活動(救援・救護、避難誘導など)に高い期待が寄せられていることが分かりました。
- 地域防災の要となる消防団の更なる活用を図っていく必要があります。

2.3.8 自主防災組織の有無と活動状況

あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会などを母体とした、地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうか。（一つだけ〇）※問 25

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

図 2.3.8 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



- 全県では、13.8%の方がお住まいの地域の自主防災組織が活発に活動していると回答しています。なお、地域別では津波危険地域（鳥羽市以南）が他の地域と比べ、自主防災組織が活発に活動していると回答しています。
- 三重県内の自主防災組織の組織率は約93%（平成26年4月1日現在）となっていますが、その一方で、約3人に1人がお住まいの地域に自主防災組織があるか分からないと答えています。自主防災組織のさらなる活性化が必要です。

2.3.9 学校の防災教育の家庭での認知度

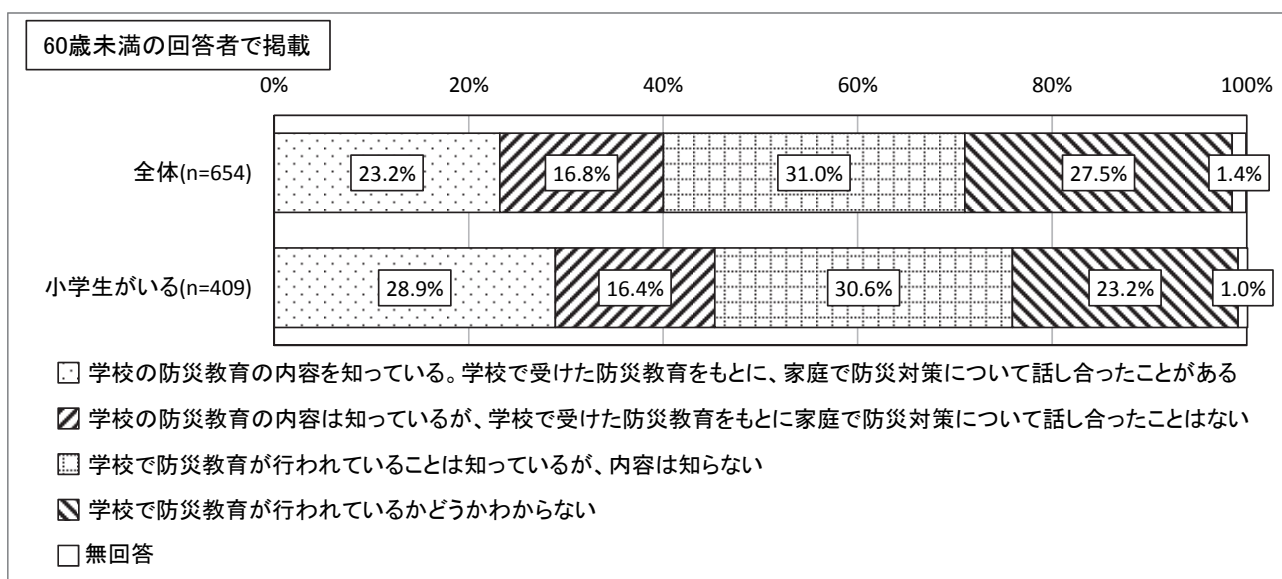
三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についてどの程度知っていますか。

(一つだけ〇) ※問 26-1

※ 複数の児童生徒がおられる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている。学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない

図 2.3.9 学校の防災教育の家庭での認知度



- 小学生から高校生までの児童生徒が学校で受けた防災教育について、家庭で話し合ったり、内容を知っている家庭は全体では 40.0%、「小学生がいる」家庭では 45.3%となっています。徐々に学校の防災教育の内容が家庭に浸透してきており、引き続き、学校の防災教育の内容が家庭でも共有されるよう取組を進めていきます。

2.4 住まいの耐震化について

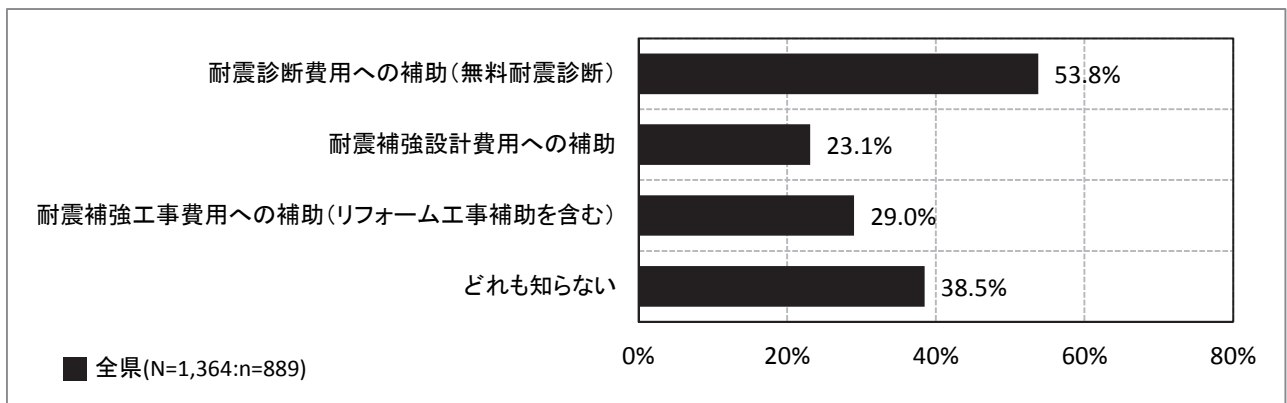
2.4.1 耐震化に向けた補助制度の認知度

県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度を知っていますか。

（いくつでも○）※問31

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

図 2.4.1 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-（複数回答）



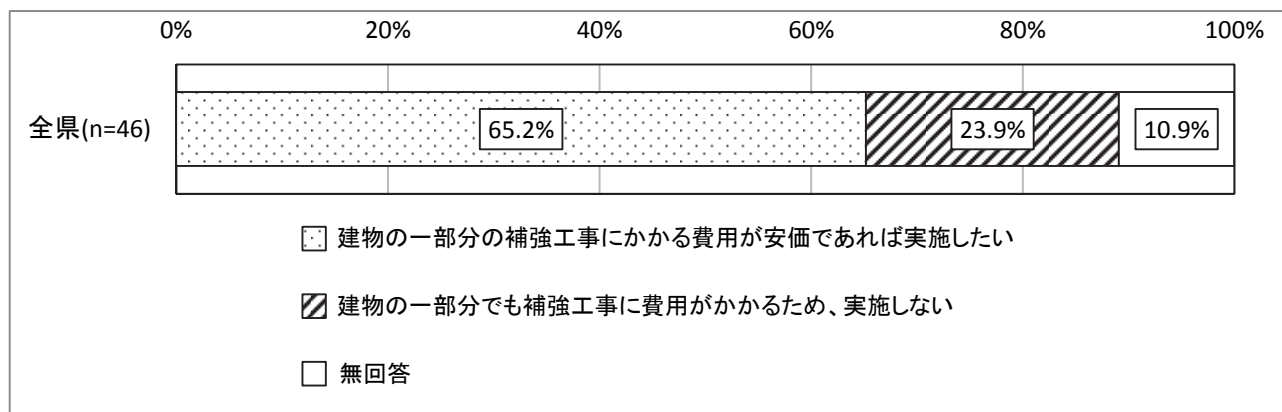
- 「耐震化に向けた補助制度の認知度」について、5割強の方が「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」について知っている一方で、「どれも知らない」は38.5%となっています。
- 津波や火災等からの避難も、先ずは“揺れ”から自宅を守ることが前提となることから、耐震診断の受診を促進し、住宅の安全確保を図る必要があります。

2.4.2 一部分のみの耐震補強工事

建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分（例えば壁1枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ〇）※問 36

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい →問 37 へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない →問 38 へ

図 2.4.2 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



- 「一部分のみの耐震補強工事」については、「建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と65.2%の方が回答されており、耐震対策ができていない方の部分補強へのニーズが高いことが明らかとなりました。
- 簡易耐震補強工事に対する補助制度を設けている市町もあることから、これら制度の活用を促進する必要があります。

第3章 調査結果

3.1 地震・津波対策について

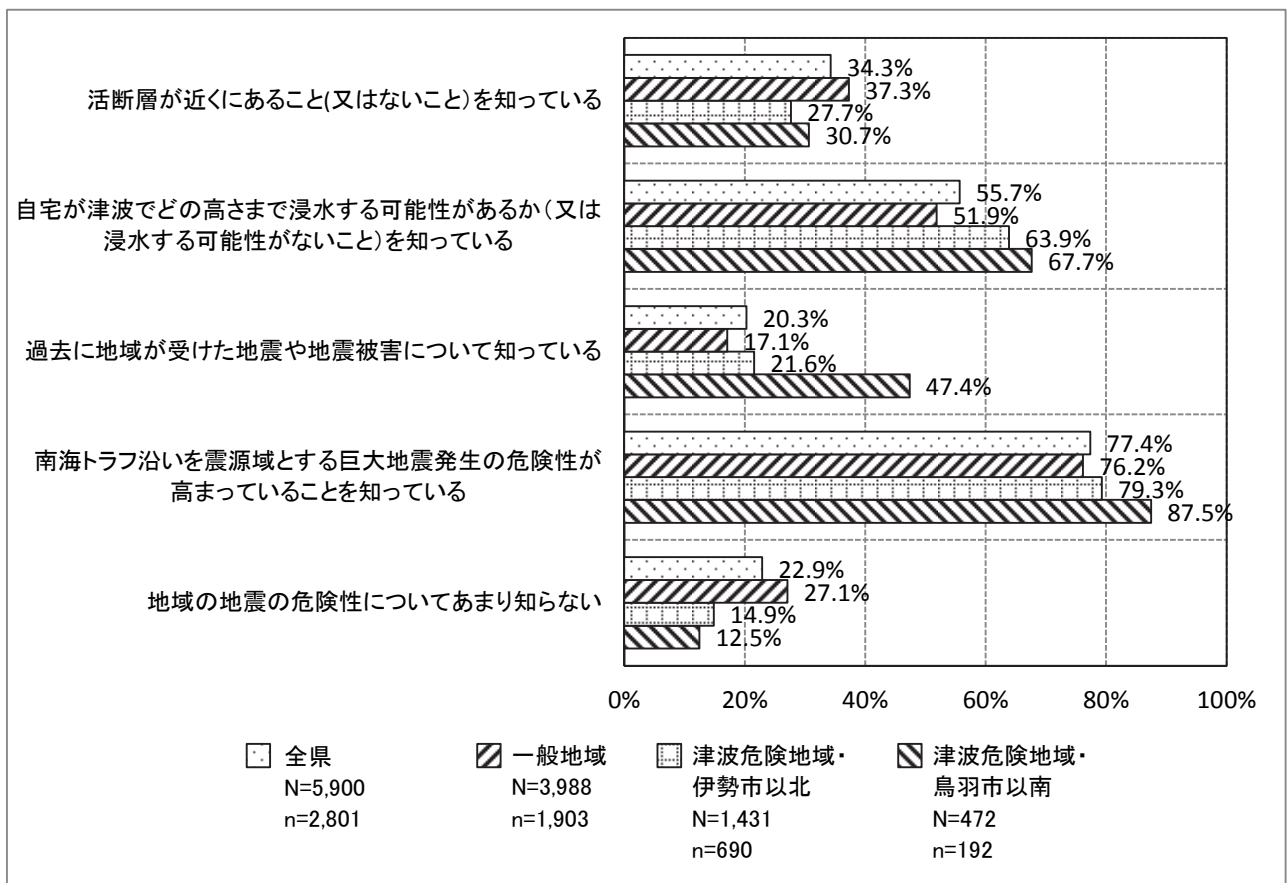
3.1.1 地域の地震や津波の危険性の認知度

【問 1】 あなたがお住まいの地域の地震や津波の危険性についてどの程度知っていますか。
(いくつでも○)

1. 活断層が近くにあること(又はないこと)を知っている
2. 自宅が津波でどの高さまで浸水する可能性があるか(又は浸水する可能性がないこと)を知っている
3. 過去に地域が受けた地震や地震被害について知っている
4. 南海トラフ沿いを震源域とする巨大地震発生の危険性が高まっていることを知っている
5. 地域の地震の危険性についてあまり知らない

調査結果

図 3.1.1 地域の地震や津波の危険性の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



「地域の地震や津波の危険性の認知度」について、「南海トラフ沿いを震源域とする巨大地震発生の危険性が高まっていることを知っている」が全県で 77.4%となるなど、すべての地域で高い関心を集めています。

また、「自宅が津波でどの高さまで浸水する可能性があるか(又は浸水する可能性がないこと)を知っている」については、特に津波危険地域で認知度が高くなっています。

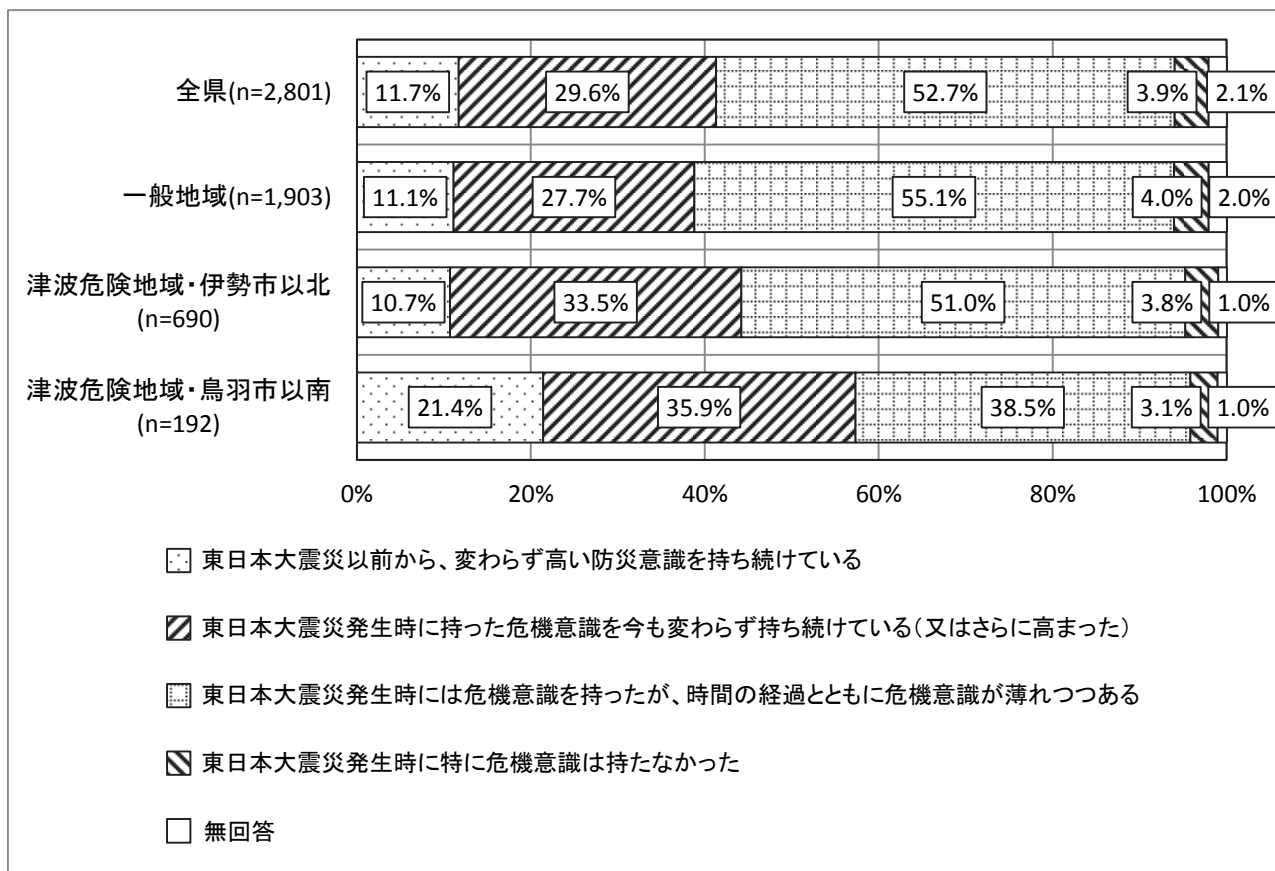
3.1.2 大震災発生後の防災意識の変化

【問 2】 東日本大震災の発生から3年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ○）

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている（又はさらに高まった）
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

調査結果

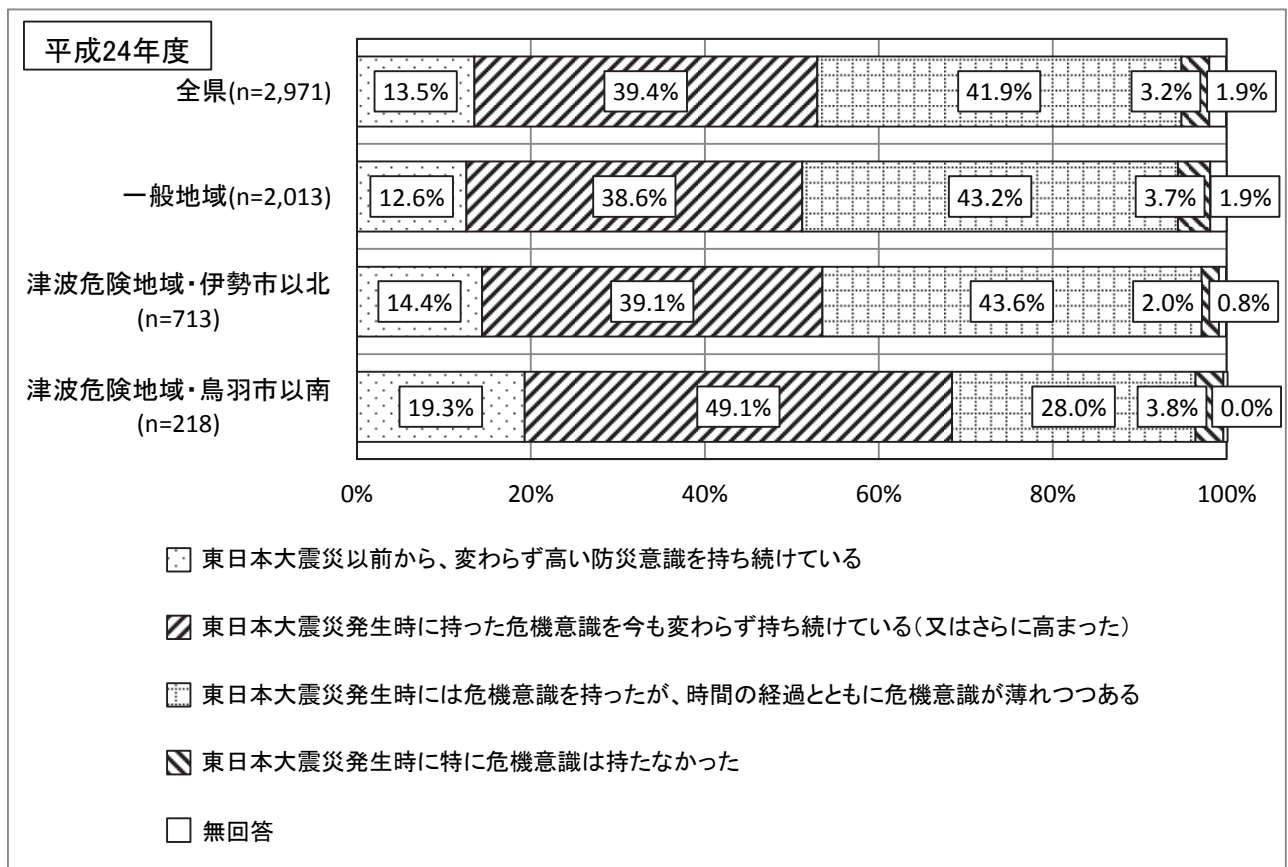
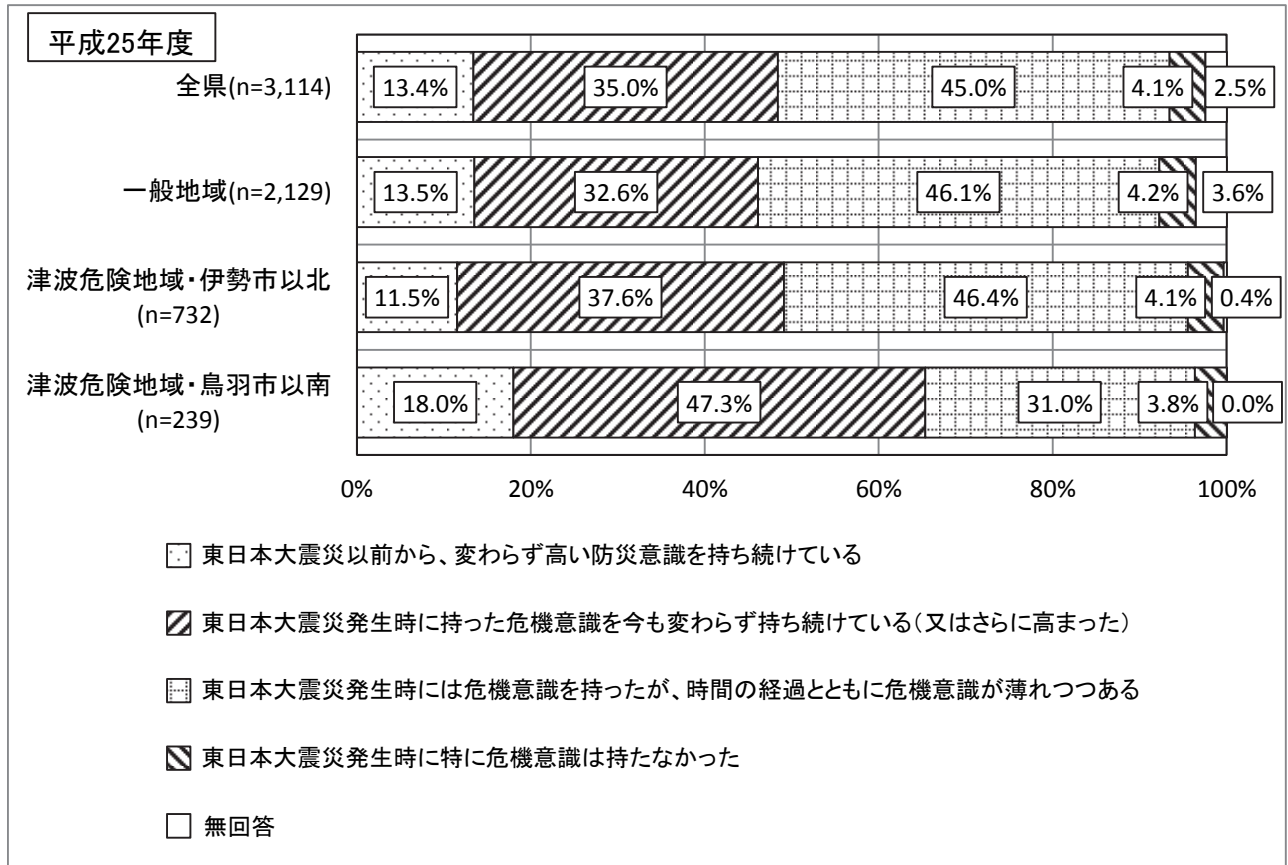
図 3.1.2 (1) 大震災発生後の防災意識の変化 -全県及び地域別-



「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている」、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている（又はさらに高まった）」が全県で、41.3%となり、昨年より7.1ポイント減少しました。

津波危険地域（鳥羽市以南）でも、昨年度と比べ8.0ポイント減少し、57.3%となっています。

(参考) 図 3.1.2 (2) 平成24年度及び平成25年度の防災意識の経年変化



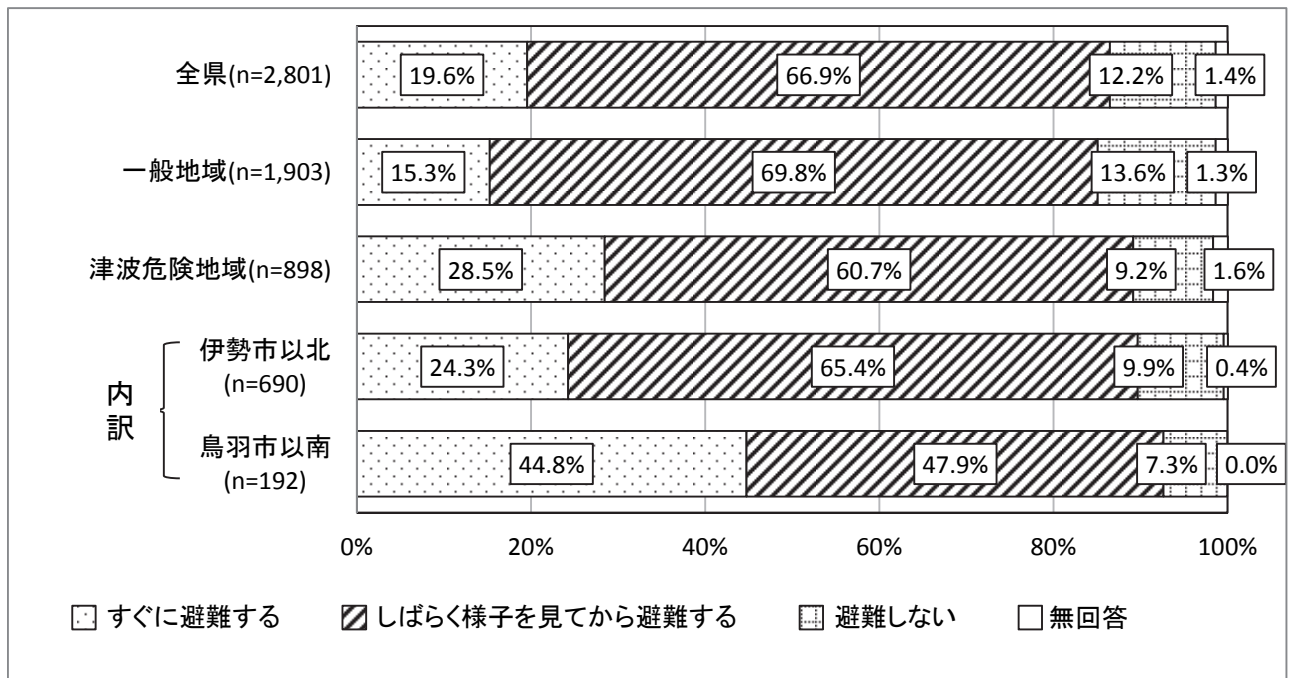
3.1.3 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

【問 3】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

- 1. すぐに避難する →問 3-1 へ
- 2. しばらく様子を見てから避難する →問 3-2 へ
- 3. 避難しない →問 3-3 へ

調査結果

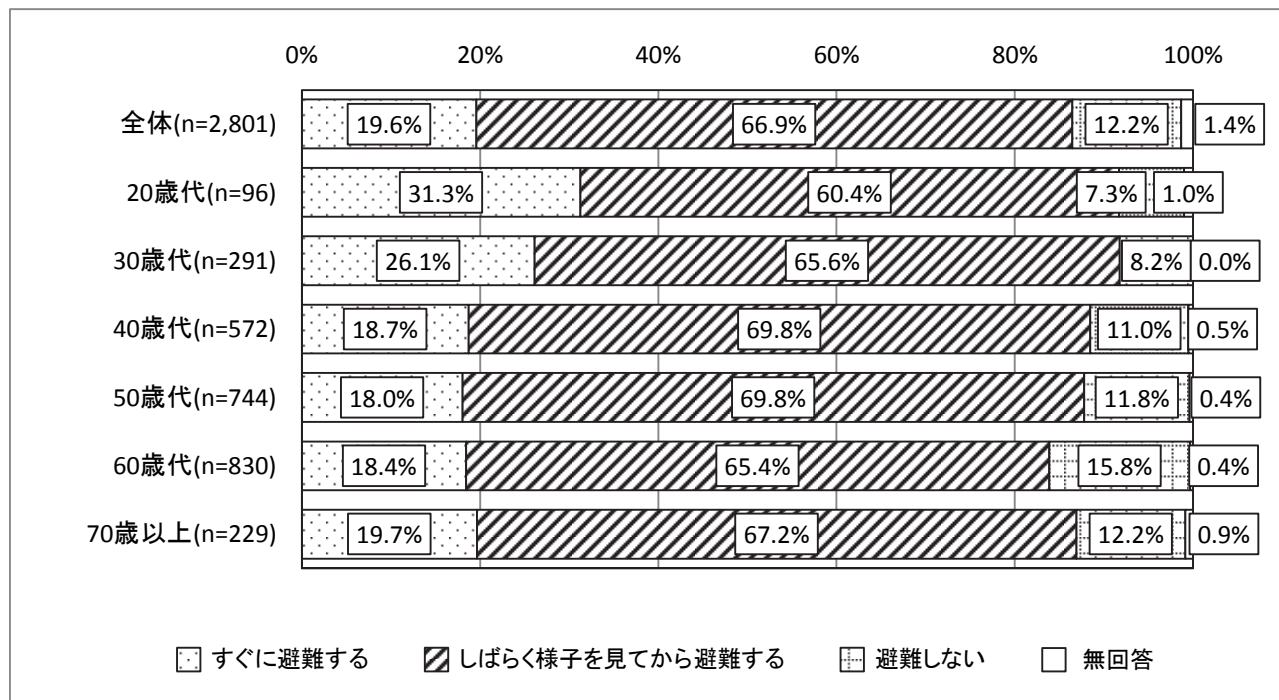
図 3.1.3 (1) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-



「夜間の大地震に遭遇した際の避難行動」について、全県でのデータを昨年度と比較（P27 参照）すると、「すぐに避難する」が 2.2 ポイント低下し 19.6%となり、「しばらく様子を見てから避難する」が 2.2 ポイント上昇し、66.9%となりました。

地域別にみると、津波危険地域で「すぐに避難する」が 4.2 ポイント低下し、28.5%となっています。津波危険地域（鳥羽市以南）においても、「しばらく様子を見てから避難する」が 3.5 ポイント上昇し、47.9%と増加しており、短期間で津波の到達が想定される県南部沿岸地域においては、大きな課題と言えます。

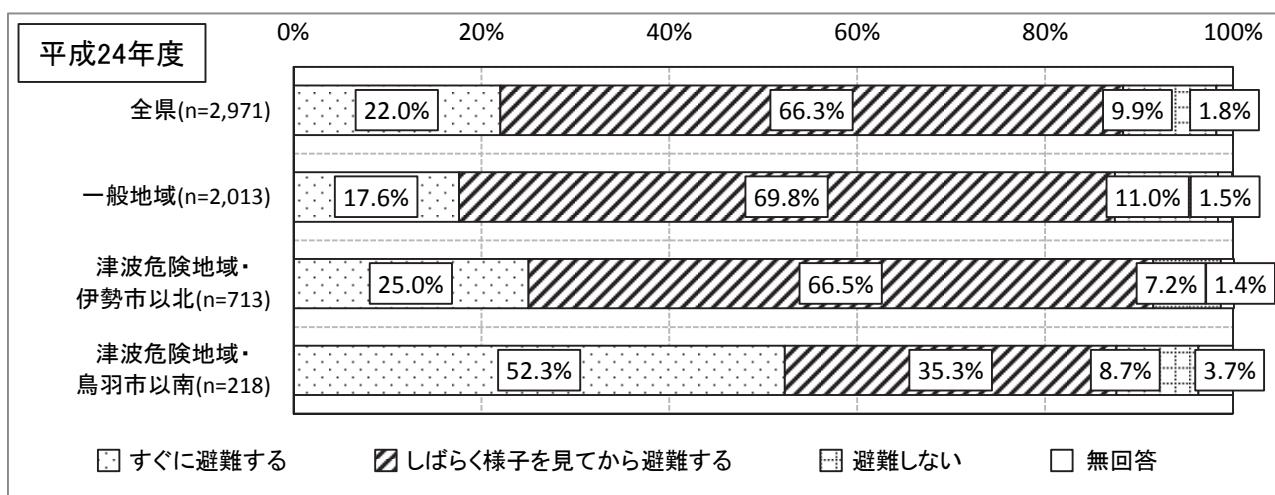
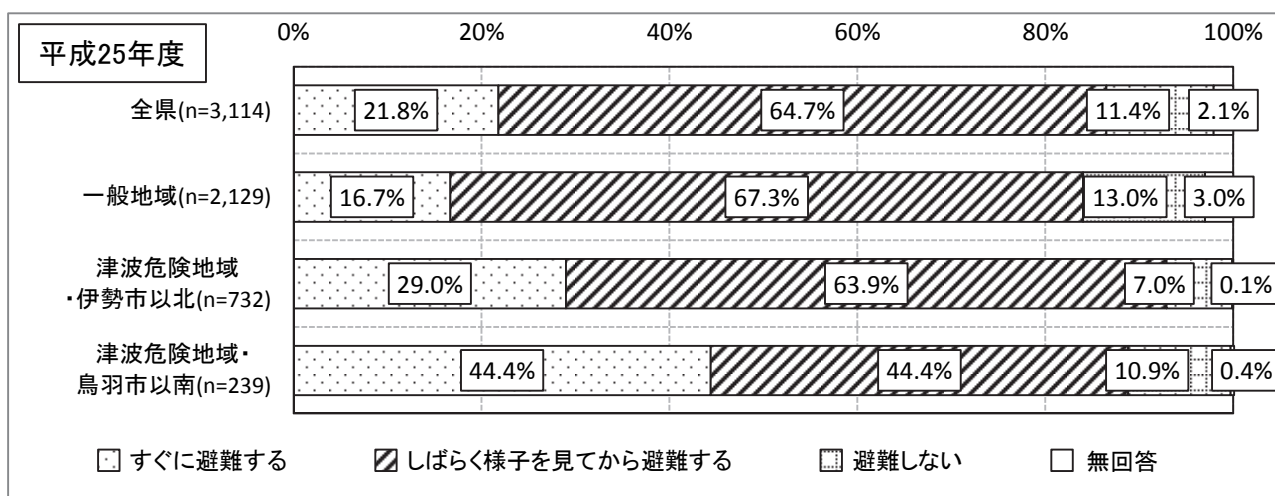
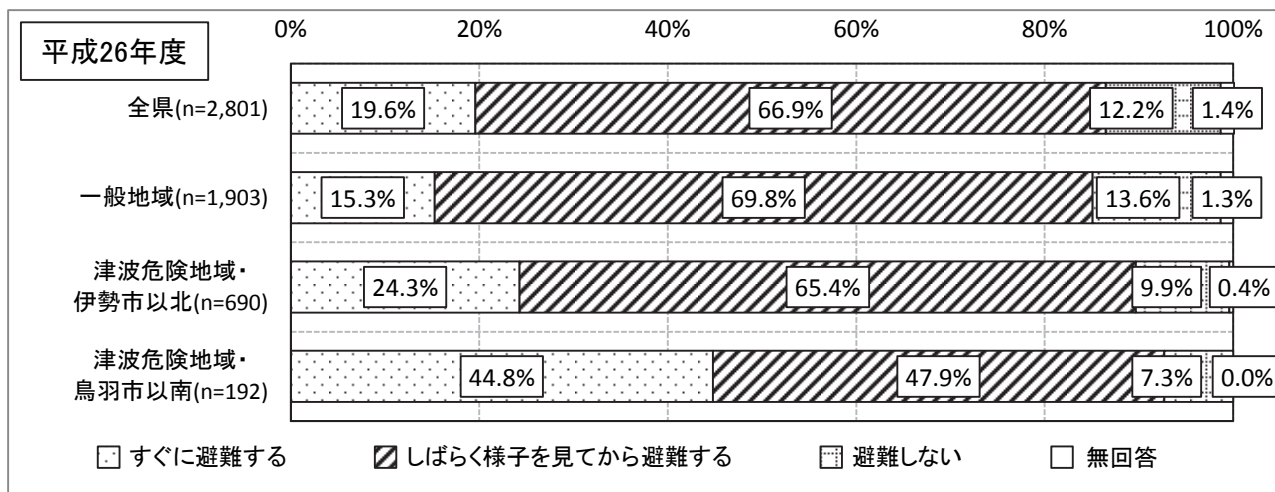
図 3.1.3 (2) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全体及び年代別-



年代別にみると、20歳代で「すぐに避難する」が31.3%と最も高くなりました。

なお、「しばらく様子を見てから避難する」がすべての年代で多くなっていますが、年代別の顕著な違いはみられませんでした。

図 3.1.3 (3) 夜間の大地震に遭遇して避難するか -全県及び地域別経年変化-



今年度の調査結果を過去のデータと比べたところ、ほとんど変化は見られませんが、全県で見ると「すぐに避難する」人が年々、低下する一方、「避難しない」人が増加する傾向にあります。

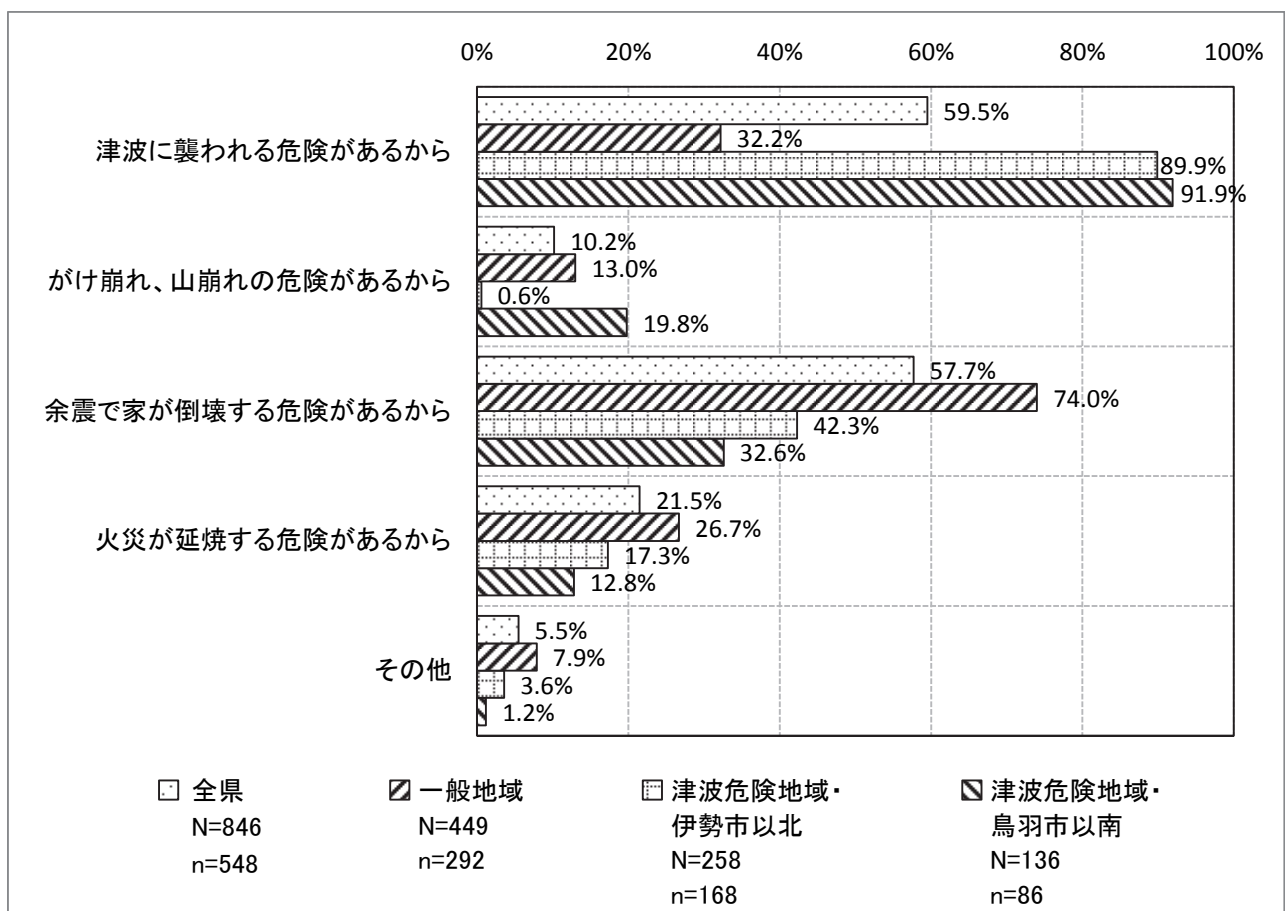
3.1.4 すぐに避難する理由

【問3-1】 問3で「1.すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 火災が延焼する危険があるから
5. その他 具体的に：

調査結果

図3.1.4 すぐに避難する理由 -全県及び地域別- (複数回答)



「すぐに避難する理由」について、全県では「津波に襲われる危険があるから」が最も多く 59.5%、次いで「余震で家が倒壊する危険があるから」が 57.7% となっています。

地域別にみると、一般地域では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 74.0% となっている一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「津波に襲われる危険があるから」が 91.9% と最も多くなっています。

「その他」の理由について、「家は新しいが家具などの転倒の危険があるから」、「近所の人と合流したい。いろいろと協力することが出来るから」、「子供がいるから、子供を守りたい」等の記載がありました。

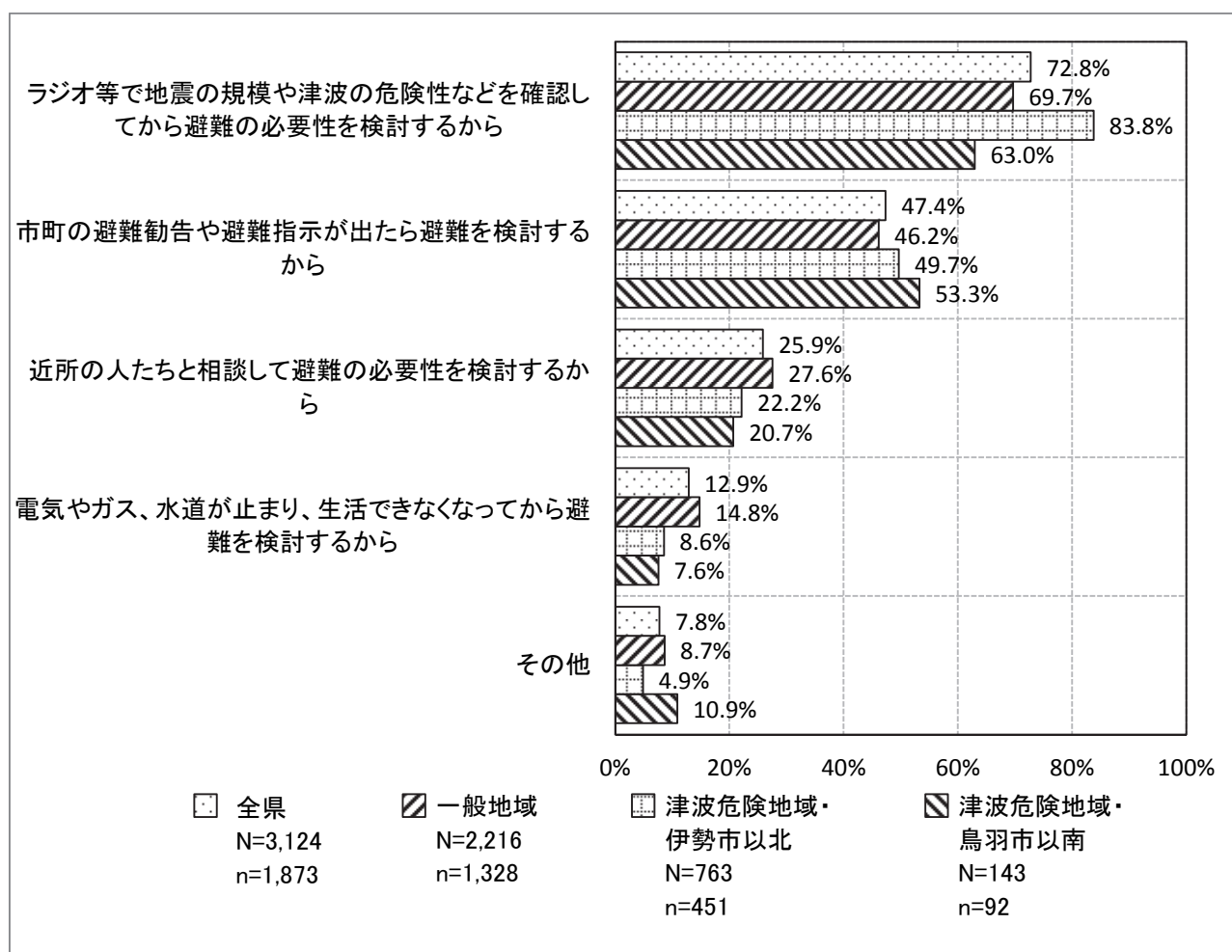
3.1.5 避難を遅らせる理由

【問3-2】 問3で「2.しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。（いくつでも○）

1. ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
5. その他 具体的に：

調査結果

図3.1.5 避難を遅らせる理由 -全県及び地域別-（複数回答）



「避難を遅らせる理由」について、「ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから」が全県で最も多く 72.8%となっており、全ての地域で同様の傾向になっています。次いで「市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから」が多くなっています。

「その他」の理由について、「夜中に急に飛び出しても周りの状況がよくわからないのでかえってあぶない場合があります、しばらく様子を見てから避難する」、「建物倒壊していないなら、慌てない。津波の危険がない地域なので、情報を確認してから行動する」、「余震で外に出るとかえって危険な場合がある」等の記載がありました。

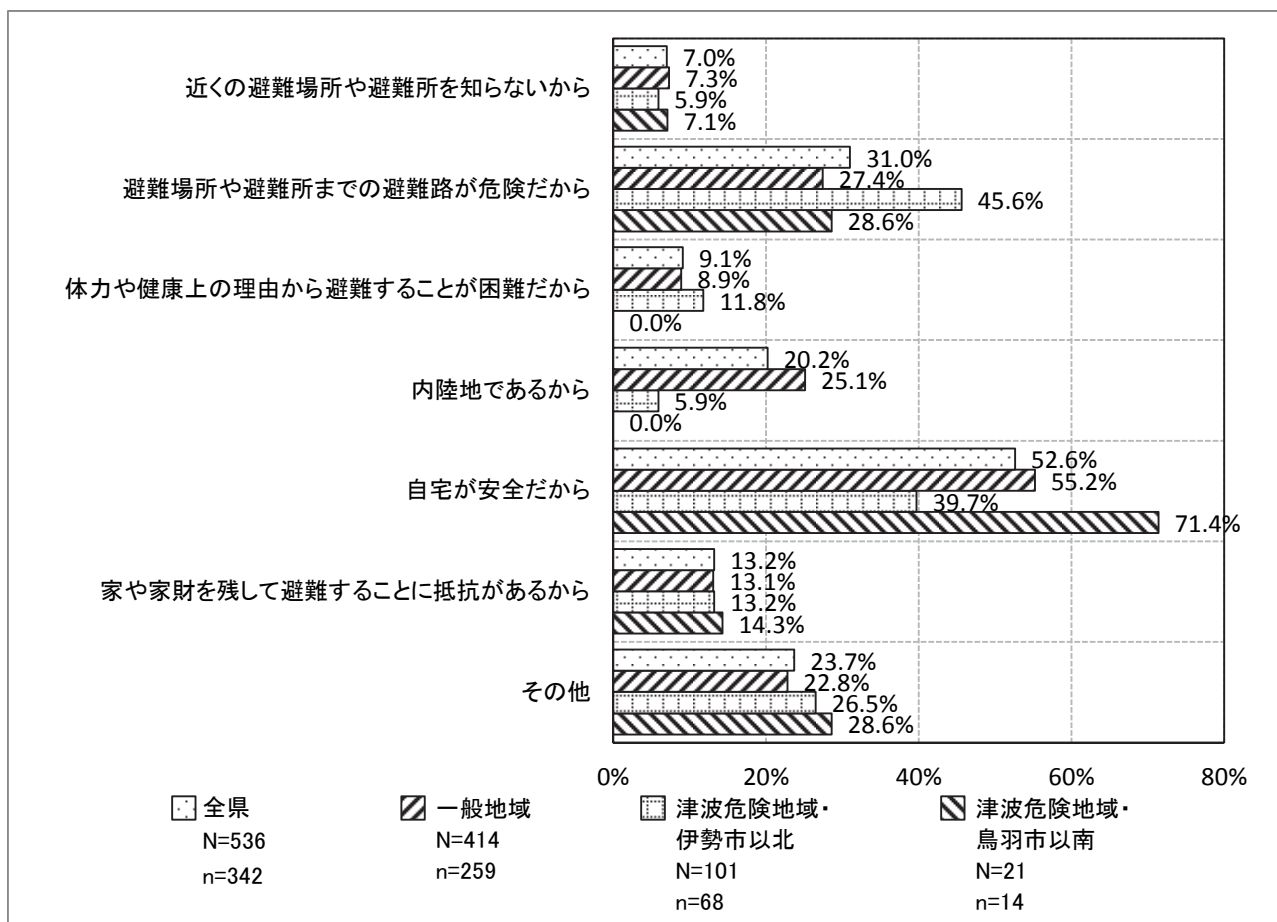
3.1.6 避難しない理由

【問 3-3】 問 3 で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも〇)

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 内陸地であるから
5. 自宅が安全だから
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.6 避難しない理由 -全県及び地域別- (複数回答)



「避難しない理由」について、全県では「自宅が安全だから」が52.6%と最も多くなっています。津波危険地域（鳥羽市以南）では、71.4%の方が「自宅が安全だから」と回答しています。

「その他」の理由について、「避難場所の方が自宅よりも海拔が低いため、津波が心配なため」、「夜中に行動することは危険だから」、「指定避難所が遠い」等の記載がありました。

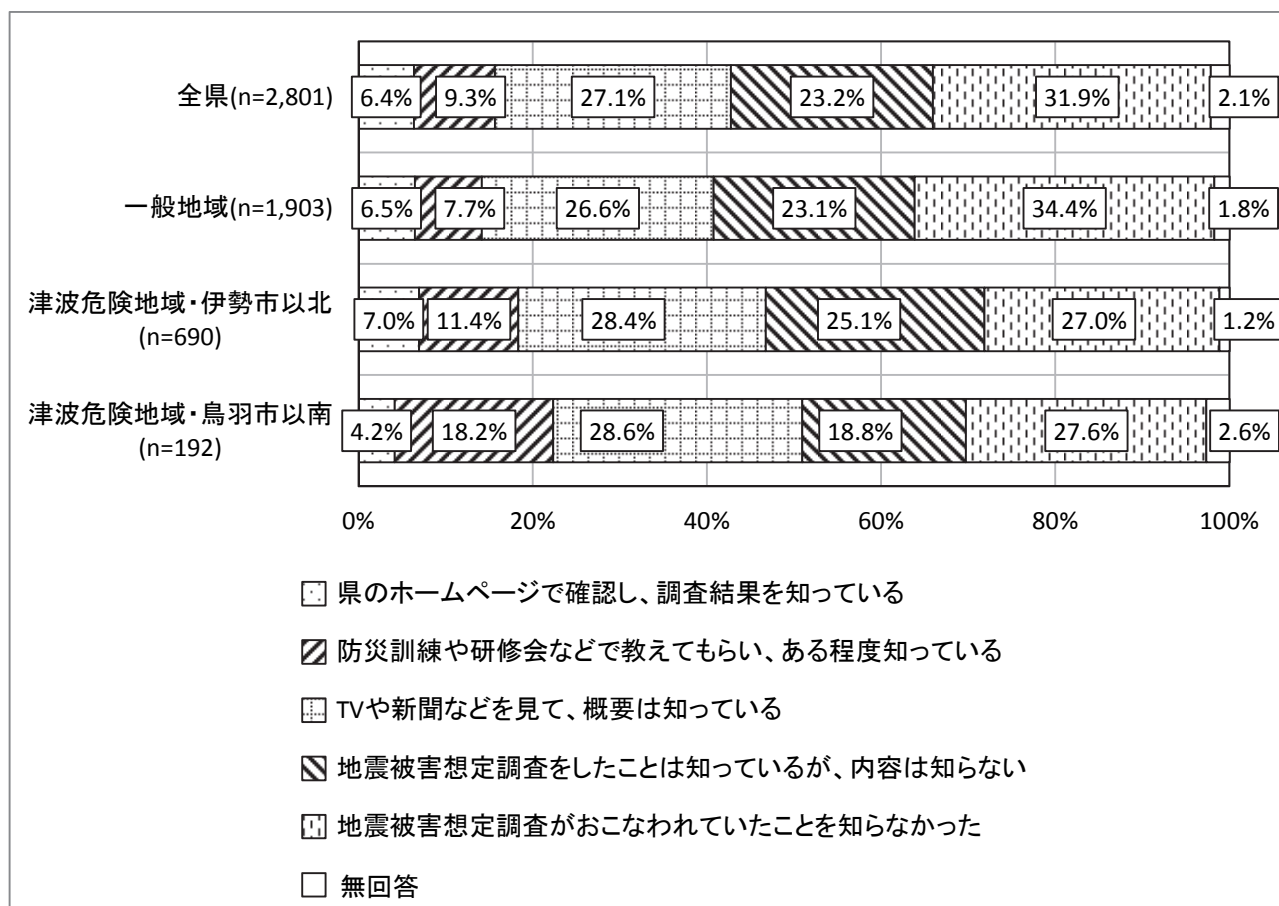
3.1.7 地震被害想定調査結果の認知度

【問 4】 三重県では、平成 26 年 3 月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果を知っていますか。(一つだけ)
○) <新規>

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

調査結果

図 3.1.7 地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



「地震被害想定調査結果の認知度」について、全ての地域において「地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない」と「地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった」を合わせると、約半数の方が調査結果を知らないと回答しています。

3.1.8 浸水深 30cm時間予想図の認知度

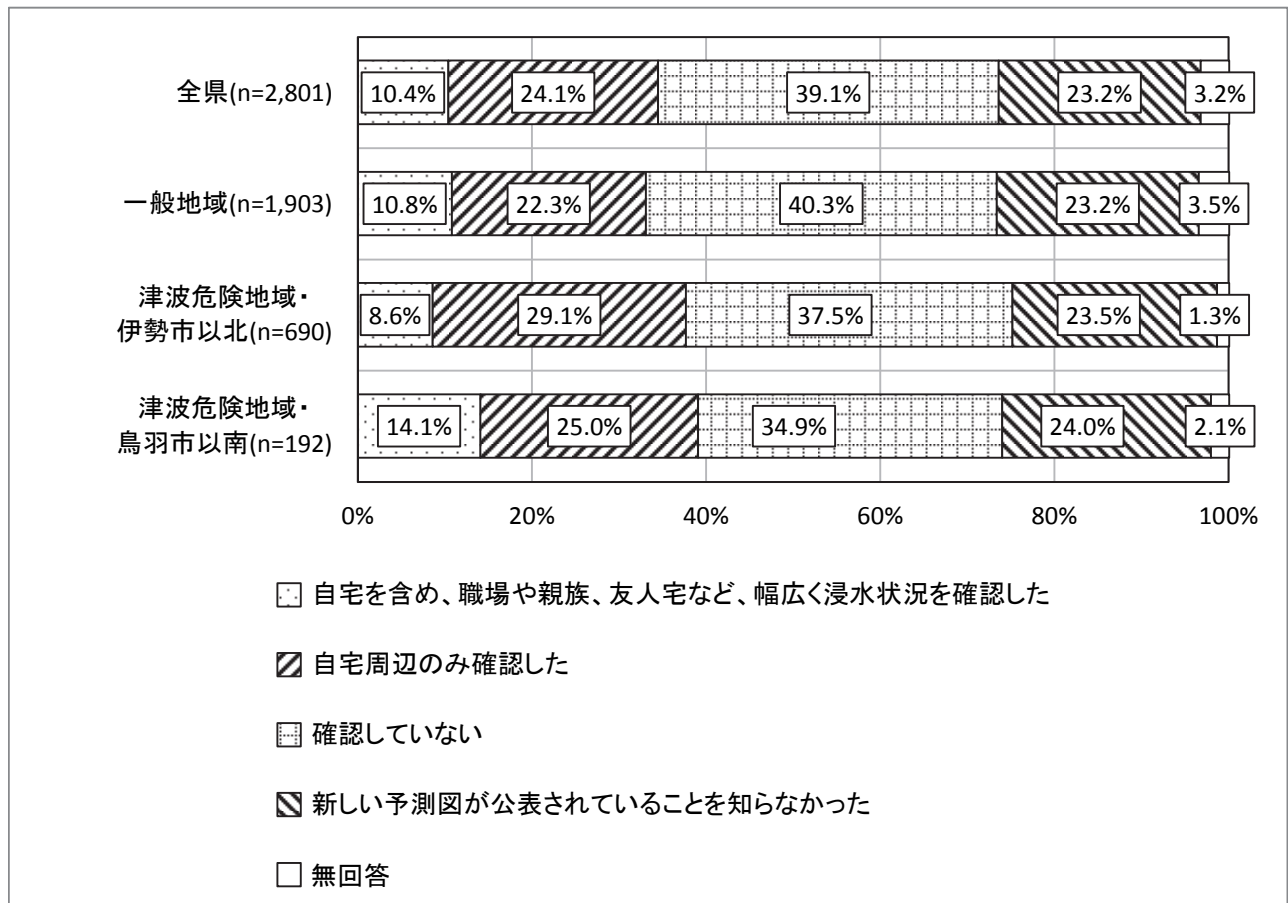
【問5】 問4の三重県地震被害想定調査結果では沿岸地域にある市町について、津波により浸水深30cmに到達するまでの時間予想図（*1）を新たに公表しました。あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家などがどのように浸水するかを確認しましたか。

（一つだけ○）＜新規＞

1. 自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. 新しい予想図が公表されていることを知らなかった

調査結果

図 3.1.8 浸水深 30cm時間予想図の認知度 -全県及び地域別



「浸水深 30cm時間予想図の認知度」について、全県では「自宅周辺のみ確認した」、「自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した」と約3人に1人が確認されています。

また、全ての地域において、約4人に1人が「新しい予想図が公表されていることを知らなかった」と回答されています。

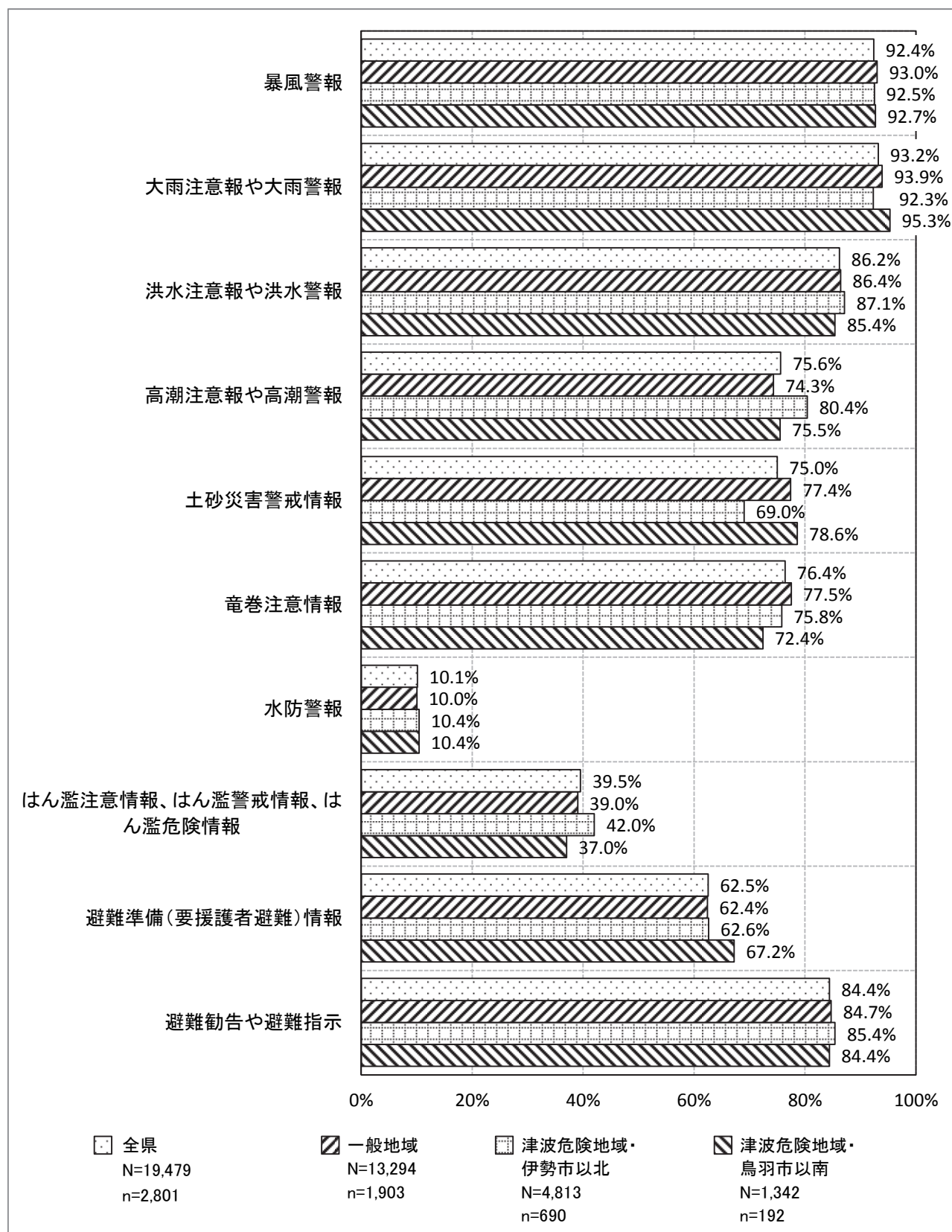
3.2 風水害対策について

3.2.1 防災情報の認知度

【問 6】 水害や土砂災害等の風水害が発生する危険性が高くなったときに出る防災情報のうち、あなたが既にご存知の情報はありますか。(いくつでも○)

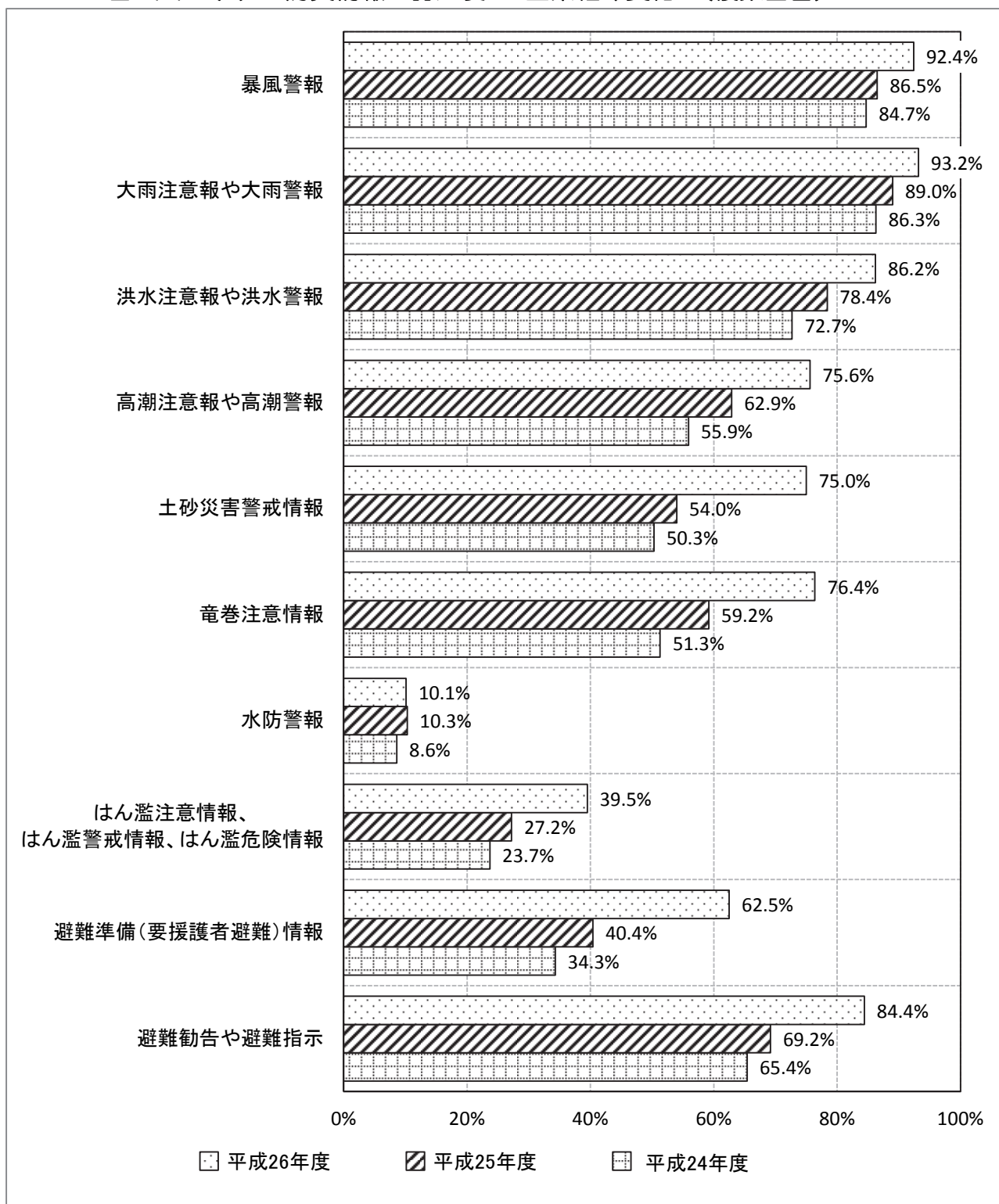
1. 暴風警報
2. 大雨注意報や大雨警報
3. 洪水注意報や洪水警報
4. 高潮注意報や高潮警報
5. 土砂災害警戒情報
6. 竜巻注意情報
7. 水防警報
8. はん濫注意情報、はん濫警戒情報、はん濫危険情報
9. 避難準備（要援護者避難）情報
10. 避難勧告や避難指示

図 3.2.1 (1) 防災情報の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



「防災情報の認知度」を情報カテゴリで比較すると、「暴風警報」と「大雨注意報や大雨警報」の認知度がいずれの地域でも高く、9割を超える回答を得ています。次いで「洪水注意報や洪水警報」、「避難勧告や避難指示」が8割を超える結果となりました。

図 3.2.1 (2) 防災情報の認知度 -全県経年変化- (複数回答)



「防災情報の認知度」の経年変化を見ると、国（気象庁）が発表する気象情報や地方公共団体が発表する防災情報の認知度が年々、増加しています。

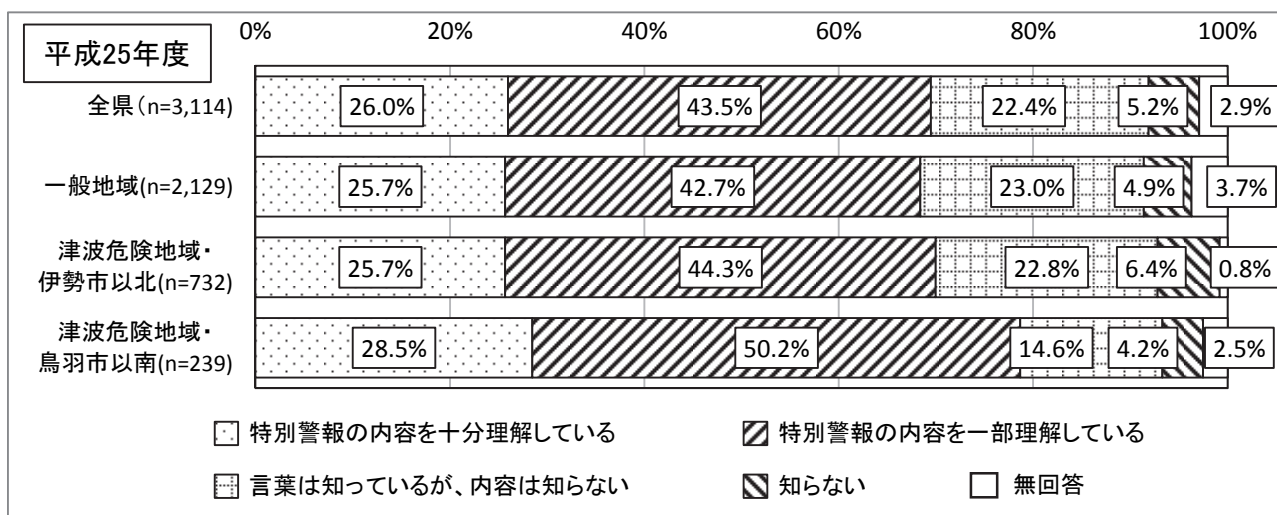
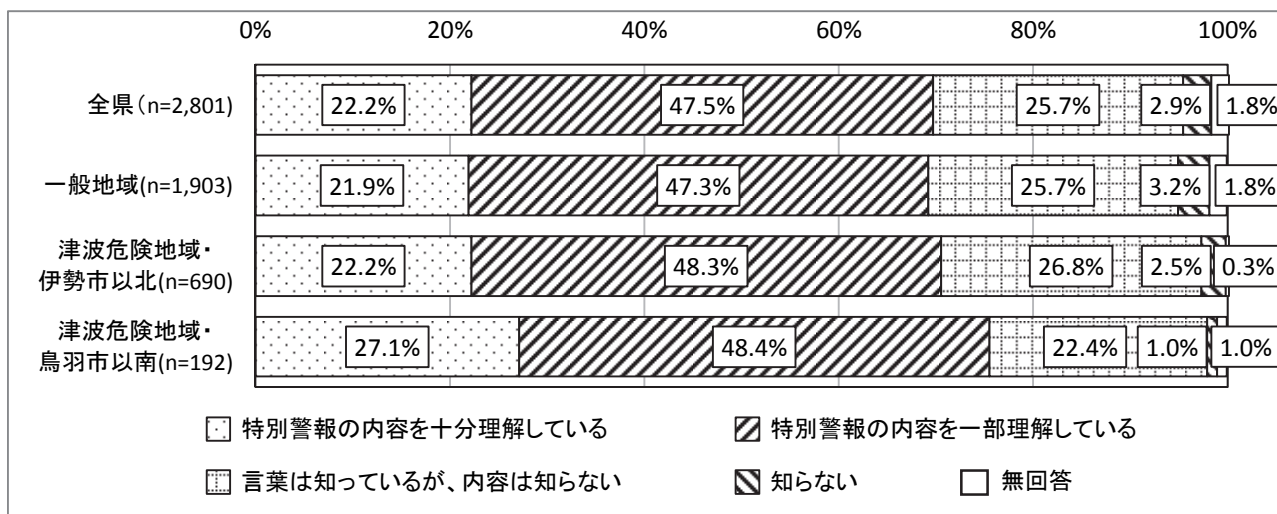
3.2.2 特別警報の理解度

【問 6-1】 気象庁はこれまでの大雨、地震、高潮、津波などの警報に加え、平成 25 年 8 月 30 日から、これらの警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けることになりました。あなたは、この特別警報について、どの程度ご存知ですか。（一つだけ〇）

1. 特別警報の内容を十分理解している
2. 特別警報の内容を一部理解している
3. 言葉は知っているが、内容は知らない
4. 知らない

調査結果

図 3.2.2 特別警報の理解度 -全県及び地域別-



「特別警報の理解度」について、全県では「特別警報の内容を十分理解している」人が 22.2%、「特別警報の内容を一部理解している」人が 47.5%と、約 7 割の方が内容を理解されている一方、「言葉は知っているが、内容は知らない」や特別警報そのものを「知らない」と約 3 割の方が回答しています。

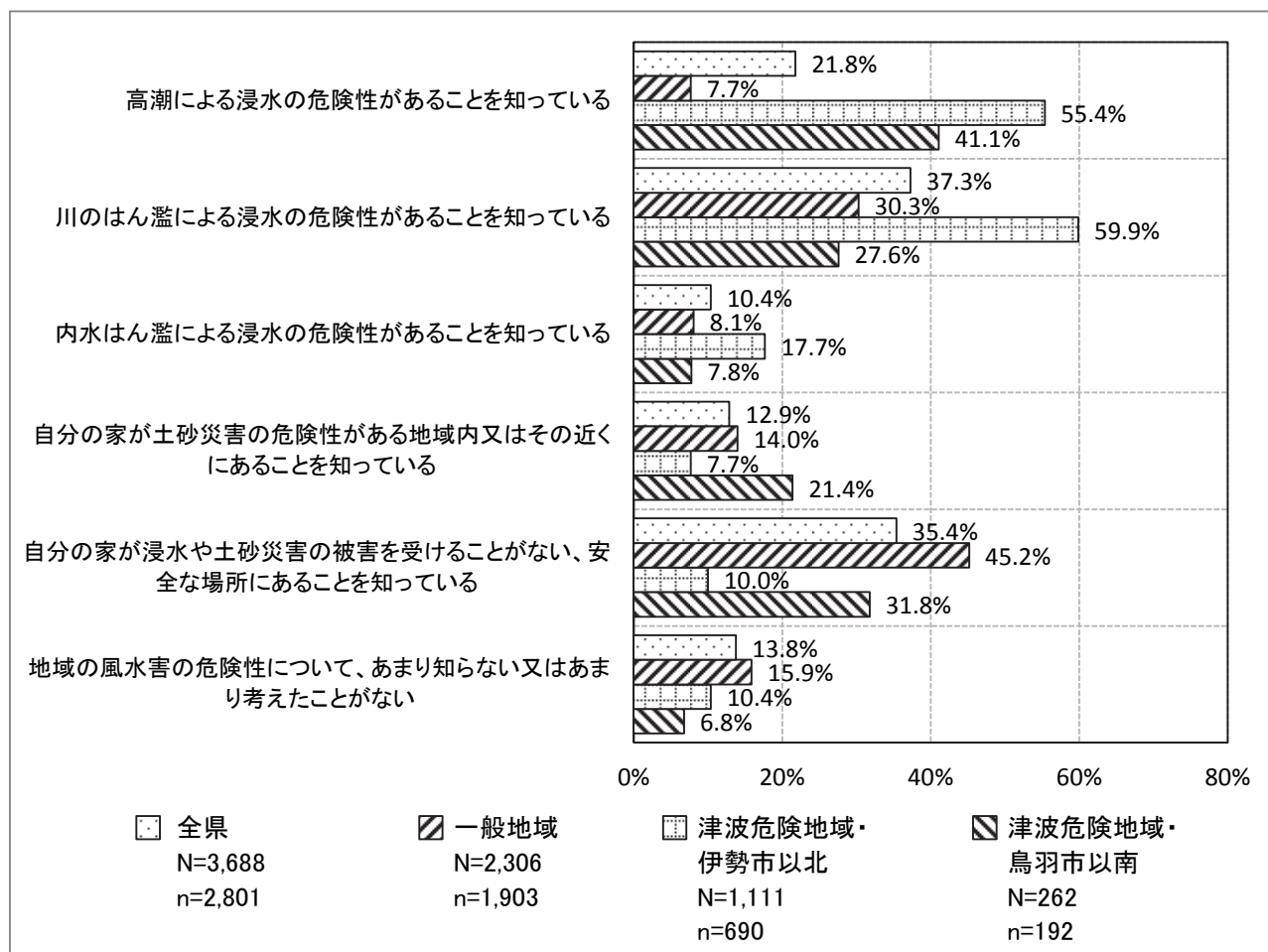
3.2.3 風水害による危険性の認知度

【問 7】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性についてどの程度知っていますか。（いくつでも○）

1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている
 2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている
 3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている
 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている
 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない
- 問 7-1 へ
- 問 7-1 へ
- 問 8 へ
- 問 8 へ

調査結果

図 3.2.3 風水害による危険性の認知度 -全県及び地域別-（複数回答）



「風水害による危険性の認知度」について、特に津波危険地域（伊勢市以北）、すなわち、県北部の沿岸地域において、危険性が高く認識されています。

全県では、「地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えたことがない」と13.8%の方が回答しています。

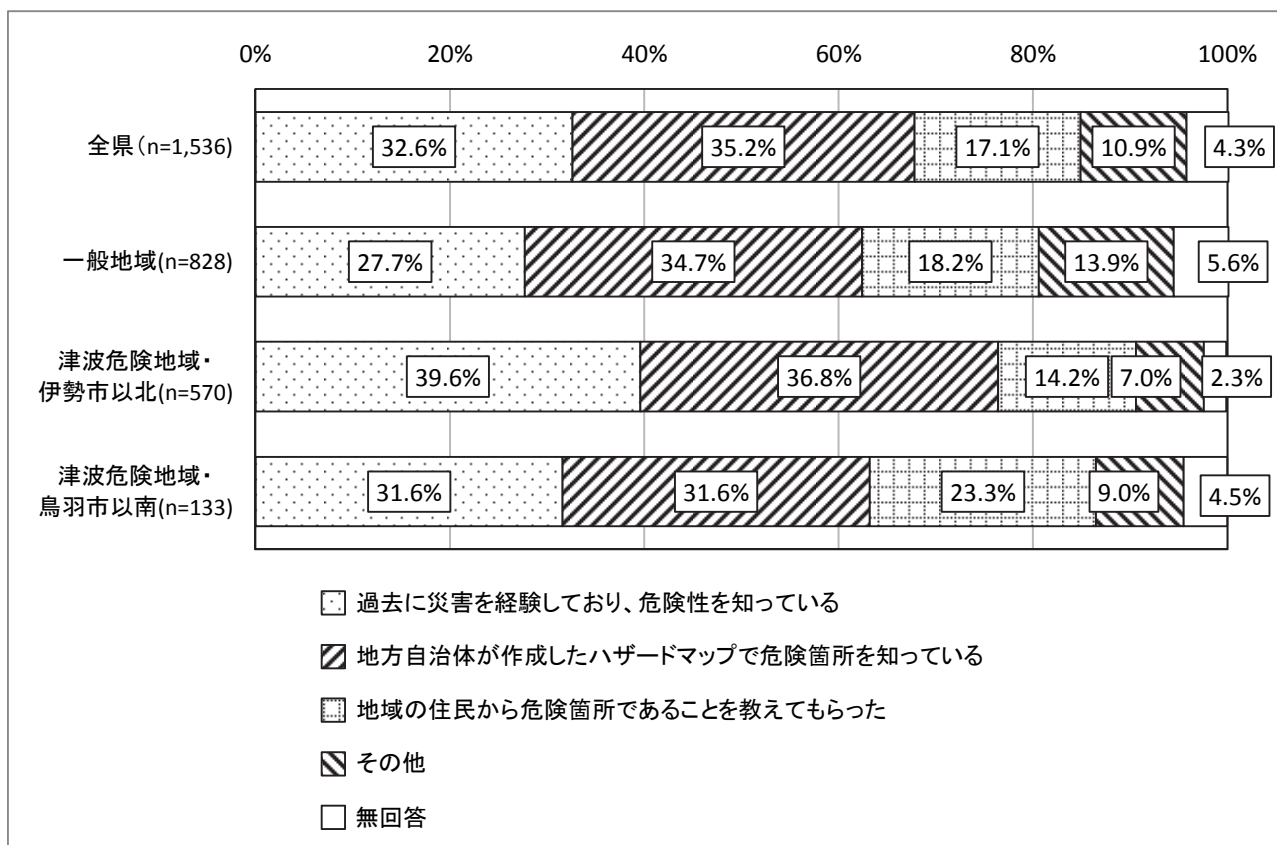
3.2.4 風水害の危険性の情報入手先

【問 7-1】 問7で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(一つだけ〇) <新規>

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 地方自治体が作成したハザードマップで危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらった
4. その他 具体的に：

調査結果

図 3.2.4 風水害の危険性の情報入手先 - 全県及び地域別 -



「風水害の危険性の情報入手先」については、全県では、「地方自治体が作成したハザードマップで危険箇所を知っている」が35.2%と最も多くなっています。次いで「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が32.6%となっています。

津波危険地域（伊勢市以北）については、「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が39.6%と他の地域に比べ高くなっています。

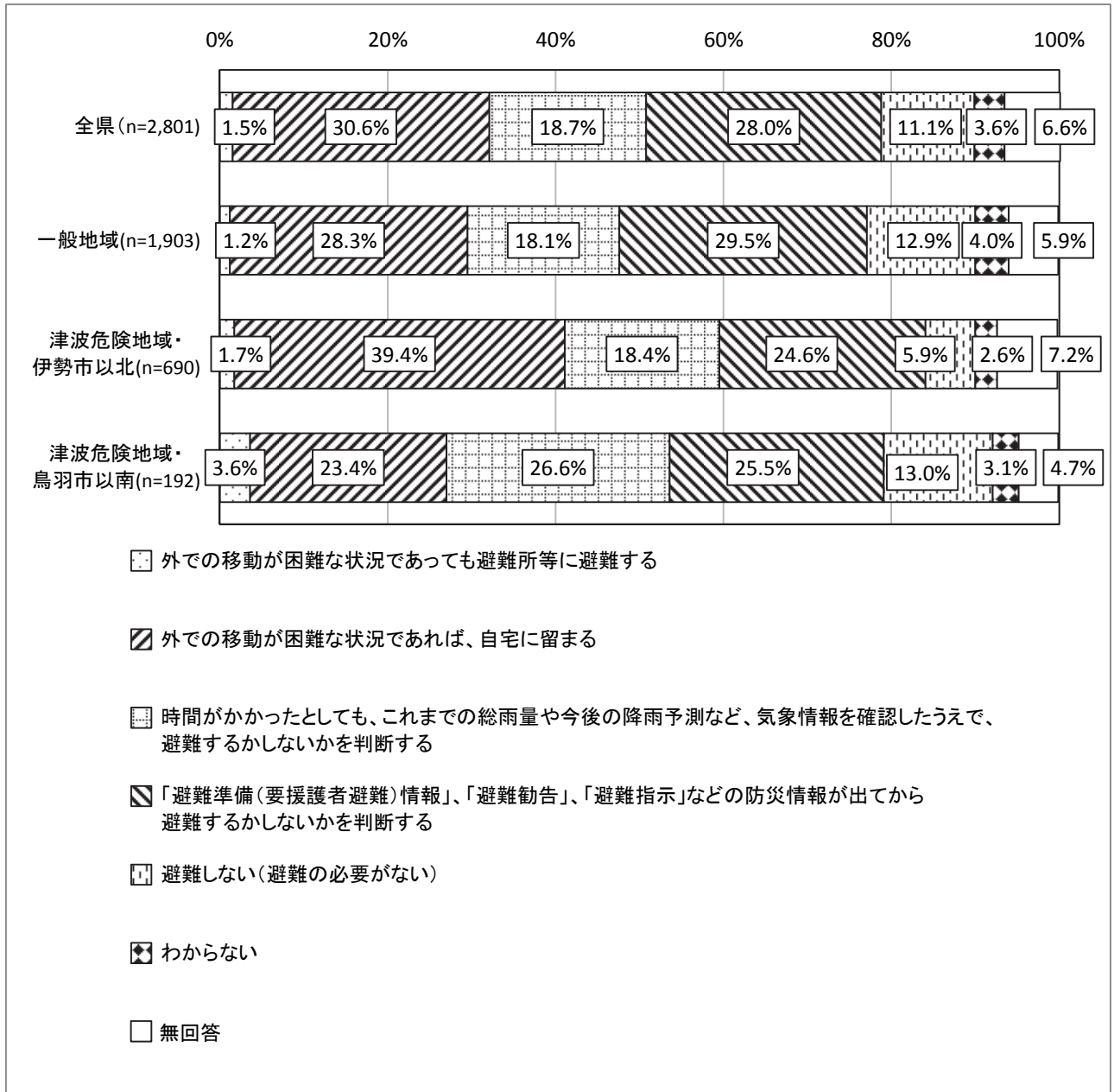
3.2.5 局地的な大雨等からの避難

【問 8】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降りだし、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どの段階で避難しますか。

(一つだけ○) <新規>

1. 外での移動が困難な状況であっても避難所等に避難する
2. 外での移動が困難な状況であれば、自宅に留まる
3. 時間がかかったとしても、これまでの総雨量や今後の降雨予測など、気象情報を確認したうえで、避難するかしないかを判断する
4. 「避難準備（要援護者避難）情報」、「避難勧告」、「避難指示」などの防災情報が出てから避難するかしないかを判断する
5. 避難しない（避難の必要がない）
6. わからない

図 3.2.5 局地的な大雨等からの避難 - 全県及び地域別 -



「局地的な大雨等からの避難」について、28.0%の方が「避難準備（要援護者支援）情報」、「避難勧告」、「避難指示」などの防災情報が出てから避難する又は避難しない判断すると回答されています。

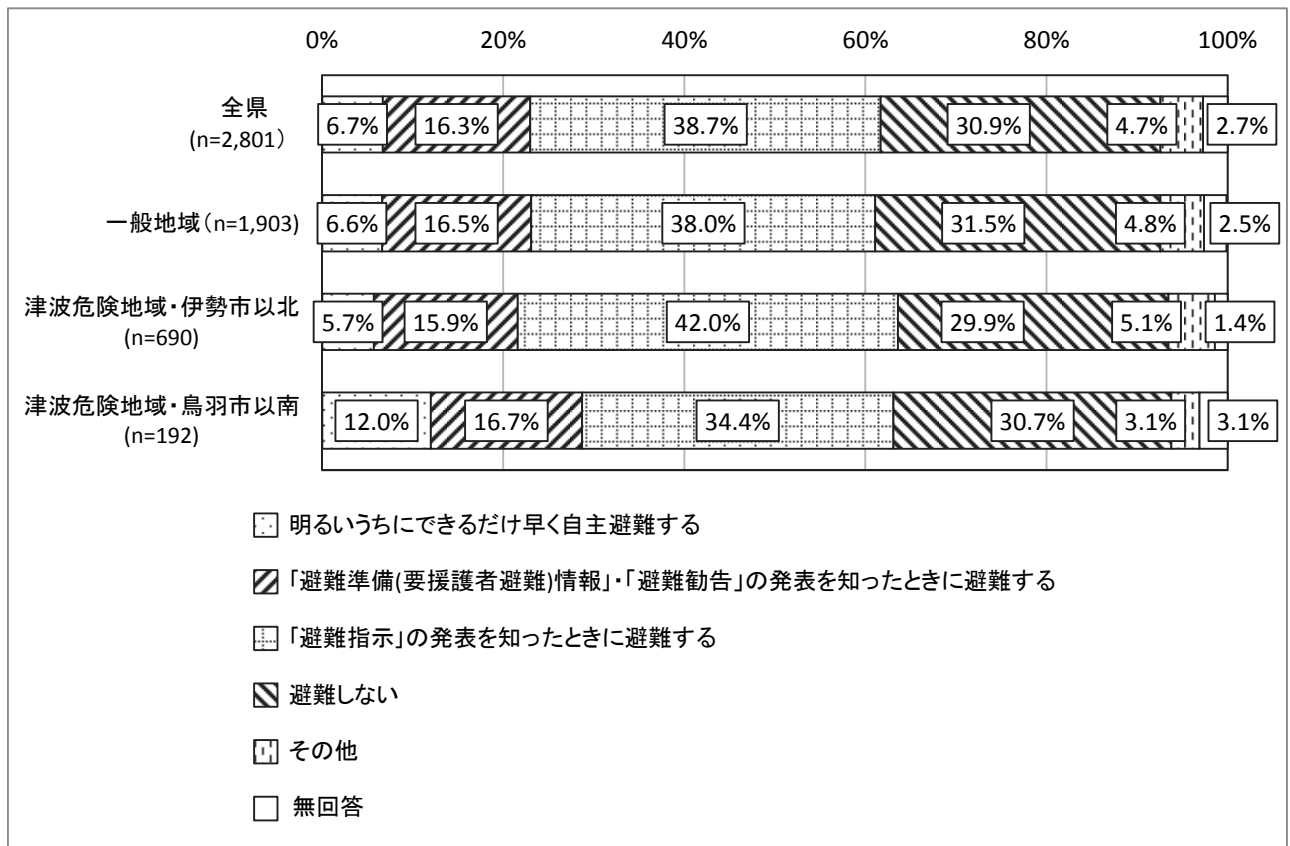
3.2.6 台風時等の避難行動

【問 9】 あなたは、お住まいの地域に相当規模の台風の接近が気象情報等で予測されているとき、次のどの段階で避難しますか。（一つだけ○）

1. 明るいうちにできるだけ早く自主避難する →問 10 へ
2. 「避難準備（要援護者避難）情報」・「避難勧告」の発表を知ったときに避難する →問 10 へ
3. 「避難指示」の発表を知ったときに避難する →問 10 へ
4. 避難しない →問 9-1 へ
5. その他 具体的に： →問 10 へ

調査結果

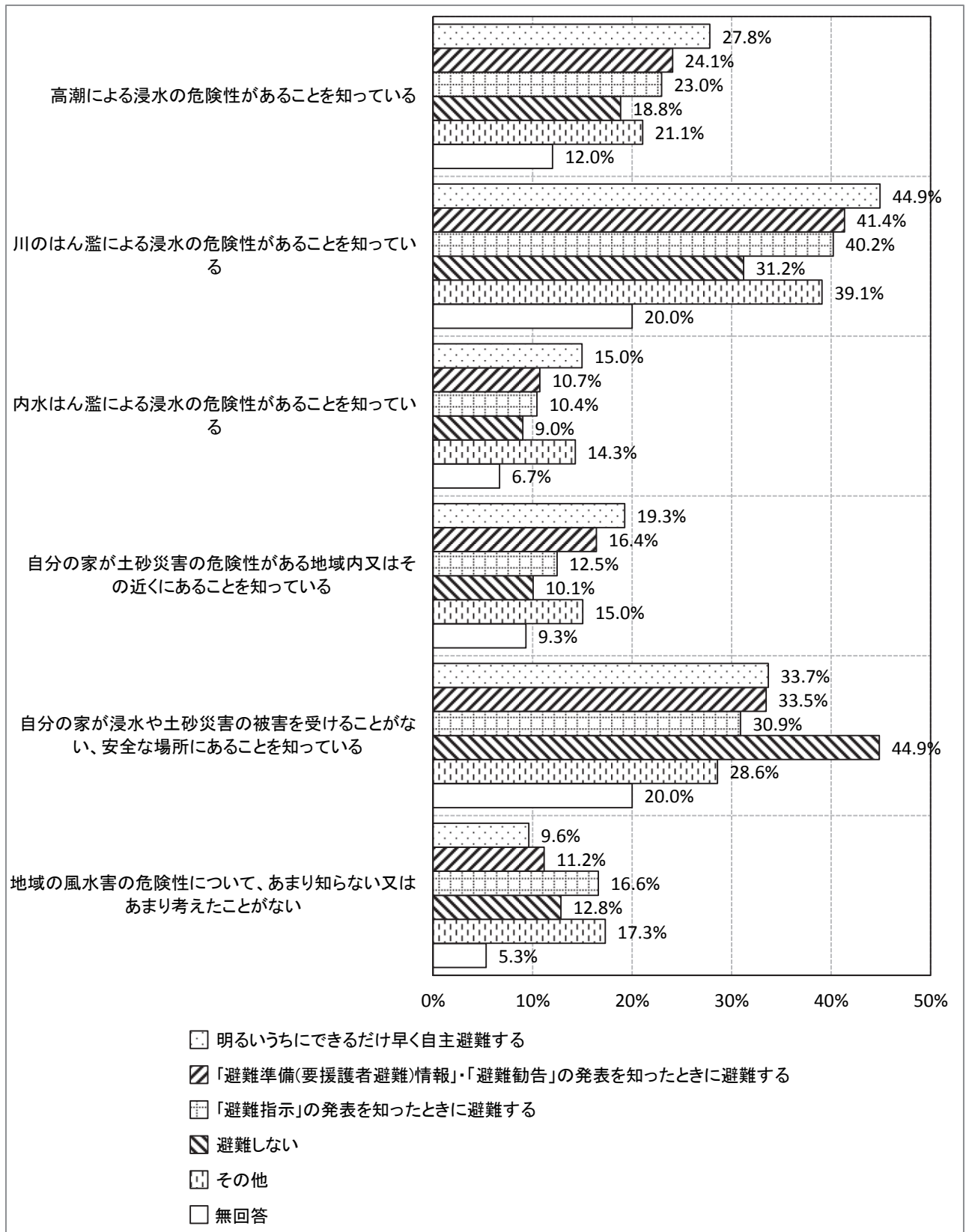
図 3.2.6 (1) 台風時等の避難行動 -全県及び地域別-



「台風時等の避難行動」については、「避難指示」の発表を知ったときに避難する」が全ての地域で最も多くなっています。

「その他」の避難する意見について、「家族や近所の人と相談して避難するか考える」、「自宅周辺の様子と情報を合わせて検討する」、「様子を見て安全に避難が可能ならする、又は自宅にいると危険と判断した時点で避難する」等の記載がありました。

図 3.2.6 (2) 台風時等の避難行動
-問7 (風水害の危険性の認知度) とのクロス集計-



「台風時等の避難行動」を問7 (風水害による危険性の認知度) とのクロス集計でみると、台風の接近が予測されている状況で、お住まいの地域が「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」方のうち、半数近くの方が「明るいうちにできるだけ早く自主避難する」と答えています。

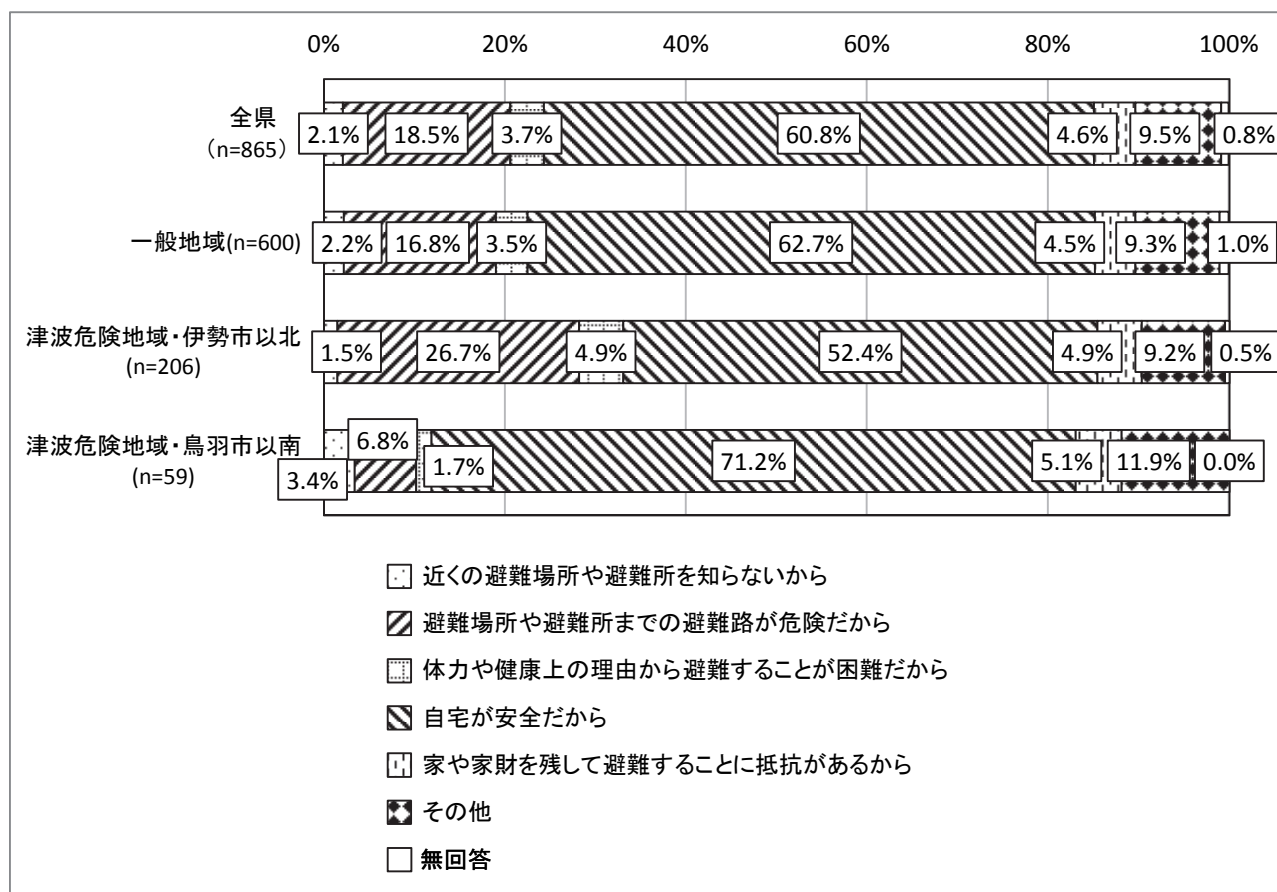
3.2.7 台風時等に避難しない理由

【問 9-1】 問 9 で、「4.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。（一つだけ〇）

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 自宅が安全だから
5. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
6. その他 具体的に：

調査結果

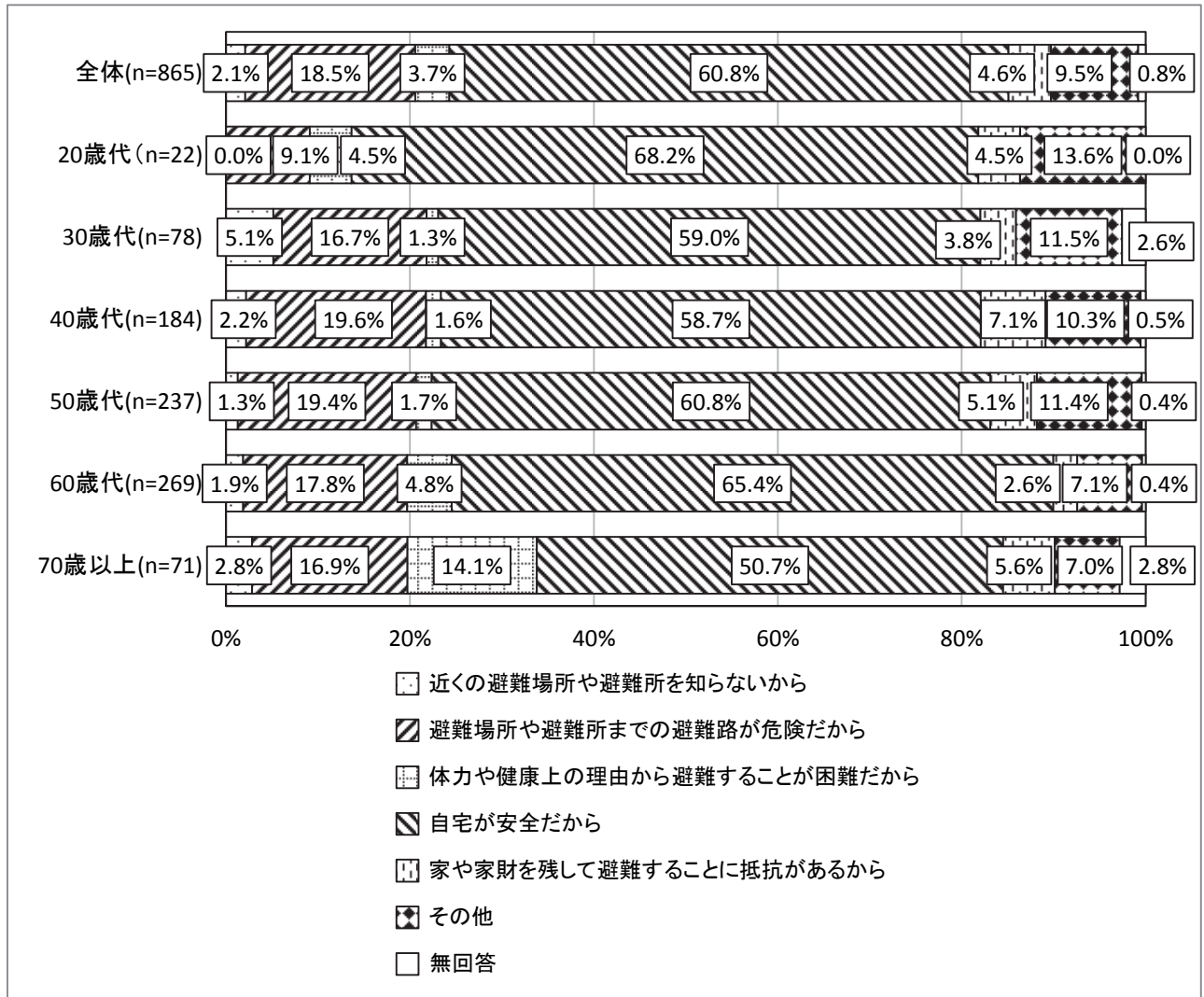
図 3.2.7 (1) 台風時等に避難しない理由 -全県及び地域別-



「台風時等に避難しない理由」については、「自宅が安全だから」が全ての地域で最も多くなっています。

「その他」の理由として、「避難しなければいけないほどの台風を経験したことがないのでわからない」、「ペットを飼っているので避難したとしても避難所へ行けないので自宅に留まる」などの記載がありました。

図 3.2.7 (2) 台風時等に避難しない理由 -全体及び年代別-



「台風時等に避難しない理由」について年代別にみると、「自宅が安全だから」が全ての年代で最も多くなっています。

なお、70歳以上で、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」が他の年代と比較して多くなっています。

3.3 防災全般について

3.3.1 家庭での防災対策の状況

【問 10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出さないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 3.3.1 (1) ① 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)

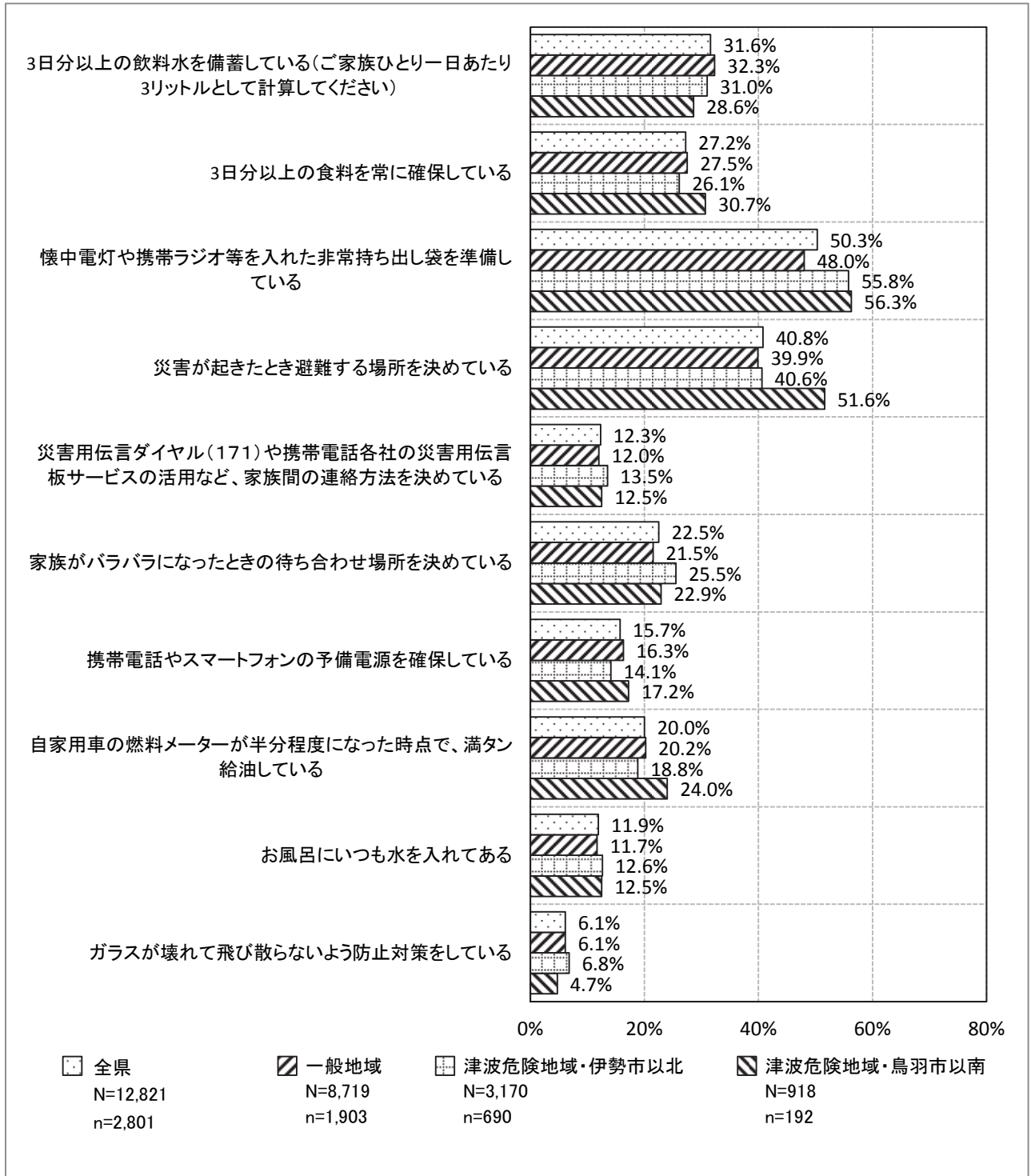
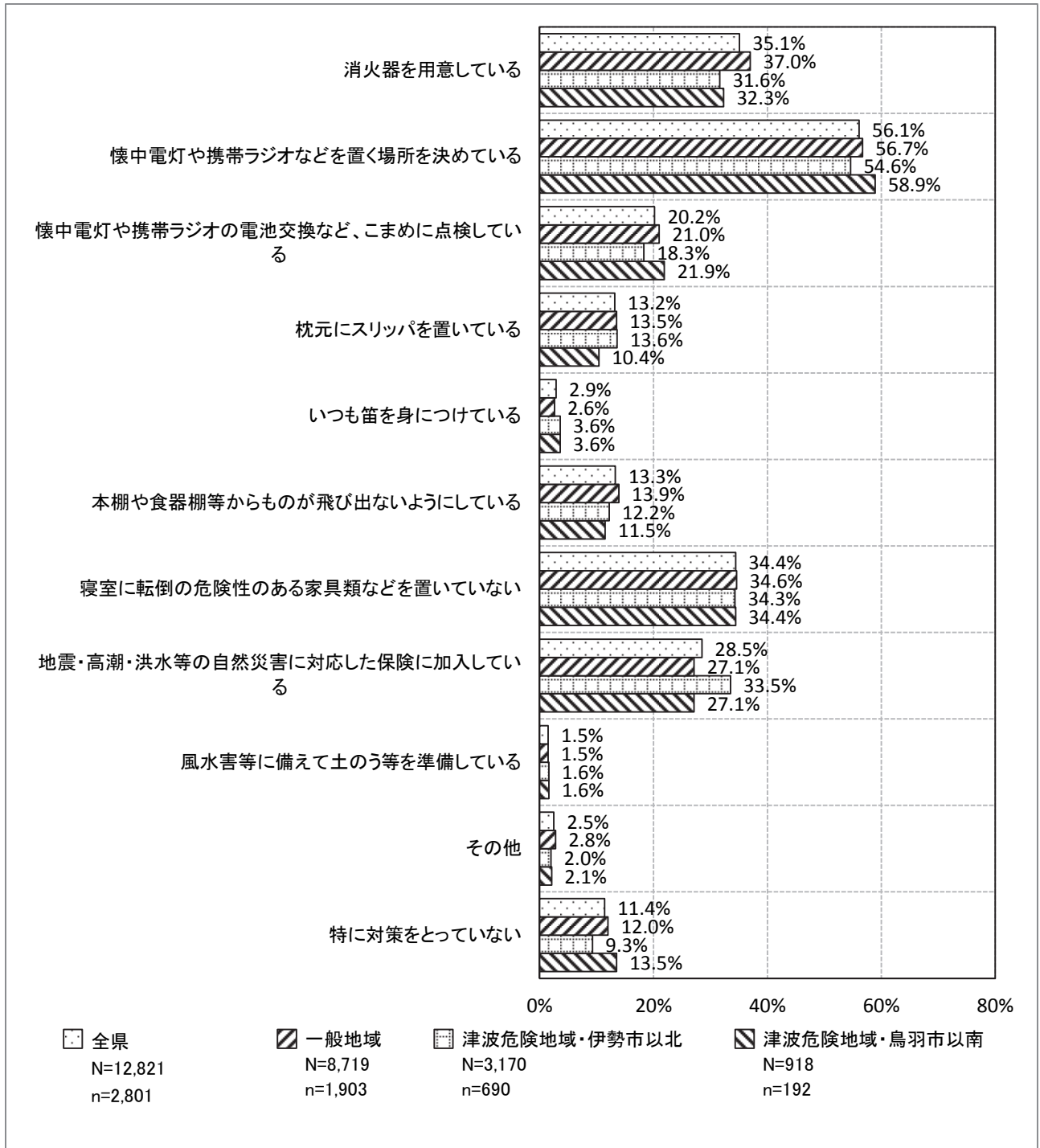


図 3.3.1 (1) ② 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)



「家庭での防災対策の状況」について、全ての地域において「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が多くなっています。

家庭における3日以上の飲料水の確保は約30%程度、同じく3日以上の食料の確保は約25%程度にとどまっています。なお、津波危険地域(鳥羽市以南)では、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」が51.6%と他の地域を大きく上回っています。

「その他」の防災対策について、「停電でも使える様に、灯油のストーブを準備している。キャンプ用品は役立つのでカセットコンロをセットで置いている。転倒防止のくさりや器具を家具に固定している」、「子どものライフジャケットを準備している」、「火が使えないことを考え、缶詰(カンパン、クッキー、ドライビスケット)やヘルメットを5人分用意している。懐中電灯もヘッドライトで5人分(阪神淡路大震災被災者の友人からのアドバイス)用意している」などの記載がありました。

図 3.3.1 (2) ① 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)

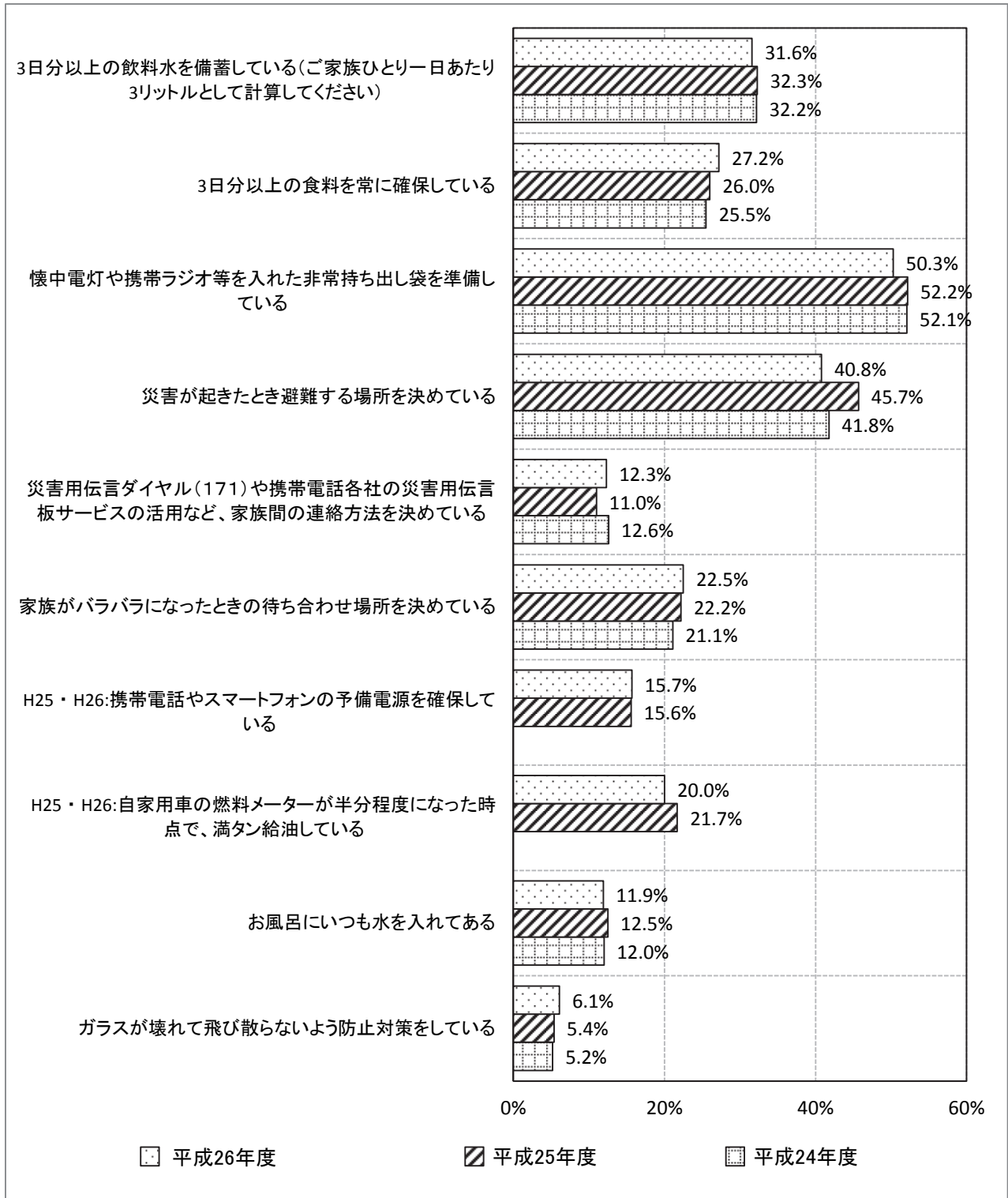
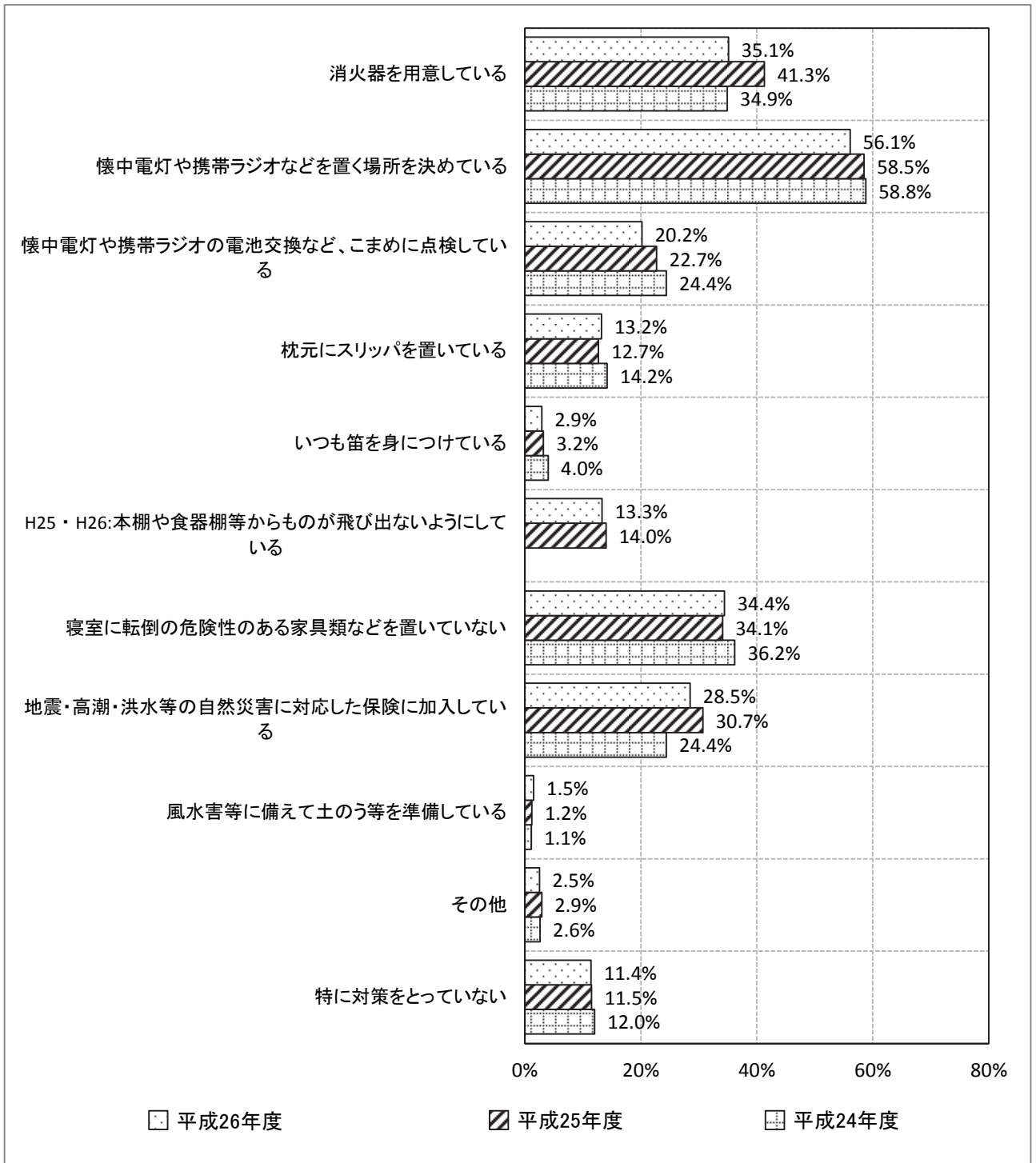


図 3.3.1 (2) ② 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)



「家庭での防災対策の状況」について、経年変化を取っても全般として顕著な変化はありません。

3.3.2 家具類の固定状況

【問 11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。
(一つだけ〇)

1. 大部分固定している →問 12 へ

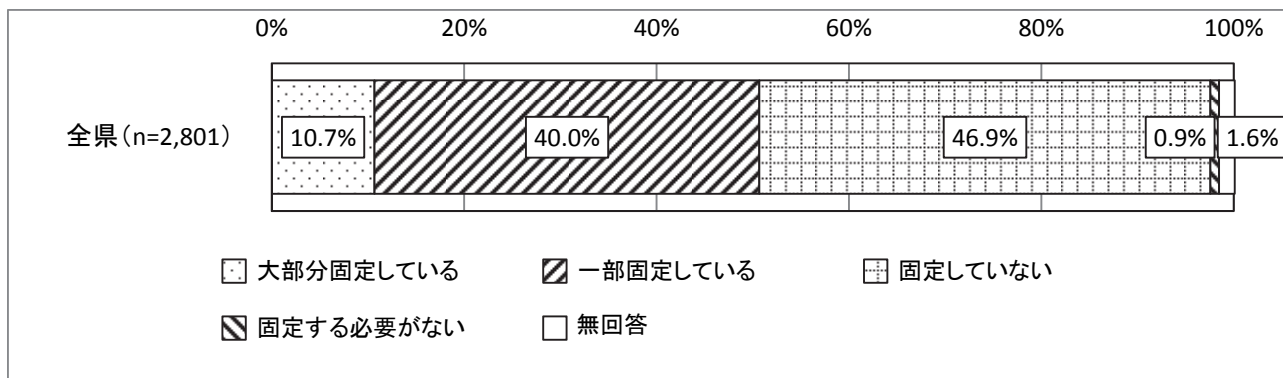
2. 一部固定している } →問 11-1 へ

3. 固定していない }

4. 固定する必要がない }

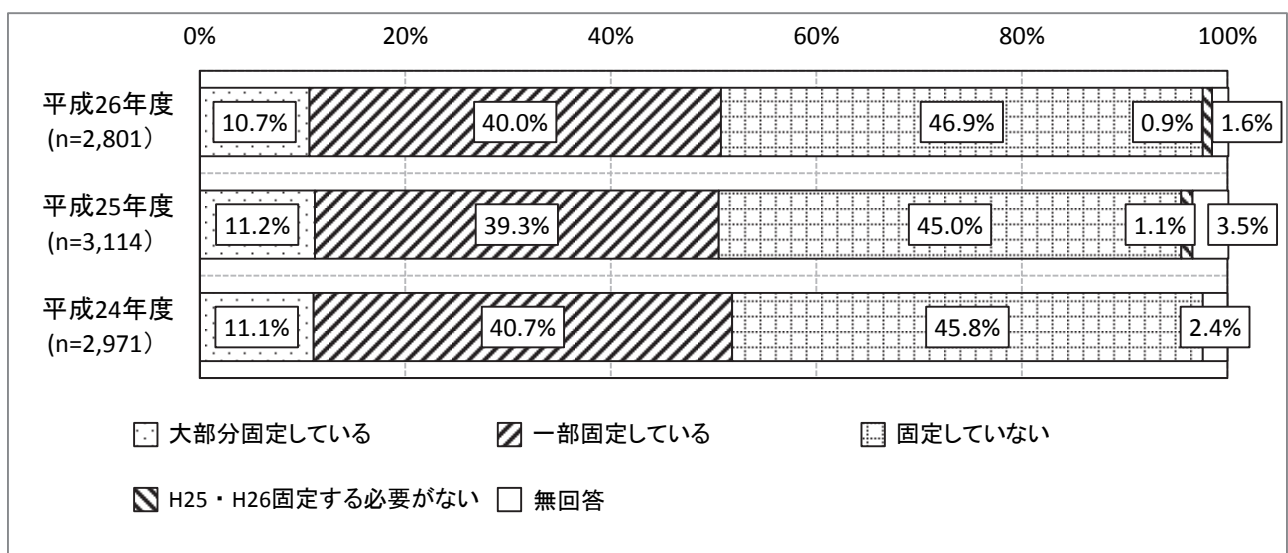
調査結果

図 3.3.2 (1) 家具類の固定状況 -全県-



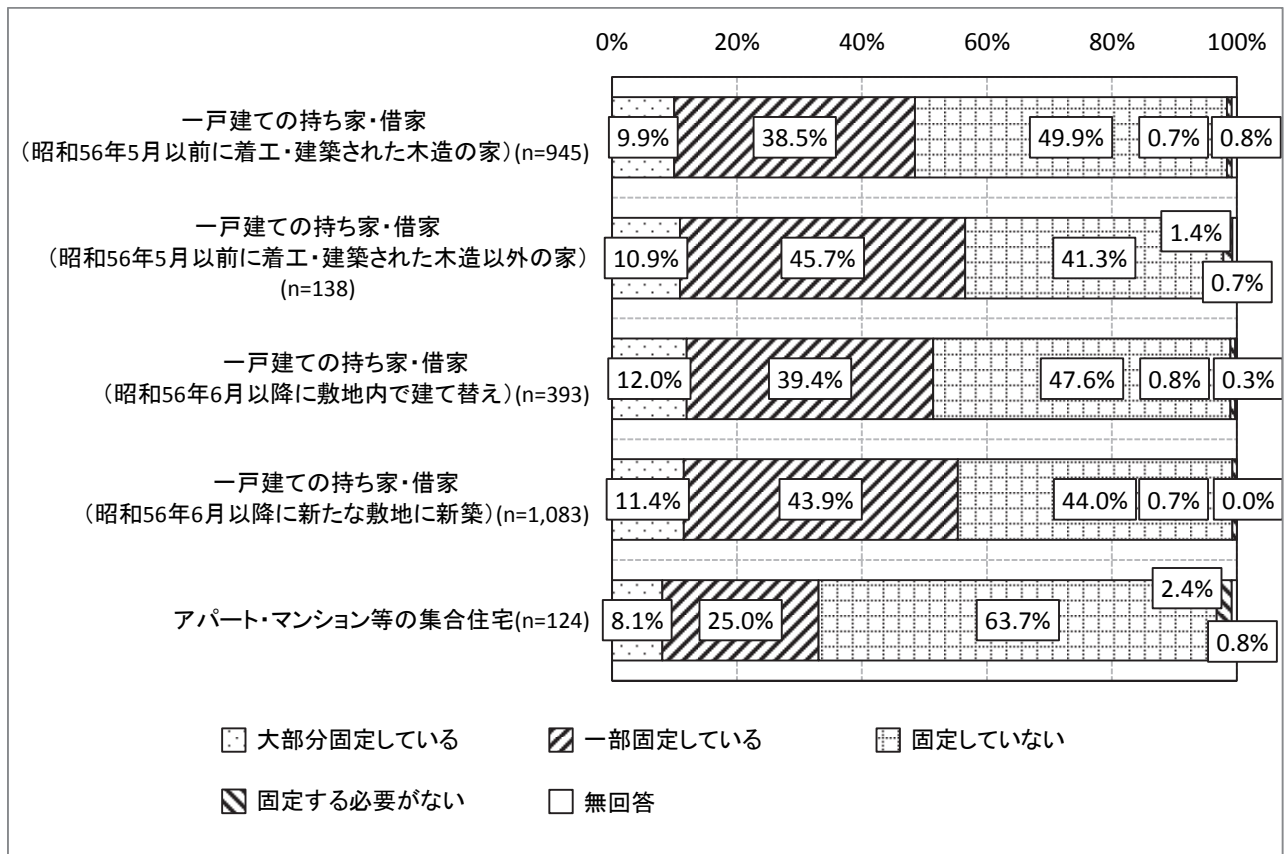
「家具類の固定状況」について、「固定していない」が46.9%と最も多く、次いで「一部固定している」は40.0%、「大部分固定している」は10.7%となっており、約半数近くの家庭において家具が固定されていない状況です。

図 3.3.2 (2) 家具類の固定状況 -全県経年変化-



「家具類の固定状況」について、経年変化からも家庭における家具類の固定が進んでいない現状が明らかになっています。

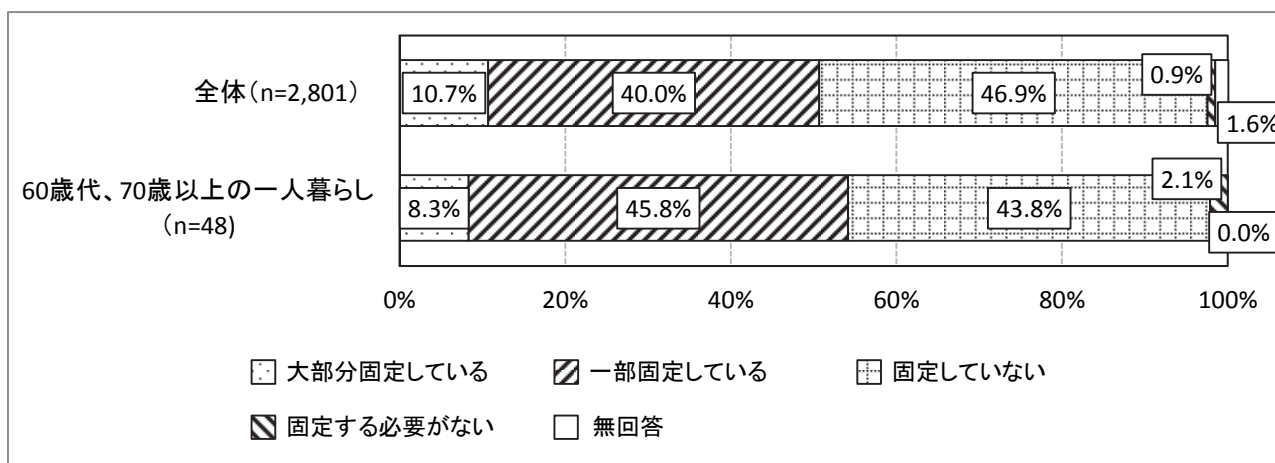
図 3.3.2 (3) 家具類の固定状況
-問 30 (住まいの状況) とのクロス集計-



「家具類の固定状況」を問 30 (住まいの状況) とのクロス集計でみると、一戸建てについては建築年度等での大きな違いは見られず、45%前後の家庭が「固定していない」、40%前後の家庭が「一部固定している」となっています。

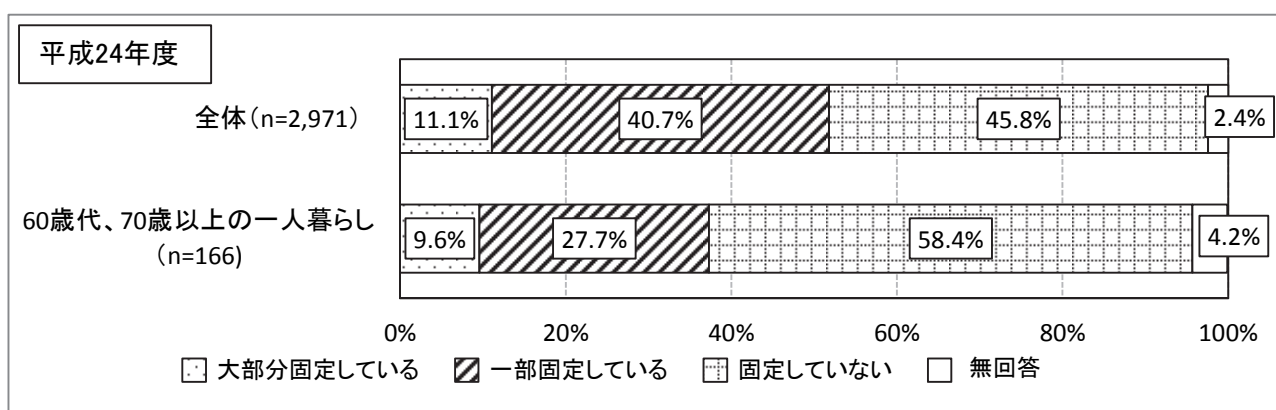
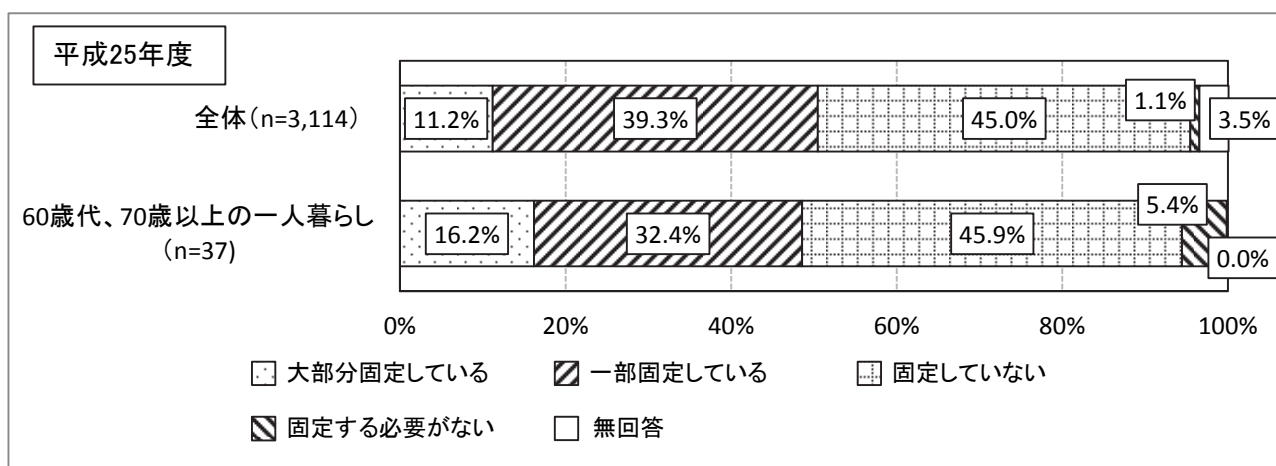
一方、「アパート・マンション等の集合住宅」では、「固定していない」が約6割以上になっており、一戸建て住宅と集合住宅の間には、家具類の固定状況において顕著な差が見られました。

図 3.3.2 (4) 家具類の固定状況
-全体と 60 歳代、70 歳代の一人暮らしの方の比較-



「家具類の固定状況」について、全体と 60 歳代・70 歳以上の一人暮らしの方の経年変化でみると、「大部分固定している」、「一部固定している」が増える傾向にあり、徐々に改善されています。

(参考) 家具類の固定状況 平成25年度及び平成24年度との経年変化

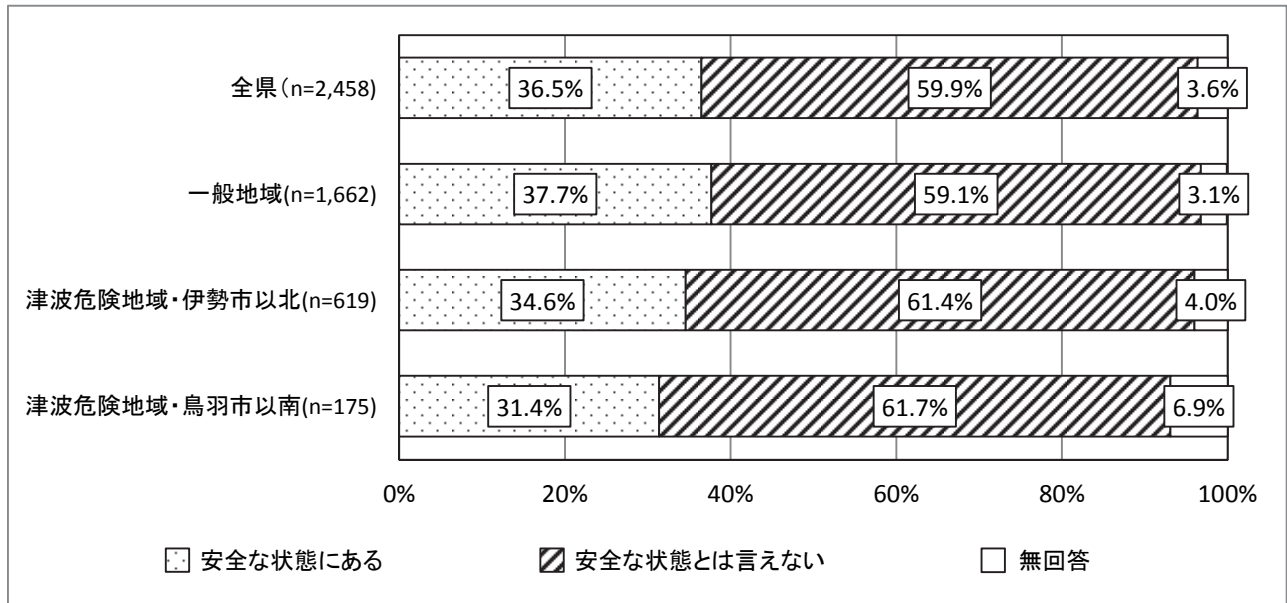


3.3.3 家屋からの脱出

【問 11-1】 問 11 で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。
(一つだけ○)

1. 安全な状態にある →問 12 へ
2. 安全な状態とは言えない →問 11-2 へ

図 3.3.3 家屋からの脱出 -全県及び地域別-



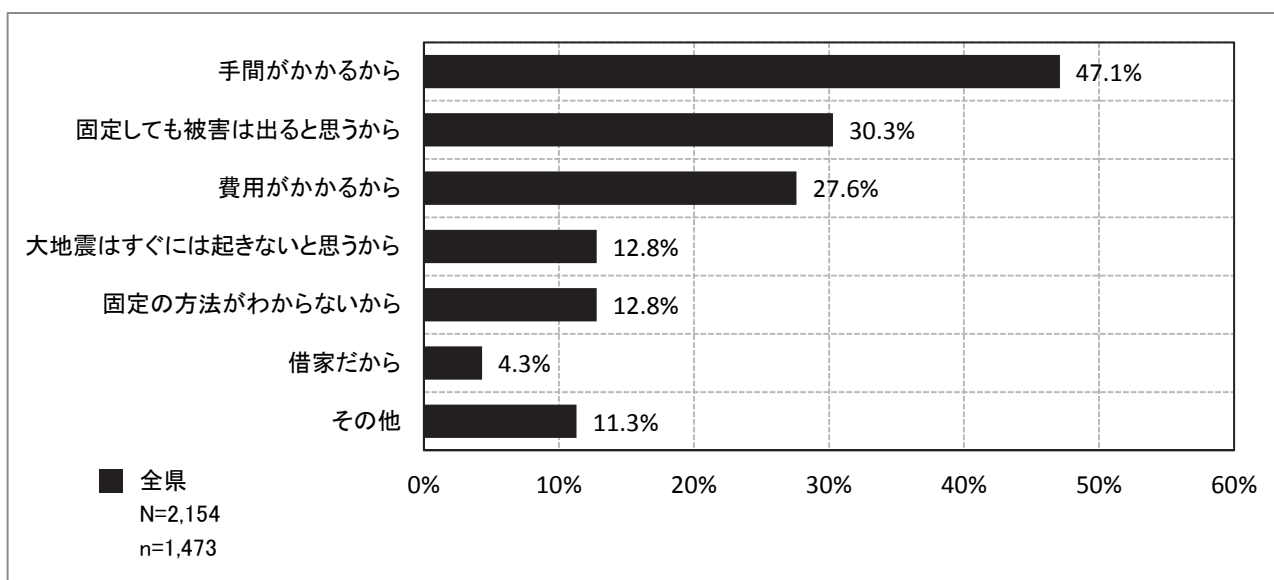
「家屋からの脱出」について、全県で「安全な状態にある」が 36.5%に対し、「安全な状態とは言えない」が 59.9%となっており、全ての地域で同様の傾向になっています。

3.3.4 安全ではないのに家具を固定しない理由

【問 11-2】 問 11-1 で、「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 具体的に：

図 3.3.4 (1) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県- (複数回答)

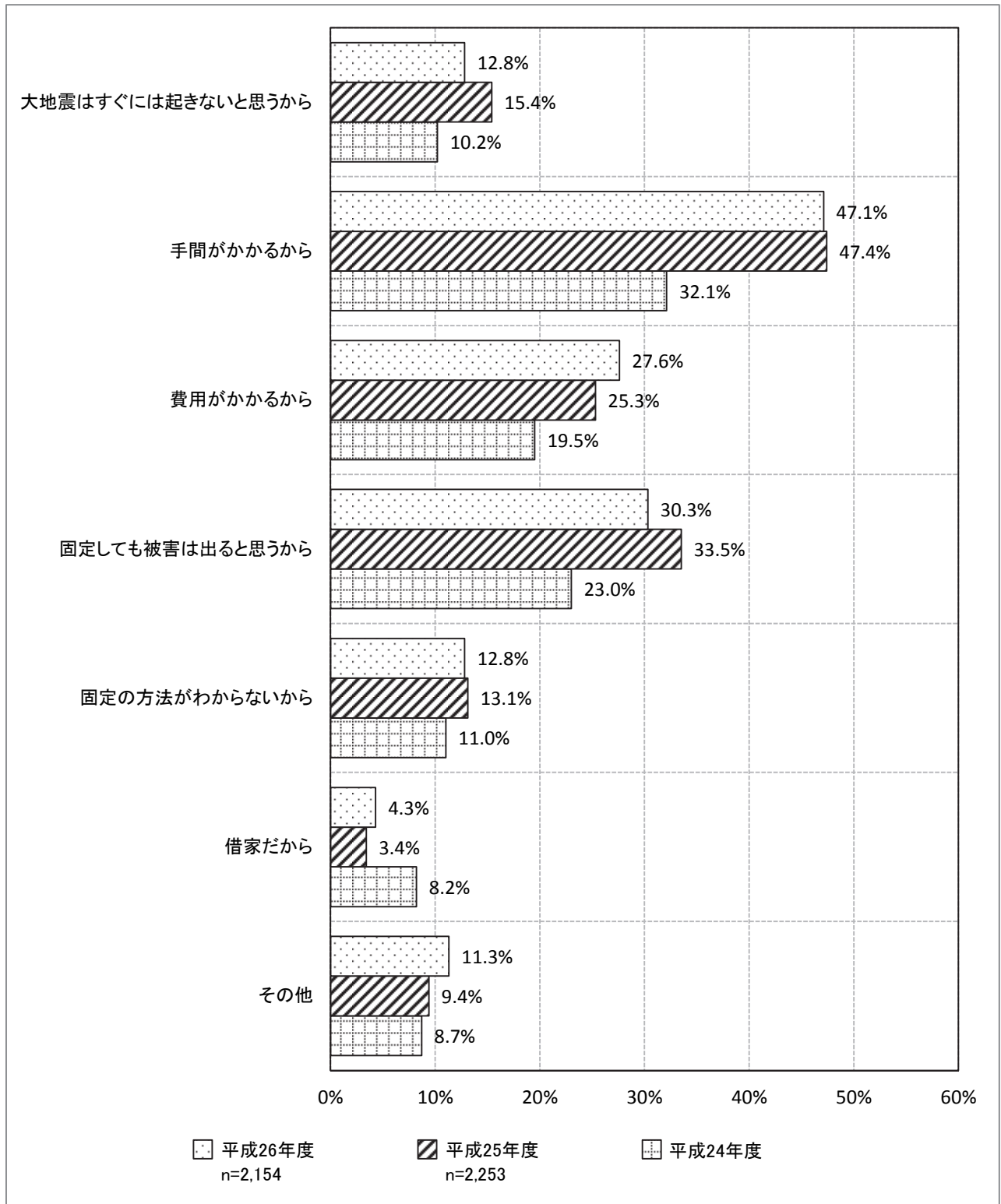


「家具類の固定をしない理由」について、「手間がかかるから」が半数近い47.1%で最も多くなっています。

次に、「固定しても被害は出ると思うから」が30.3%、「費用がかかるから」が27.6%と続き、家具固定には、時間と費用面からの課題が大きいことが明らかとなりました。

その他の意見として、「全家具を固定するのは大変だから」などの回答がありました。

図 3.3.4 (2) 家具類の固定をしない理由 -全県経年変化- (複数回答)



「家具類の固定をしない理由」の経年変化について、平成 25 年度以降は、家具類の固定を「大部分している」以外の方で、家屋からの脱出の安全性について「安全な状態にない」と答えられた方に絞って、家具固定しない理由を確認したため、単純な比較はできませんが、全体的な傾向としては、大きな変化は見られません。

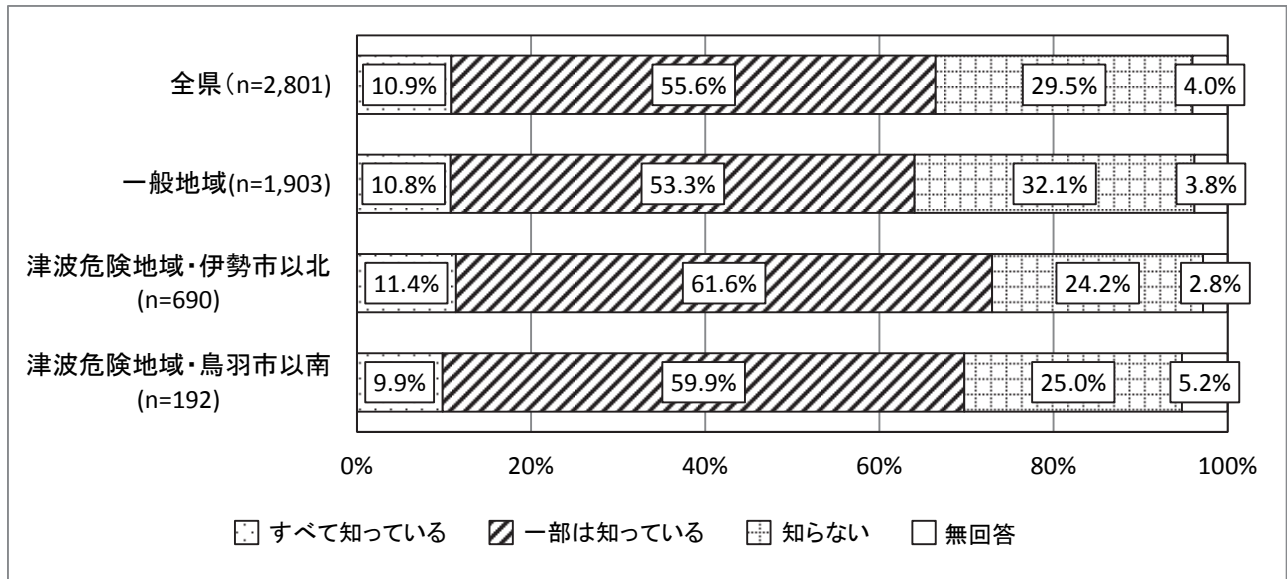
3.3.5 防災マップやハザードマップの認知度

【問 12】 あなたは、お住まいの市町がどのようなハザードマップ（河川はん濫、内水はん濫、がけ崩れ、津波浸水などを示した防災マップや災害危険予測図）を発行しているか知っていますか。（一つだけ○）

1. すべて知っている
2. 一部は知っている
3. 知らない

調査結果

図 3.3.5 防災マップやハザードマップの認知度 -全県及び地域別-



「防災マップやハザードマップの認知度」について、全県及び各地域で「一部は知っている」との回答が最も多くなっています。

一方で、「防災マップ等があることを知らない」と3人に1人が回答しています。

3.3.6 気象や災害の情報の入手先

【問 13】 あなたは普段、気象や災害についての情報をどこから入手していますか。
(いくつでも○)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市町の防災行政無線
6. 県や市町の広報誌
7. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
8. インターネット (「防災みえ.jp」以外)
9. 携帯メール
10. 街頭の電光掲示板
11. 家族から
12. 友人、知人から
13. 町内会・自治会を通じて
14. 消防署・消防団を通じて
15. その他 具体的に：
16. どこからも入手していない

調査結果

図 3.3.6 (1) 気象や災害の情報の入手先 -全県 (多い順) - (複数回答)

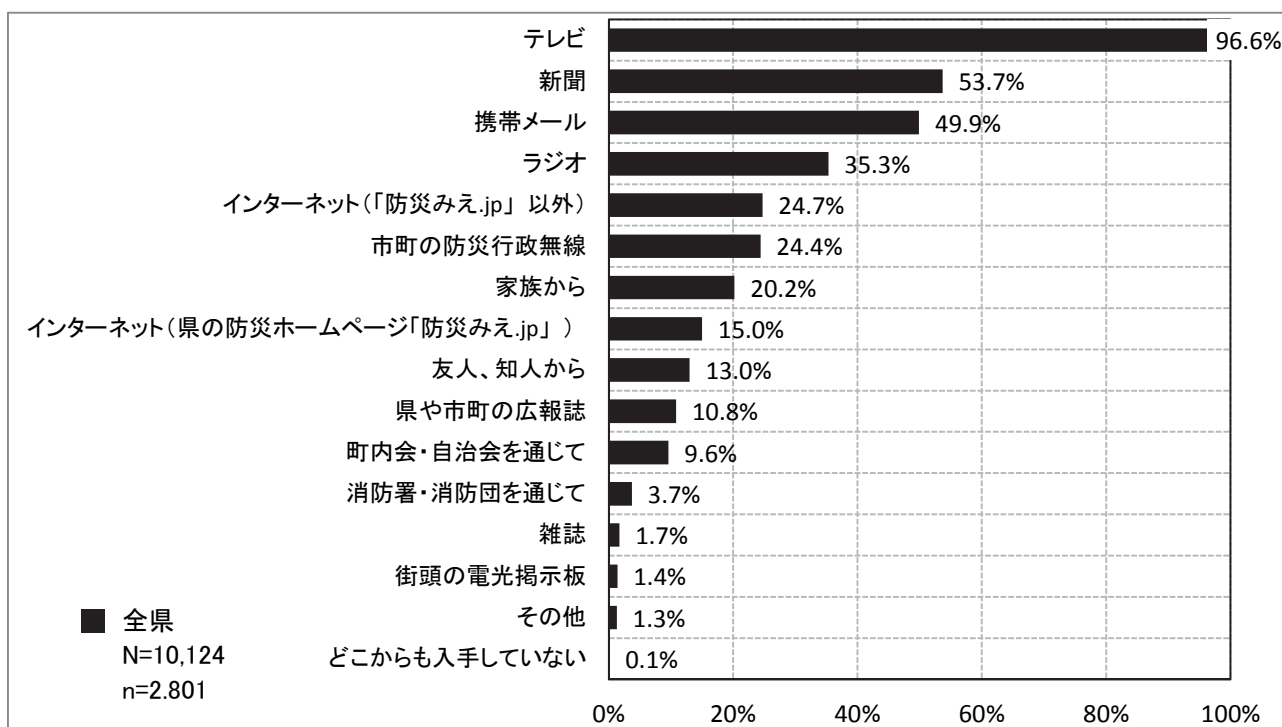
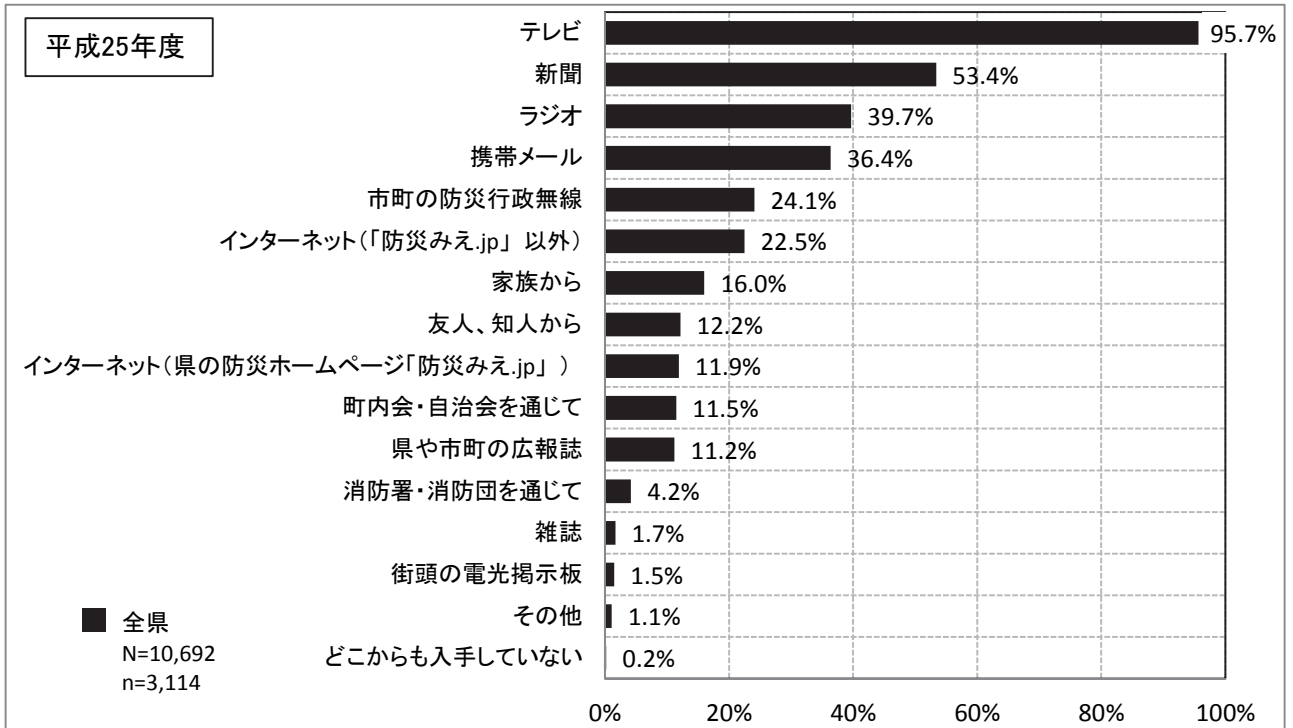


図 3.3.6 (2) 気象や災害の情報の入手先 -全県経年変化- (複数回答)



「気象や災害の情報の入手先」について、「テレビ」が96.6%で最も多くなっています。これに次いで「新聞」の53.7%等、公共メディアが上位を占めています。

また、昨年度と比較するとインターネットや携帯メールから情報を入手される人の割合が増加しています。

図 3.3.6 (3) ① 気象や災害の情報の入手先 -全体及び年代別- (複数回答)

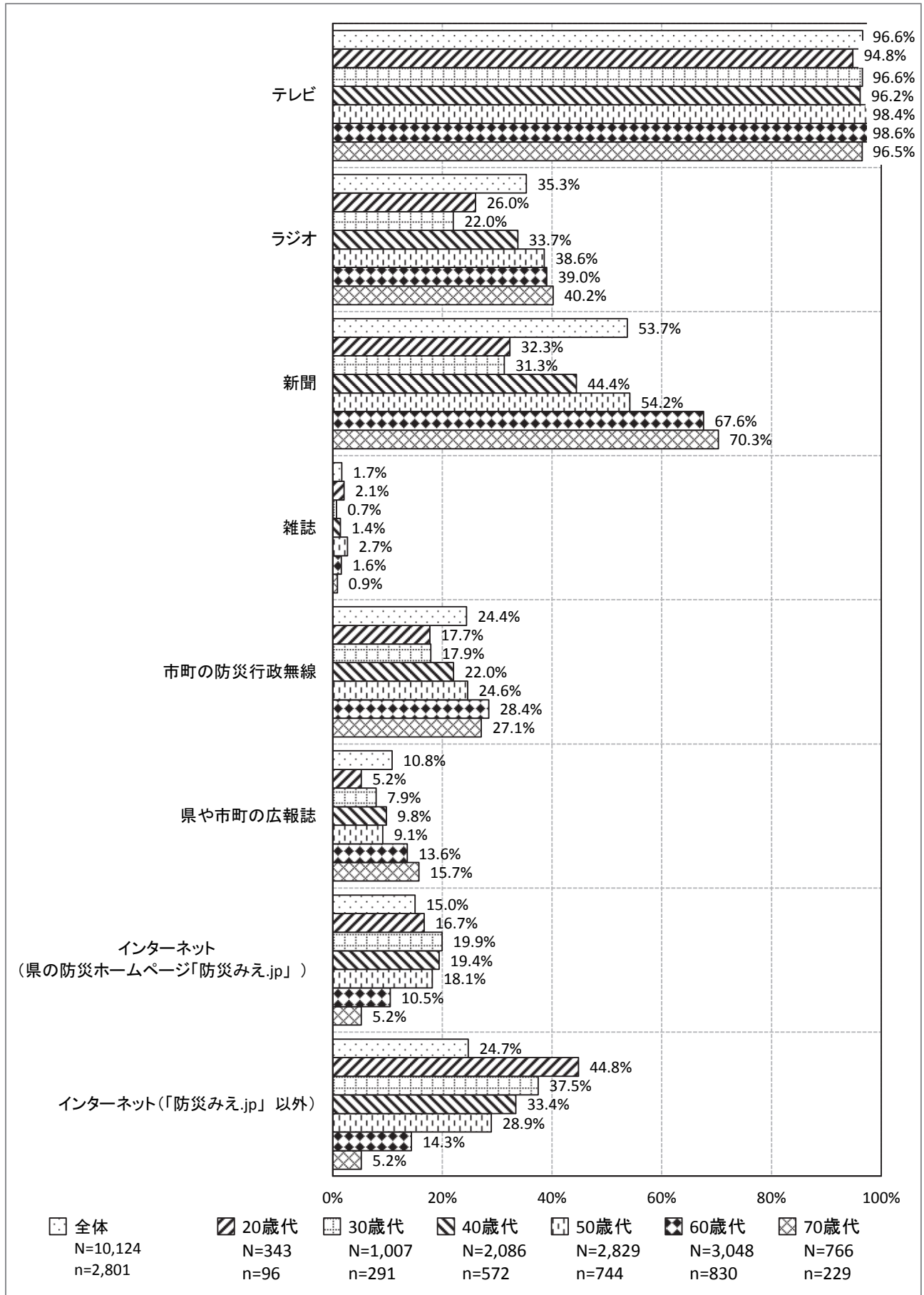
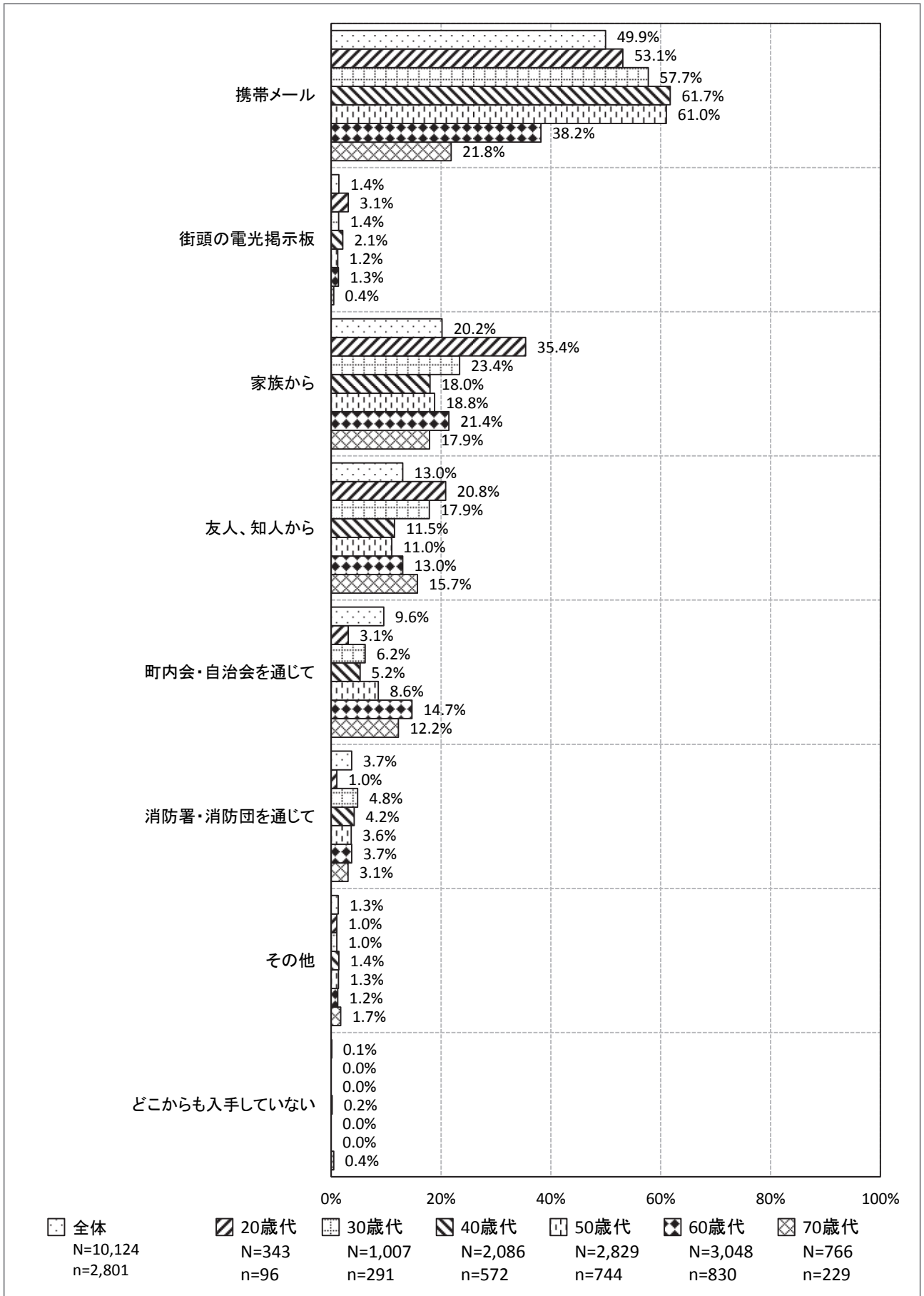


図 3.3.6 (3) ② 気象や災害の情報の入手先 -全体及び年代別- (複数回答)



「気象や災害の情報の入手先」について、全体及び年代別で見ると、「テレビ」が各年代とも95%前後となっており最も多くなっています。これに次いで「新聞」、「ラジオ」が高い状況ですが、若年齢層と比較して高年齢層の利用が多くなっています。

「インターネット（『防災みえ.jp』以外）」や「携帯メール」等、ネットワークメディアを用いた情報入手は、20歳代から50歳代の利用が多くなっています。

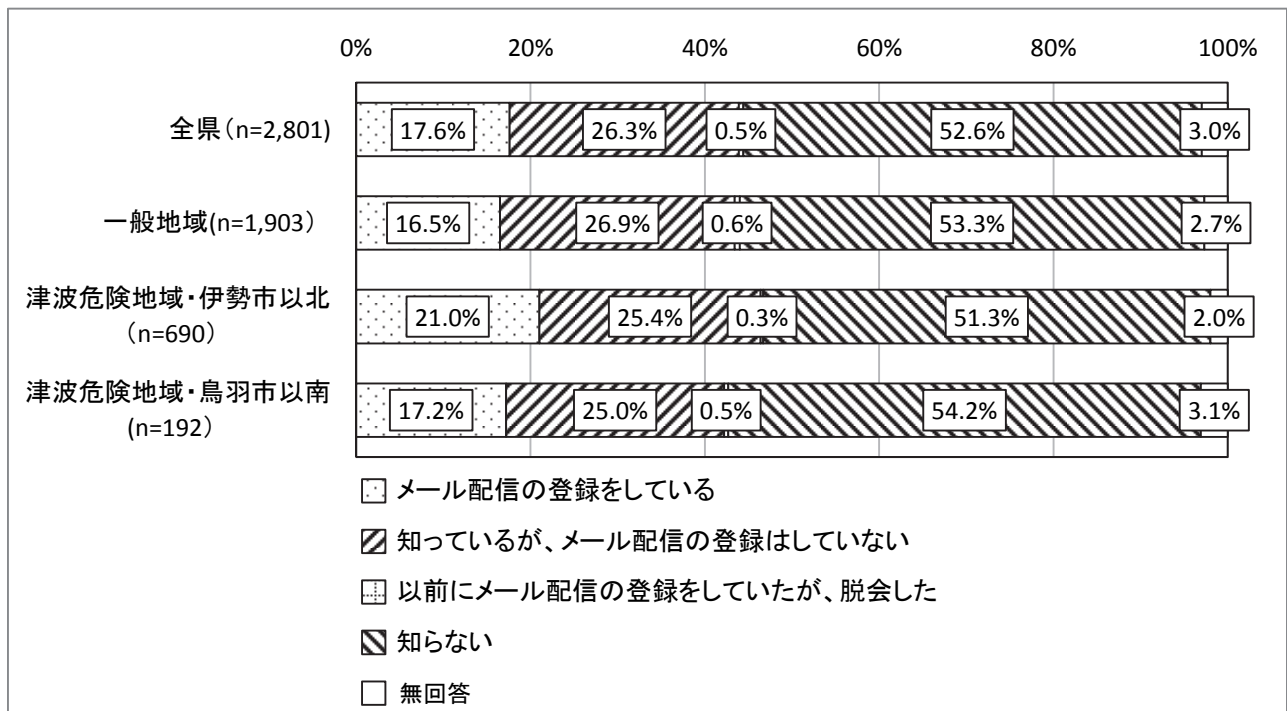
3.3.7 防災情報メール配信サービスの認知度

【問 14】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。（一つだけ○）

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

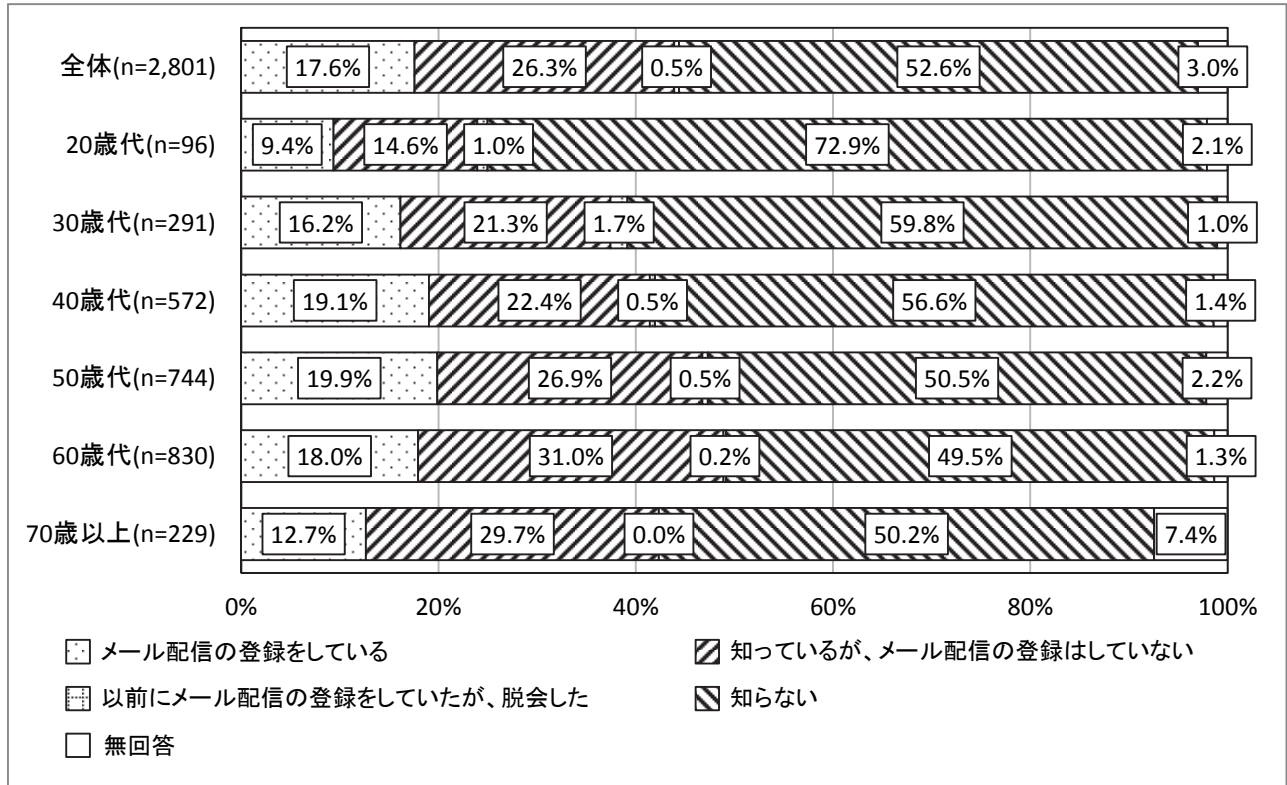
調査結果

図 3.3.7 (1) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県及び地域別-



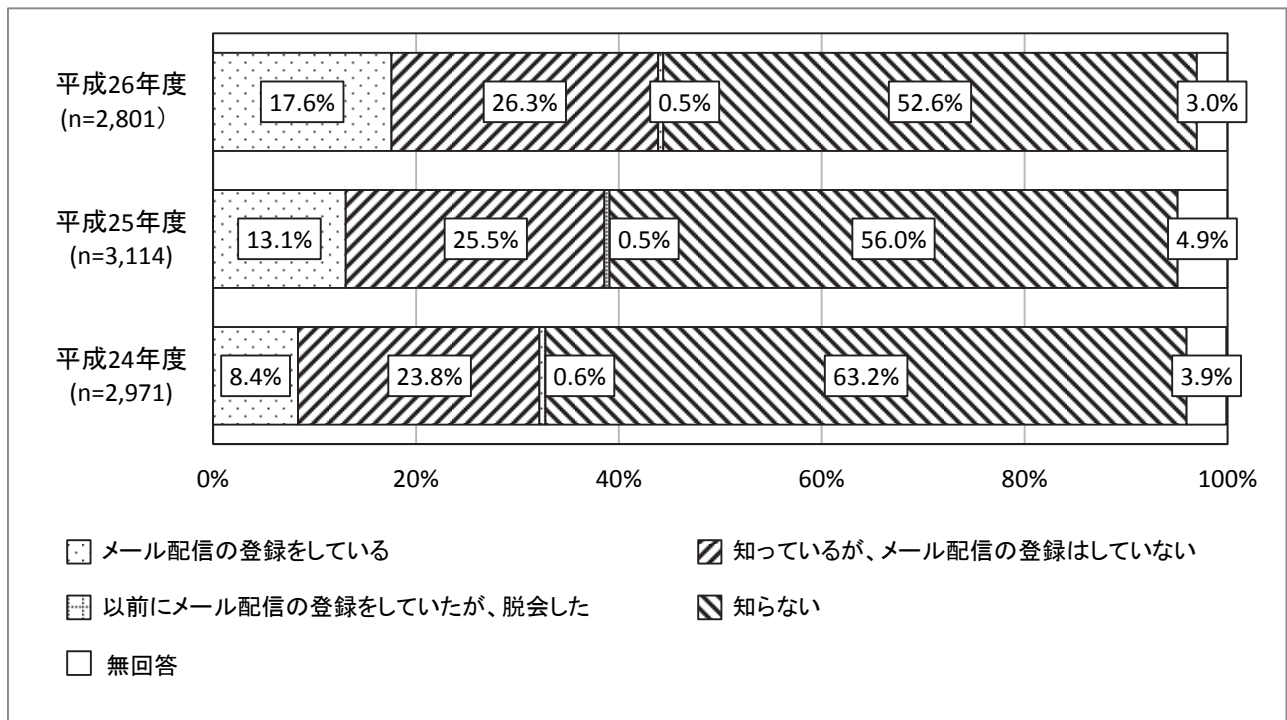
「防災情報メール配信サービス」について、全県及び各地域で「知らない」が 50%以上と最も多くなっています。「メール配信の登録をしている」では、全県及び各地域で 20%前後となっています。

図 3.3.7 (2) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全体及び年代別-



「防災情報メール配信サービスの認知度」について年代別にみると、20歳代で「メール配信の登録をしている」が9.4%と低く、メール配信サービスを「知らない」と72.9%の方が答えています。

図 3.3.7 (3) 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県経年変化-



「防災情報メール配信サービス」について、経年変化をみると、「メール配信の登録をしている」が年々、増加しています。

3.3.8 避難場所や避難所の認知度

【問 15】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。

(一つだけ○)

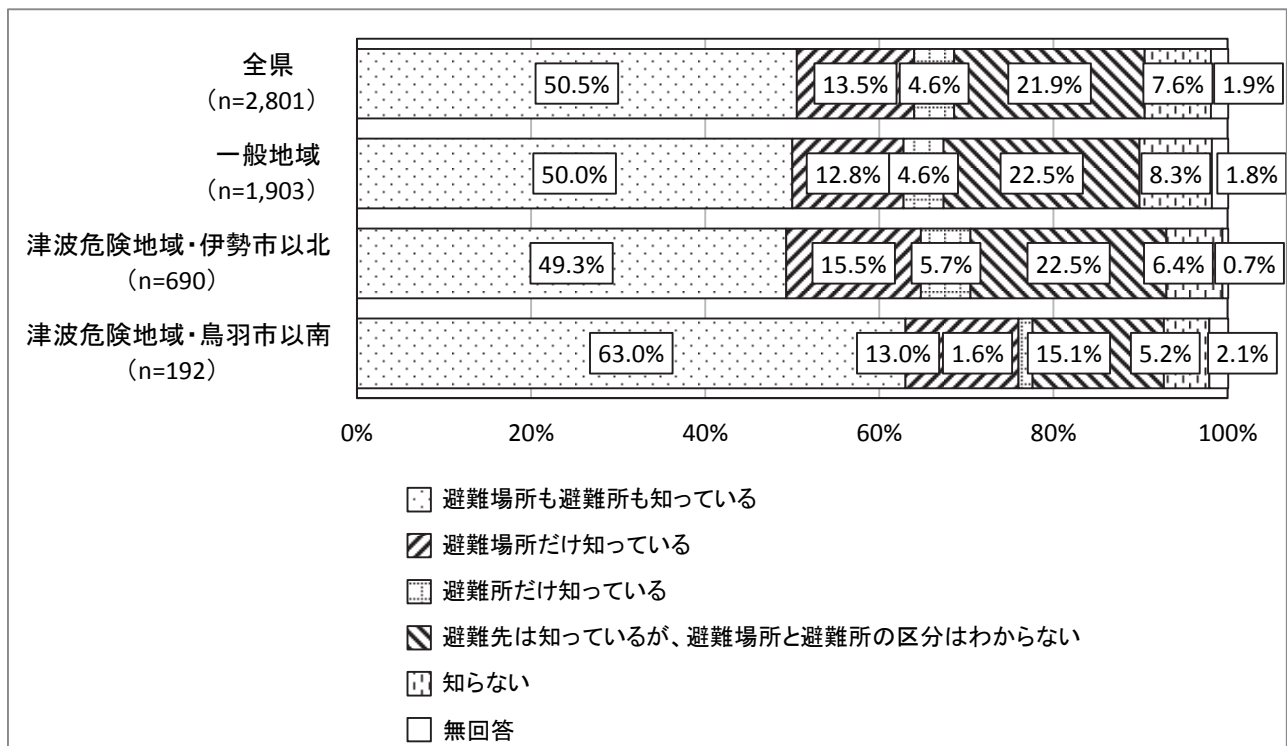
1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

問 15-1 へ

問 16 へ

調査結果

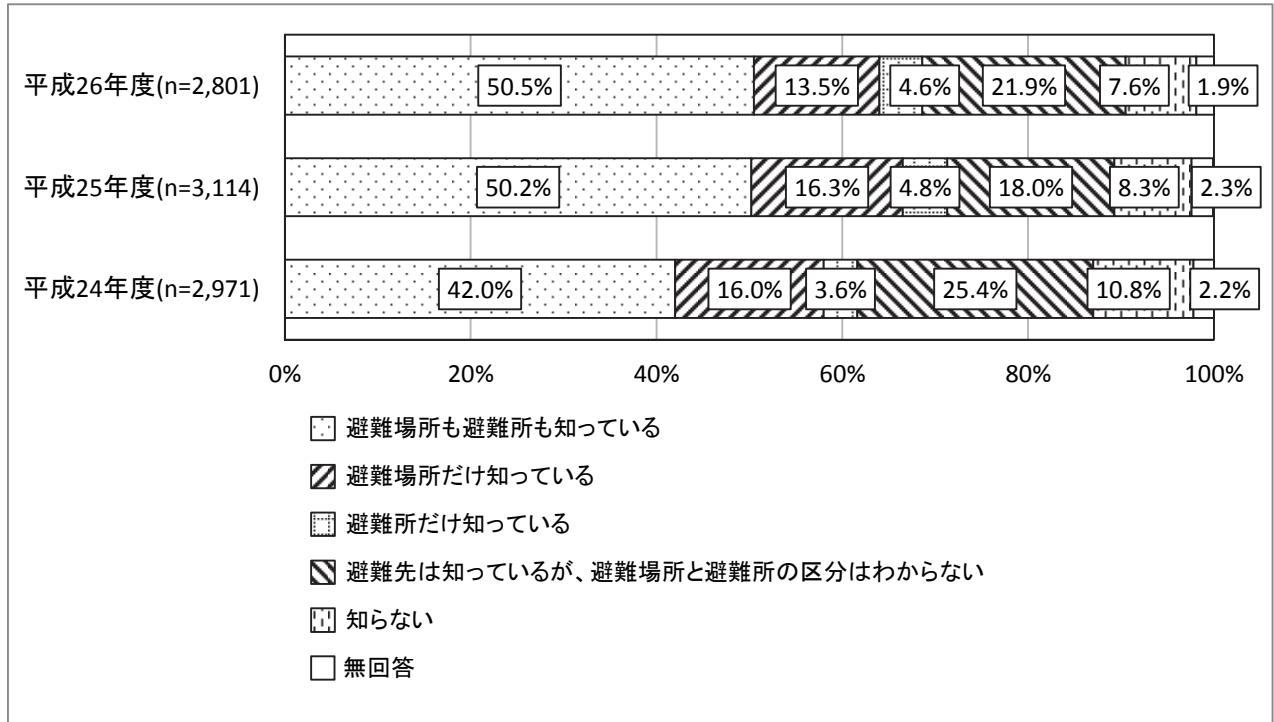
図 3.3.8 (1) 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



「避難場所や避難所の認知度」について、全県では9割以上の方が避難場所か避難所を知っていると答えています。

地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）の「避難場所も避難所も知っている」が63.0%と他の地域に比べて特に高くなっています。

図 3.3.8 (2) 避難場所や避難所の認知度 -全県経年変化-



自宅付近の避難所の認知度について、経年変化をみると、避難場所や避難所を「知らない」と回答される方は年々、少なくなっています。

3.3.9 避難場所や避難所までの経路についての認知度

【問 15-1】 問 15 で「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

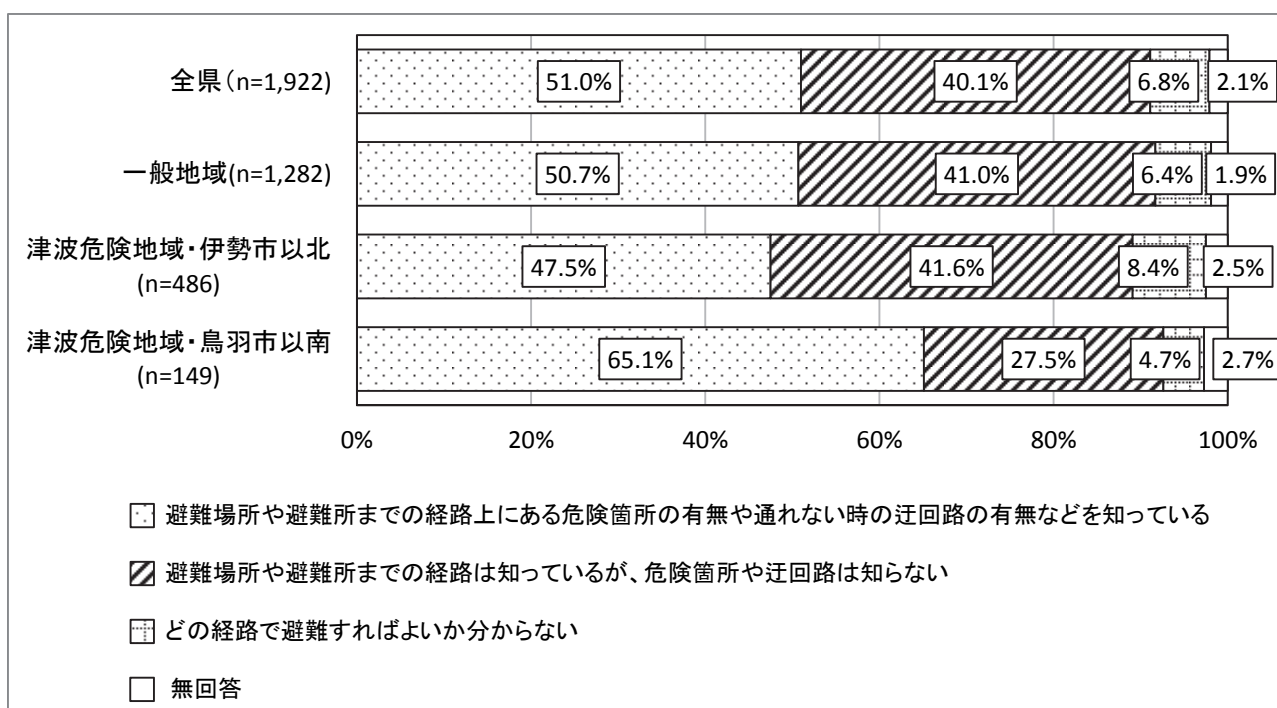
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度知っていますか。

(一つだけ〇)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

調査結果

図 3.3.9 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



「避難場所や避難所までの経路についての認知度」については、全県で「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無などを知っている」が 51.0%、「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」が 40.1%となっています。

地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）の「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れない時の迂回路の有無などを知っている」が 65.1%と他の地域に比べて特になくなっていきます。

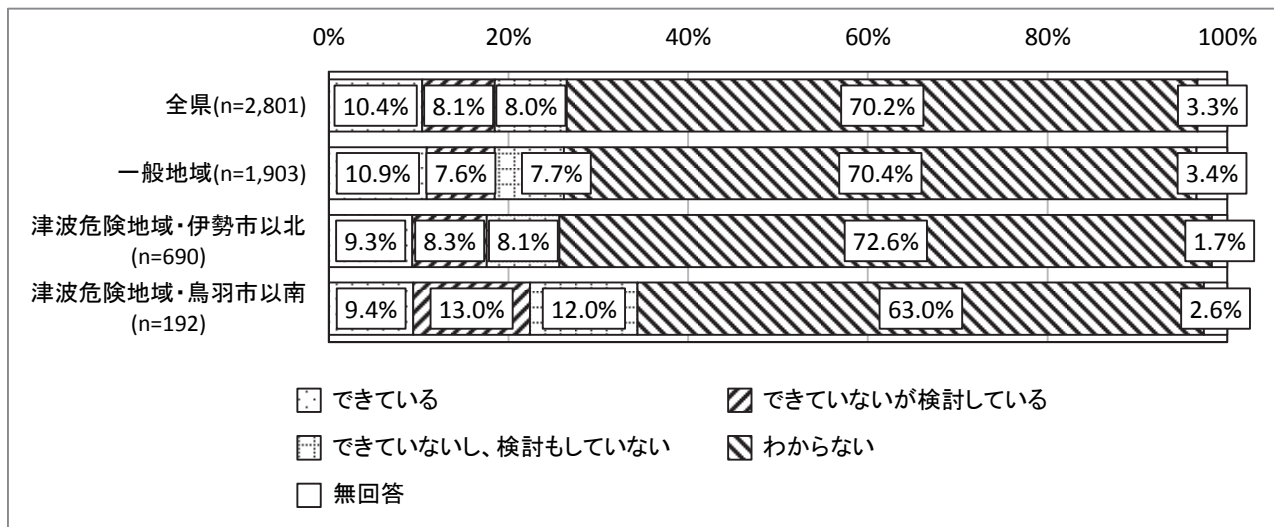
3.3.10 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無

【問 16】 あなたのお住まいの地域では、災害時要援護者（災害時に支援が必要な方：乳幼児・高齢者・障がい者・妊婦・外国人等）の避難を地域として支援する体制ができていますか。（一つだけ〇）

1. できている
2. できていないが検討している
3. できていないし、検討もしていない
4. わからない

調査結果

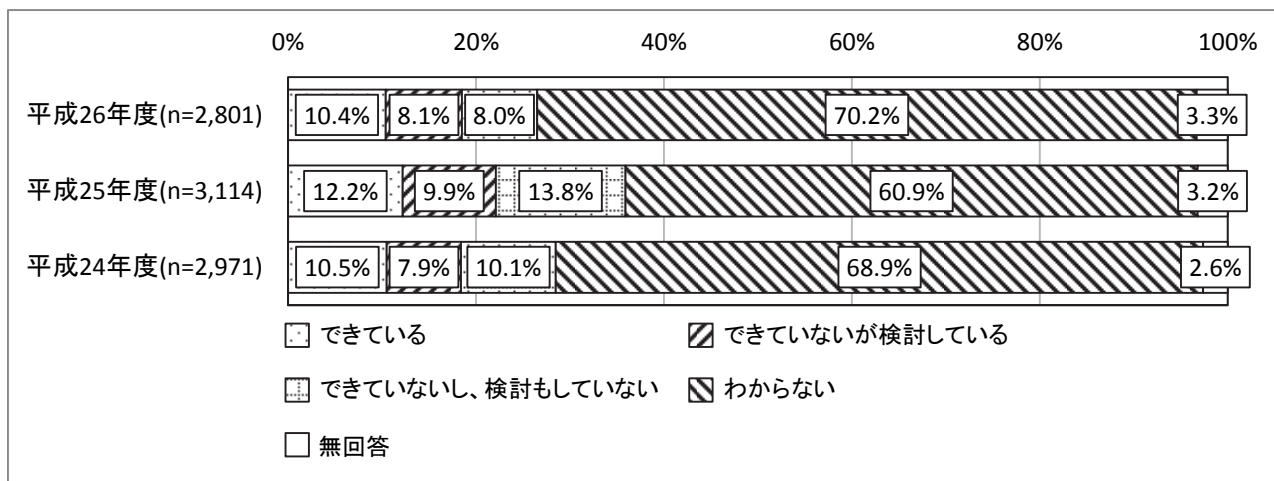
図 3.3.10 (1) 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無 -全県及び地域別-



「災害時要援護者を地域として支援する体制の有無」について、全県では「わからない」が70.2%で最も多くなっており、「できている」は10.4%となっています。

一般地域及び津波危険地域（伊勢市以北）については、全県とほぼ同様の傾向ですが、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「できていないが検討している」が13.0%と他の地域と比べ高くなっています。

図 3.3.10 (2) 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無 -全県経年変化-



「災害時要援護者を地域として支援する体制の有無」について経年変化をみると、「わからない」の回答が9.3ポイント上昇しています。

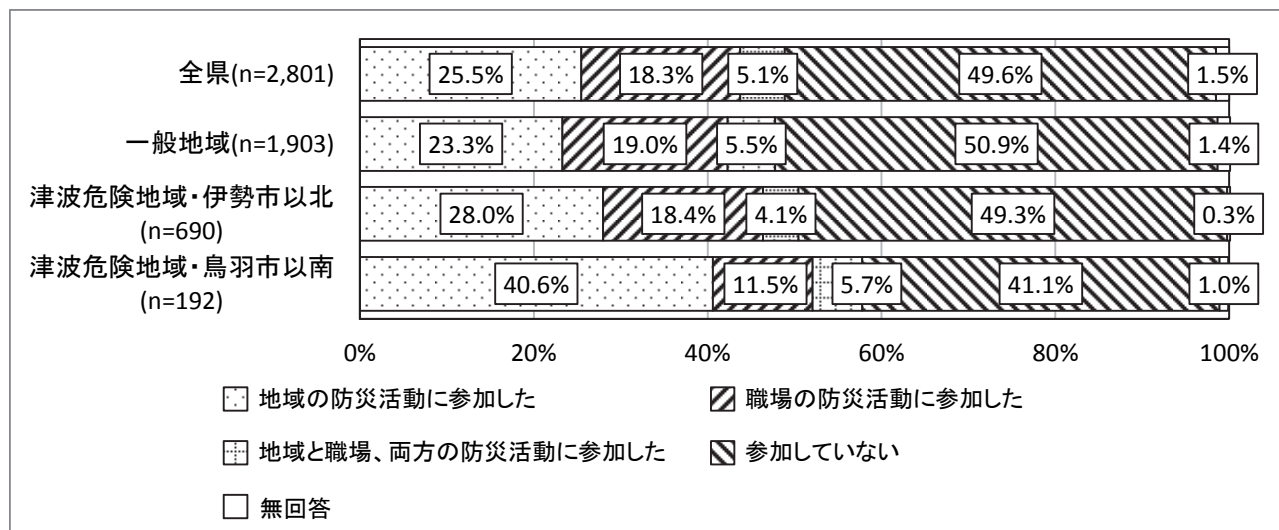
3.3.11 地域・職場での防災活動への参加経験

【問 17】 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 18 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

- 1. 地域の防災活動に参加した →問 18 へ
- 2. 職場の防災活動に参加した →問 18 へ
- 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した →問 18 へ
- 4. 参加していない →問 19 へ

調査結果

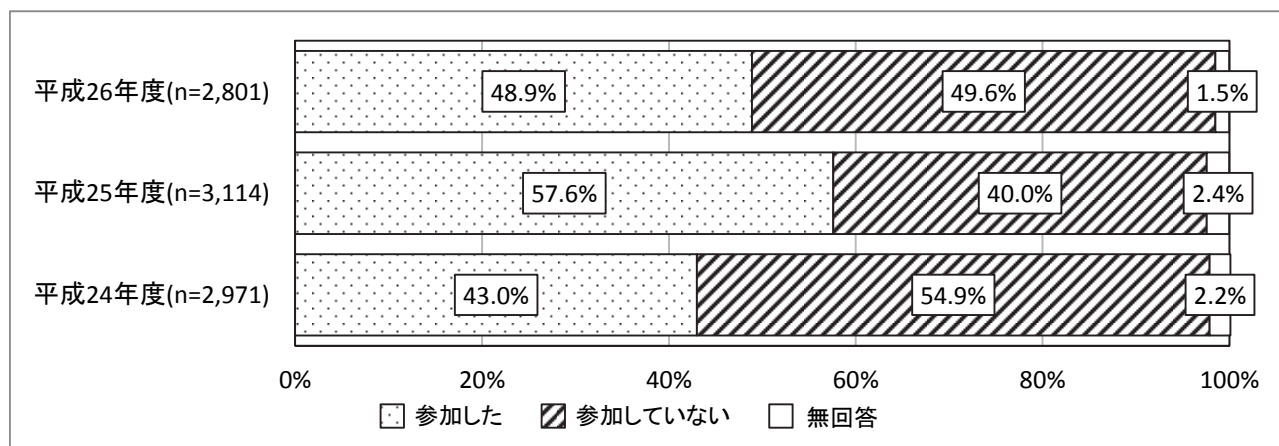
図 3.3.11 (1) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県及び地域別-



「地域・職場での防災活動への参加経験」について、全県ではいずれかの防災活動に「参加した」が48.9%、「参加していない」が49.6%となっています。

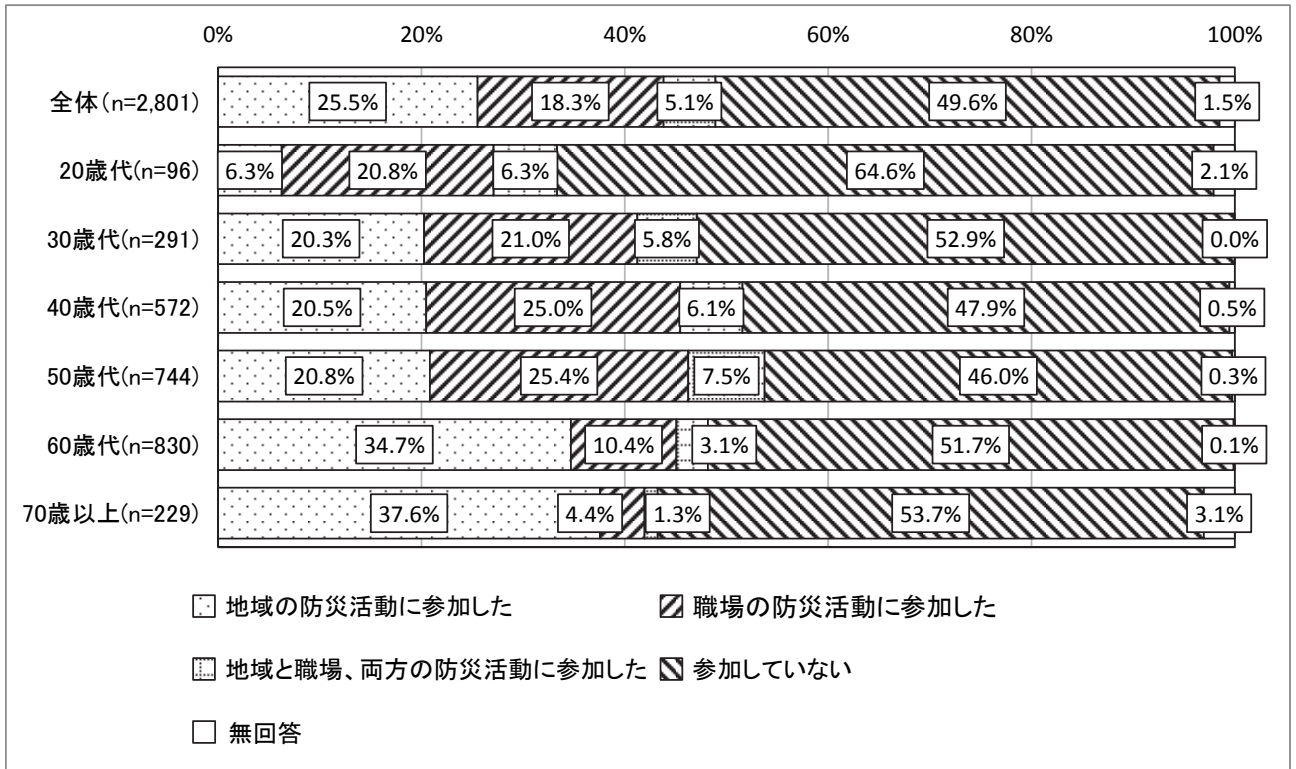
地域別では、津波危険地域（鳥羽以南）で「地域の防災活動に参加した」「職場の防災活動に参加した」「地域と職場、両方の防災活動に参加した」の合計が57.8%で他の地域に比べて高くなっています。

図 3.3.11 (2) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全県経年変化-



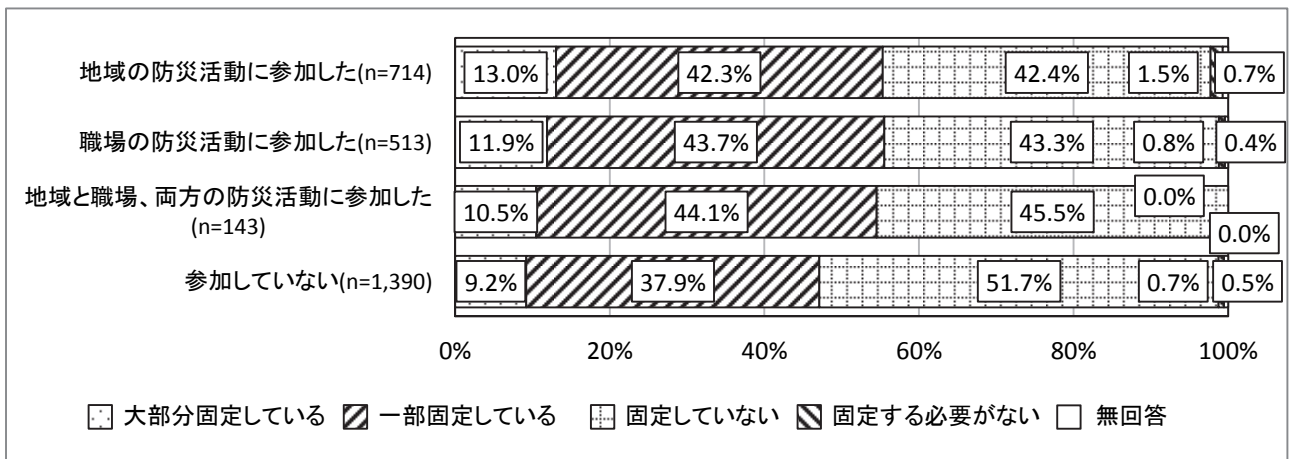
経年変化を見ると、「参加した」が昨年に比べて大きく低下する結果となりました。

図 3.3.11 (3) 地域・職場での防災活動への参加経験 -全体及び年代別-



年代別の参加状況を見ると、70歳以上の37.6%が最も高く、年齢が若くなるにつれて地域の防災活動への参加率が低くなっていき、20歳代では6.3%と極端に低くなっています。

図 3.3.11 (4) 地域・職場での防災活動への参加経験 -問 17 と問 11 のクロス集計-



問 11 (家具類の固定状況) とのクロス集計を見ると、防災活動への参加者の家具の固定率が、参加していない人たちの家具の固定率を上回っており、防災活動への参加が個人の防災意識を高めていることが伺われます。

図 3.3.11 (5) ① 地域・職場での防災活動への参加経験 -問 17 と問 10 のクロス集計-

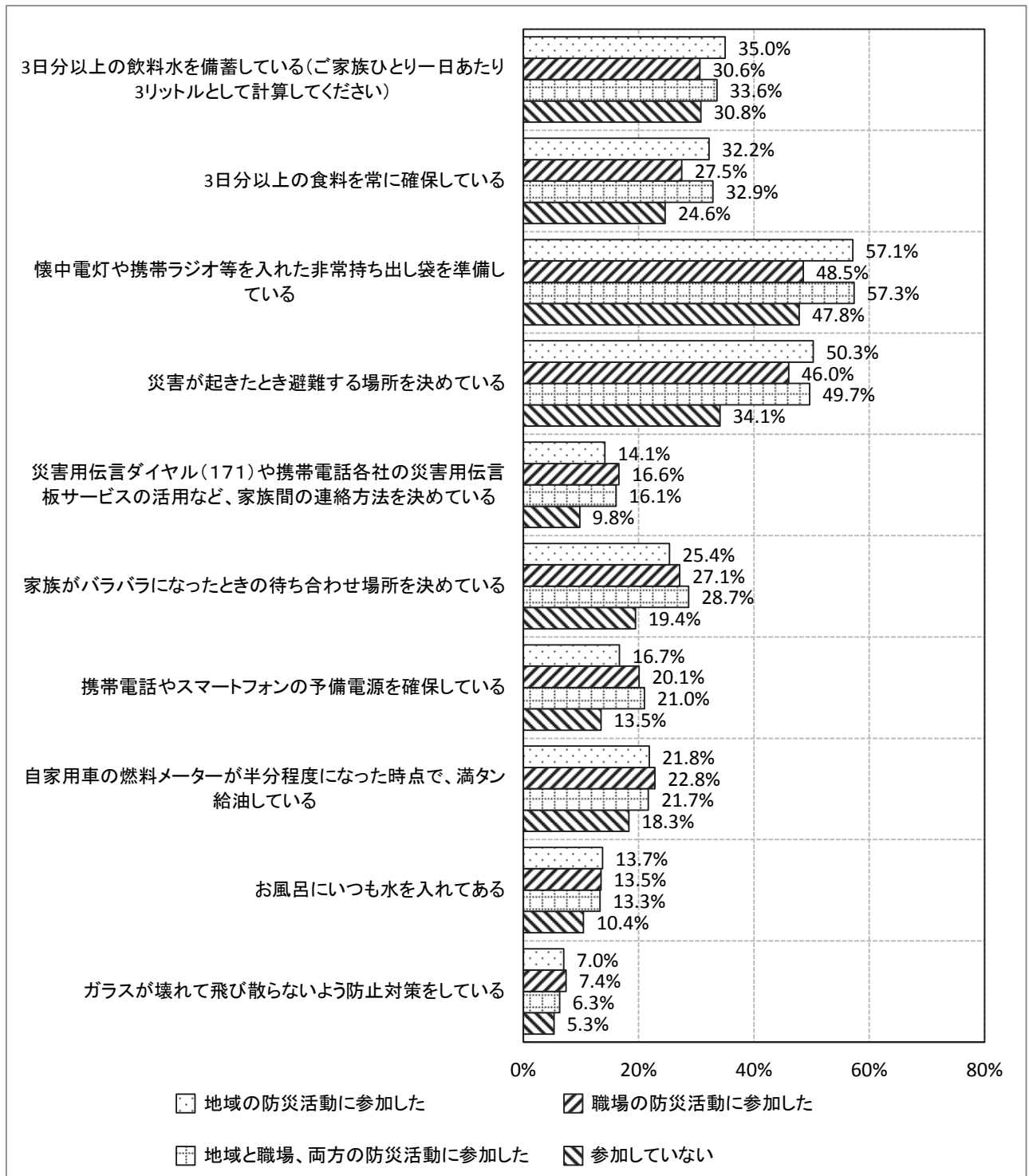
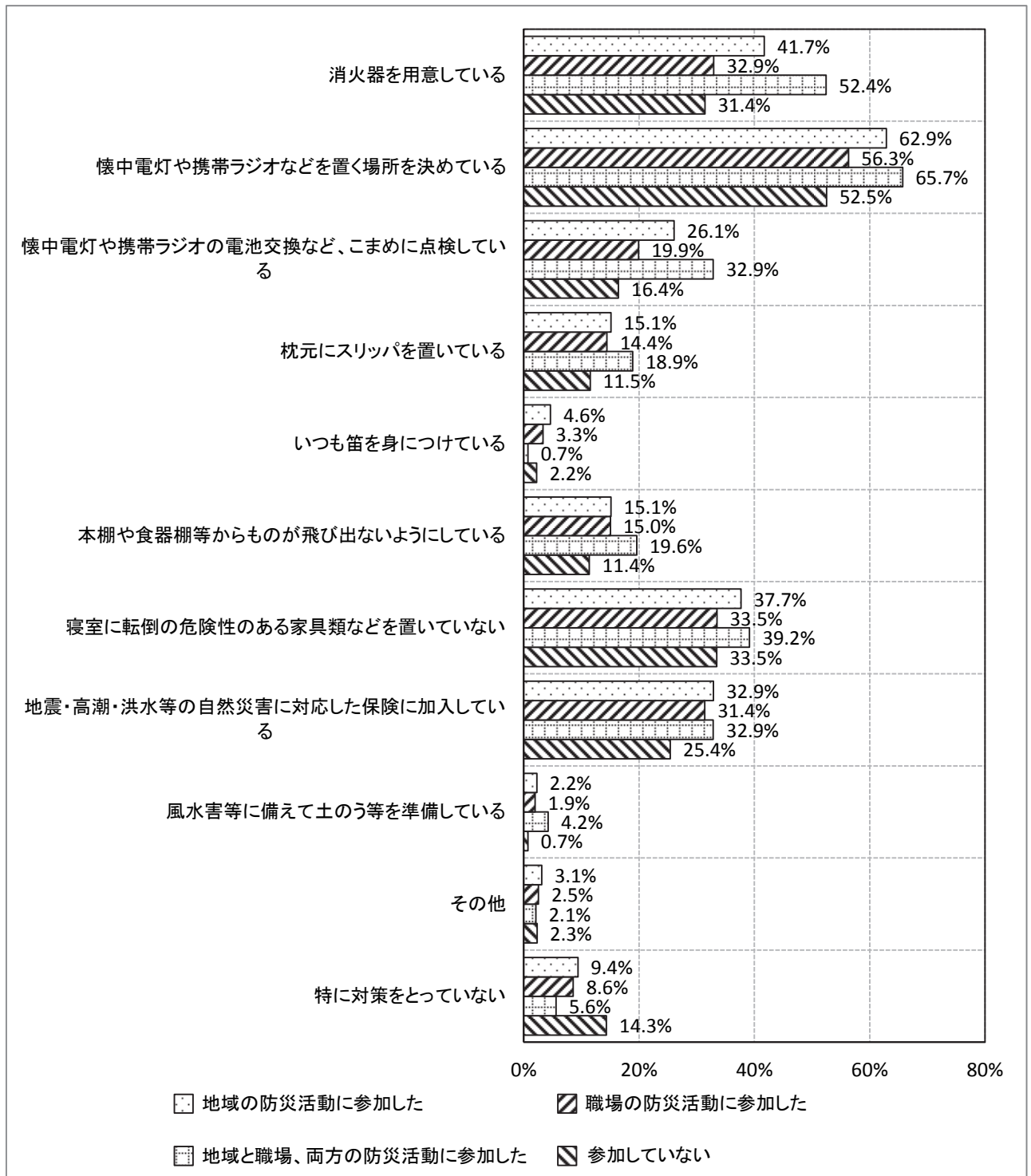


図 3.3.11 (5) ② 地域・職場での防災活動への参加経験 -問 17 と問 10 のクロス集計-



問 10（防災対策）とのクロス集計をみると、防災活動への参加者の「災害時の備え」への取組状況が、参加していない人たちの取組状況を全般的に上回っています。

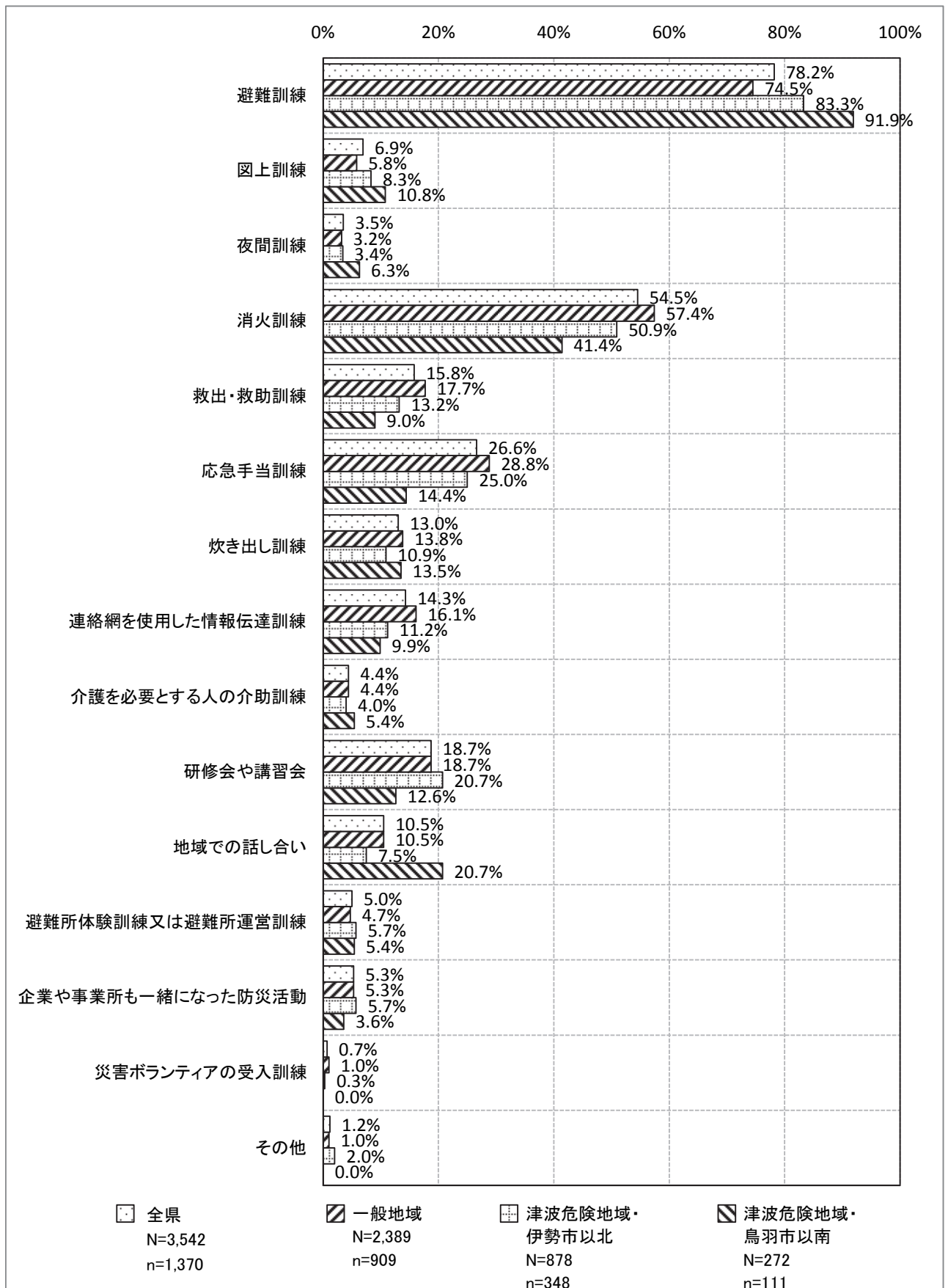
3.3.12 地域の防災活動に参加した内容

【問 18】 問 17 で「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練又は避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他 具体的に：

問18-1へ

図 3.3.12 地域の防災活動に参加した内容 -全県及び地域別- (複数回答)



「地域の防災活動に参加した内容」について、全県及び各地域で「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」となっています。

特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「避難訓練」が9割を超え、他の地域より高くなっています。

「その他」の防災活動として、一般地域では「防災倉庫内の機材の説明」、津波危険地域では、「学校での引き渡し訓練」、「テスト車による振動体験、煙の中の避難訓練、救命 AED 訓練」などの記載がありました。

3.3.13 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか

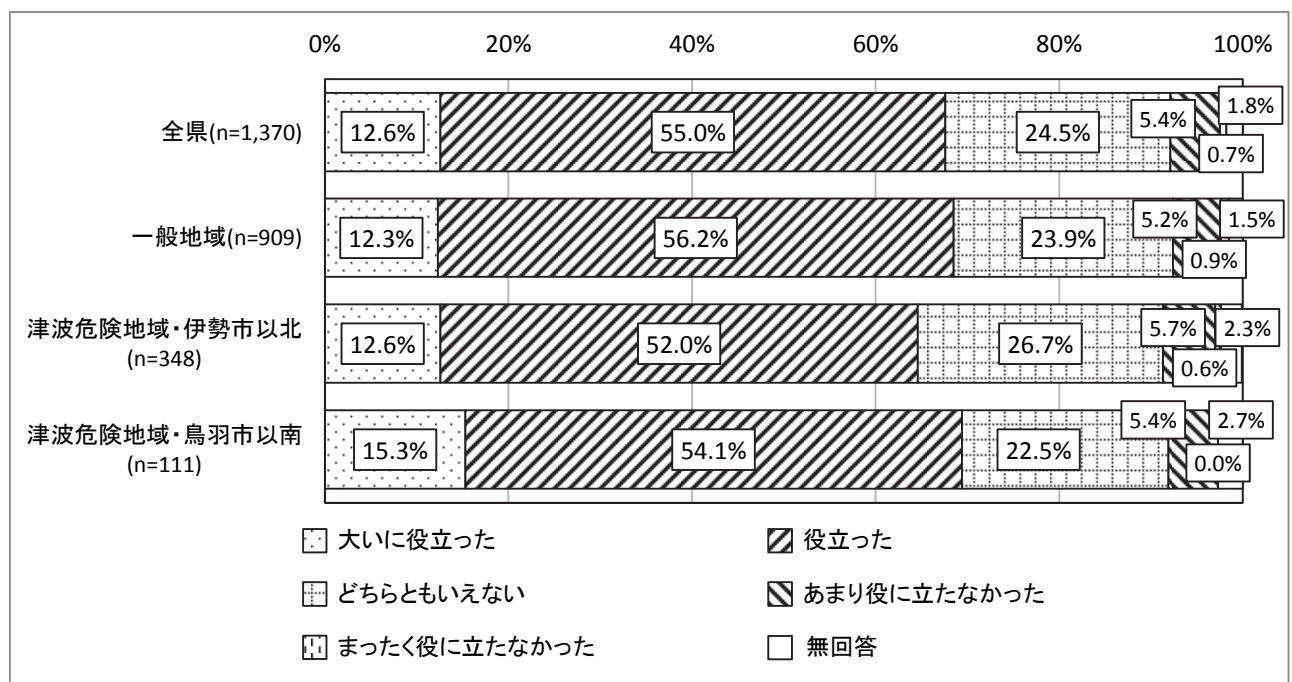
【問 18-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。
 (一つだけ〇)

1. 大いに役立った
 2. 役立った
 3. どちらともいえない
 4. あまり役に立たなかった
 5. まったく役に立たなかった

} 問20へ

調査結果

図 3.3.13 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか -全県及び地域別-



「地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか」について、全県及び各地域で約7割の方が役立ったと回答しています。

3.3.14 防災活動に参加しなかった理由

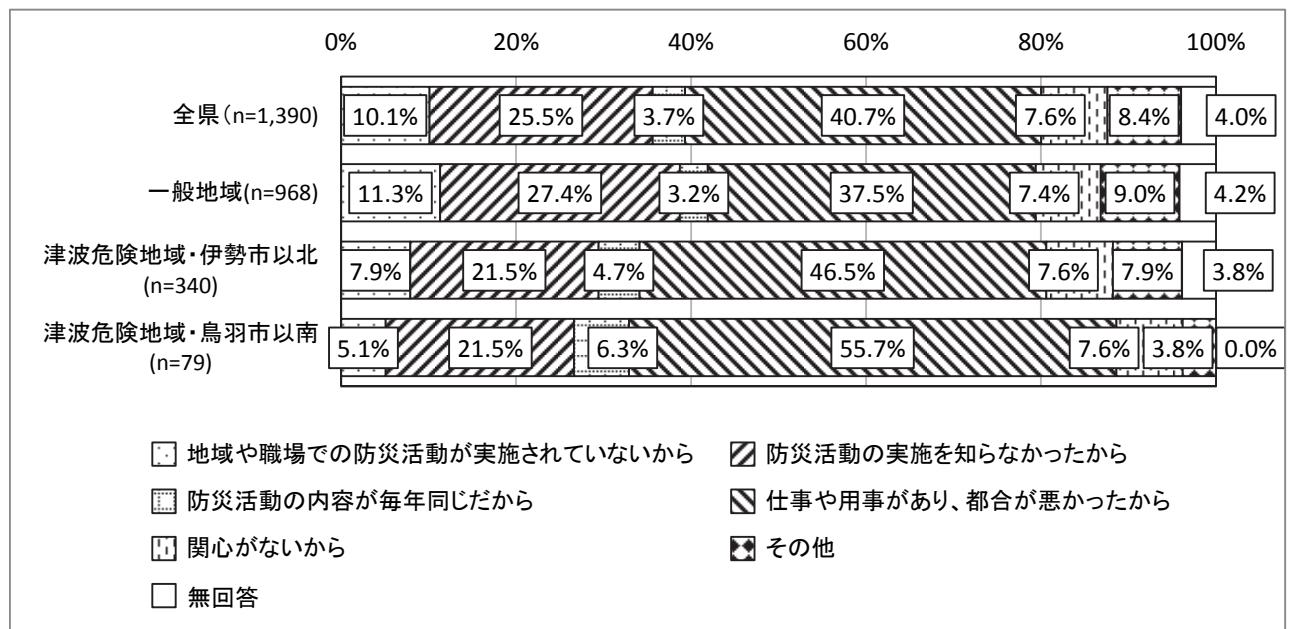
【問 19】 問 17 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。（一つだけ〇）

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他 具体的に：

} 問19-1へ

調査結果

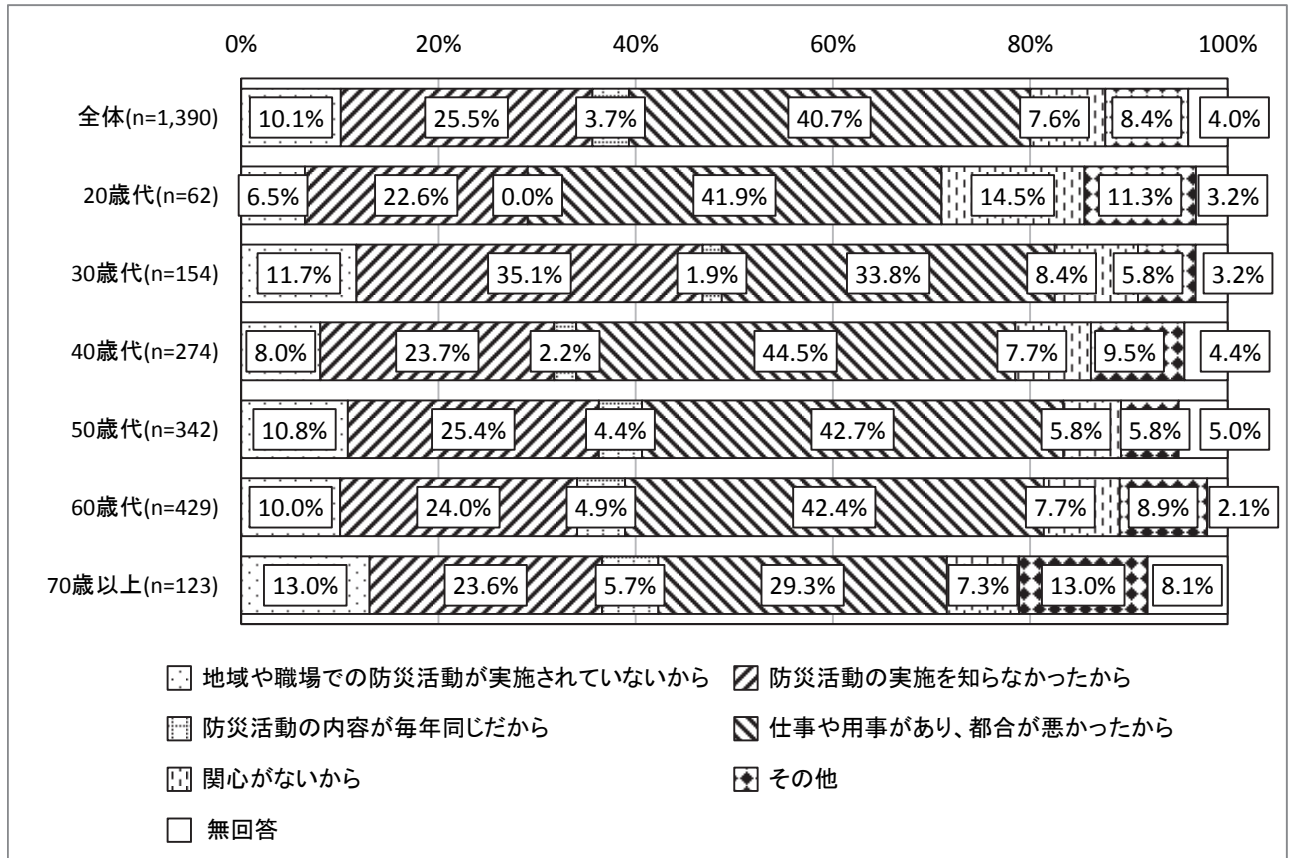
図 3.3.14 (1) 防災活動に参加しなかった理由 -全県及び地域別-



「防災活動に参加しなかった理由」について、全県及び各地域で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」が最も多くなっています。また、すべての地域において2割以上の方が「防災活動の実施を知らなかったから」と答えています。

「その他」の理由として、一般地域では「実施は知っているが、一部の人の参加だけのようで、なかなか声もかかってないのに参加しづらい」、「過去に参加した経験があるから」、などが、また、津波危険地域では「あることさえ告知されていない。おそらく周囲の人皆知らないと思います」、「自治会の避難訓練には、その年の組長が参加することになっている」などの記載がありました。

図 3.3.14 (2) 防災活動に参加しなかった理由 -全体及び年代別-



年代別にみると、全ての年齢で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」との回答が最も高くなりました。

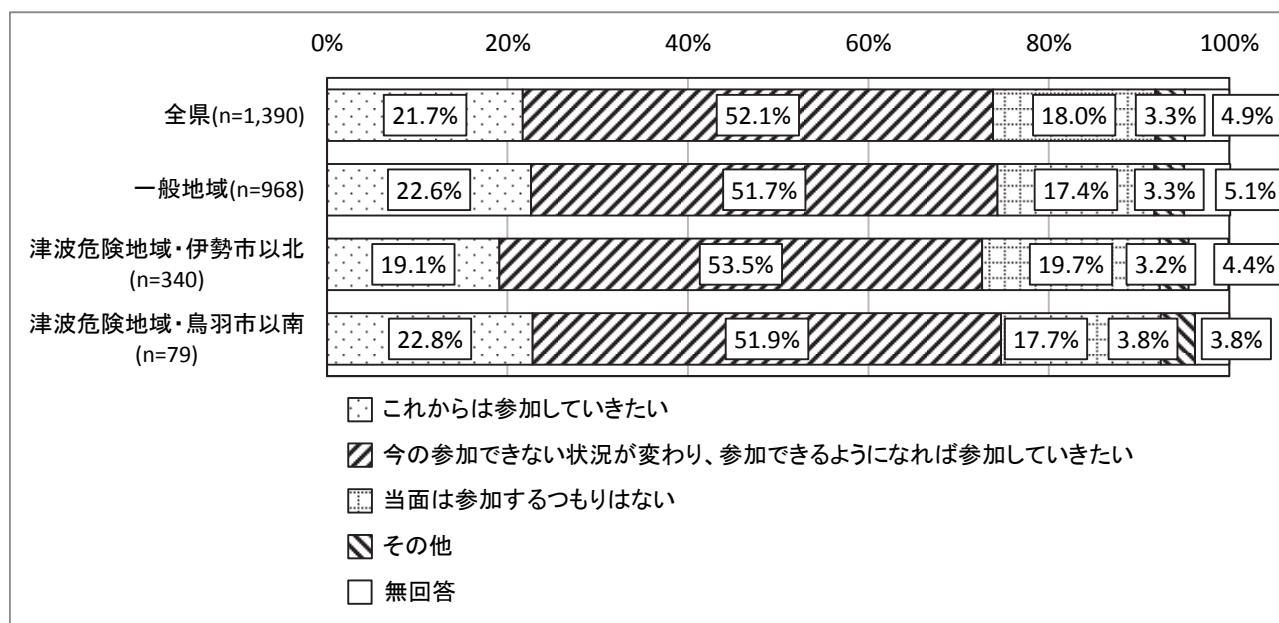
3.3.15 今後の地域の防災活動への参加

【問 19-1】 問 17 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのように考えていますか。（一つだけ〇）

1. これからは参加していきたい
2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい
3. 当面は参加するつもりはない
4. その他 具体的に：

調査結果

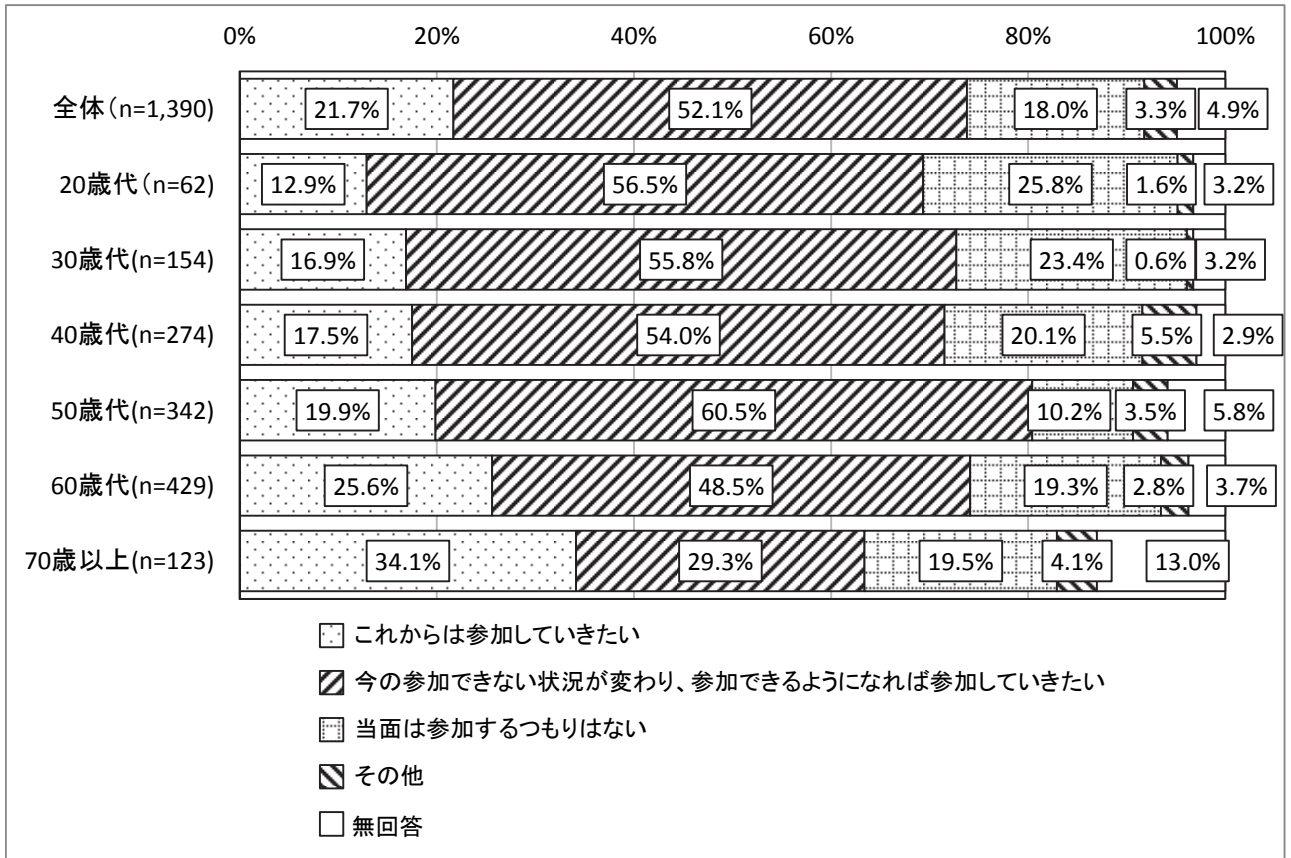
図 3.3.15 (1) 今後の地域の防災活動への参加 -全県及び地域別-



「今後の地域の防災活動への参加」について、全県及び各地域で 7 割以上の方が参加意欲を示しており、中でも「今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい」と考えている方が多くなっています。

「その他」の回答について見ると、一般地域では「参加することに抵抗はないが、強制でなければ都合がつかない事が多いので、なかなか参加できない」、「何をいつ行っているか、簡単な回覧で終わってしまいます。もっとくわしく知らせてほしい」など、また、津波危険地域では「ほとんど年配の方しか参加していないし、訓練内容も知らせてくれないので、参加する意味がわからない」、「地域も職場でも防災活動をしていない」などの記載がありました。

図 3.3.15 (2) 今後の地域の防災活動への参加 -全体及び年代別-



年代別にみると、全ての年代で6割から8割の方が参加意欲を示しています。

また、70歳以上の方については、「これからは参加していきたい」が他の年代と比べ、高くなっています。

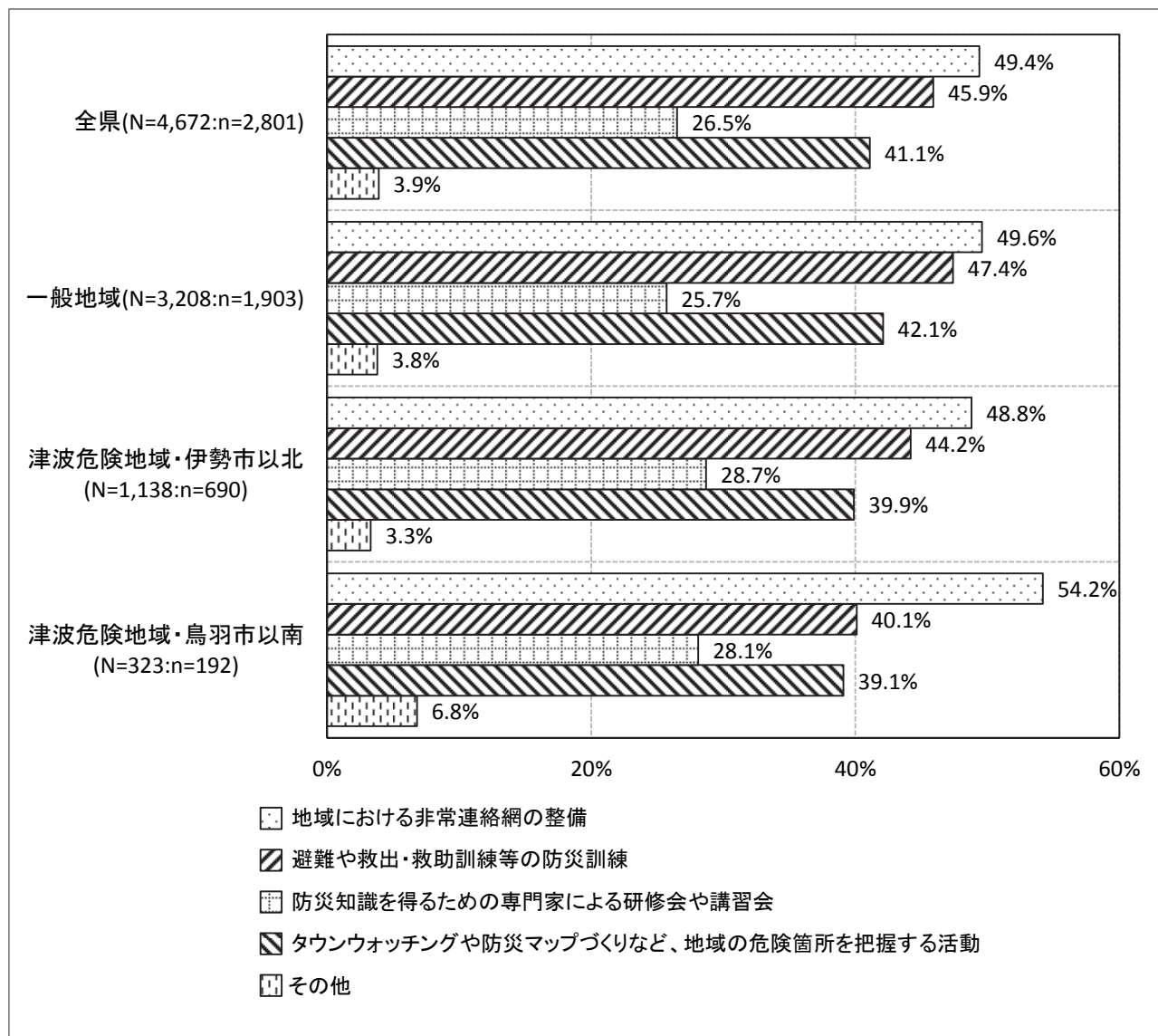
3.3.16 地域・職場で必要と思う防災活動

【問 20】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。
(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくりなど、地域の危険箇所を把握する活動
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.3.16 地域・職場で必要と思う防災活動 -全県及び地域別- (複数回答)



「地域・職場で必要と思う防災活動」について、全県及び各地域ともに「地域における非常連絡網の整備」が最も多く、次いで「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」となっています。

「その他」の回答では、「小学校の行事として親子で具体的な訓練や研修等できると小さな頃に身につけた知恵は抜けないし、親も身近な事として、取り組むことができるのではないかと思います。命に対して敏感な人たちを大きく力にできると思います」などの記載がありました。

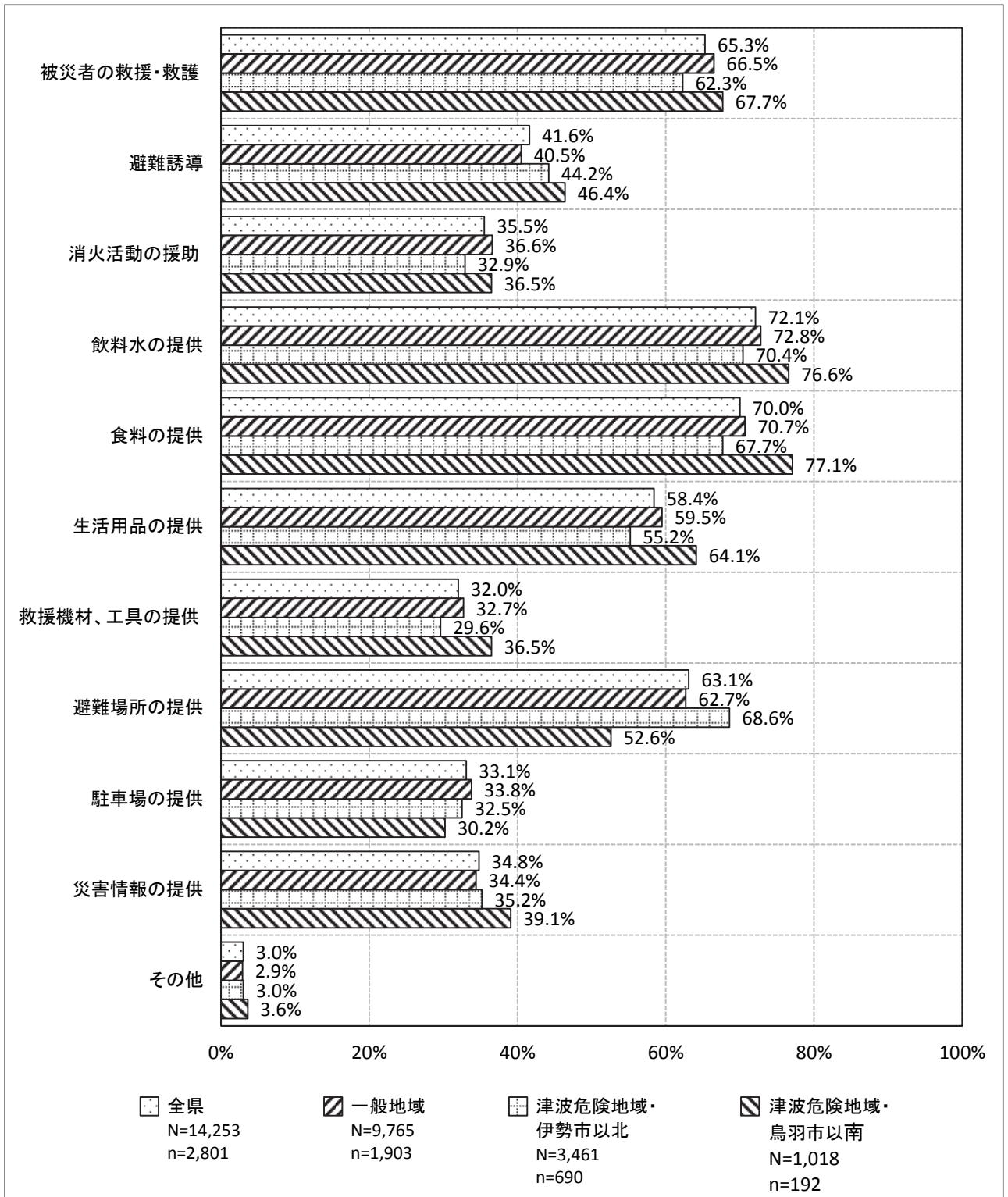
3.3.17 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること

【問 21】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。

(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

図 3.3.17 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること
-全県及び地域別（複数回答）-



「防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること」について、全ての地域で「飲料水の提供」と「食料の提供」が多くなっており、次いで、被災者の救援・救護、避難場所の提供が多くなっています。

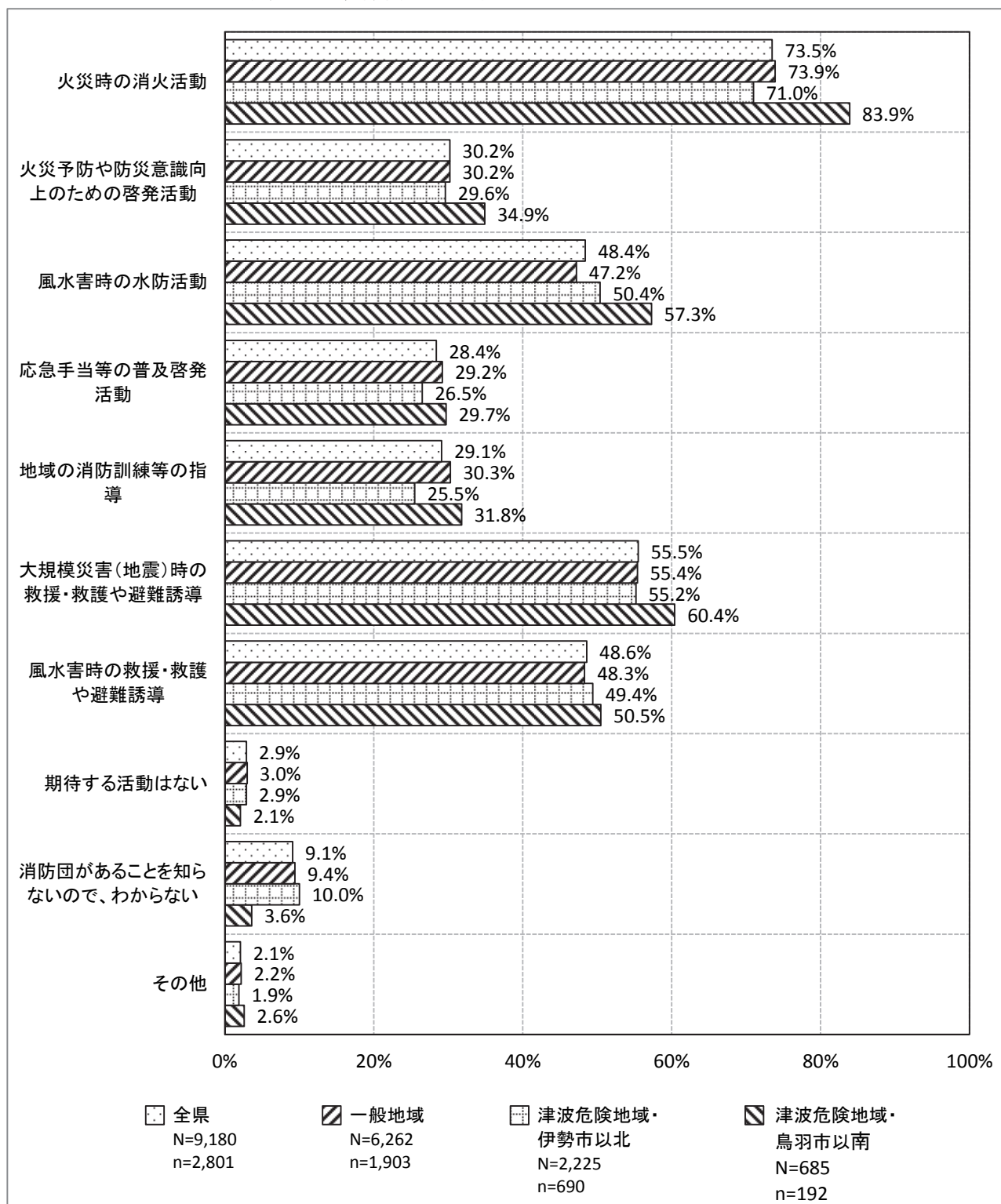
「その他」の回答では、「企業の業種により支援できる物資や機材の支援と、それを使う事のできるマンパワーの提供も必要だと思います。例えば、崩れた資材を排除するための道具（チェーンソーやユニック等）が一般市民では扱えない人のほうが多いから」、「ペットたちの居場所&食料」などの記載がありました。

3.3.18 地域の消防団に期待する活動内容

【問 22】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつかでも○) <新規>

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害（地震）時の救援・救護や避難誘導
7. 風水害時の救援・救護や避難誘導
8. 期待する活動はない
9. 消防団があることを知らないので、わからない
10. その他 具体的に：

図 3.3.18 地域の消防団に期待する活動内容 -全県及び地域別- <複数回答>



「地域の消防団に期待する活動内容」について、全ての地域において「火災時の消火活動」に 7割以上の方が高い期待を持たれています。

また、消火活動以外にも「大規模災害(地震)時の救援・救護や避難誘導」、「風水害時の救援・救護や避難誘導」、「風水害時の水防活動」など、災害発生時の活動について、消防団に対する期待が大きいことが伺えます。

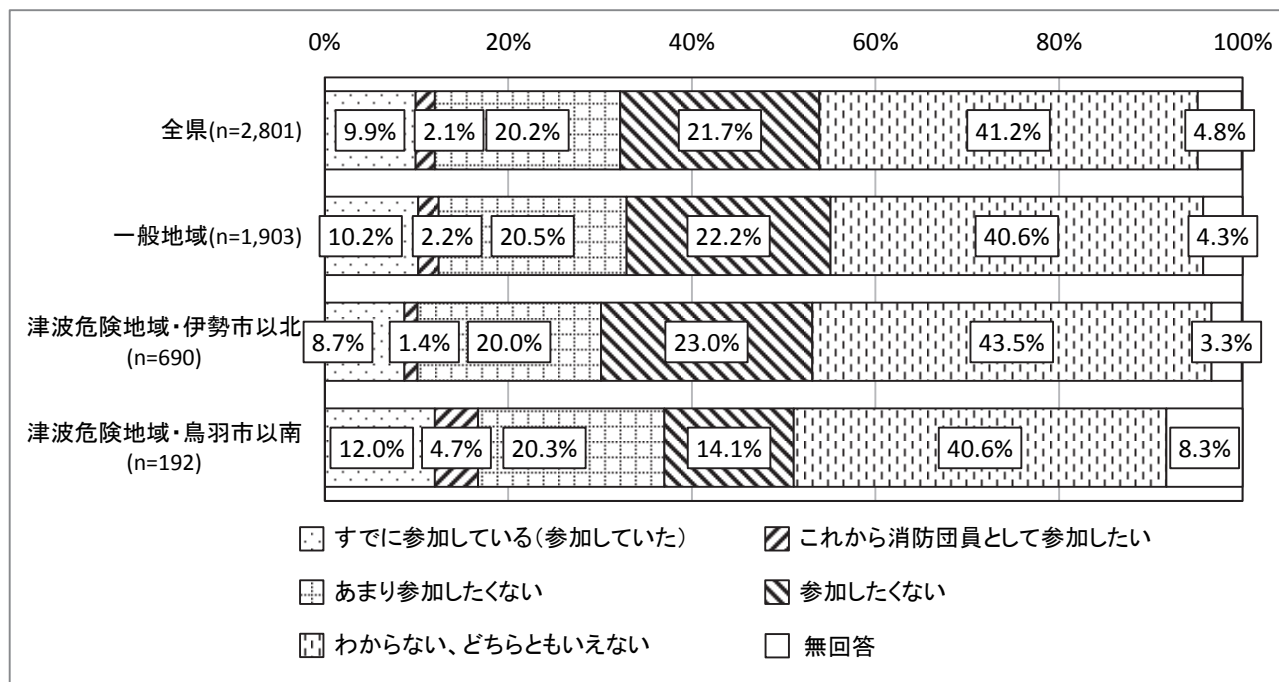
3.3.19 地域の消防団への参加

【問 23】 あなたは消防団活動に参加したいと思いますか。(一つだけ○) <新規>

- | | |
|----------------------|---------|
| 1. すでに参加している(参加していた) | →問 25 へ |
| 2. これから消防団員として参加したい | →問 25 へ |
| 3. あまり参加したくない | →問 24 へ |
| 4. 参加したくない | →問 24 へ |
| 5. わからない、どちらともいえない | →問 25 へ |

調査結果

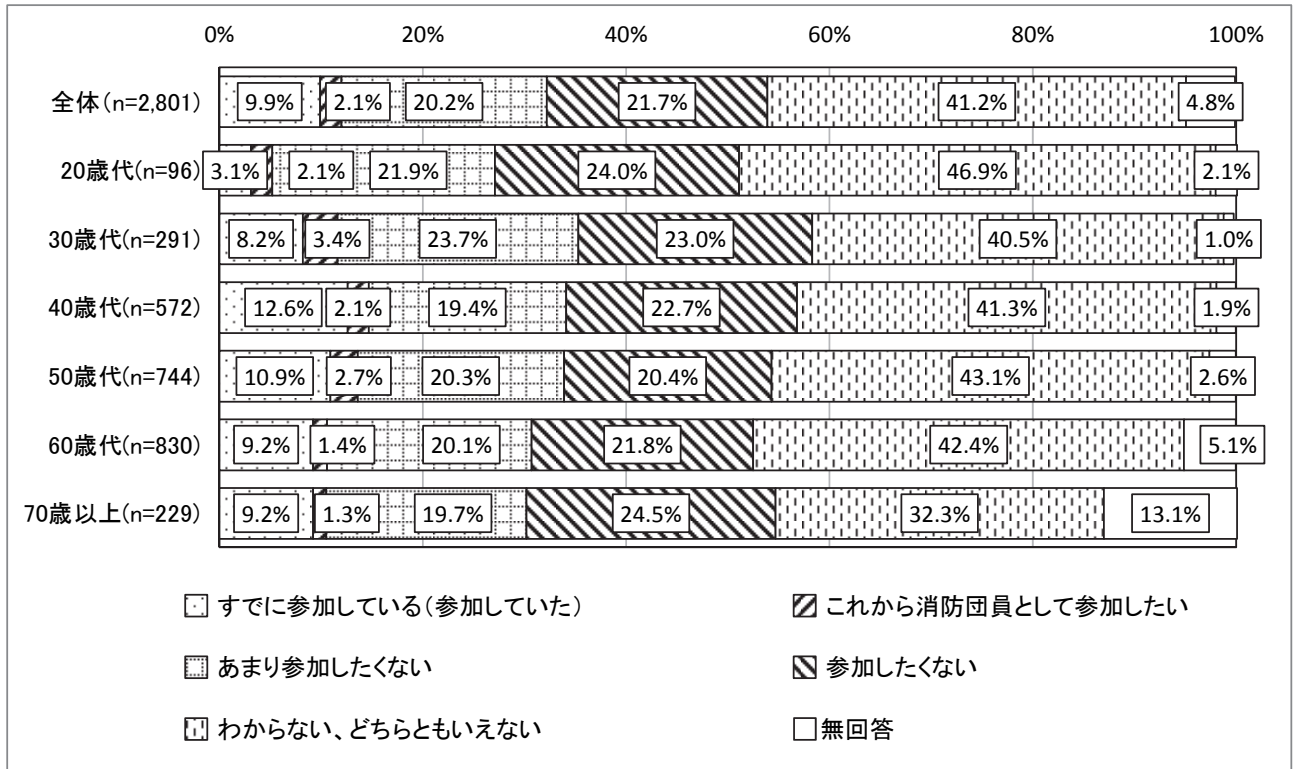
図 3.3.19 (1) 地域の消防団への参加 -全県及び地域別-



「地域の消防団への参加」について、全ての地域において4割以上の方が「分からない、どちらともいえない」と回答しています。

また、約4割の方が「あまり参加したくない」、「参加したくない」と答えており、地域の消防団への参加に躊躇しています。

図 3.3.19 (2) 地域の消防団への参加 -全体及び年代別-



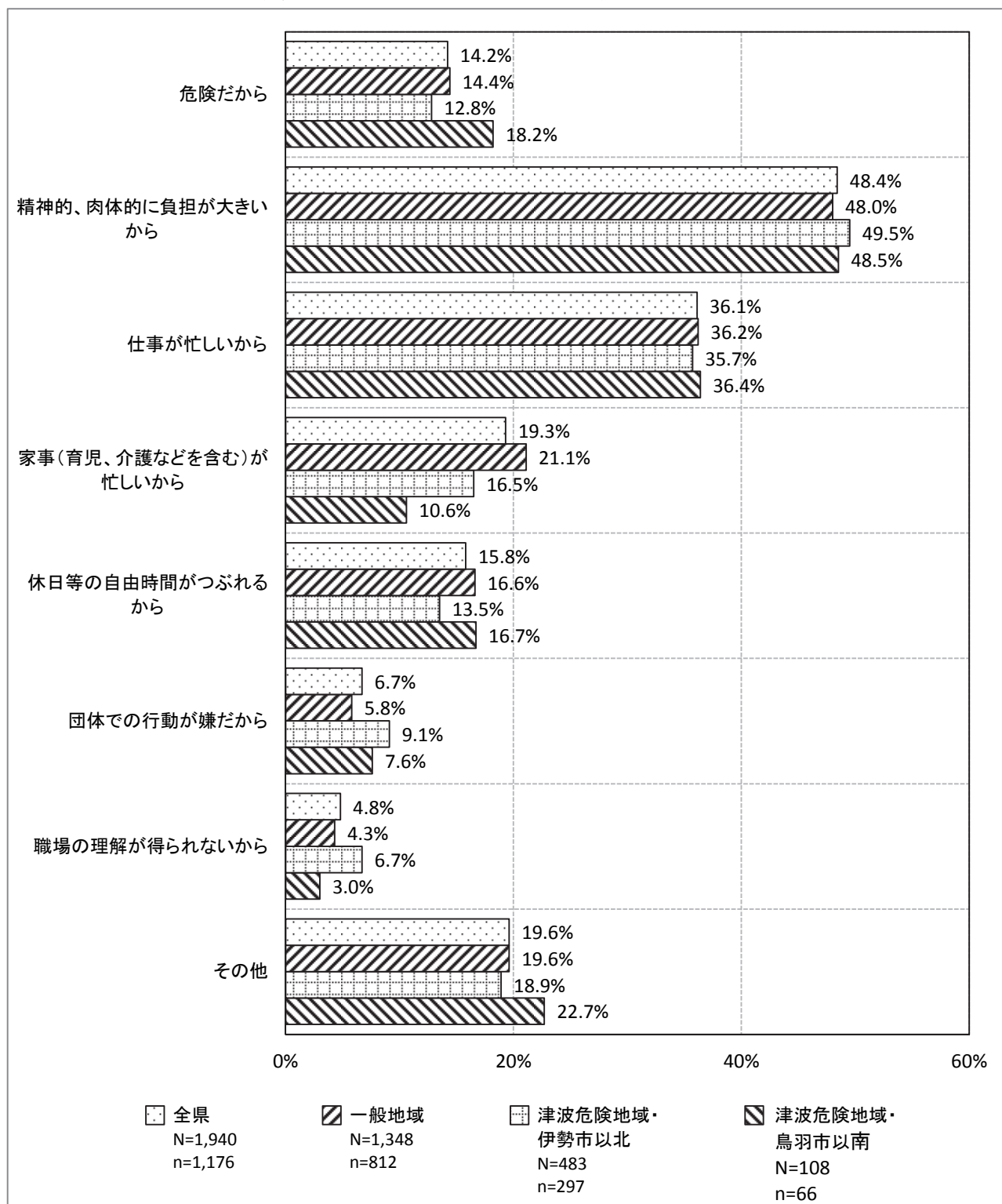
年代別にみると、「消防団にすでに参加している（参加していた）」人は40歳代が最も高く、若年層になるほど、参加率が低くなっています。

3.3.20 地域の消防団へ参加しない理由

【問 24】 問 23 で「3. あまり参加したくない」、「4. 参加したくない」と回答された方にお尋ねします。あなたが、消防団活動に参加したくない理由を教えてください。(いくつでも○) <新規>

1. 危険だから
2. 精神的、肉体的に負担が大きいから
3. 仕事が忙しいから
4. 家事（育児、介護などを含む）が忙しいから
5. 休日等の自由時間がつぶれるから
6. 団体での行動が嫌だから
7. 職場の理解が得られないから
8. その他 具体的に：

図 3.3.20 地域の消防団へ参加しない理由 -全県及び地域別- <複数回答>



「地域の消防団へ参加しない理由」については、全ての地域において「精神的、肉体的に負担が大きいから」が約5割と最も多くなっています。

3.3.21 自主防災組織の有無と活動状況

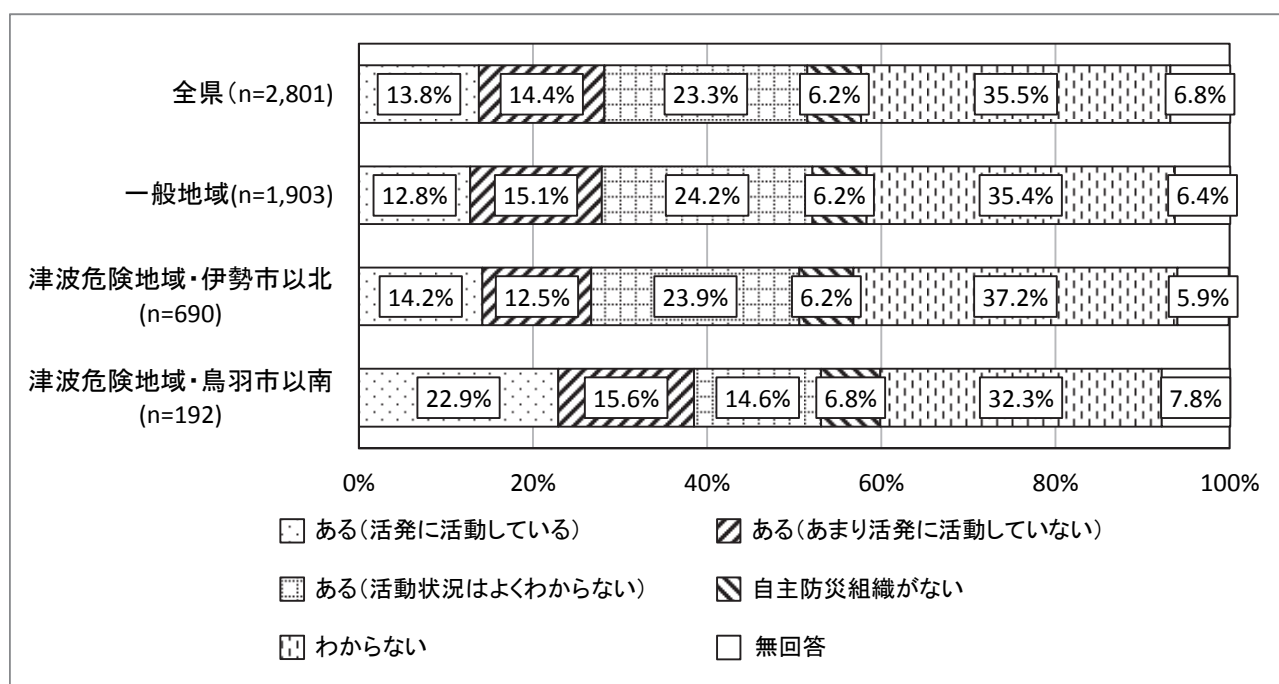
【問 25】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会などを母体とした、地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうか。

（一つだけ○）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

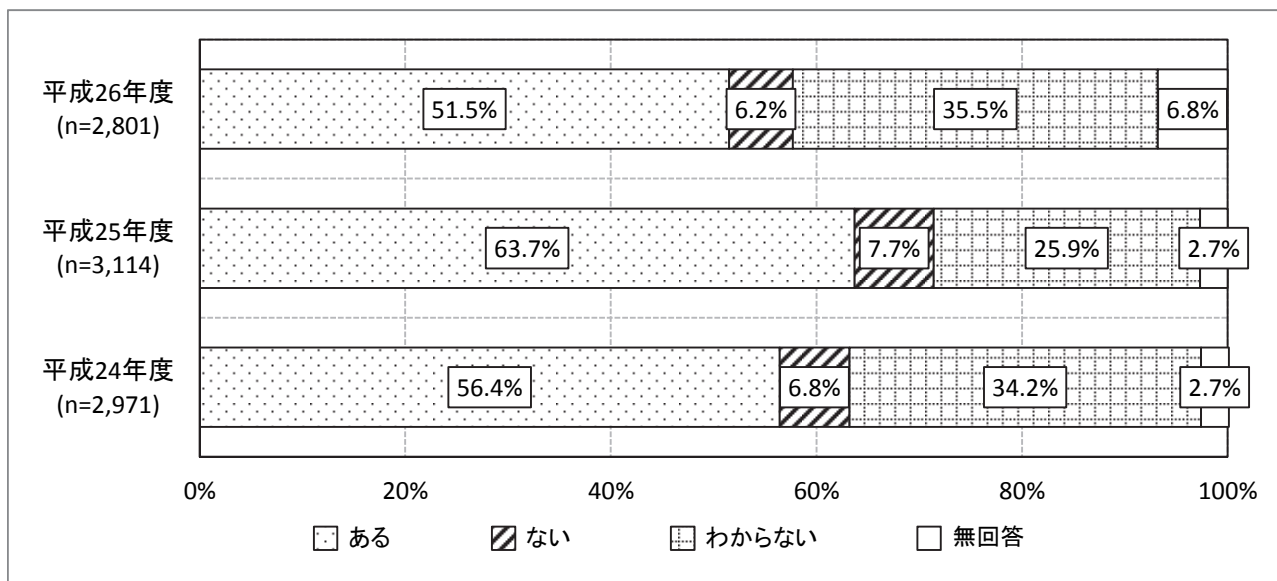
調査結果

図 3.3.21 (1) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



「自主防災組織の有無と活動状況」について、全県では「ある」が51.5%となっています。ただし、自主防災組織の活動状況について、37.7%の方が「あまり活発に活動していない」、「活動状況はよくわからない」と答えています。

図 3.3.21 (2) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県経年変化-



経年変化で見ると、自主防災組織が「ある」との回答が、昨年度と比べて 12.2 ポイント低下し 51.5%となり、「わからない」が 9.6 ポイント上昇し 35.5%でした。

地域での自主防災組織の活動が、住民に周知されていないことが伺えます。

3.3.22 就学している児童生徒の有無

【問 26】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる } 問 26-1 へ

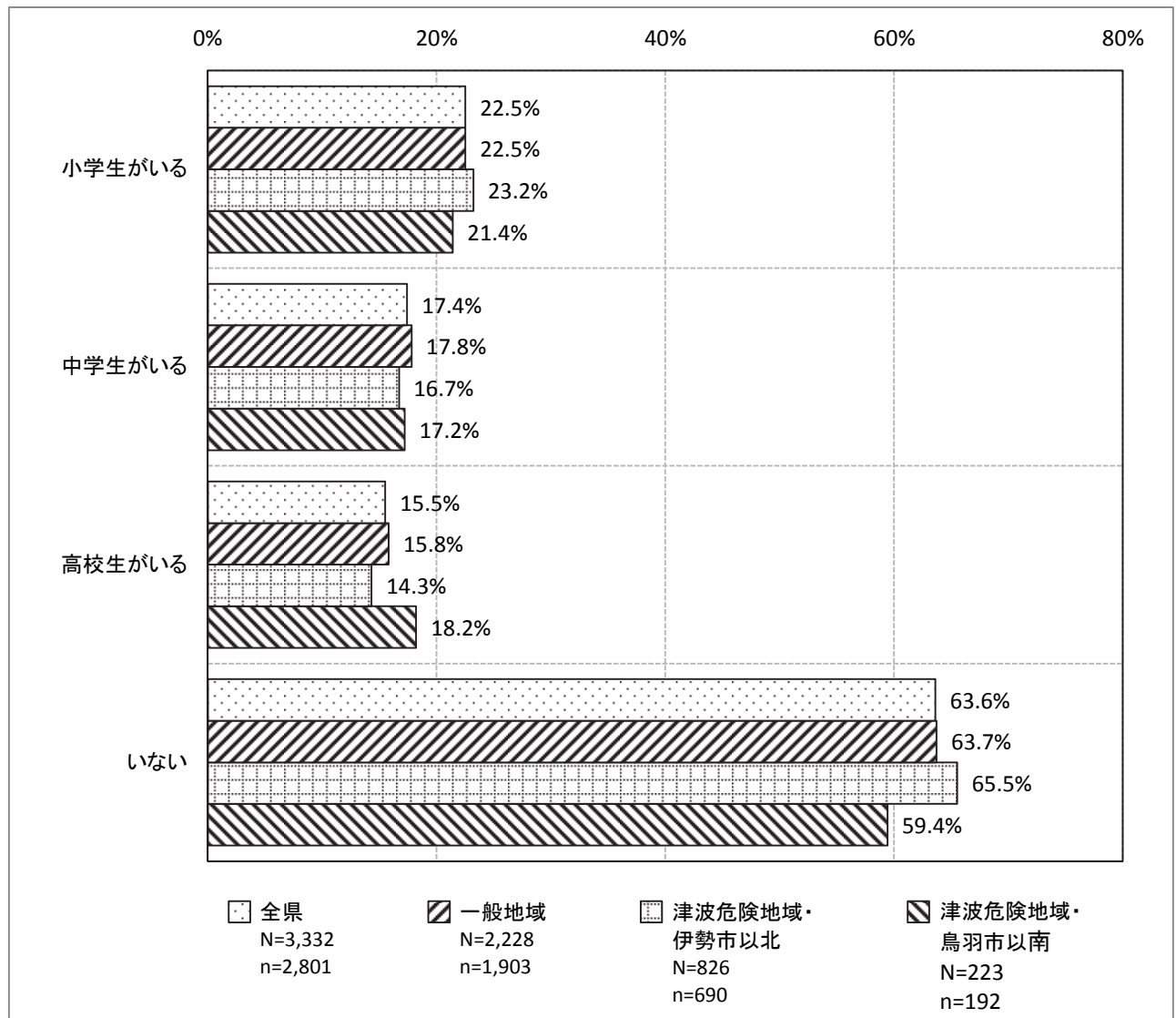
2. 中学生がいる }

3. 高校生がいる }

4. いない → 問 26-2 へ

調査結果

図 3.3.22 就学している児童生徒の有無 -全県及び地域別- <複数回答>



【問 26-1】 以下の学校の防災教育にかかる設問のための基礎データとして収集しました。

3.3.23 学校の防災教育の家庭での認知度

【問 26-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についてどの程度知っていますか。

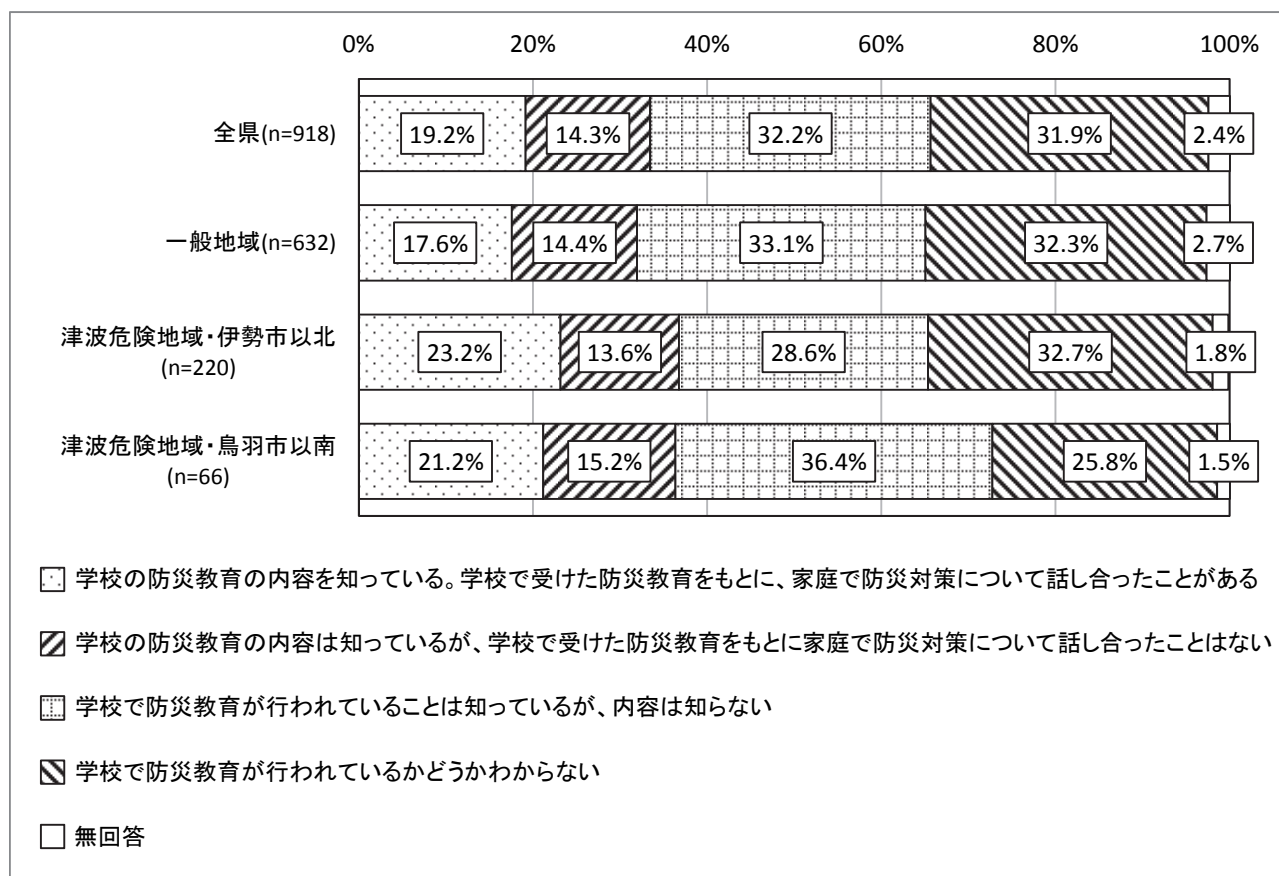
(一つだけ〇)

※複数の児童生徒がおられる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている。学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

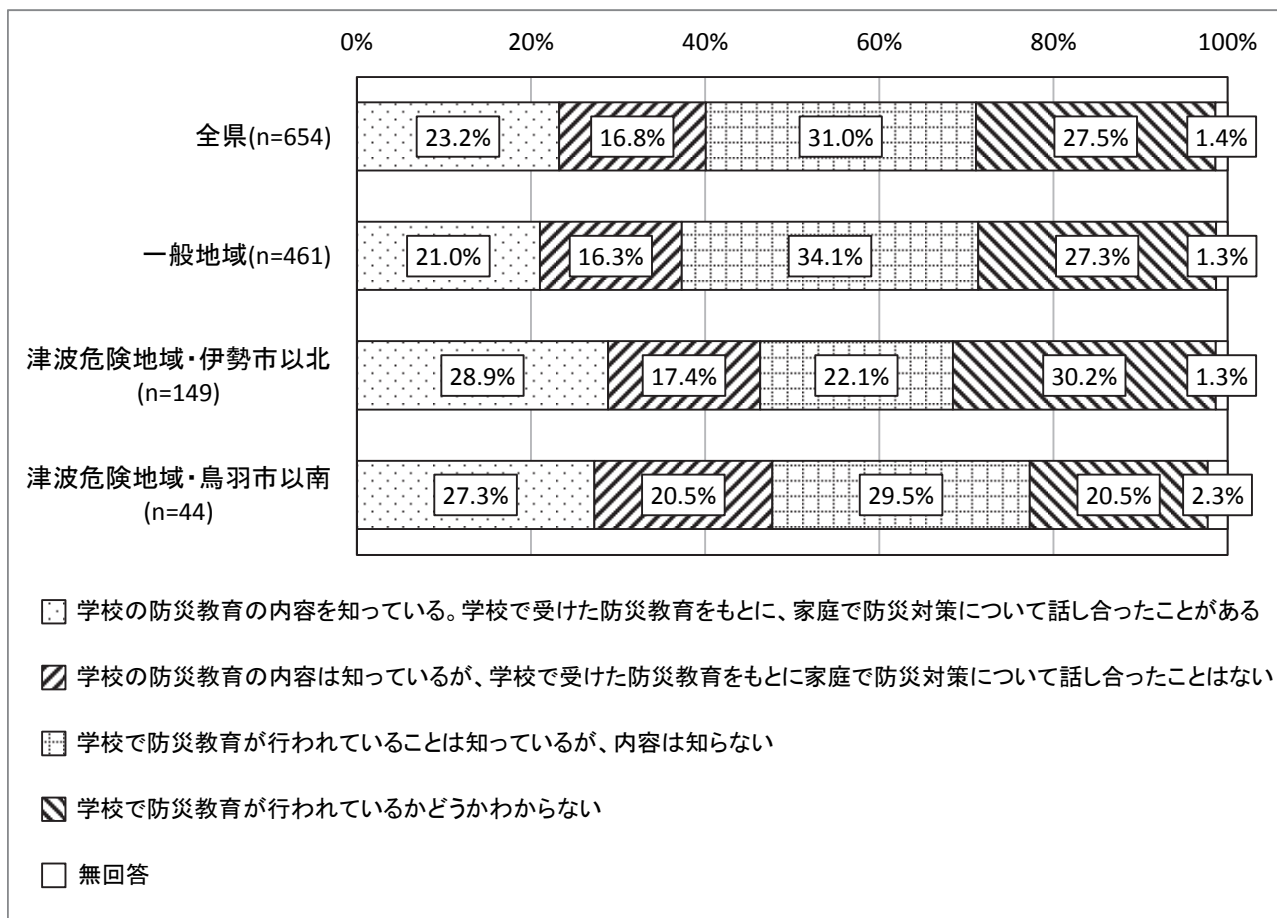
調査結果

図 3.3.23 (1) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び地域別-



小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の方に聞いたところ、「学校の防災教育の認知度」について、「学校の防災教育の内容を知っている。学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」が 33.5%となっていますが、ほぼ同率の 31.9%が「学校で防災教育が行われているかどうかわからない」と答えています。

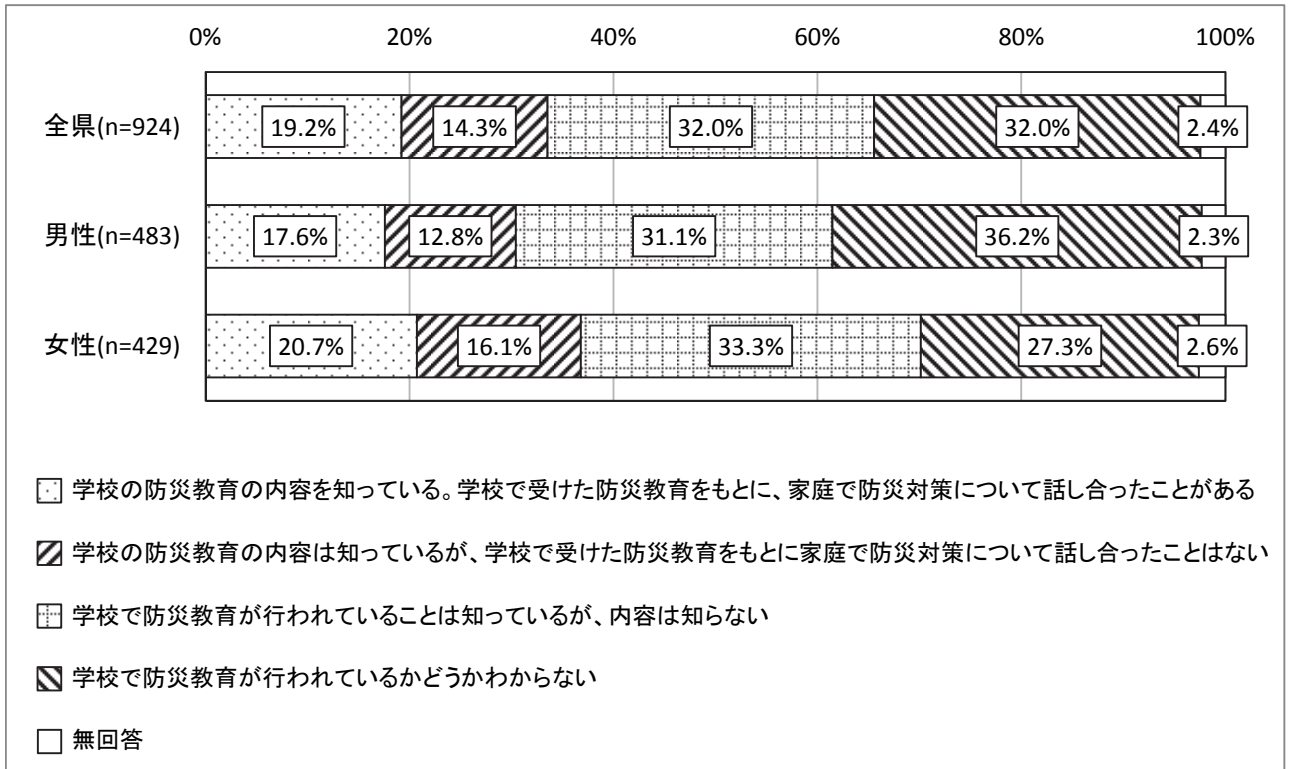
図 3.3.23 (2) 学校の防災教育の家庭での認知度 - 全県及び地域別 (60 歳未満の方) -



「学校の防災教育の家庭での認知度」について、直接の保護者の可能性が高い60歳未満の方で見ると、「学校で防災教育の内容を知っている」の割合は40.0%に高まります。しかしながら、4人に1人以上の方が「学校で防災教育が行われているかどうか分からない」と答えています。

地域別にみると、津波危険地域（伊勢市以北）で28.9%、津波危険地域（鳥羽市以南）で27.3%が「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と回答しており、他の地域よりも高くなっています。

図 3.3.23 (3) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び性別-



性別で見ると、「学校の防災教育の内容を知っている」割合は、男性が30.4%、女性が36.8%となっています。

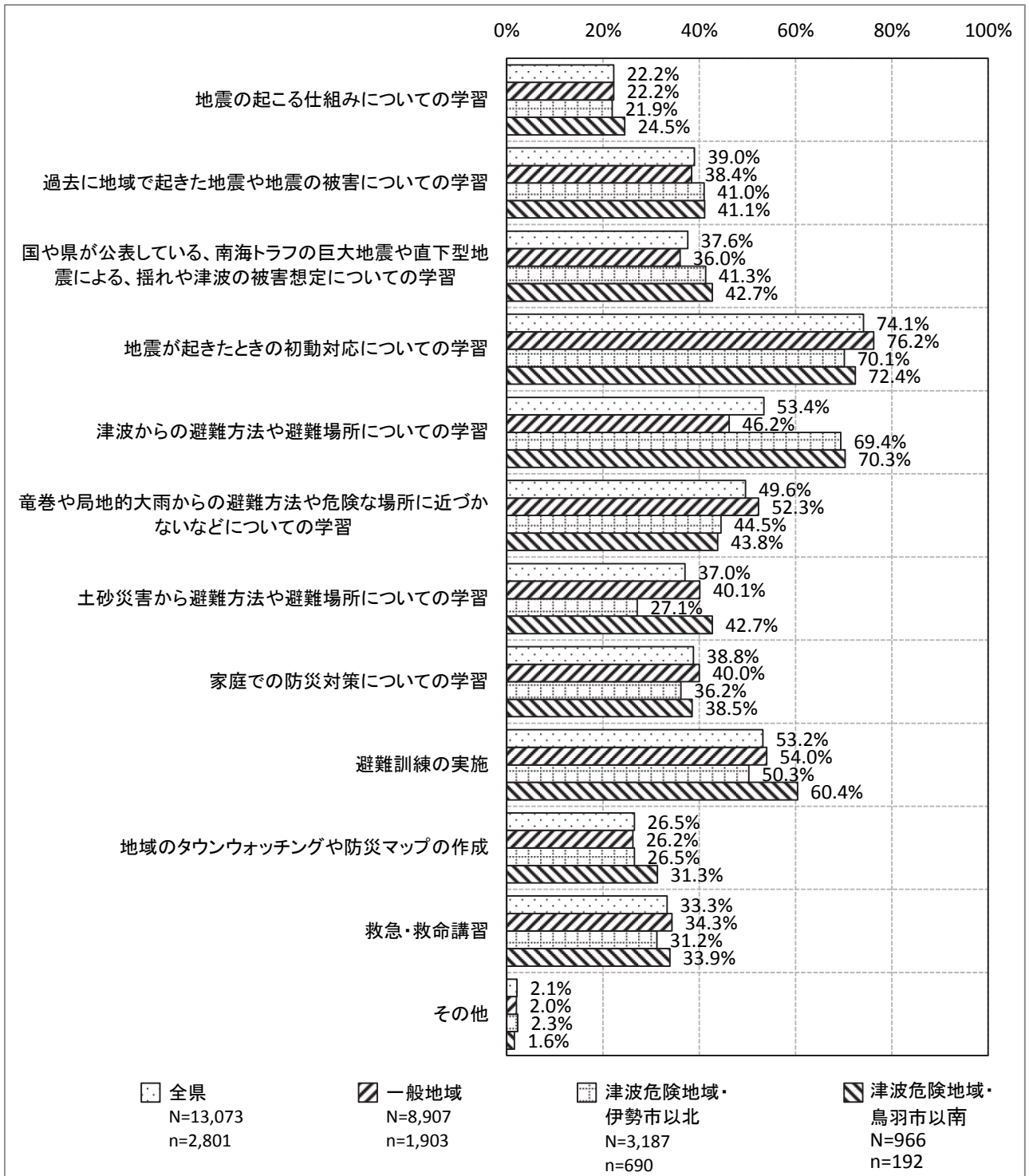
また、「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」では、男性が17.6%、女性が20.7%となっており、いずれも女性が高くなっています。

3.3.24 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの

【問 26-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(いくつでも
○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフの巨大地震や直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 竜巻や局地的大雨からの避難方法や危険な場所に近づかないなどについての学習
7. 土砂災害から避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 具体的に：

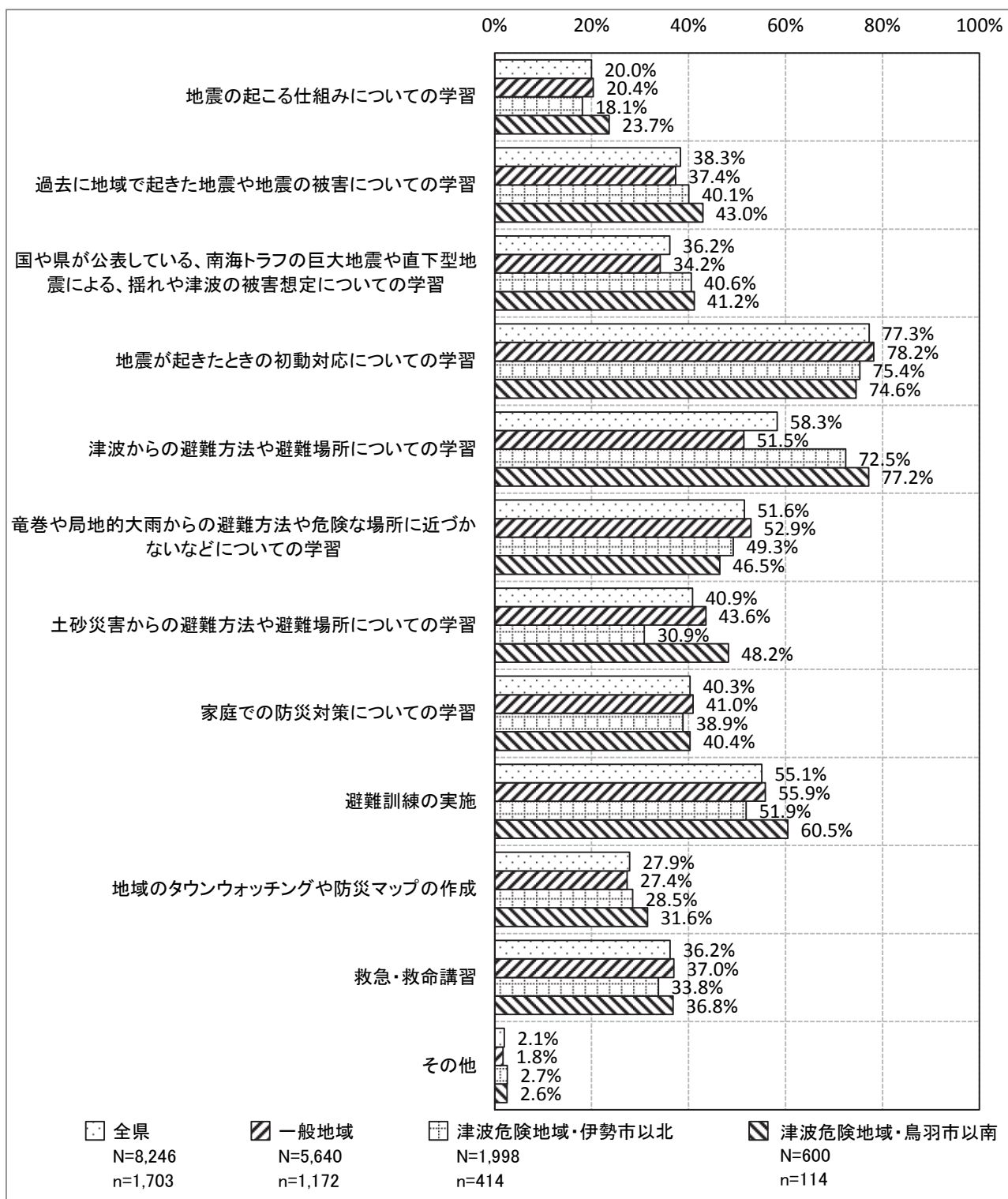
図 3.3.24 (1) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別- (複数回答)



「防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの」について、「地震が起きたときの初動対応についての学習」が全ての地域で70%以上と多くなっています。津波危険地域では「津波からの避難方法や避難場所についての学習」についても同様に多くなっています。また、全ての地域で過半数の方が「避難訓練の実施」を希望しています。

「その他」の回答では、「学校内だけでなく、地域と一緒に避難訓練を行うよう連携する」、「自分自身の命を守る行動についての学習と自助・共助・公助」「登下校時や放課後、親がいない時の避難の方法（自ら避難できるように、助けを求められるように）」などの記載がありました。

図 3.3.24 (2) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別（60歳未満の方）-



「防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの」について、60歳未満の方でも、全県、一般及び津波危険の各地域で「地震が起きたときの初動対応についての学習」、「津波からの避難方法や避難場所についての学習」、「避難訓練の実施」を希望している傾向は、年齢を限定しないケース（前ページの調査結果）と同様です。

3.3.25 防災に関する啓発活動等の認知度

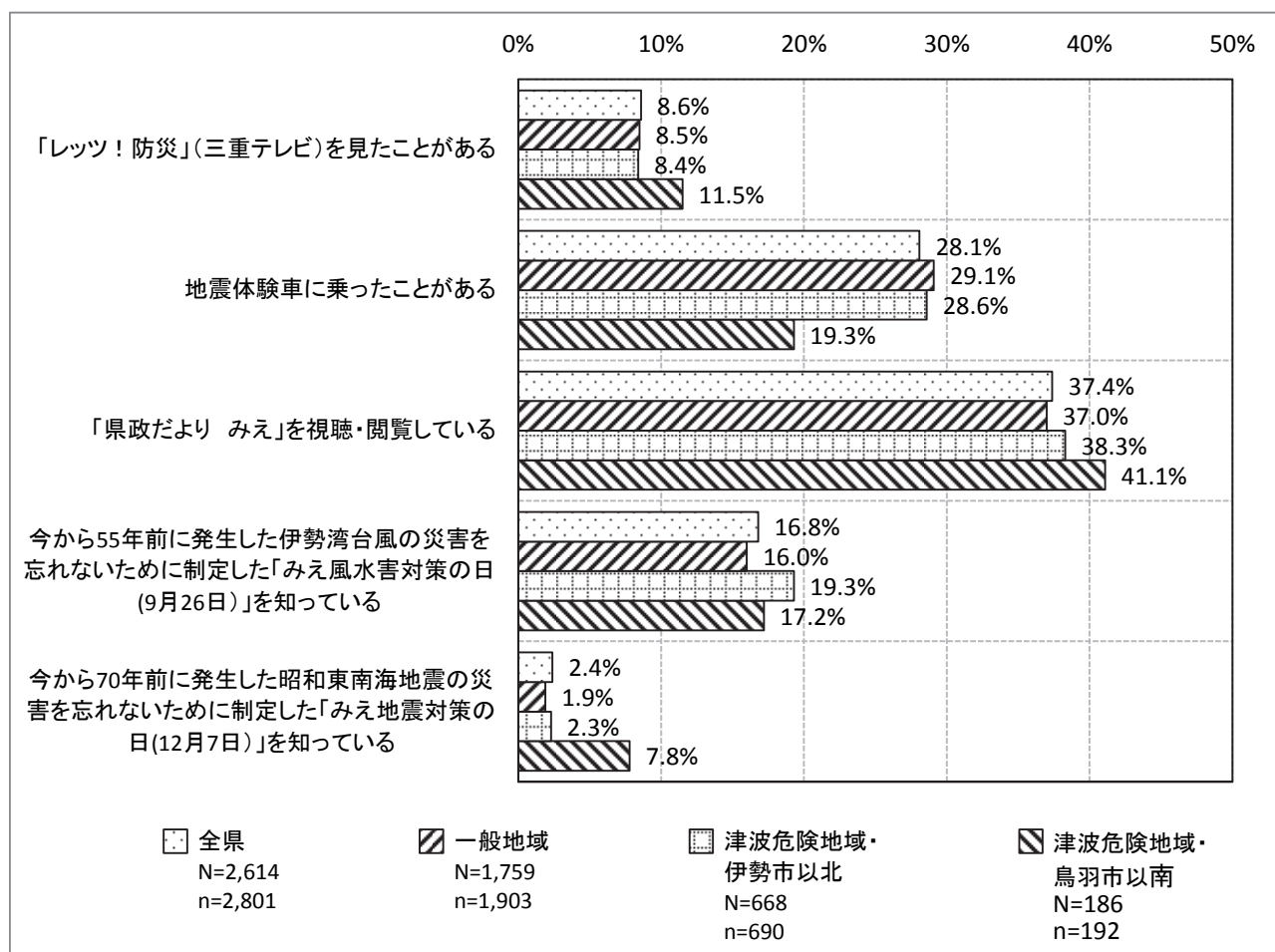
【問 27】 三重県が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存じですか。

(いくつでも○)

- 1. 「レッツ！防災」(三重テレビ)を見たことがある
 - 2. 地震体験車に乗ったことがある
 - 3. 「県政だより みえ」を視聴・閲覧している
 - 4. 今から 55 年前に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている
 - 5. 今から 70 年前に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日(12月7日)」を知っている
- } 問 27-1 へ
→問 28 へ
→問 28 へ
→問 28 へ

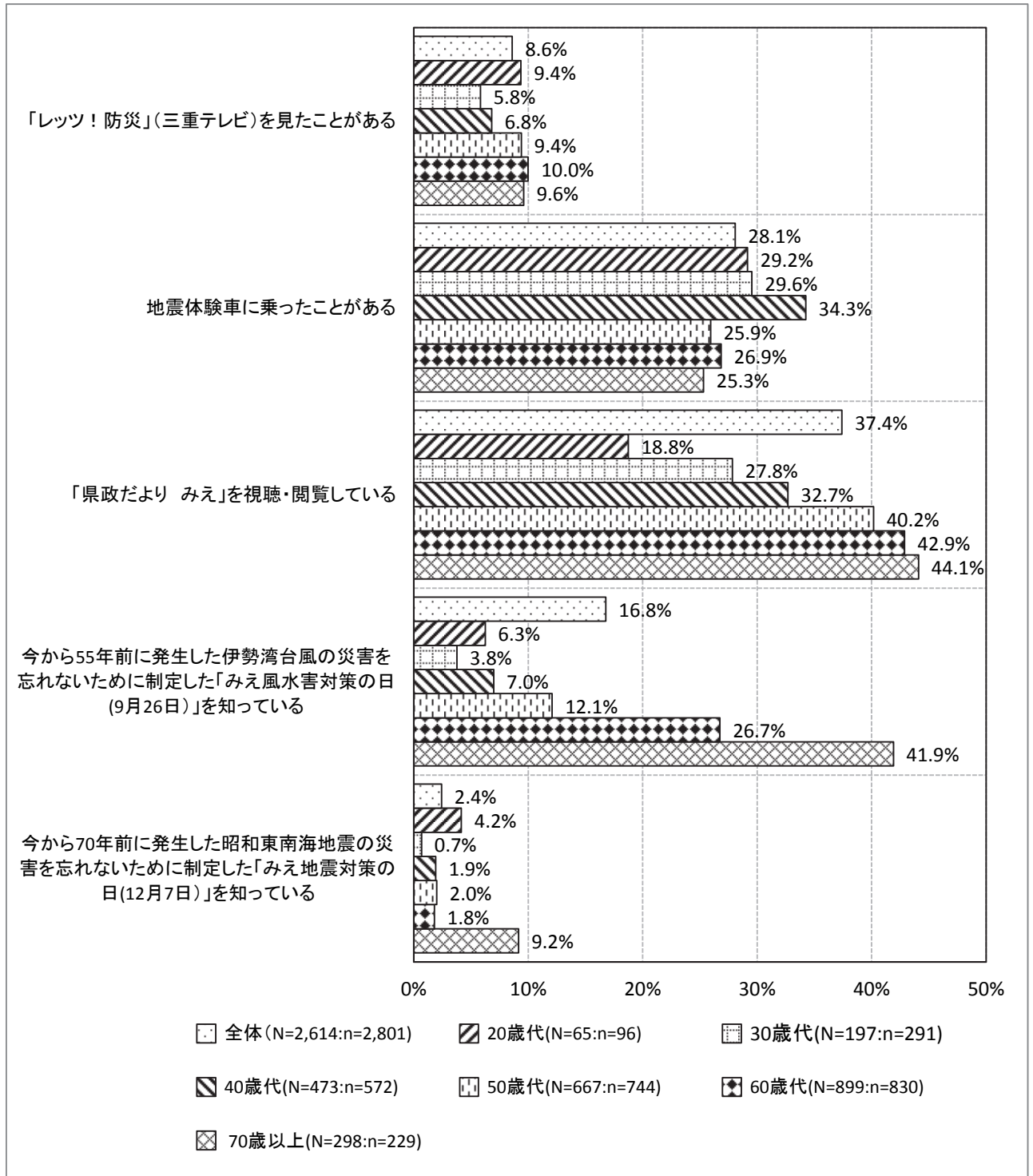
調査結果

図 3.3.25 (1) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



「防災に関する啓発活動等の認知度」について、全般的に「県政だより みえ」を視聴・閲覧している」が最も多く、次いで「地震体験車に乗ったことがある」が多くなっています。

図 3.3.25 (2) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全体及び年代別-



年代別でみると、50歳代から70歳以上で「「県政だより みえ」を視聴・閲覧している」が高くなっている一方、20歳代による視聴・閲覧が低くなっています。

「地震体験車に乗ったことがある」と回答された方は全年齢で大きな差はありませんでした。

3.3.26 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか

【問 27-1】 問 27 で 1～2 に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。
(該当する活動ごとに○)

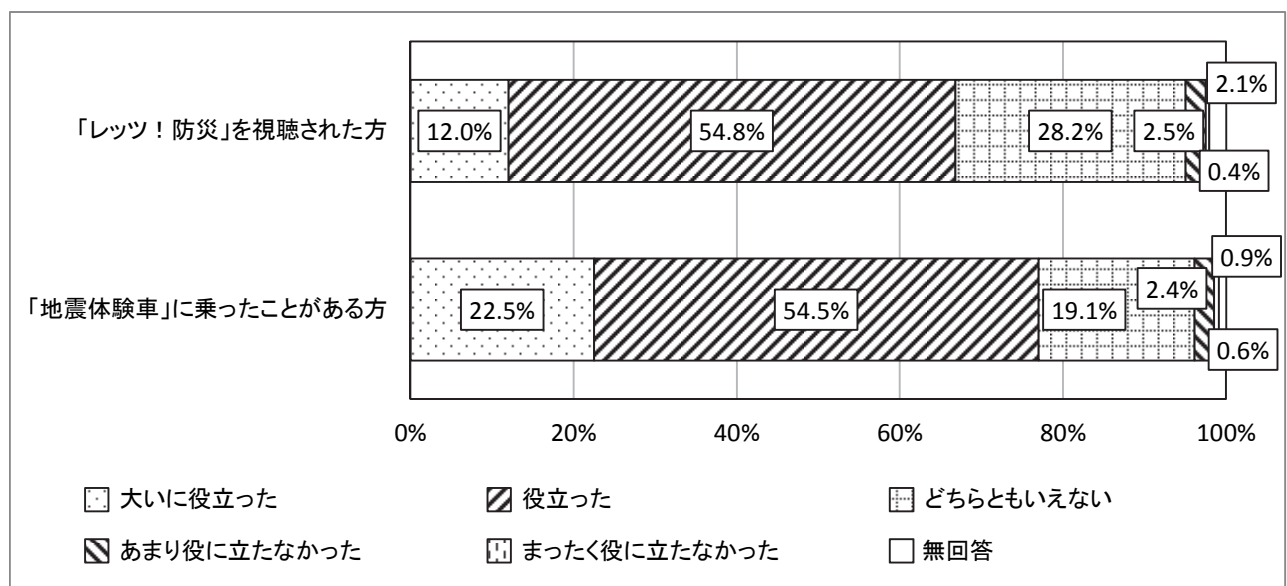
啓発活動

- * 「レッツ！防災」を視聴された方
- * 「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

調査結果

図 3.3.26 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか -全県-



「啓発活動は防災意識の向上に役立ったか」について、「役立った（大いに役立った＋役立った）」は、「レッツ！防災」を視聴された方が66.8%、「地震体験車」に乗ったことがある方が77.0%となっています。

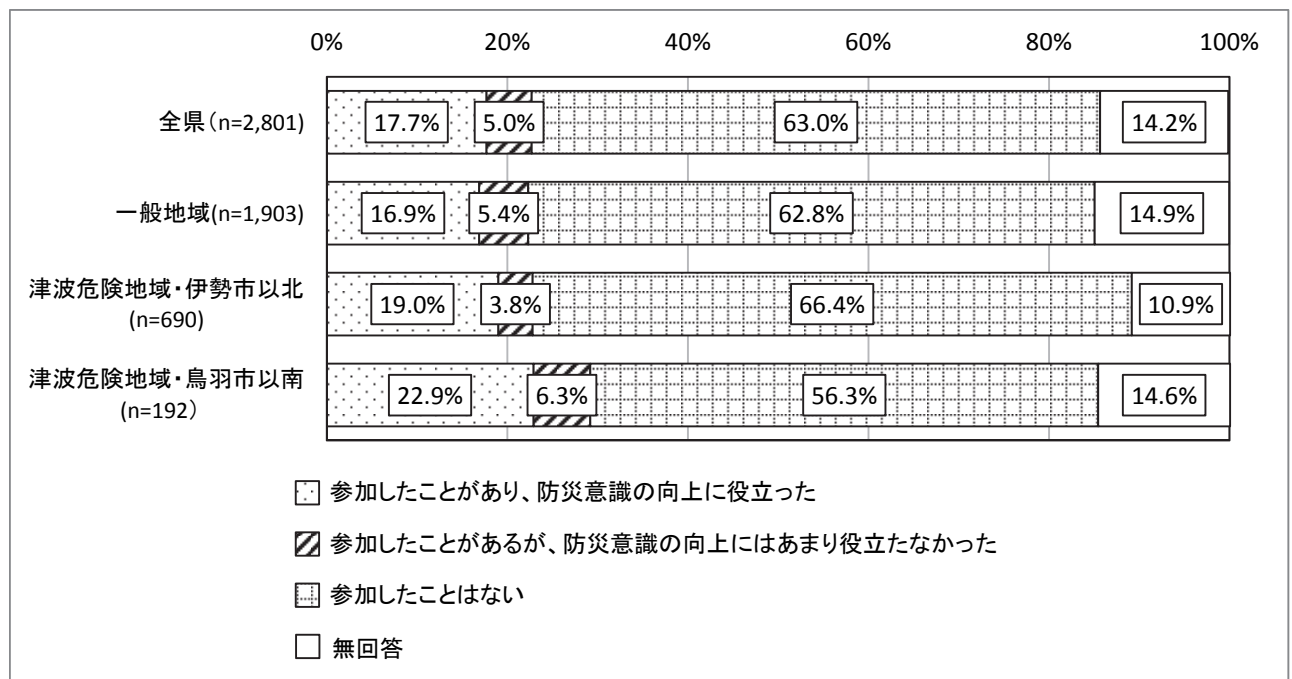
3.3.27 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか

【問 28】 あなたは、県、市町及び民間団体等が開催した防災に関する講演会、研修会に参加したことがありますか。また、参加した方は防災意識の向上に役立ちましたか。
(一つだけ○)

1. 参加したことがあり、防災意識の向上に役立った
2. 参加したことがあるが、防災意識の向上にはあまり役立たなかった
3. 参加したことはない

調査結果

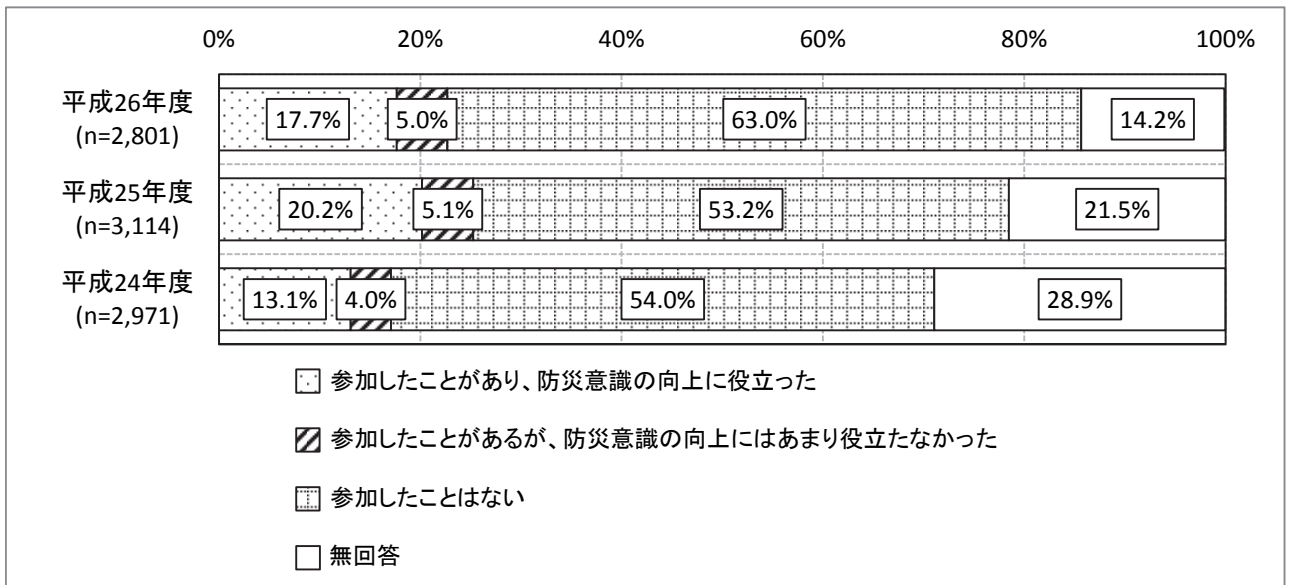
図 3.3.27 (1) 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか
-全県及び地域別-



「防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか」について、全般的に「参加したことがない」が最も多くなっています。

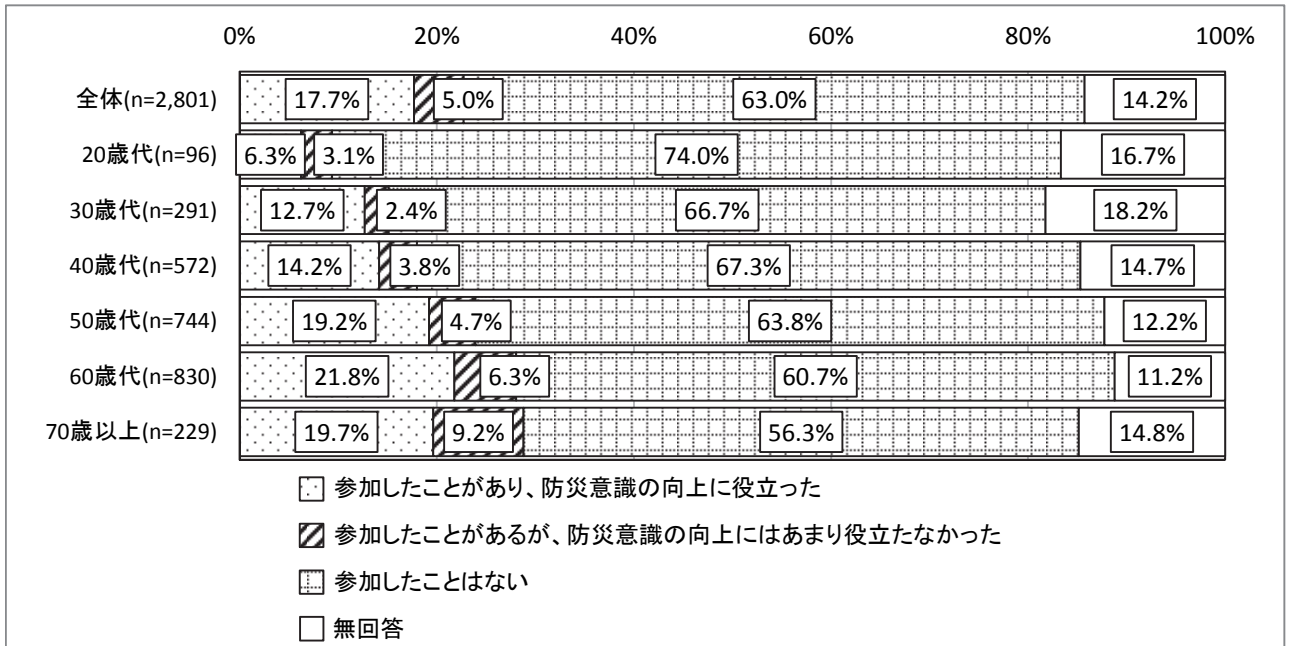
津波危険地域（鳥羽市以南）では、「参加したことがあり、防災意識の向上に役立った」が他の地域に比べて高くなっています。

図 3.3.27 (2) 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか
-全県経年変化-



経年変化でみると、「参加したことはない」が9.8ポイント増えており、問17の地域・職場での防災活動への参加経験の結果を裏付けています。

図 3.3.27 (3) 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか
-全体及び年代別-



年代別にみると、講演会や研修会への参加率は若年層になるほど低くなる傾向が見られます。

図 3.3.27 (4) ① 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか
-問 28 と問 10 のクロス集計-

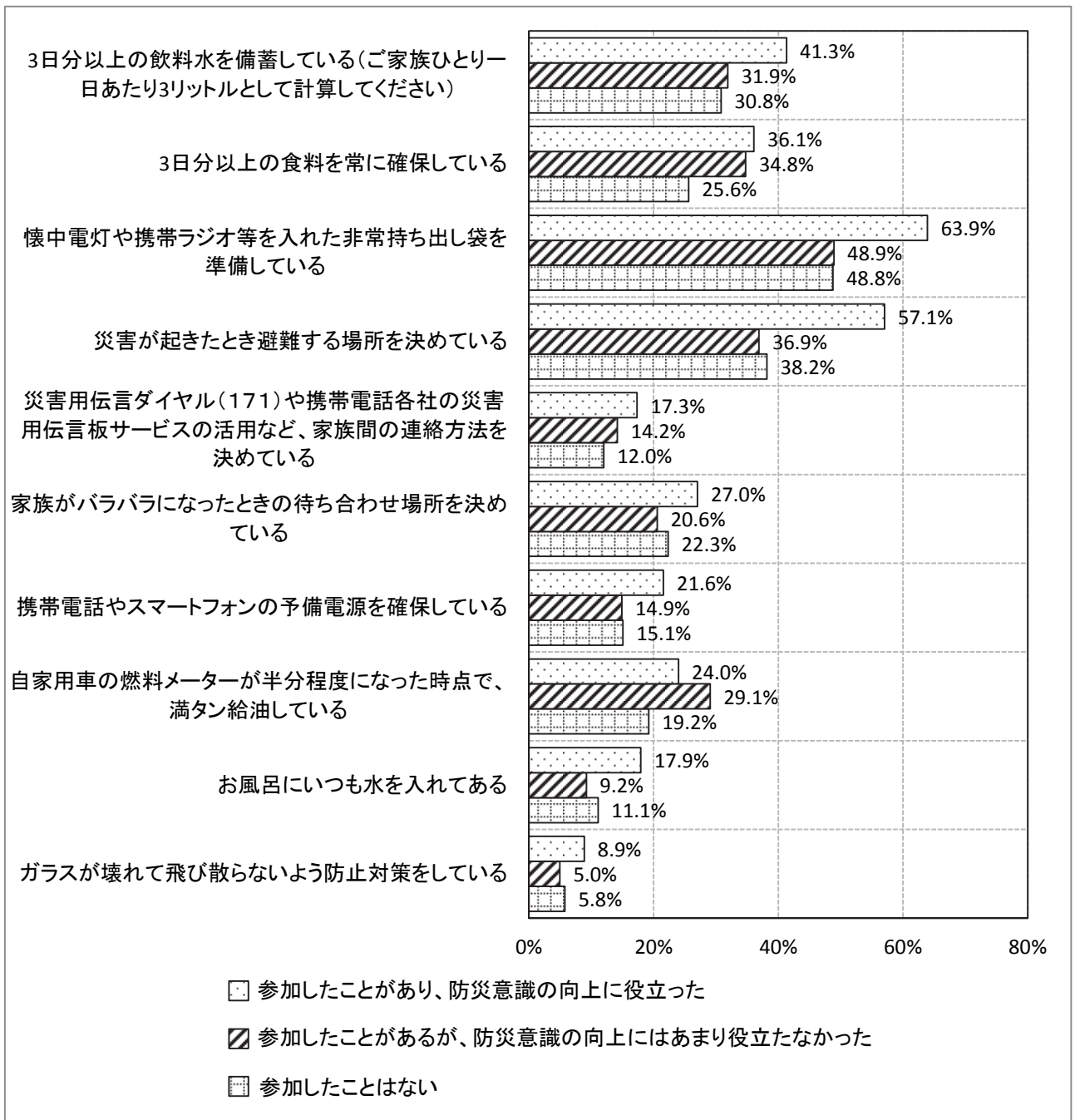
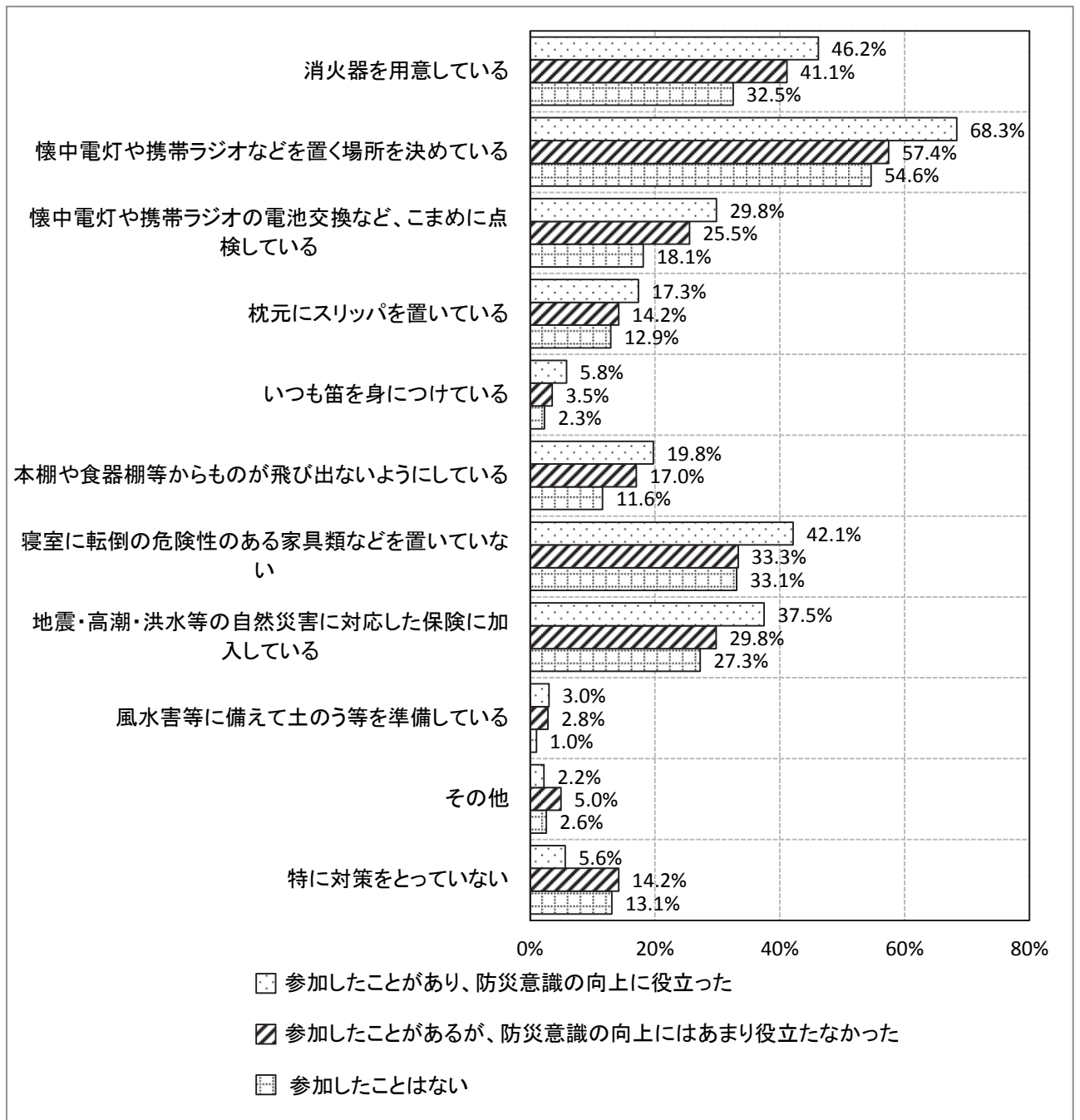


図 3.3.27 (4) ② 防災に関する講演会、研修会への参加の有無と役立ったか
-問 28 と問 10 のクロス集計-



問 10 (防災対策) とのクロス集計をみると、講演会や研修会への参加経験者ほど、家庭での防災対策 (災害に対する備え) への取組率が高くなっており、例えば食料の備蓄については、全県平均の 27.2% (前出、図 3.3.1(1)) に対し、35%前後となっています。

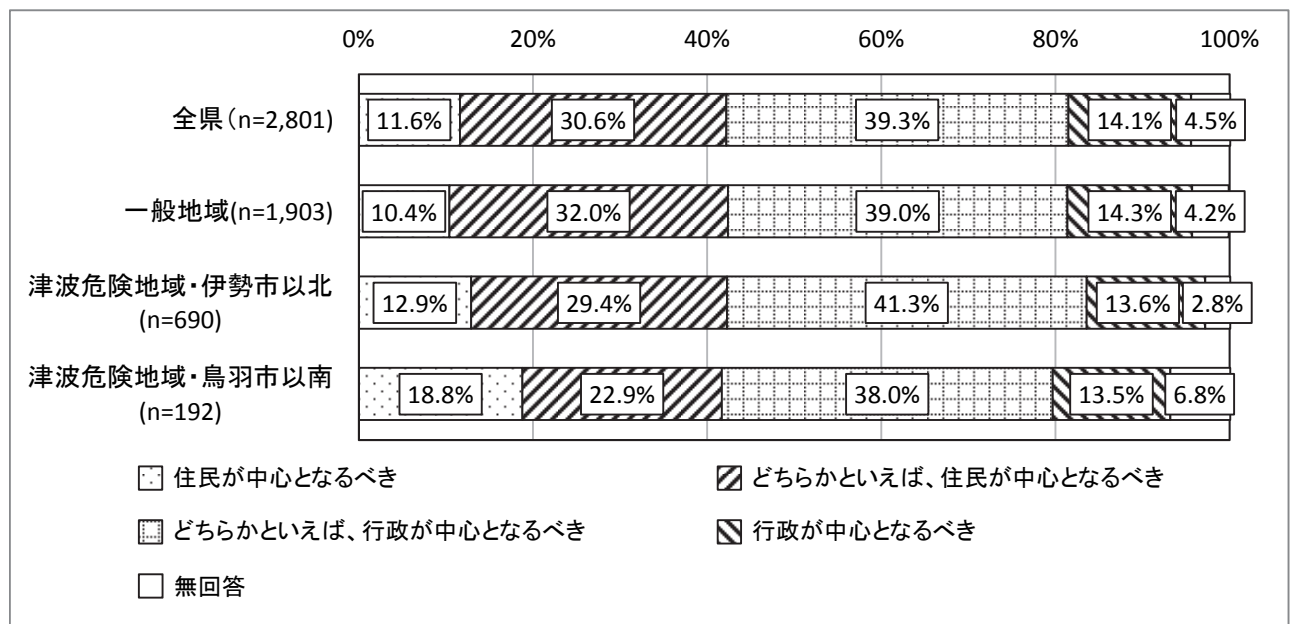
3.3.28 防災対策における住民と行政の役割分担

【問 29】 あなたは、防災対策における住民と行政の役割分担について、次のどの考えに近いですか。（一つだけ〇）

1. 住民が中心となるべき
2. どちらかといえば、住民が中心となるべき
3. どちらかといえば、行政が中心となるべき
4. 行政が中心となるべき

調査結果

図 3.3.28 防災対策における住民と行政の役割分担 -全県及び地域別-



「防災対策における住民と行政の役割分担」について、全県では「行政が中心（行政が中心となるべき＋どちらかといえば、行政が中心となるべき）」が53.4%と半数を超えています。

地域別にみても、顕著な違いはみられませんでした。津波危険地域（鳥羽市以南）で「住民が中心となるべき」との回答が他の地域に比べて多くなっています。

3.4 住まいの耐震化について

3.4.1 住まいの状況

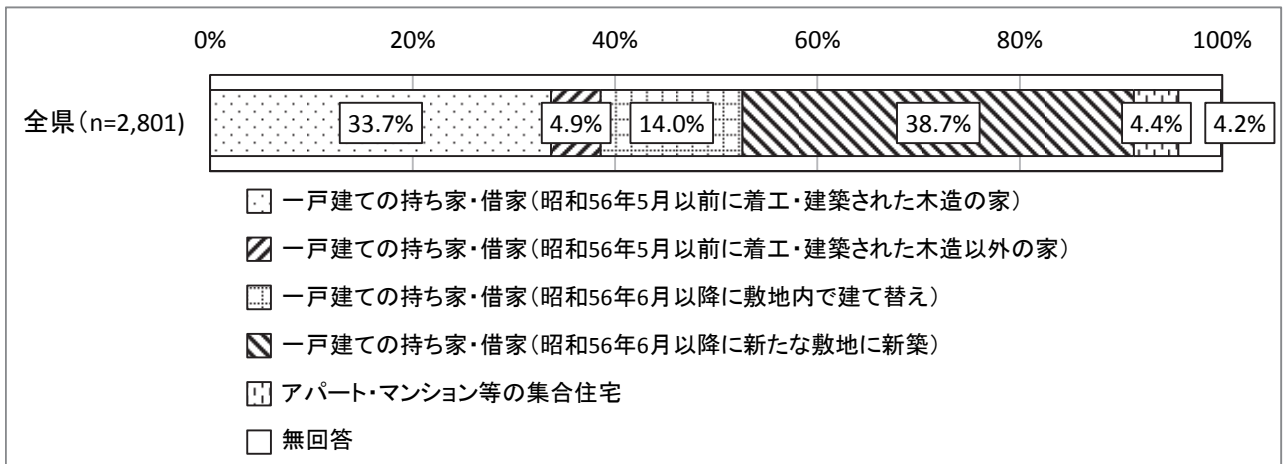
【問 30】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

- 1. 一戸建ての持ち家・借家
(昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家) →問 31 へ
- 2. 一戸建ての持ち家・借家
(昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家) →問 32 へ
- 3. 一戸建ての持ち家・借家
(昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え) →問 32 へ
- 4. 一戸建ての持ち家・借家
(昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築) →問 38 へ
- 5. アパート・マンション等の集合住宅 →問 38 へ

調査結果

図 3.4.1 住まいの状況 -全県-



【問 31】 以下の設問のための基礎データとして収集しました。

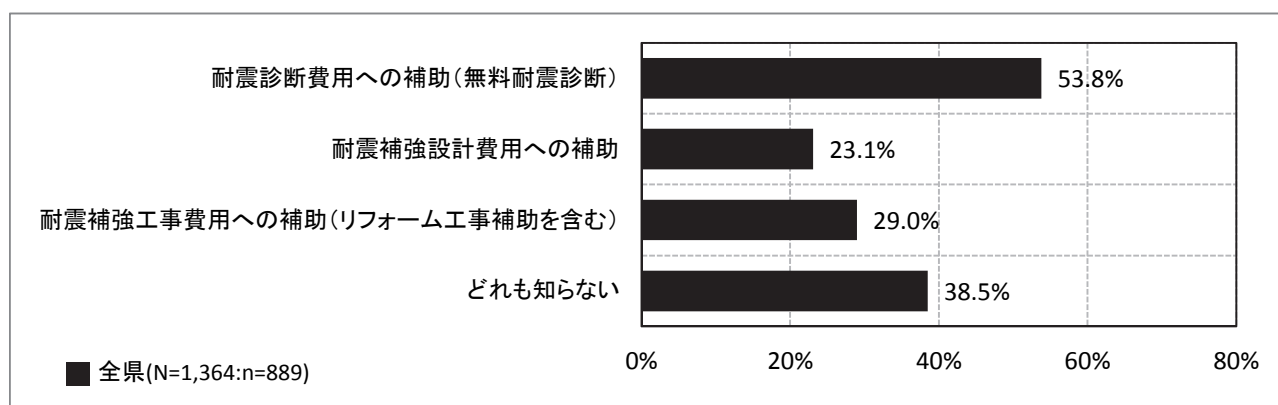
3.4.2 耐震化に向けた補助制度の認知度

【問 31】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度を知っていますか。
（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

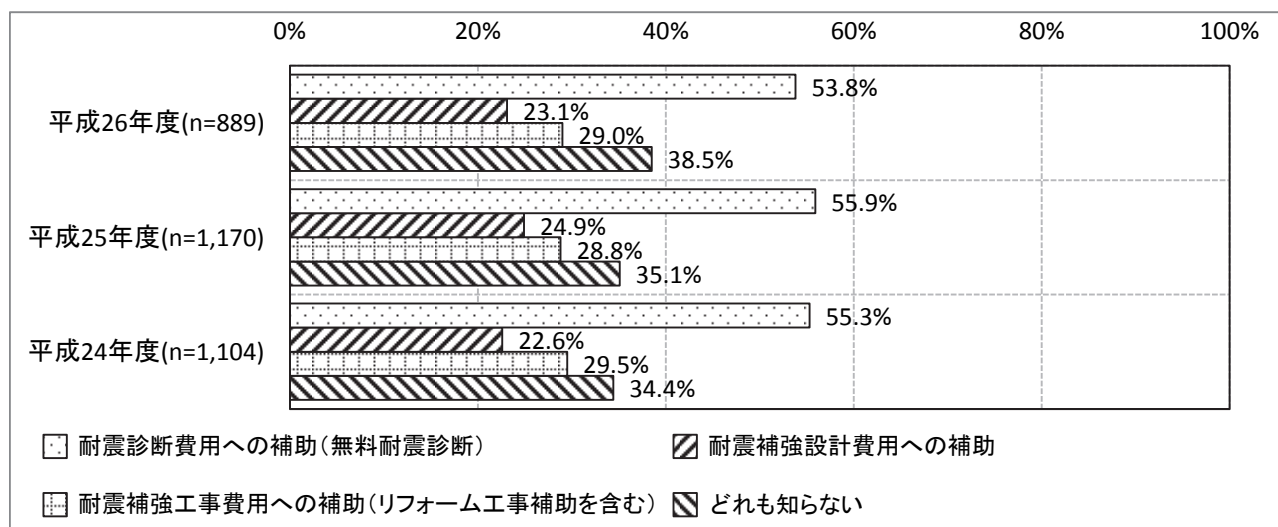
調査結果

図 3.4.2 (1) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-〈複数回答〉



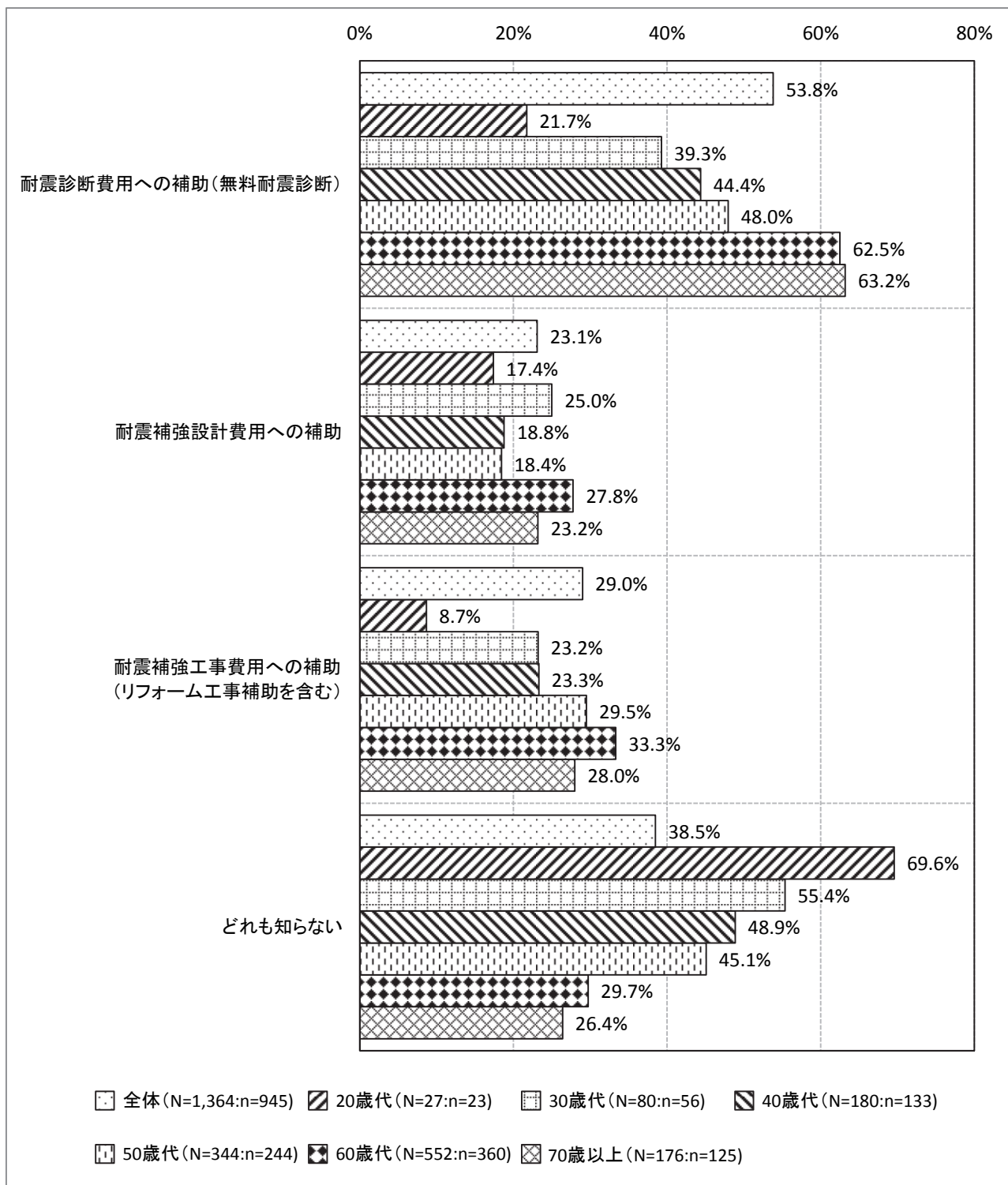
「耐震化に向けた補助制度の認知度」について、「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」が 53.8%と最も多くなっていますが、「どれも知らない」と答えられた方も 38.5%ありました。

図 3.4.2 (2) 耐震化に向けた補助制度の認知度
木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度 -経年変化-



「木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度」を経年変化でも、いずれの補助の認知度及び「どれも知らない」との回答とも、ほぼ同様で、著しい変化はありませんでした。

図 3.4.2 (3) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全体及び年代別- <複数回答>



年代別にみると、20歳代で「どれも知らない」が7割近い回答になっています。「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」の認知度が、60歳代、70歳以上で6割を超えています。

3.4.3 耐震診断の受診の有無と診断結果

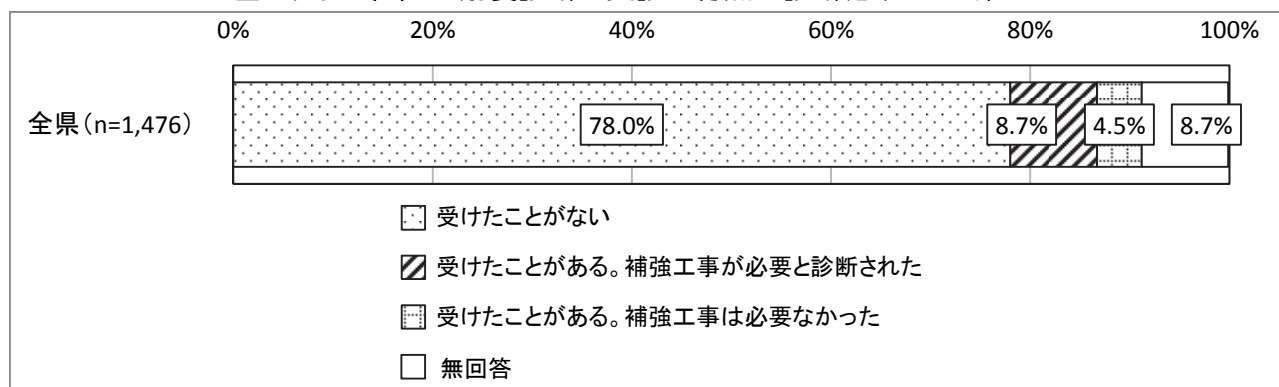
【問 32】 あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。

受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ〇）

- 1. 受けたことがない →問 32-1 へ
- 2. 受けたことがある。補強工事が必要と診断された →問 32-2 へ
- 3. 受けたことがある。補強工事は必要なかった →問 38 へ

調査結果

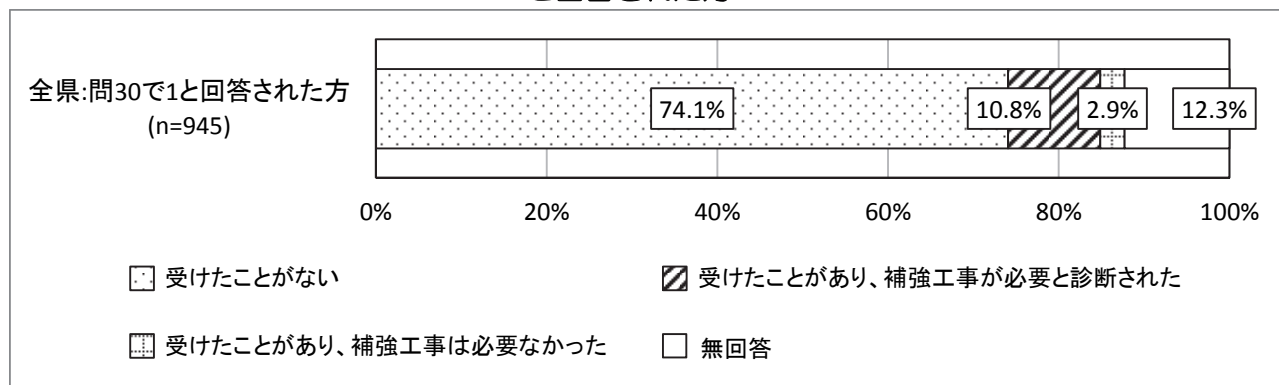
図 3.4.3 (1) 耐震診断の受診の有無と診断結果 -全県-



「耐震診断の受診の有無と診断結果」について、「受けたことがない」が78.0%で最も多くなっています。

図 3.4.3 (2) 耐震診断の受診の有無と診断結果

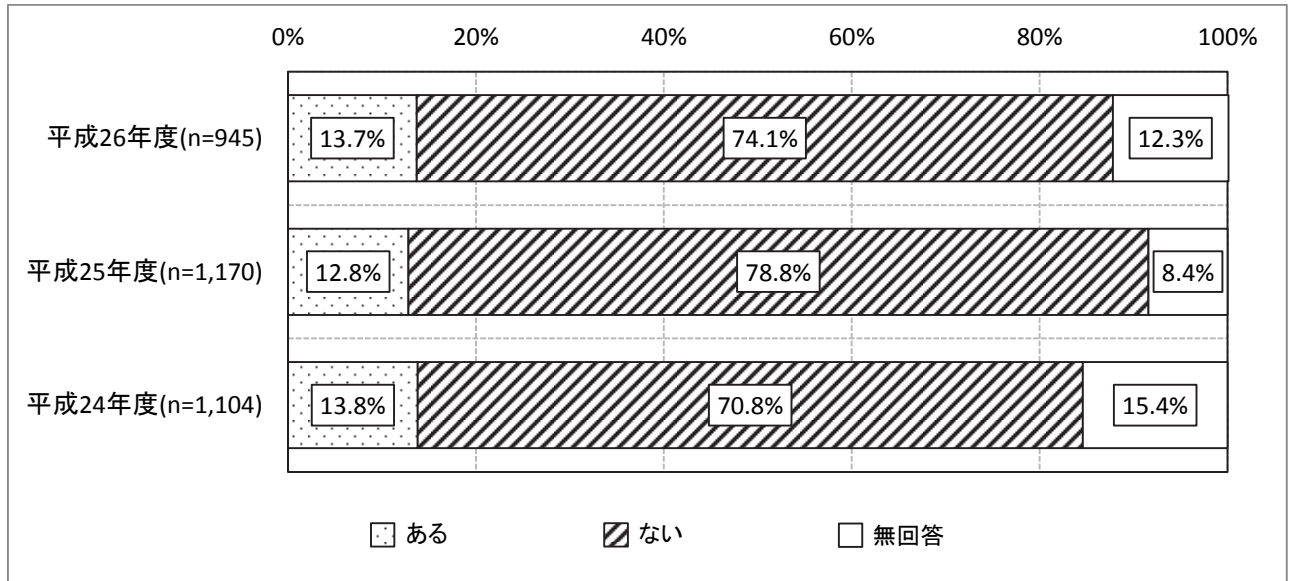
問 30 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方



「耐震診断の受診の有無と診断結果」について、問 30 の 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」の方の状況を見ると、74.1%が「受けたことがない」と回答しています。「受けたことがある」は 13.7%で、全県の 13.2%と大きな違いは見られませんでした。

図 3.4.3 (3) 耐震診断の受診の有無と診断結果

-問 30 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」
と回答された方 -経年変化-



「耐震診断の受診の有無と診断結果」について、問 30 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方の経年変化をみると、顕著な変化はありませんでした。

3.4.4 耐震診断を受けない理由

【問 32-1】 問 32 で、「1（耐震診断を）受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。

耐震診断を受けない理由は何ですか。（いくつでも〇）

- 1. 近く建て替える予定だから（予定だったから）
- 2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから
- 3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから
- 4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから
- 5. 手間がかかるから
- 6. 部屋の中を見られるのがいやだから
- 7. 診断費用がかかるから
- 8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから
- 9. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
- 10. 診断の受け方がわからないから
- 11. 借家だから
- 12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから
- 13. その他 具体的に：

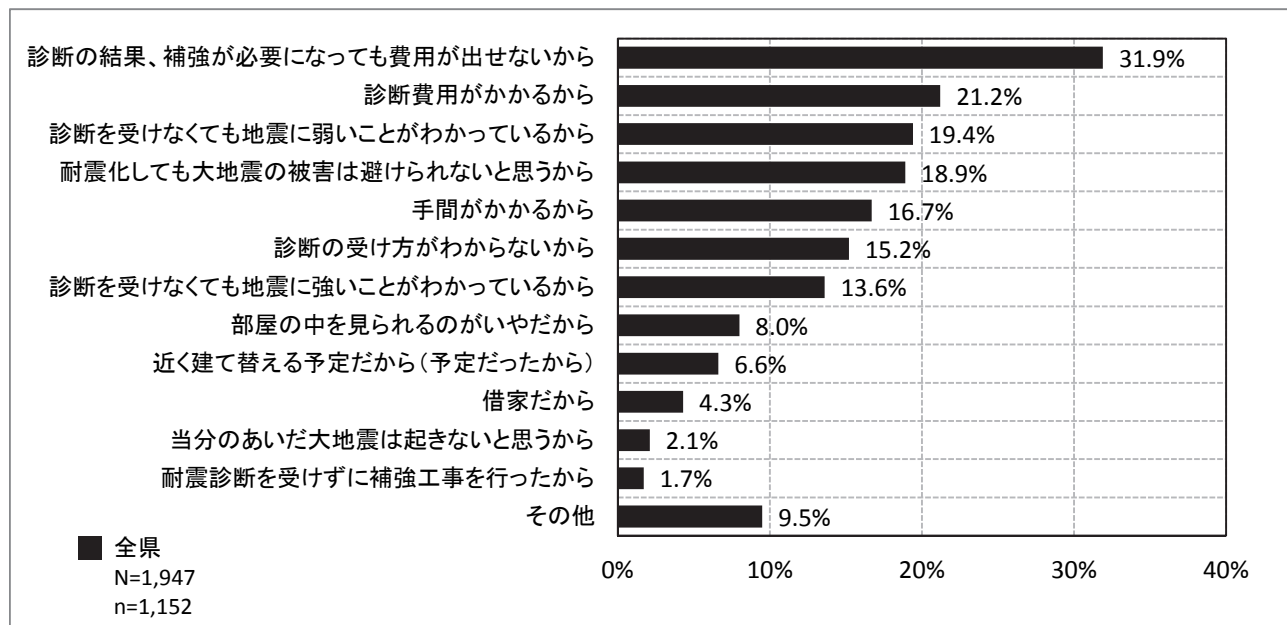
→問 38 へ

→問 33-1、問 33-2 へ

→問 38 へ

調査結果

図 3.4.4 耐震診断を受けない理由 -全県- <複数回答>
回答の多い順



「耐震診断を受けない理由」について、「診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから」が31.9%で最も多く、次いで「診断費用がかかるから」が21.2%となっています。

「その他」の回答について見ると、一般地域では「耐震レベルの高い家を新しく建て替えたから」、「耐震診断を受けずに新築したから」など、津波危険地域では「地震よりも津波の方が被害が大きいから」などの記載がありました。

3.4.5 補強工事を行ったか

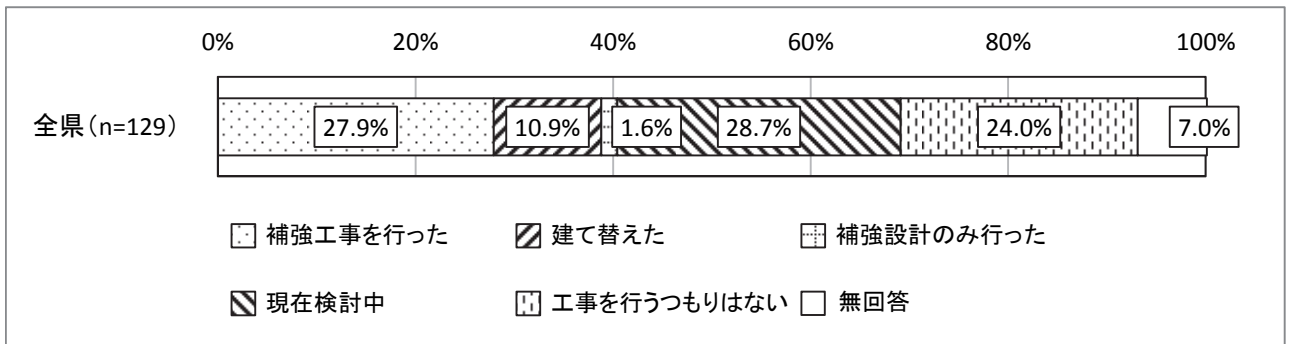
【問 32-2】 問 32 で「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ〇)

- 1. 補強工事を行った →問 33 へ
- 2. 建て替えた →問 38 へ
- 3. 補強設計のみ行った →問 38 へ
- 4. 現在検討中 →問 34 へ
- 5. 工事を行うつもりはない →問 34 へ

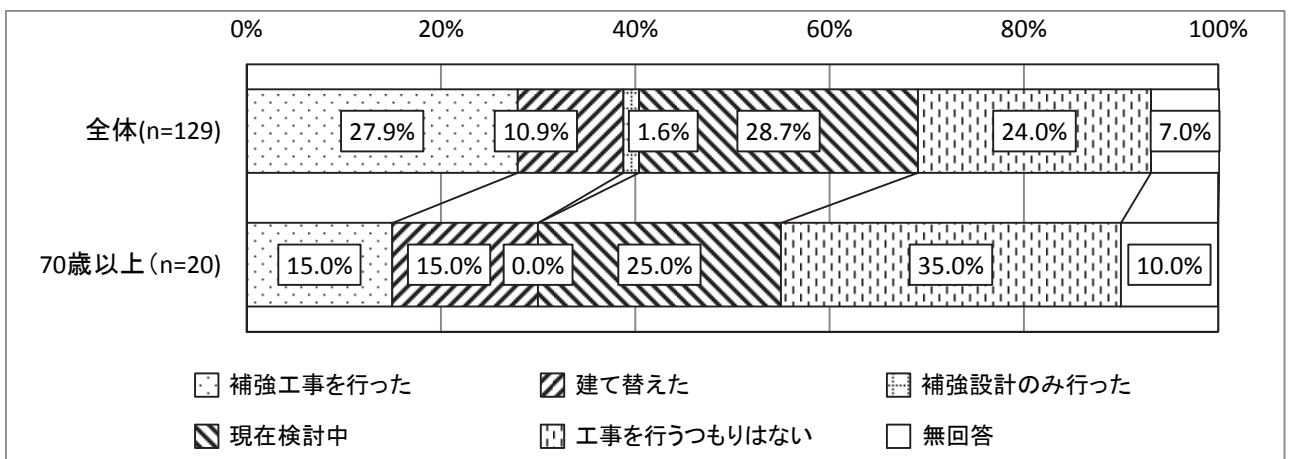
調査結果

図 3.4.5 (1) 補強工事を行ったか -全県- (すべての一戸建て)



「補強工事を行ったか」について、「現在検討中」が 28.7%で最も多く、次いで「補強工事を行った」が 27.9%でした。

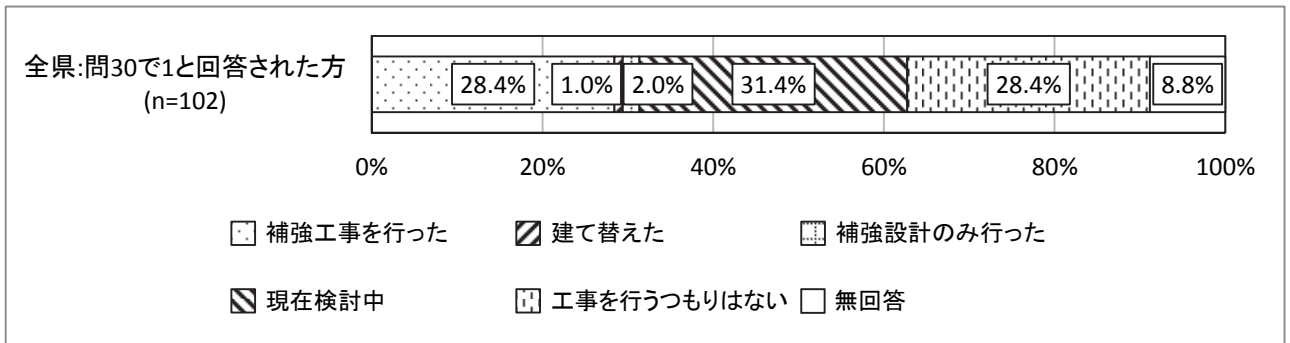
図 3.4.5 (2) 補強工事を行ったか -全体及び 70 歳以上-



「補強工事を行ったか」について、全体と 70 歳以上の方を比較すると、「補強工事を行った」という回答が 70 歳以上の方が 12.9 ポイント減少し、「工事を行うつもりはない」は 11.0 ポイント上昇しています。

図 3.4.5 (3) 補強工事を行ったか -全県-

問 30 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方 -全県-



問 30 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方が「補強工事を行ったか」については、「現在検討中」が 31.4%で最も多く、次いで「補強工事を行った」、「工事をを行うつもりはない」が共に 28.4%で、全県の「補強工事を行った」27.9%、「工事をを行うつもりはない」24.0%と大きな違いは見られませんでした。

3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか

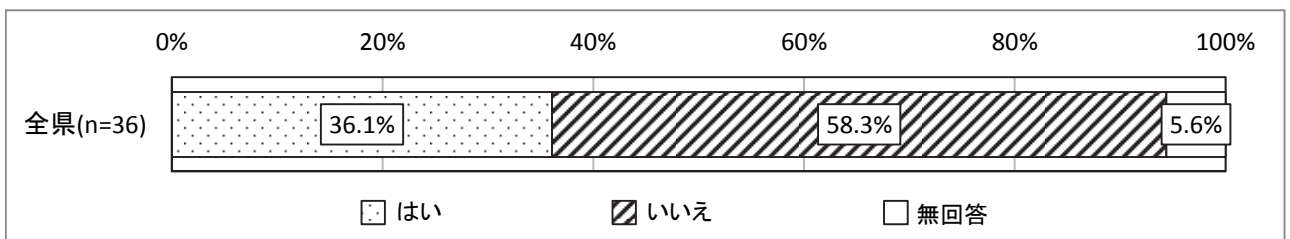
【問 33】 問 32-2 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。（一つだけ○）

- 1. はい →問 38 へ
- 2. いいえ →問 33-1 へ

調査結果

図 3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか -全県-



「補強工事を行った方」で「耐震補強工事の補助制度を利用したか」については、「はい」が 36.1%、「いいえ」が 58.3%となっています。

3.4.7 どのような補強工事を行ったか

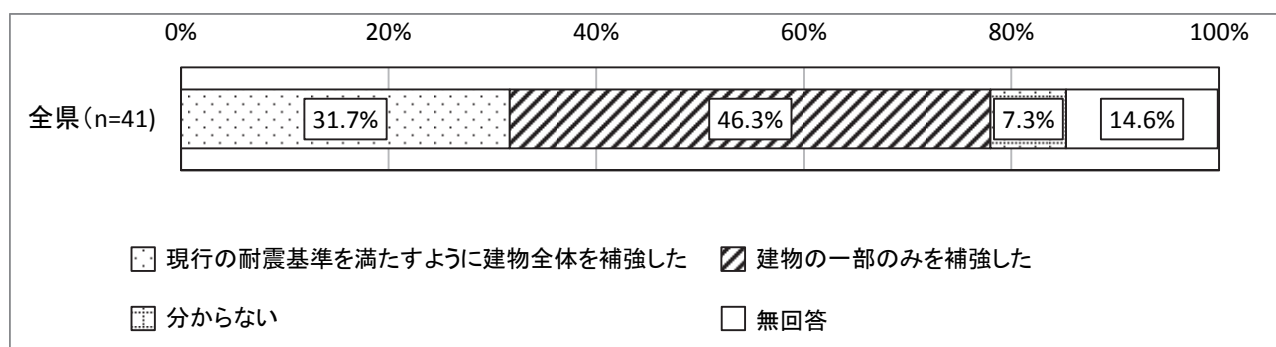
【問 33-1】 問 32-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。
(一つだけ〇)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない

} 問 33-2 へ
→問 38 へ

調査結果

図 3.4.7 どのような補強工事を行ったか -全県-



「問 32-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33 で、「2.いいえ」と回答された方」が「どのような補強工事を行ったか」については、「建物の一部のみを補強した」が 46.3%、「現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」が 31.7%となっています。

3.4.8 耐震補強を行った時の工事費

【問 33-2】 問 32-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。

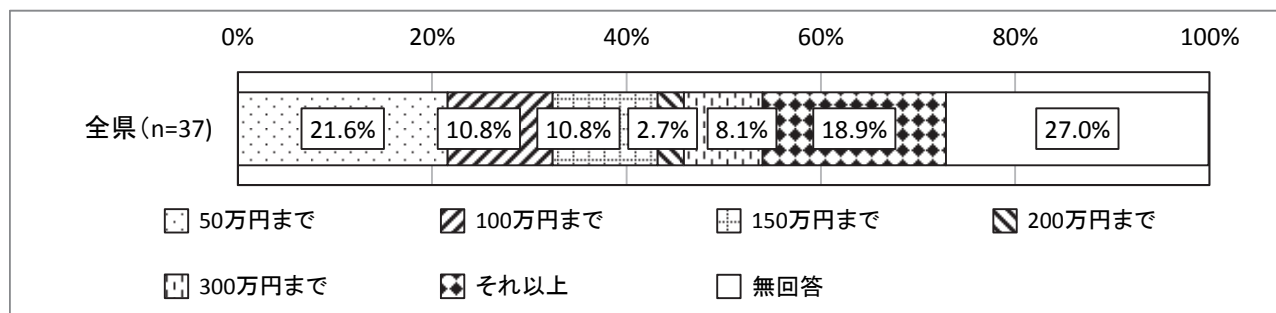
(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上 () 万円位

問 38 へ

調査結果

図 3.4.8 耐震補強工事費 -全県-



「問 32-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」と回答された方」の耐震補工事費については、「50万円まで」が21.6%で最も多くなっていました。

「それ以上」の回答では、「500万円まで」が1件、「700万円まで」が1件、「800万円まで」が1件、「1000万円まで」が2件、「1200万円まで」が1件ありました。

3.4.9 耐震補強をしない理由

【問 34】 問 32-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。

(いくつでも○)

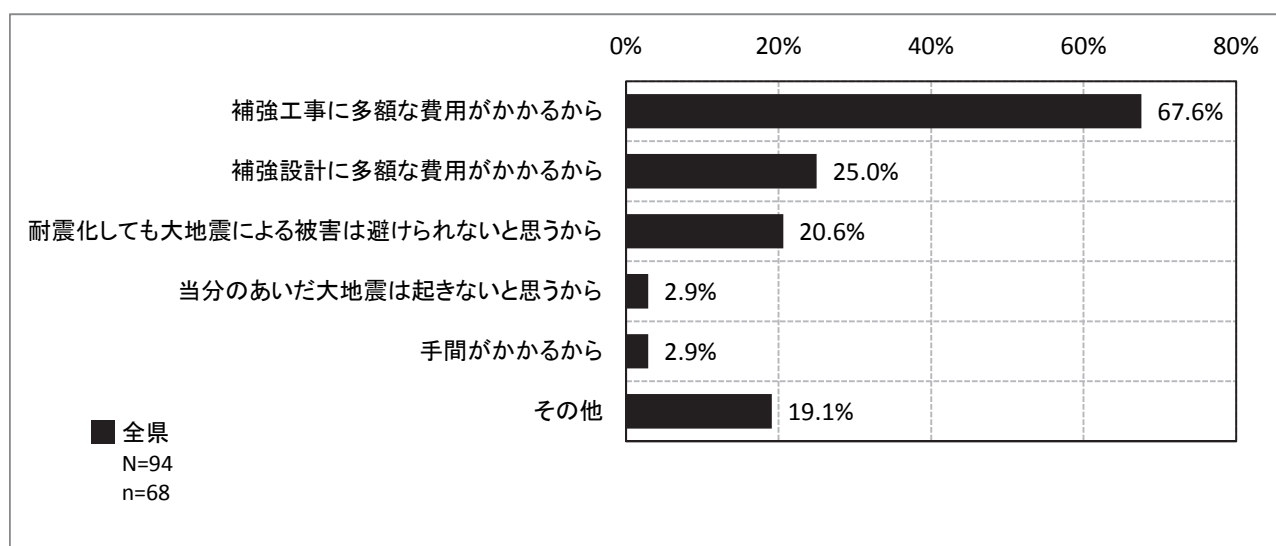
1. 補強工事に多額な費用がかかるから
2. 補強設計に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 具体的に：

→問 35、問 36 へ

問 38 へ

調査結果

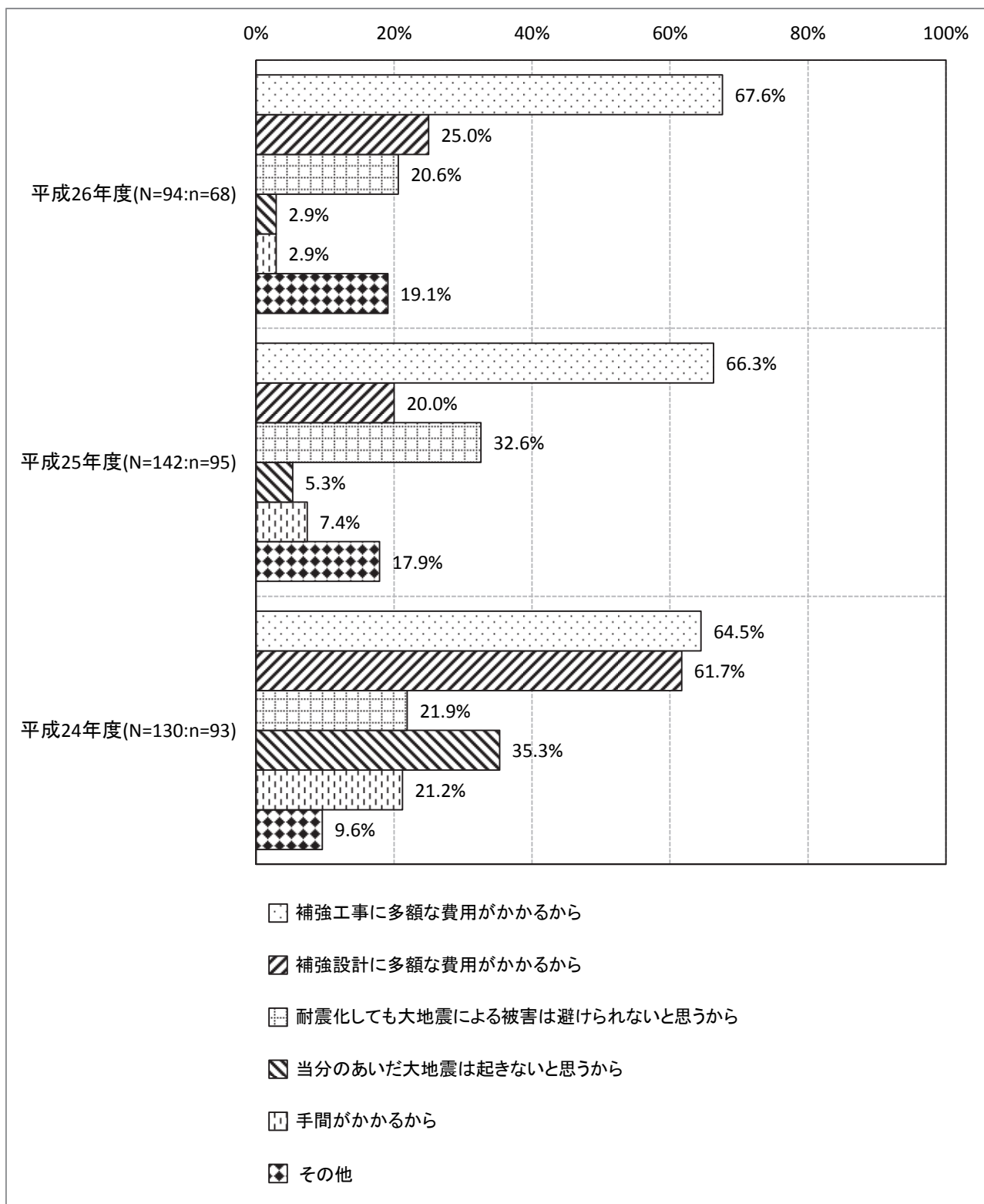
図 3.4.9 (1) 耐震補強をしない理由 -全県- <複数回答>



問 32-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方の「耐震補強をしない理由」については、「補強工事に多額な費用がかかるから」が 67.6%で最も多く、次いで「補強設計に多額な費用がかかるから」が 25.0%でした。

「その他」の理由について、一般地域では「建て替えなければ完全な耐震住宅にはならないから」、「建て替えも含めて検討している」など、津波危険地域では「埋立地の為、地盤が液状化なので、お金をかけて修理をしても意味がない」、「一部を補強してもだめで、建替えるほどの費用がいる。そのため、部屋にシェルターを作りました」などの記載がありました。

図 3.4.9 (2) 耐震補強をしない理由 -全県経年変化- <複数回答>



「耐震補強をしない理由」の経年変化をみると、各年度で「補強工事に多額な費用がかかるから」が最も多くなっています。

一方で、「補強設計に多額な費用がかかるから」、「当分のあいだ大地震は起きないと思うから」、「手間がかかるから」が平成25年度以降、大きく下がっています。

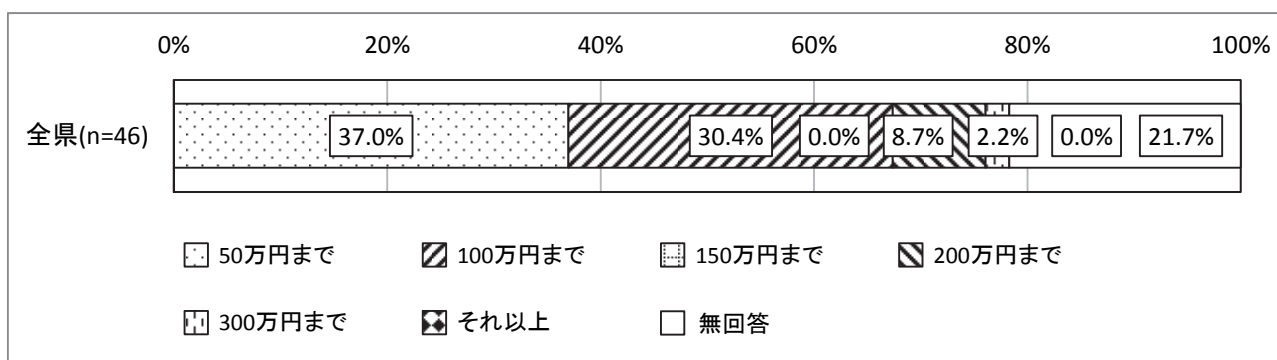
3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）

【問 35】 問 34 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強を行いますか。（一つだけ○）〈新規〉

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事） -全県-



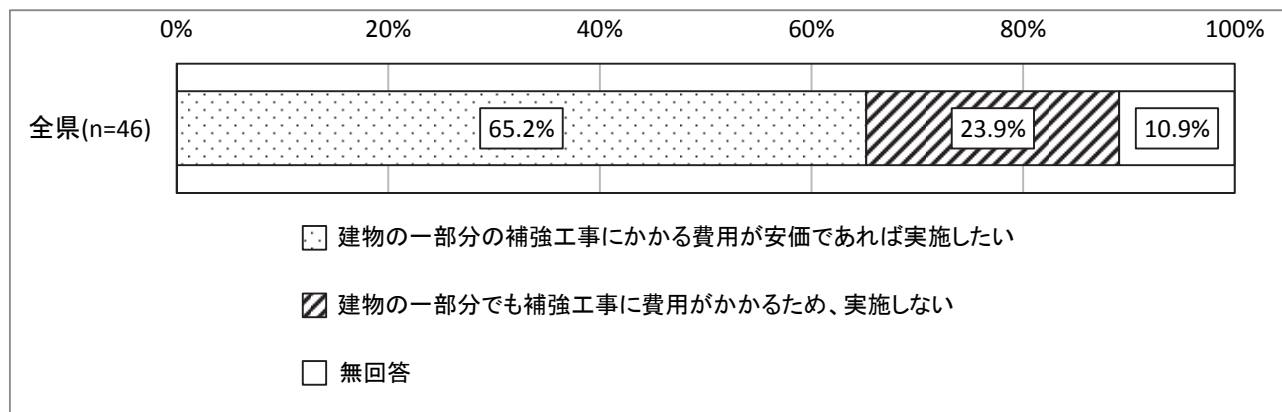
「耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）」については、「100万円まで」が67.4%と3分の2以上を占めています。

3.4.11 一部分のみの耐震補強工事

【問 36】 問 34 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分（例えば壁 1 枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ○）

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい →問 37 へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない →問 38 へ

図 3.4.11 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



問 34 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の「一部分のみの耐震補強工事」実施に関する意見については、「建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と考えている方が全体の 65.2%になっており、多くの方が部分補強工事であれば、実施可能と考えています。

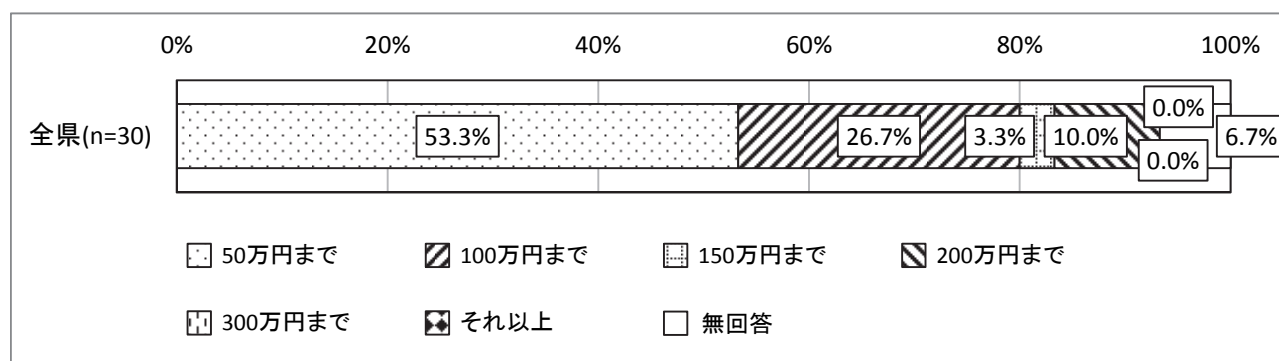
3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）

【問 37】 問 36 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強工事を行いますか。（一つだけ〇）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額 -全県-



「問 36 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方」の「耐震補強工事費の許容自己負担額」については、「50万円まで」が53.3%で最も多く、次いで「100万円まで」が26.7%となっています。

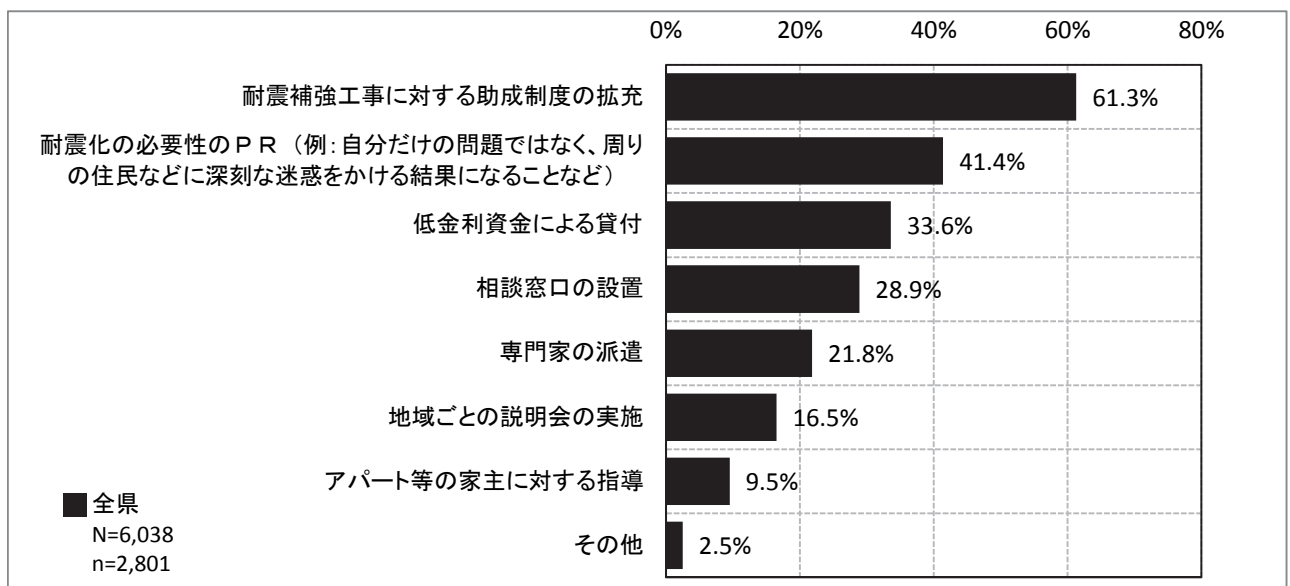
3.4.13 住まいの耐震化を進める取組

【問 38】 あなたは、どのような取組が住まいの耐震化を進めるにあたって効果が大きいと思いますか。(いくつでも○)

1. 耐震化の必要性のPR (例：自分だけの問題ではなく、周りの住民などに深刻な迷惑をかける結果になることなど)
2. 低金利資金による貸付
3. 専門家の派遣
4. 相談窓口の設置
5. 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
6. アパート等の家主に対する指導
7. 地域ごとの説明会の実施
8. その他 具体的に：

調査結果

図 3.4.13 住まいの耐震化を進める取組 -全県- <複数回答> (回答の多い順)



「住まいの耐震化を進める取組」について、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が61.3%で最も多く、次いで「耐震化の必要性のPR (例：自分だけの問題ではなく、周りの住民などに深刻な迷惑をかける結果になることなど)」が41.4%となっています。

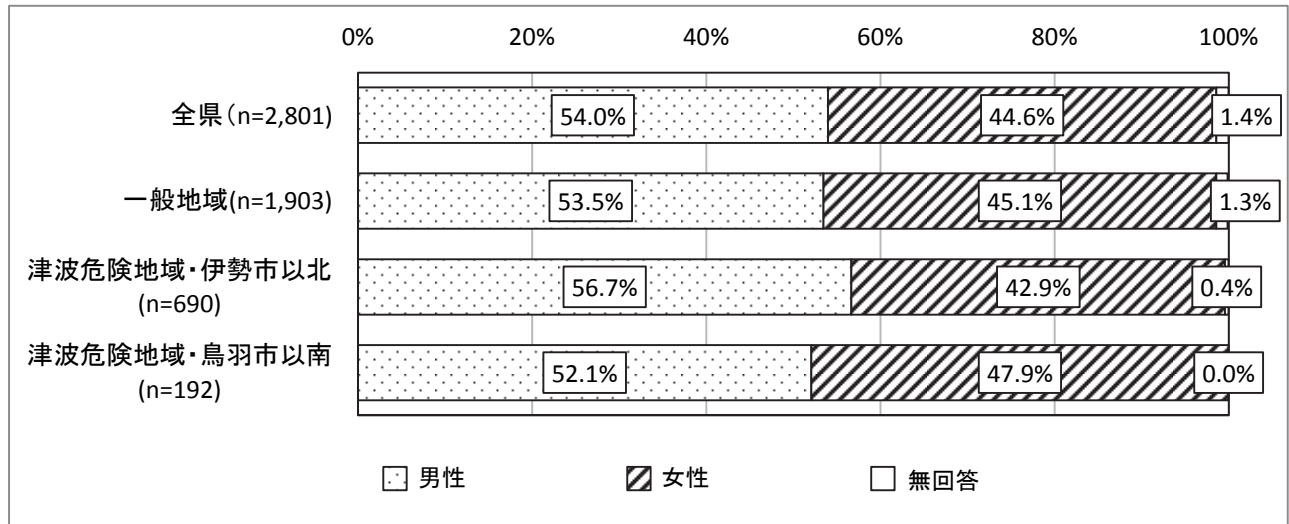
「その他」の回答は、「窓口を設けるだけでなく、出向いて行きにくい人のために、相談員が家庭を訪問する」、「耐震化 (耐震補強工事) についての具体的なパンフレット配布」、「地区ごとに専門家と行政と一緒にまわって進めていく」などの記載がありました。

3.5 アンケート調査回答者の属性

3.5.1 性別

【F1】 性別は	
1. 男性	2. 女性

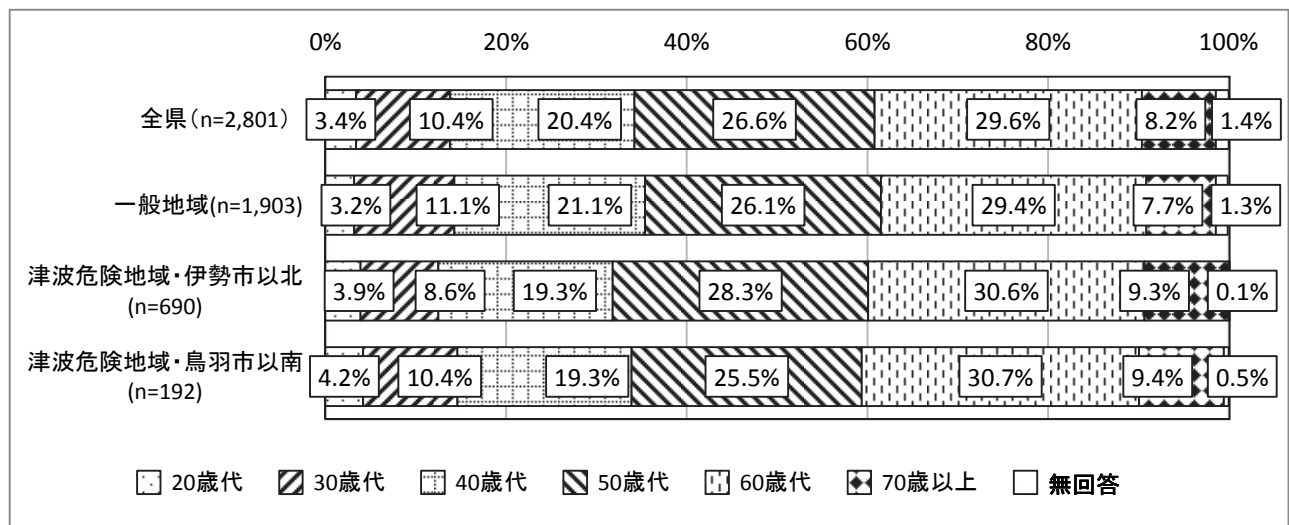
図 3.5.1 性別



3.5.2 年齢

【F2】 お年は			
1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	
4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上	

図 3.5.2 年齢

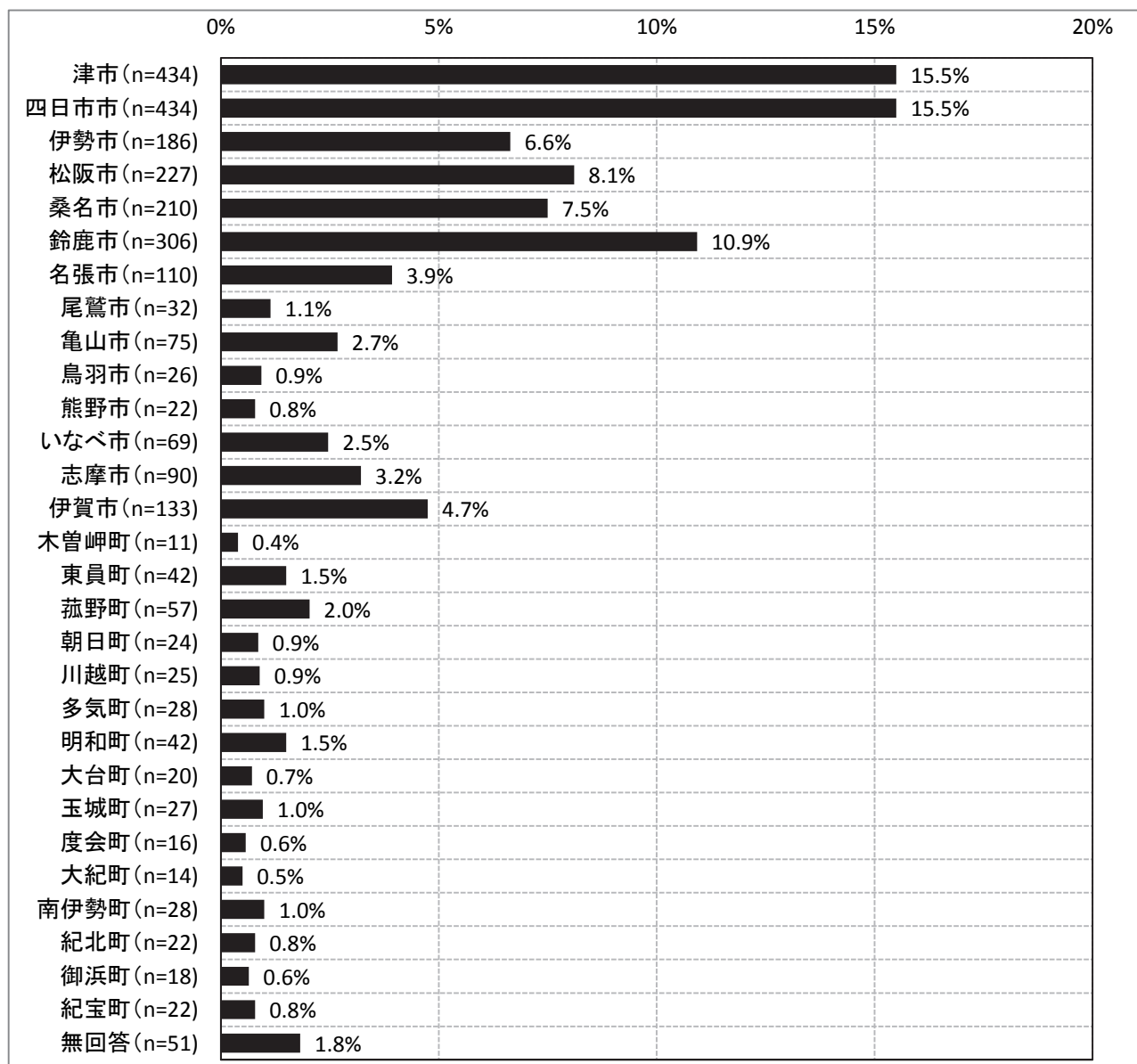


3.5.3 住所

【F3】 ご自宅のある市町は

市町名 ()

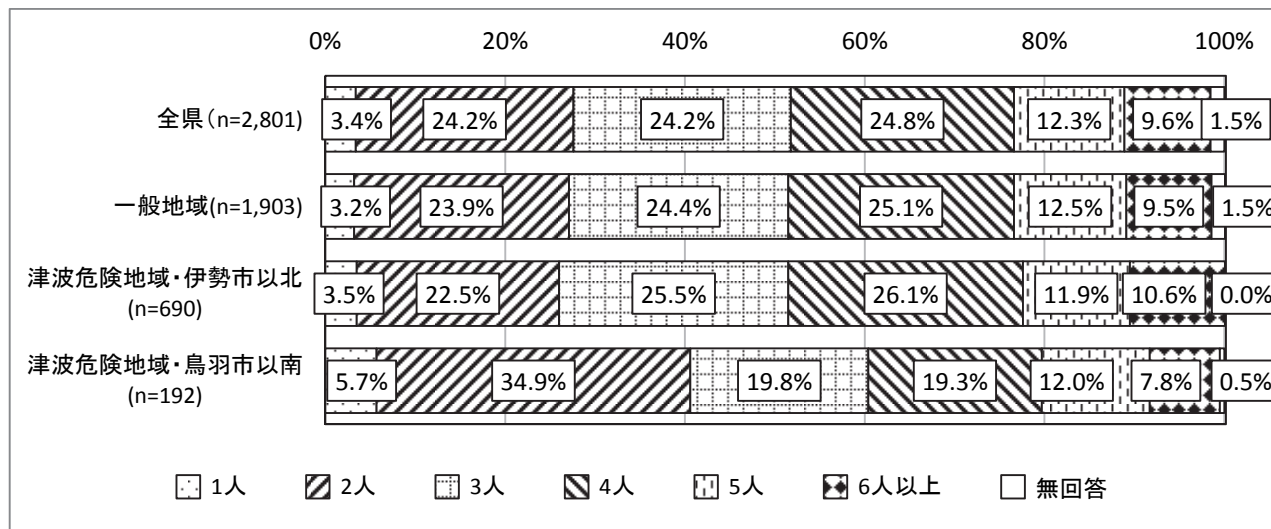
図 3.5.3 住所



3.5.4 家族人員

【F4】 何人家族ですか					
1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上

図 3.5.4 家族人員



資 料

- 津波危険地域一覧
- 使用した調査票

○津波危険地域一覽

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富州原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、榎原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、星合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大中央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地蔵、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島菅町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、磯浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贄浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、大字相賀、大字引本浦、大字矢口浦、大字白浦、大字島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

防災に関する県民意識調査票

調査目的

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、今年度の「防災に関する県民意識調査」への協力をお願いすることになりました。

この調査は、県民5,000人の方を市町の選挙人名簿から無作為に選ばせていただき、防災に関する県民のみなさまの意識や行動の実態を把握して、今後の三重県の防災対策に活かそうとするものです。

近年、地球温暖化などの気候変動によって、風水害が深刻化しており、本年8月には広島県広島市で局地的大雨による大規模な土砂災害が発生し、多くの人命が失われるという痛ましい災害が起きました。本県においても平成23年9月の紀伊半島大水害において、人的被害を含む甚大な被害を被っており、全国各地でさまざまな風水害が起っています。

また、一方で、地震・津波に目を向けると、東日本大震災から3年以上が経過した現在においても、東北地方における復興は未だ道半ばであり、被災者が安心して生活できない状況が続いています。

このような大規模な災害による被害を最小限に抑えるためには、常日頃からの“備え”が重要で、県民、自主防災組織、事業者、行政の各主体が、各々の自助・共助・公助の責務と役割を理解し、互いに連携して有事に備えることが大切です。

このことから、三重県においては防災対策を県政の最重要課題に掲げ、毎年のように各地に甚大な被害をもたらしている風水害や今世紀前半の発生が懸念される南海トラフ地震への“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、今後の三重県の防災施策を適切に進めるにあたっての重要な基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査にご協力いただけますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容は、防災に関する県民意識の調査のみを目的に、個人を特定しない統計的情報として利用するものであることを申し添えます。

平成26年10月

三重県防災対策部

三重県防災対策部 防災企画・地域支援課
 防災企画班
 電話 059-224-2184
 ファクス 059-224-2199
 e-mail bosai@pref.mie.jp



○使用した調査票

一ご記入にあたってのお願い一

- この調査は、できるだけあて名にある「ご本人」がお答えください。(※)
 (※) ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方等がご自身の立場でご記入いただけますよう協力をお願いいたします。
- ご回答は、直接、調査票にご記入ください。
- 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
 また、「その他()」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。
- ご回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注意ください。
- ご回答いただいた調査票は、誠に恐縮ですが、10月20日(月)までに同封の返信用封筒に入れ、**切手を貼らず**に郵便ポストへ投函してください。
- この調査に関するご質問は、表紙に記載の調査機関までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

～あなた自身とご家族について～

回答を統計的に分析するために、あなたご自身とご家族についてお尋ねします。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください(F3については市町名をご記入ください)。

F1 性別は

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F2 お年は

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

F3 ご自宅のある市町は

市町名 ()

F4 何人家族ですか

1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人	6. 6人以上

～地震・津波対策について～

【問1】 あなたがお住まいの地域の地震や津波の危険性についてどの程度知っていますか。(いくつでも○)

1. 活断層が近くにあること(又ははないこと)を知っている
2. 自宅が津波でどの高さまで浸水する可能性があるか(又は浸水する可能性がないこと)を知っている
3. 過去に地域が受けた地震や地震被害について知っている
4. 南海トラフ沿いを震源域とする巨大地震発生の危険性が高まっていることを知っている
5. 地域の地震の危険性についてあまり知らない

※南海トラフ巨大地震(マグニチュード8以上)が今後30年以内に発生する確率は60～70%とされています。

【問2】 東日本大震災の発生から3年半あまりが経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持续けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(又はさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に特に危機意識は持たなかった

【問3】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

1. すぐに避難する →問3-1へ
2. しばらく様子を見てから避難する →問3-2へ
3. 避難しない →問3-3へ

【問3-1】 問3で「1.すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 火災が延焼する危険があるから
5. その他(具体的に:)

→問4へ

【問3-2】 問3で「2.しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. ラジオ等で地震の規模や津波の危険性などを確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町の避難勧告や避難指示が出たら避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなつてから避難を検討するか
5. その他(具体的に:)

→問4へ

【問3-3】 問3で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも○)

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 内地地であるから
5. 自宅が安全だから
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. その他(具体的に:)

このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けしています。

※避難場所:津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所

※避難所:災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問4】 三重県では、平成28年3月に三重県地震被害想定調査結果として、各地の震度予測や津波浸水予測などを公表しました。あなたは、この調査結果を知っていますか。(一つだけ○)

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会などで教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞などを見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査がおこなわれていたことを知らなかった

【問5】 問4の三重県地震被害想定調査結果では沿岸地域にある市町について、津波により浸水深30cmに到達するまでの時間予測図(*1)を新たに公表しました。あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家などがどのような浸水するかを確認しましたか。(一つだけ○)

1. 自宅を含め、職場や親族、友人宅など、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. 新しい予測図が公表されていることを知らなかった

*1 浸水深30cm時間予測図:津波からの避難行動がとれなく(動くことができなく)なる一つの目安とされている浸水深30cmに、どの場所がどのくらいの時間で達するかを時間に応じて色分けされた予測図です。

～風水害対策について～

【問 6】 水害や土砂災害等の風水害が発生する危険性が高くなったときに出る防災情報のうち、あなたが既にご存知の情報はありますか。(いくつでも○)

1. 暴風警報
2. 大雨注意報や大雨警報
3. 洪水注意報や洪水警報
4. 高潮注意報や高潮警報
5. 土砂災害警戒情報
6. 竜巻注意情報
7. 水防警報
8. はん濫注意情報、はん濫警戒情報、はん濫危険情報
9. 避難準備(要援護者避難)情報
10. 避難勧告や避難指示

※避難準備(要援護者避難)情報：「避難勧告」より前の段階で「人的被害の発生の可能性がある」と判断された時点で発令され、避難に時間を要する高齢者や障がい者等に避難開始を、その他の人々に避難準備を求めること。

※避難勧告：対象地域の土地、建物などに被害が発生する恐れのある場合に住民に対して行われる勧告

※避難指示：「避難勧告」よりも緊急度が高い災害等の場合に出される、さらに拘束力が強い指示

【問 6-1】 気象庁はこれまでの大雨、地震、高潮、津波などの警報に加え、平成25年8月30日から、これらの警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けることになりました。あなたは、この特別警報について、どの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

1. 特別警報の内容を十分理解している
2. 特別警報の内容を一部理解している
3. 言葉は知っているが、内容は知らない
4. 知らない

※特別警報：平成25年8月に創設され、これまでにない危険が迫っている自然現象から直ちに命を守る行動をとるための注意喚起として、気象庁が発表する警報

【問 7】 あなたがお住まいの地域の風水害(高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど)の危険性についてどの程度知っていますか。(いくつでも○)

1. 高潮による浸水の危険性を知っている
2. 川のはん濫による浸水の危険性を知っている
3. 内水はん濫による浸水の危険性を知っている
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない又はあまり考えなかったことがない

※内水はん濫：局地的大雨などで下水道施設や小河川の水位が増加し、排水が間に合わずに溢れ出した水により、建物や土地、道路などが浸水する風水害

【問 7-1】 問 7 で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内又はその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(一つだけ○)

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 地方自治体で作成したハザードマップで危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらった
4. その他(具体的に：)

【問 8】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降りだし、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どの段階で避難しますか。(一つだけ○)

1. 外での移動が困難な状況であつても避難所等に避難する
2. 外での移動が困難な状況であれば、自宅に留まる
3. 時間がかかつたとしても、これまでの総雨量や今後の降雨予測など、気象情報を確認したうえで、避難するかしないかを判断する
4. 避難準備(要援護者避難)情報、「避難勧告」、「避難指示」などの防災情報が出てから避難するかしないかを判断する
5. 避難しない(避難の必要がない)
6. わからない

【問 9】 あなたは、お住まいの地域に相当規模の台風の接近が気象情報等で予測されているとき、次のどの段階で避難しますか。(一つだけ○)

1. 明るいうちにできるだけ早く自主避難する
2. 「避難準備(要援護者避難)情報」・「避難勧告」の発表を知ったときに避難する
3. 「避難指示」の発表を知ったときに避難する
4. 避難しない
5. その他(具体的に：)

【問 9-1】 問 9 で、「4. 避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが高風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ○)

1. 近くの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 自宅が安全だから
5. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
6. その他(具体的に：)

～防災全般について～

★日頃の防災対策についてお尋ねします。

【問 10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している (ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がバラバラになっただよきの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンなどの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料メーターが半分程度になった時点で、満タン給油している
9. お風呂にいつも水を入れてある
10. ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
13. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類などを置いていない
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 風水害等に備えて土のう等を準備している
20. その他 (具体的に：)
21. 特に対策をとっていない

【問 11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ)

1. 大部分固定している →問 12へ
2. 一部固定している
3. 固定していない →問 11-1へ
4. 固定する必要がない

【問 11-1】 問 11で、「2. 一部分固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ)

1. 安全な状態にある →問 12へ
2. 安全な状態とは言えない →問 11-2へ

【問 11-2】 問 11-1で「2. 安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 (具体的に：)

【問 12】 あなたは、お住まいの市町がどのようなハザードマップ (河川はん濫、内水はん濫、がけ崩れ、津波浸水などを示した防災マップや災害危険予測図) を発行しているか知っていますか。(一つだけ)

1. すべて知っている
2. 一部は知っている
3. 知らない

【問 13】 あなたは普段、気象や災害についての情報をどこから入手していますか。(いくつでも)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市町の防災行政無線
6. 県や市町の広報誌
7. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
8. インターネット (「防災みえ.jp」以外)
9. 携帯メール
10. 街頭の電光掲示板
11. 家族から
12. 友人、知人から
13. 町内会・自治会を通じて
14. 消防署・消防団を通じて
15. その他 (具体的に：)
16. どこからも入手していない

【問 14】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令などの気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、脱会した
4. 知らない

★避難場所・避難所についてお尋ねします。

【問 15】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存じですか。(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

【問 15-1】 問 15 で「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度知っていますか。(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所のある有や通れないときの迂回路の有無などを知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

★地域・職場での防災活動についてお尋ねします。

【問 16】 あなたのお住まいの地域では、災害時要援護者（災害時に支援が必要な方：乳幼児・高齢者・障がい者・妊婦・外国人等）の避難を地域として支援する体制ができていますか。(一つだけ○)

1. できている
2. できていないが検討している
3. できていないし、検討もしていない
4. わからない

【問 17】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 18 の選択参照）に参加したことがありますか。(一つだけ○)

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

【問 18】 問 17 で「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練又は避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒に立った防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他（具体的に：

【問 18-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

【問 19】 問 17 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何か。(一つだけ○)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他（具体的に：

【問 19-1】 問 17 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのように考えていますか。(一つだけ○)

1. これからは参加していきたい
 2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい
 3. 当面は参加するつもりはない
 4. その他 (具体的に：)

【問 20】 あなたは、どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
 2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
 3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
 4. タウンウォッチングや防災マップづくりなど、地域の危険箇所を把握する活動
 5. その他 (具体的に：)

【問 21】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
 2. 避難誘導
 3. 消火活動の援助
 4. 飲料水の提供
 5. 食料の提供
 6. 生活用品の提供
 7. 救援機材、工具の提供
 8. 避難場所の提供
 9. 駐車場の提供
 10. 災害情報の提供
 11. その他 (具体的に：)

【問 22】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
 2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
 3. 風水害時の水防活動
 4. 応急手当等の普及啓発活動
 5. 地域の消防訓練等の指導
 6. 大規模災害(地震)時の救援・救護や避難誘導
 7. 風水害時の救援・救護や避難誘導
 8. 期待する活動はない
 9. 消防団があることを知らないで、わからない
 10. その他 (具体的に：)

【問 23】 あなたは消防団活動に参加したいと思いますか。(一つだけ○)

1. すでに参加している (参加していた) →問 25へ
 2. これから消防団員として参加したい
 3. あまり参加したくない →問 24へ
 4. 参加したくない
 5. わからない、どちらともいえない →問 25へ

【問 24】 問 23 で、「3. あまり参加したくない」、「4. 参加したくない」と回答された方にお尋ねします。あなたが、消防団活動に参加したくない理由を教えてください。(いくつでも○)

1. 危険だから
 2. 精神的、肉体的に負担が大きいから
 3. 仕事が忙しいから
 4. 家事(育児、介護などを含む)が忙しいから
 5. 休日等の自由時間がつぶれるから
 6. 団体での行動が嫌だから
 7. 職場の理解が得られないから
 8. その他 (具体的に：)

【問 25】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織(町内会・自治会などを母体とした、地域の住民が防災活動をする組織)がありますか。(一つだけ○)

1. ある (活発に活動している)
 2. ある (あまり活発に活動していない)
 3. ある (活動状況はよくわからない)
 4. 自主防災組織がない
 5. わからない

★学校の防災教育についてお尋ねします。

【問 26】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる →問 26-1へ
2. 中学生がいる
3. 高校生がいる
4. いない →問 26-2へ

【問 26-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたはお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についての程度知っていますか。(一つだけ○)

※ 複数の児童生徒がおられる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っている。学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

【問 26-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフの巨大地震や直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 竜巻や局地的大雨からの避難方法や危険な場所に近づかないなどについての学習
7. 土砂災害から避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 (具体的に：)

★防災啓発についてお尋ねします。

【問 27】 三重県が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についての程度ご存じですか。(いくつでも○)

1. 「レッツ！防災」(三重テレビ)を見たことがある →問 27-1へ
2. 地震体験車に乗ったことがある
3. 「県政だより みえ」を視聴・閲覧している
4. 今から55年前に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている
5. 今から70年前に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日(12月7日)」を知っている

【問 27-1】 問 27で1~2に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。
(該当する活動ごとに○)

「レッツ！防災」を視聴された方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

【問 28】 あなたは、県、市町及び民間団体等が開催した防災に関する講演会、研修会に参加したことがありますか。また、参加した方は防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 参加したことがあり、防災意識の向上に役立った
2. 参加したことがあるが、防災意識の向上にはあまり役立たなかった
3. 参加したことはない

★今後の防災対策の進め方についてお尋ねします。

【問 29】 あなたは、防災対策における住民と行政の役割分担について、次のどの考えに近いですか。(一つだけ○)

1. 住民が中心となるべき
2. どちらかといえば、住民が中心となるべき
3. どちらかといえば、行政が中心となるべき
4. 行政が中心となるべき

～あなたのお住まいの耐震化について～

【問 30】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)
 ※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

- | | |
|---|---------|
| 1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された本造の家) | →問 31 へ |
| 2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された本造以外の家) | →問 32 へ |
| 3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え) | →問 38 へ |
| 4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築) | |
| 5. アパート・マンション等の集合住宅 | |

【問 31】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された (着工を含む) 木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度を知っていますか。(いくつでも○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 耐震診断費用への補助 (無料耐震診断) |
| 2. 耐震補強設計費用への補助 |
| 3. 耐震補強工事費用への補助 (リフォーム工事補助を含む) |
| 4. どれも知らない |

【問 32】 あなたのご自宅 (同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む) は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがあります場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1. 受けたことがない | →問 32-1 へ |
| 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された | →問 32-2 へ |
| 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった | →問 38 へ |

【問 32-1】 問 32 で、「1. (耐震診断を) 受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。耐震診断を受けなかった理由は何ですか。(いくつでも○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 近く建てる予定だから (予定だったから) |
| 2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから |
| 3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから |
| 4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから |
| 5. 手間がかかるから |
| 6. 部屋の中を見られるのがいやだから |
| 7. 診断費用がかかるから |
| 8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから |
| 9. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから |
| 10. 診断の受け方がわからなかったから |
| 11. 借家だから |
| 12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから |
| 13. その他 (具体的に：) |

【問 32-2】 問 32 で「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 補強工事を行った | →問 33 へ |
| 2. 建て替えた | →問 38 へ |
| 3. 補強設計のみ行った | |
| 4. 現在検討中 | |
| 5. 工事を行うつもりはない | →問 34 へ |

【問 33】 問 32-2 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用しましたか。(一つだけ○)

- | | |
|--------|-----------|
| 1. はい | →問 38 へ |
| 2. いいえ | →問 33-1 へ |

【問 33-1】 問 32-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した | →問 33-2 へ |
| 2. 建物の一部のみを補強した | |
| 3. 分からない | →問 38 へ |

【問 33-2】 問 32-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 33-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 50 万円まで |) 万円位 |
| 2. 100 万円まで | |
| 3. 150 万円まで | |
| 4. 200 万円まで | |
| 5. 300 万円まで | |
| 6. それ以上 () | |

【問 34】 問 32-2 で「4. 現在検討中」、「5. 工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1. 補強工事に多額な費用がかかるから | →問 35、問 36 へ |
| 2. 補強設計に多額な費用がかかるから | |
| 3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから | |
| 4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから | |
| 5. 手間がかかるから | →問 38 へ |
| 6. その他 (具体的に：) | |

【問 35】 問 34 で「1. 補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 (万円まで)

【問 36】 問 34 で「1. 補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分 (例えば壁 1 枚のみ) を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いませんか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------------------|--------|
| 1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい | →問 37へ |
| 2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない | →問 38へ |

【問 37】 問 36 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強工事を行いますか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 (万円まで)

【問 38】 あなたは、どのような取組が住まいの耐震化を進めるにあたって効果が大きいと思いますか。(いくつでも○)

- | | |
|--|---|
| 1. 耐震化の必要性のPR (例：自分だけの問題ではなく、周りの住民などに深刻な迷惑をかける結果になることなど)
2. 低金利資金による貸付
3. 専門家の派遣
4. 相談窓口の設置
5. 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
6. アパート等の家主に対する指導
7. 地域ごとの説明会の実施
8. その他 (具体的に： |) |
|--|---|

○以下の項目に関してご意見、ご要望がございましたらご自由にお書きください。

■地震・津波対策について	
■風水害対策について	
■避難場所、避難所について	
■災害時要援護者対策について	
■地域や企業の防災活動について	

<p>■防災に関する啓発活動について</p>	<p>■その他、何でも</p>
------------------------	-----------------

★ご協力ありがとうございます。

10月20日（月）までに、同封の返信用封筒（**切手不要**）に入れてご投函ください。

「メール配信サービス」に登録しませんか

✉ **防災みえ.jpメール配信** <http://mobile.bosaimie.jp/mie/guide/a@bosaimie.jp> **へ空メールを送信してください。**

(今すぐ配信登録)

簡単に登録できます！

おススメ設定はワンタッチ登録ボタンで。さらに細かい設定を行いたい場合も、利用者が自由に選択することができます。

登録できる情報は？

◆気象警報・注意報 ◆地震情報 ◆津波警報 ◆注意報 ◆台風情報 ◆河川水位情報が登録可能！

▲携帯電話からは、この「空メール」のアプリでも送れます。



報告書名 平成 26 年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 平成 27 年 3 月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.jp